

2015年度 点検評価改善報告書

[教育研究活動報告]



西南女学院大学

西南女学院大学短期大学部

大 学

保健福祉学部

看 護 学 科

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	伊藤直子	職名	教授	学位	学士(社会学)(佛教大学 1996年)
----	------	----	----	----	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学 地域看護	公衆衛生看護 介護保険 地域包括ケア

研究課題
行政における看護職である保健師の機能と役割について考察する。また、それらの機能を学ぶための学士課程実習での教育方法を検討する。 地域包括ケアシステムにおける看護職の機能について検討する。

担当授業科目
公衆衛生看護学概論(前期)必修 16/22 コマ 疫学演習(後期)選択 15/15 健康危機管理論(後期)必修 8/8 公衆衛生看護管理演習(後期)選択 15/15 公衆衛生看護学実習(通年)選択 在宅看護学(前期)1/15 看護総合演習(通年)15/15 看護総合実習(通年) 地域母子保健(前期)(助産別科)8/15

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 公衆衛生看護学概論 】</p> <p>2年生前期の科目であるが学生の受講動機から必修科目であるから受講すると看護師課程ではあまり必要と考えられていないことがわかる。本科目は「看護の基本」に位置付けている科目であるため、授業では、学生自身が生活者として公衆衛生の意義を理解し、公衆衛生看護の具体的活動を身近に感じられるよう教材の工夫を行った。</p> <p>また、毎時の授業終了後、授業の理解状況を示す授業コメントを学生に記入してもらい、それらの理解状況を踏まえ、講義内容に基づき、次回以降の講義方法を検討を行った。最終的な成績の平均値は76点であり、再試対象は6名であった。標準的レベルに達した学生が94.2%であった。内、理想的レベルに達したものは42名と、4割の学生が達成した。授業進行とともに、具体的題材から生活者としての公衆衛生を基盤にした看護活動を学生に講義することにより、徐々に関心が増している状況が、毎時学生が記入している授業コメントから伺うことができた。知識・理解については、キーワードの理解は多くの学生が理解できたと考えるが、事象を通してどのように思考判断するのかでは、達成されるには課題がある。学生自身が生活者として公衆衛生の意義を理解し、関心を持ち、理解し、思考判断できるよう、次年度にむけて検討したい。</p>
<p>授業科目名【 疫学演習 】</p> <p>「疫学演習」では、保健師課程選択の科目である。演習のため、1単位であるが30時間の授業内容である。疫学・保健統計で学習した内容を、さらに、保健師が遭遇する事象で具体化した教材を作成し、単元毎に、予習での基礎知識の準備→実際の事例を取り入れた演習→復習を展開した。</p> <p>2013年度の授業評価より、科目として一定の成果を納めたと考えられ、さらに、教材事例の検討を進めた。2014年度では、教材事例を新人保健師が地区を担当し、業務を実施するにあたって遭遇していく過程を想定し</p>

た事例として、ブラッシュアップした。数的処理を苦手とする学生に対し、保健師として問題解決していく充実感を味わえるような工夫をおこなった。

2015年度は、2014年度の展開に加え個別の学生の習熟度に合わせた対応を実施した。

授業科目名【 健康危機管理論 】

「健康危機管理論」では、健康危機管理の概念と日本における健康危機管理の社会システムを解説し、このような事態に対する看護職の果たす役割について考える必修科目である。

教材については、日本における事例および世界の事例のできるだけ直近の内容を取り上げ、現実的な健康危機を学生たちが感じるための工夫として、DVD や写真等多く取り入れた教材により、看護職としての対応について考えを求めながら授業を展開した。授業のコメントカードに寄せられるコメントから昨今の日本における災害および感染症事例の関心が高く、受講開始は市民感覚としての意見から終了時点では看護師としての使命や責任についてのコメントが数多くみられた。

授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】

「公衆衛生看護学実習」では、保健師選択学生の最初の実習であった。5週間の連続実習により、従来の2週間実習では達成できなかった到達目標の実現が可能となった。反面、少数の学生ではあるが緊張の連続に疲弊する学生も見られた。しかし、中断する学生はなく、全員が実習を終了することができた。本科目の実習目標については、成果を期待し、到達レベルを上げすぎた内容もあったことから、次年度検討する必要がある。また、実習現場をつなぐ教員の教育力による違いも見られることも確認できたことから、本科目担当教員との検討を十分進めていき、教育力の向上に努める。

また、実習の成果指標として、本年度の保健師国家試験の自己採点状況から保健師選択学生の成果は評価できる。

授業科目名【 看護総合演習 】【 看護総合実習 】

「看護総合演習」「看護総合実習」は4年生が最終的な看護の統合として、自身が自ら演習及び実習領域を選択する科目として位置づけられている。公衆衛生看護領域である産業保健における保健師活動について、演習・実習を行い、就労者およびその家族における健康管理の現状および課題について、議論を進めていった。受講した学生は、公衆衛生看護学実習において学習した生活エリアの現状から就労者の健康支援が結びつき、これからの包括的な健康管理のあり方に対して、道筋が明確になり、満足度や充実感が高い実習であったと評価している。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会会員	訪問看護委員会副委員長 (1996年4月～1997年3月) 訪問看護委員会委員長 (1997年4月～1998年3月) 介護支援専門員支援委員会委員長 (1997年4月～2004年3月) 認定看護管理者研修委員会委員 (2001年4月～2006年3月) 介護保険関連委員会委員長 (2004年4月～2006年3月) 第46回日本看護学会—看護管理—学術集会抄録選考委員 (2014年3月～2014年9月) 消費税対応検討委員会委員長 (2015年11月～現在)	1977年4月～現在に至る
日本公衆衛生学会		1979年4月～現在に至る

日本地域看護学会 日本在宅ケア学会 日本保健医療社会学会 日本病院管理学会 日本高齢者虐待防止学会 日本看護教育学会 日本健康教育学会 日本看護研究学会 日本看護科学学会 日本臨床救急医学会	1999年4月～現在に至る 2000年9月～現在に至る 2002年4月～現在に至る 2002年9月～現在に至る 2003年8月～現在に至る 2003年2月～現在に至る 2005年6月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2011年8月～現在に至る
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2014年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地域自立型の介護予防活動を目指して～介護予防サービスに関する仮想評価法を用いた基礎調査～	北九州市 学術・研究振興 事業調査研究助 成金	○佐藤優 伊藤直子 鹿毛美香	500,000円
学生と卒業生保健師のネットワーク形成によるキャリア支援に関する研究	西南女学院大学 保健福祉学部付 属保健福祉学研 究所	○布花原明子 鹿毛美香 佐藤優 伊藤直子 (平島美也子) (亟々美香)	218,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

--	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
福岡県介護保険審査会	専門調査員	2007年7月～現在に至る
北九州市社会福祉法人等審査会	委員	2012年4月～現在に至る
大分県地方独立行政法人評価委員会	委員	2012年6月～現在に至る
日本私立看護系大学協会	理事	2013年7月～現在に至る
粕屋町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定協議会	委員	2005年4月～現在に至る
粕屋町地域包括支援センター・地域密着型介護サービス運営協議会	委員	2007年4月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議調整会議	構成員	2012年4月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上介護予防・高齢者活躍推進に関する会議	代表	2013年4月～現在に至る
北九州市健康づくり推進プランの推進にかかわる意見交換会	構成員	2014年2月～現在に至る
北九州市認知症施策推進会議（北九州市オレンジ会議）	構成員	2013年4月～現在に至る
全国保健師教育機関協議会	社員	2015年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）		
学校法人西南女学院	評議員	2005年4月～現在に至る
西南女学院大学	教務部長	2013年4月～現在に至る
	・教務委員会 委員長	
	・教務人間科学小委員会 委員	
	・教職課程委員会 委員	
	・教員免許状更新講習会 委員	
	・大学点検評価改善会議 FD 部門 部門長	
	・教育の質保証プロジェクト会議 代表	
	・教学マネジメント検討会 構成員	
	・3部門会議（教務部・学生部・入試部） 構成員	
西南女学院大学認定看護師教育課程	教員会	2013年4月～現在に至る

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 目野 郁子	職名 教授	学位 博士(医学) (九州大学 1994年)
----------	-------	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
病原微生物学 免疫学	微生物 感染症 感染対策 予防接種 抗体

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学における感染症予防対策として予防接種勧奨のガイドラインについて検討する。 ・ 一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。 ・ 北九州地方の若年成人女性を対象に出生年毎のジフテリア、百日咳、破傷風の血清疫学調査を行ないその抗体保有状況について解析し考察する。

担当授業科目
感染と免疫(前期)(看護) 生活と環境(前期)(看護) 生活と環境(前期)(福祉) 生活と環境(前期)(栄養) 生物と生命科学(前期)(英語) 生物と生命科学(前期)(観光文化) 生物と生命科学(後期)(看護) 生物と生命科学(後期)(福祉) 微生物学(後期)(福祉)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【感染と免疫：看護】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業にのぞむ姿勢を喚起するため第一回目の授業でシラバスを配布し、本科目の該当DP、授業概要、達成すべき行動目標と達成目安について説明した。評価法については、試験直前に戸惑うことがないように丁寧に説明する。また、授業の達成目安と評価法は、授業回数半ばで再度説明し、学生に早期から講義の振り返りをするよう促した。 ・ 講義には国内外の感染症流行状況や法律改正など最新情報を盛り込んだ。 ・ 1年生にはかなり質的・量的に重たい講義である。そのため講義のポイントを整理するための課題を講義進行にそって提示し自主学習を促した。 ・ 授業の目標達成を意識させるため国家試験レベルの小テストを実施した。
授業科目名【生活と環境：看護・福祉・栄養】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業にのぞむ姿勢を喚起するため第一回目の授業でシラバスを配布し、本科目の該当DP、授業概要、達成すべき行動目標と達成目安について説明した。評価法については、試験直前に戸惑うことがないように丁寧に説明する。また、授業の達成目安と評価法は、授業回数半ばで再度説明し、学生に早期から講義の振り返りをするよう促した。 ・ 興味関心をもたせるため講義内容に身近な環境問題や専門領域とつながる健康問題を取りあげた。 ・ レポート課題には評価項目だけでなく点数配分を示した。また、課題はグループ討議のあと十分な時間をとり提出させるようにした。 ・ 教科書を使わず資料を配布しているため、学生には適宜重要事項を資料に記載するよう指示した。

授業科目名【生物と生命科学：英語・観光文化】

- ・ 授業にのぞむ姿勢を喚起するため第一回目の授業でシラバスを配布し、本科目の該当 DP、授業概要、達成すべき行動目標と達成目安について説明した。評価法については、試験直前に戸惑うことがないように丁寧に説明する。また、授業の達成目安と評価法は、授業回数半ばで再度説明し、学生に早期から講義の振り返りをするよう促した。
- ・ 例年、受講生の意欲・学習達成度に差がでないようにと悩む科目である。シラバスに 15 回の講義内容を示しているが、学生に了解をとったうえで学生の学習姿勢をみながら興味関心をもつ内容を優先し講義した。
- ・ 今年度はとくに女性の体に焦点をあてた体のしくみと疾患について資料を新たに加え講義を行なった。
- ・ 授業中に講義内容について口頭による質問を実施し学生の理解度を把握した。
- ・ 教科書を使わず資料を配布し講義を実施しているため、学生には適宜重要事項を資料に記載するよう指示した。
- ・ レポート課題には評価項目だけでなく点数配分を示し、学生の負担を軽減するため提出までには十分な時間をとるようにした。

授業科目名【生物と生命科学：看護】

- ・ 授業にのぞむ姿勢を喚起するため第一回目の授業でシラバスを配布し、本科目の該当 DP、授業概要、達成すべき行動目標と達成目安について説明した。評価法については、試験直前に戸惑うことがないように丁寧に説明する。また、授業の達成目安と評価法は、授業回数半ばで再度説明し、学生に早期から講義の振り返りをするよう促した。
- ・ 今年度は国家試験レベルの小テストを 7 回実施した。学生には評価項目を示したうえで小テストの解説をレポートとして提出させた。併せ形態機能学や疾病学などの参考図書を利用するよう指導した。
- ・ レポート評価は毎回コメントをつけ返却、また、受講生全員に対し評価項目の達成状況を示した。
- ・ 理解が難しいと思われる講義内容については、その場で少人数のグループを組ませ互いにディスカッションしながら解決をはかるよう促した。

授業科目名【生物と生命科学：福祉】

- ・ 授業にのぞむ姿勢を喚起するため第一回目の授業でシラバスを配布し、本科目の該当 DP、授業概要、達成すべき行動目標と達成目安について説明した。評価法については、試験直前に戸惑うことがないように丁寧に説明する。また、授業の達成目安と評価法は、授業回数半ばで再度説明し、学生に早期から講義の振り返りをするよう促した。
- ・ 学生に講義への興味関心と内容の理解をはかるため、講義後に関連するレポート課題をあたえ参考図書の例示をあげ図書館を積極的に利用し自学するよう指導した。
- ・ 課題の学習理解度をあげるため 1 週間後に自学した内容を持ち寄りグループディスカッションをさせた。
- ・ レポート課題には評価項目だけでなく点数配分を示し、学生の負担を軽減するため提出までには十分な時間をとるようにした。

授業科目名【微生物学：福祉】

- ・ 授業にのぞむ姿勢を喚起するため第一回目の授業でシラバスを配布し、本科目の該当 DP、授業概要、達成すべき行動目標と達成目安について説明した。評価法については、試験直前に戸惑うことがないように丁寧に説明する。また、授業の達成目安と評価法は、授業回数半ばで再度説明し、学生に早期から講義の振り返りをするよう促した。
- ・ 養護教諭免許取得に関わる必須科目であり、選抜があるため極めて学生のモチベーションは高い。基礎的な事項から始め学校現場などにおける感染症事例を展開しながら講義を実施した。また、子どもや高齢者の感染症については、最近のトピックスを中心に講義を行なった。残念なのは子ども家庭福祉コースの受講生が少ないことである。
- ・ 1 年生にはかなり質的・量的に重たい講義である。そのため講義のポイントを整理するための課題を講義進行にそって提示し自主学习を促した。
- ・ レポートについては、データベースを使い図書や雑誌を選定し評価項目にそってまとめるよう指示した。データベース利用については、事前に図書館に連絡しスタッフの方に協力していただいた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本細菌学会 日本感染症学会 日本小児保健協会 日本環境感染学会 日本母性衛生学会		1987年4月～現在に至る 1996年4月～現在に至る 2000年4月～現在に至る 2004年4月～現在に至る 2013年1月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文・資料) 1.大学の感染症予防対策における予防接種指針の検討	共	2016.3	西南女学院大学紀要 Vol.20	①大学における感染症予防の対策として、感染症罹患のリスクが高い医療系と医療系以外の学科の学生について、予防接種勧奨を行なう抗体価の基準を設定し、勧奨方法のガイドラインを明示した予防接種指針を作成した。 ②共同発表者 樋口由貴子, 大内田知英, 藤田稔子, 目野郁子 ③p9-p14
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. 保育園の感染症対策 - 1 保育園における継続した情報提供の効果 -	共	2015.6	第62回日本小児保健協会学術集会 (於 長崎)	① 福岡県内の1保育園を対象に定期的に感染症と予防接種に関する情報提供をおこない、その効果について検討した。 ②共同研究者名 樋口由貴子, 目野郁子 ③第62回日本小児保健協会学術集会講演集 p225 教育研究業績 総数 (2015.4.1-2016.3.31日現在) 著書 0 (内訳 単0 共0) 学術論文 1 (内訳 単0 共1) 報告書 0 (内訳 単0 共0) 学会発表 1 (内訳 単0 共1)

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・ 認定看護師教育課程「集中ケア」の学生を対象に、「安全管理」の領域において「感染の機構」と「感染管理」について講義・実習を行なう。		2015年8月17、19日

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	小田日出子	職名	教授	学位	修士(法律学)(九州国際大学1998年)
----	-------	----	----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
基礎看護学, 基礎看護技術 初年次教育	下肢温熱刺激法 社会人基礎力育成, 潜在的カリキュラム

研究課題
安全・安楽な下肢温熱刺激法(足浴)を採求する準実験研究 基礎看護技術&看護基礎教育(ラテックスアレルギー)に関する研究 初年次教育-看護学生の主体性育成-に関する研究

担当授業科目
基礎学習ゼミⅠ(1年前期), 基礎学習ゼミⅡ(1年後期) 看護技術論(→早期看護実習のみ)(1年前期) 生活援助技術論(1年後期) ヘルスアセスメント(1年後期) 診療関連技術論(→「吸引」実技試験の評価者のみ)(2年前期) 看護過程論(2年前期) 基礎看護学実習Ⅰ(1年後期), 基礎看護学実習Ⅱ(2年前期) 看護総合演習(4年前期・後期) 看護総合実習(4年前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】</p> <p>基礎学習ゼミに係る教員間の共通認識, 学修支援の方向性として, 基礎学習ゼミⅠ・Ⅱのねらいは, 以下1~6にある.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的に学ぶための基礎的スキル(聞く・読む・書く・話す・考える)を強化・鍛錬. 2. 社会人基礎力(前に踏み出す力・考える力・チーム力)の育成・強化. 3. グループ活動を通しての, 学生自身の在り方や行動の振り返り. 4. 他者と良い関係を築くうえで必要とされる行動変容への促し. 5. 大学での学習・生活スタイルの確立. 6. 問題解決を図る適切な手段・方法の発見と導き出しへの支援. <p>基礎学習ゼミⅠ(1年前期)については,</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次生101名を対象に, 教員10名が学生10~11名をゼミナール形式で担当. アカデミックスキルの習得に向けた講義及び学生の主体性・主張力を強化・育成するためのグループ討議を基本に, 授業を展開した. ・授業8回のうち4回を①蔵書検索, データベース及びインターネットによる文献検索方法, ②レポートの書き方講座, ③課題学習のためのオリエンテーション, ④身近なメディアと情報倫理に関する講義の時間とし, 残り4回をグループ討議の時間とした. ・学生個人に対しては, 科目の最終的な学習成果物として, 「女子大生と性」をテーマとする課題レポートの作成・提出を求めた. 提出されたレポートは, 学習成果物として評価の対象とした. ・昨年度に続き, 今年度も助産別科学生の参加・協力を得て, 1年次生に「女子大生と性」の課題レポートに係る助産別科学生による健康教育を組み入れた. 数年前より始まった助産別科との協同学習ではあるが, 入

学2カ月後の、助産実習前の時間的制約が大きい中での助産別科学生による健康教育の企画・実施については、別科学生はもとより、授業案や講義資料の作成を支援・指導する教員の負担感も大きく、今後の継続は難しいと思われる。次年度に向けては、課題レポートのテーマ設定も含めて、基礎学習ゼミ担当者間での見直しが必要と思われる。

- ・授業評価アンケートの中で、一部の学生は、授業の課題以外に学習していない理由を、「課題をすることで精いっぱいだった」、「レポートが大変だった」、「課題外の学習が思いつかなかった」「授業の課題で十分だった」「やる気がおきなかった」などとして、受動的かつ消極的な学びの姿勢をのぞかせていた。その一方で、「口頭で言われた重要なことをメモした」「図書館を活用するようになった」「興味があった事柄を自分でインターネットで調べた」「自主的に図書館に行き、興味のわいた分野の本を借りて読んだ」「学んだことを他の科目に活かした」など、主体的・積極的に学ぶ姿勢や「グループで話し合って意見を言い合うことでコミュニケーション力がついた」「レポートの書き方が理解できた」「授業後の振り返りがよかった」など、大学での学習・生活スタイルの確立に向けた好ましい学生の変化を捉えることもできた。
- ・基礎学習ゼミⅠの成績評価は、授業参加度(40%)、課題成果(60%)による総合評価としたが、今年度、秀21名、優65名、良13名、可1名、平均85.3点の結果であった。

基礎学習ゼミⅡ(1年後期)については、

- ・前期の学びを実践に活かす、また、社会人基礎力(前に踏み出す力・考える力・チーム力)の育成・強化を図る機会として、1年次生によるディベート・マッチを企画・実施した。その際、ディベート・マッチのテーマ及び定義については、学生の準備状況を考慮し、教員側で準備・提示することとした。
- ・ゼミグループの学生を5~6名ずつ「肯定派」と「否定派」の2グループに分け、授業は、試合準備のためのグループ学習を中心に進めた。途中、ディベート・マッチに必要な知識(ディベートとは、ディベートの4つの構成要素、試合の流れ、審判及び判定基準など)は、①集合しての講義と②看護学科LMS(Kaname.net)を活用した反転授業によって付与した。
- ・授業8回のうち後半2回をディベート・マッチの時間とし、試合は、対戦相手を変えて2回行った。そうすることで、①第3者(審判)の評価をもとに試合内容を客観的に振り返る機会とする、②次の試合に向けて、論旨・論拠の修正・補強に努め、論理構成力を高める、などの効果をねらった。また、学生には、各試合をスマホでビデオ撮影するよう指示し、グループでの振り返りの際に利用した。授業最終日には、聴衆の全員を審判として、「肯定派」「否定派」のベストグループによるドリームマッチを行った。モデルを示すことで、クラス全員が相互に学び合う機会となることを期待しての試みであった。
- ・メリット・デメリットの検討、論拠を明示するための調べ学習、立論・質問・反論の組み立て、メンバー間での役割決め、総括の方向性の確認など、いずれについても学生は主体的に行動し、調べ学習後の情報提供、意見交換において、殆どの学生が、グループ学習活動に積極的・意欲的に参加していた。
- ・基礎学習ゼミⅡの成績評価は、授業参加度(16%)、記録物(24%)、学修成果(観点別評価60%)による総合評価としたが、今年度、秀13名、優65名、良22名、可0名、平均83.2点の結果であった。

以上、基礎学習ゼミⅠ・Ⅱともにアクティブ・ラーニングの手法を用いた参加型授業を中心に進めてきたが、後期、いきいきと楽しげにディベート・マッチに取り組む学生たちの様子からは、1年間の学修成果として、初年次教育として位置づけた当該科目のねらい1.~6.は、概ね到達できたのではないかと考えている。

授業科目名【看護技術論(→早期看護実習のみ担当)】

1. 入学後間もない1年生を対象に、看護の“Early exposure”として看護技術論に位置づけた2日間の早期看護実習について、非常勤助手1名とともに、JCHO九州病院での実習生45名を担当・引率した。
2. 当該実習目的は、実際の医療現場に身を置くことで、病院という療養の場の理解、“Shadowing”による看護師業務・役割の理解、病院が患者のためにあることの理解、及び看護学生としての自覚や学習意欲の向上を図ることにある。1年生にとっては、初の体験学習の機会であり、例年、精神的緊張から体調不良を訴える学生も少なくない。科目責任者(梶原講師)による全体オリエンテーション後、施設別オリエンテーションでは、学生が実習に肯定的なイメージを持てるよう、また、実習に対する興味・関心に繋げられるよう、現場が具体的にイメージできるわかりやすい説明を心がけた。
3. 実習中、学生は4~6名のグループ単位で行動する。実習前1週間、臨地実習を効果的に進めるためのチ

ーム作りを兼ねて、学生の学習動機や主体的学習行動を促すために、実習グループでの課題学習に取り組み、メンバー間での討議の機会を設けた。事後の学習成果発表に向けても、担当した10グループについて、非常勤助手とともに、プレゼンにむけたきめ細かな助言・指導を行った。

授業評価アンケートの結果において昨年度までと大きく異なる点は、「看護技術論」に位置づけた「早期看護実習」に対する記述が全くなかったこと。例年であれば、「学校では学ぶことのできない現場の雰囲気」や「看護師になりたい」との思いを益々強くしたことや「看護を学ぶことへの興味がより深まった」ことなど、臨地での体験を通して、「授業で学んだことが実際の現場で活用されている」様子や「看護をもっと学びたい」との思い、「関心の深まり」など、多くの記述が残されていた。

今回、果して“Early exposure”としての早期看護実習の意義・目的は果たせたのか、真摯に振り返って見る必要がある。

授業科目名【看護過程論】

1. 学生101名(再履修者2名含む)を対象に、講義・グループ学習活動を組み合わせて授業を展開した。
2. 看護学科LMS(kaname.net)を活用し、毎回の学習目標と授業内容及び授業進行を提示し、授業の具体的なイメージ化を図るとともに、講義とグループ学習活動を効果的に組み合わせながら、学生の主体的学修を支援した。
3. 講義はグループ学習の進捗と連動させ、ワークでの学習到達目標と照らし、適時、実施した。
4. 講義には視聴覚教材(パワーポイント、VTR等)を活用した。講義資料をはじめ、使用する教材は全て事前にkaname.netにupし、授業中の資料配布は一切行わず、学生個々の責任で授業準備を整えるようにした。
5. 毎回の講義終了後、学生とのコミュニケーションを図る目的で、メッセージカードの提出を求め、カードへの応答も積極的に行った。メッセージカードは次回講義時に返却し、クラス全体に周知すべき質問・意見・要望は、授業開始時にクラス全体に返した。
6. グループ学習への支援は、基礎看護学領域の教員全員で分担した。一人の教員が学生7~8名のグループを2~3グループ担当し、チューター役割を果たした。学習支援体制の充実を図るため、随時、教員間の情報交換を行い、指導の標準化に努めた。
7. 担当した3グループについては、意図的にグループ間でのディスカッションの機会を設け、意見交換を促した。グループ間で相互に刺激し合うことにより、学習へのモチベーションが高まり、最後までよい意味での緊張感を維持した積極的なグループ学習ができていた。
8. グループ学習活動の振り返りシートに観点別評価を取り入れ、学生が自身の学習活動を客観視するとともに、目標達成状況を具体的に確認できるようにした。学生は、物珍しさも手伝って、初めは熱心に取り組んでいたが、何回か振り返りシートの記載、担当教員の助言、助言を受けての見直しを繰り返すなかで、惰性的に取り組む学生の傾向、思考の深化は期待できないことなどが明らかとなった。次年度は、振り返りシートを記載するタイミングについての見直しを考えている。
9. グループ間での学習成果の共有を目的に、各グループが導き出した援助技術の実際をロールプレイングで発表した。グループそれぞれに熱心かつ積極的に取り組み、根拠に基づく援助技術の実践がなされ、事後の質疑応答も活発であった。

授業評価アンケートの結果より、「今後の実習や学習にとっても影響を与えてくれる内容だった」「きつかったけど、ためになることばかりだった」「自分の力になるものばかりだったのでよかった」と、例年同様の肯定的な意見がある一方で、今年度、特に「担当教員への意見」として、「先生によって書き方・指導が違う」「指導内容に統一性がない」「グループごとの指示のバラつきがある」「教える内容に差がある」などを指摘する意見が多く寄せられ、正直、その反応に驚いた。これまでと同じように、講義やグループ学習活動の進捗状況に合わせて、その都度、担当教員間で指導方針の確認は行いながら進めてきたつもりであったが、上記意見からは、その準備が学生の指導に反映されていない状況が推察され、次年度に向けては、何より担当教員間の共通理解の強化及び指導・指示内容の統一を図る必要があり、それにむけた改善策の検討を急がねばならない。

看護過程論の成績評価は、筆記試験のクラス平均は50点満点中36.2点(最高49.5点、最低20点)であった。最終評価は、筆記(50%)、個人学習(20%)、学習成果発表(10%)、記録及び学習貢献度(20%)での総合評

価としたが、クラス平均は72.5点(最高94点,最低50点)で、昨年度より2.3ポイント下がった。成績評価の内訳は、秀1名、優24名、良40名、可29名で、101名中94名が履修を修了した。再試験該当となった7名については、筆記(100点満点)の再試験を実施し、7名全員が合格、2015年度の科目履修を修了できた。

授業科目名【 生活援助技術論 】

1. 学生100名を対象に生活援助技術のうちの「清潔」単元を担当し、講義・演習合せて10コマ(20時間)の授業を、講義、教員によるデモンストレーション、技術演習の一連の流れで実施した。
2. 学生の基本看護技術習得のための支援策として、授業中に行う教員デモンストレーションの他、自作看護技術手順書に基づく看護学科LMS(Kaname.net)への教材(DVD等)提示を積極的に進め、学生にもその活用を奨励し、技術習得のための自主学修の強化を図った。
3. 講義後は、知識の整理を目的にレポートを課すとともに、一定期間を置いた後の「おさらいテスト」(1)~(5)を準備し、必要な知識の定着を図った。
4. 「清潔」援助技術の演習は、総じて使用物品の数量の多さ、演習の場と時間確保の難しさ、さらには演習前日からの相当大掛かりな準備の必要と当日演習後の片付けの大変さを伴う。加えて、1つの技術項目を100名全員で演習すること自体が困難であるため、「清潔」単元で取り上げる4項目について、100人での演習が可能な「寝衣交換」「洗髪」と、50名ずつ2クラスで行わざるを得ない「全身清拭」「足浴」に分けて実施した。2技術項目(全身清拭/足浴)については、関係者の準備に要する時間と負担の軽減を図るとともに、学生全体の技術習得度を高められるように、なるべく時間を空けずに演習できるよう配慮した。
5. 生活援助技術としての技術到達度を測る「導尿」の実技本試験に、評価者として参加した。規定の「技術評価表」に則り、担当学生の技術到達度を評価した。評価後は全体調整会議に加わり、評価の妥当性・公平性を担保した。合格者は71(59)/100(99)名、合格率71.0(59.6)%,不合格者29(43)名のうち再試験合格者29(33)名、再試験不合格者0(10)名と、()内に示した前年度数と比較して、全体的に技術到達度は高かった。
6. 筆記試験については、担当した清潔単元の問題(全体の4割分を作成・出題した。最終的に、筆記(60%),実技(25%),レポート及び学習貢献度(15%)で総合評価したが、最終評価のクラス平均(SD)は73.8±9.1(72±10.91)点(最高93点,最低50点)、成績の内訳は、秀3名、優24名、良40名、可27名及び不可6名であった。再試験該当となった6名については、2016年3月24日に筆記(100点満点)の再試験を実施し、6名全員が合格、2015年度の科目履修を修了できた。

授業科目名【 ヘルスアセスメント 】

1. 1年次後期、学生102名(再履修者2名含む)を対象に、スクリーニング技術(バイタルサイン測定技術)から、消化器系(腹部)、呼吸・循環系、感覚・神経系、筋・骨格系(運動)のフィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザムの習得及びアセスメント技術の向上を目標に、授業は、講義・デモンストレーション・技術演習の一連の流れで構成・展開した。
2. 1単位30時間(2コマ8回)に納めるには、かなりボリュームのある内容であり、加えて、バイタルサイン測定技術については、実技試験を行うため、学生にとっては、かなりハードな科目と言える。
3. 独自に作成した看護技術手順書をもとに、教員によるデモンストレーションを行うが、さらに、今年度からは、看護学科LMS(Kaname.net)を積極的に活用し、学生の自主学習及び看護技術習得を支援した。
4. 技術演習は基礎看護学領域助手3名を中心に、毎回2~4名の学習支援者を配し、学生個々の技術習得に向けたきめ細かな指導を心がけた。学生102名の技術習得を確実なものとするには限界もあり、学生個別の手当てが十分には行き届かないことへのジレンマもあるが、全体的には授業はスムーズに運営できた。
5. 例年に倣い、実技試験によりスクリーニング技術(バイタルサイン測定技術)の技術習熟度を確認した。科目責任者として、当該実技試験の企画・準備・運営に当たった。
6. 実技試験の結果、受験者102名中本試合格者77名、不合格者25名(追試者1名を含む)、合格者は全体の76.5%で、2014年度74.3%を2.2ポイント上回っており、結果、8割弱の学生がバイタルサイン測定技術を習得できた。本試不合格者24名については、後日、同一課題による再試験を実施、24名中22名を合格、2名(昨年度3名)を不合格とした。不合格者2名については、臨地実習に不可欠のバイタルサイン測定技術を確実なものとするために、再度、科目責任者及び助手2名による個別指導・技術チェックを実施し、臨地実習に備えた。結果として、2016年3月基礎看護学実習Iでは、いずれの学生も患者のバイタルサイン

測定を支障なく行うことができた。なお、筆記試験のクラス平均は60点満点中35.4点（最高55点、最低21点）で、昨年度を2.6ポイント上回った。最終評価は、筆記(60%)、実技(25%)、レポート及び学習貢献度(15%)で行ったが、総合評価のクラス平均は72.5点（最高95点、最低43点）、成績の内訳は、秀3名、優20名、良40名、可30名、不可9名で、再試験該当の9名に対しては、平成28年3月22日に筆記(100点満点)による再試験を実施し、再試験合格者6名、不合格者3名であった。不合格の3名については、次年度再履修となるため、最終的に102名中99名が科目履修を修了した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		1998年7月～現在に至る
日本看護科学学会		1998年12月～現在に至る
九州看護理論研究会		1999年4月～現在に至る
日本看護診断学会		1999年6月～現在に至る
日本看護技術学会		2007年12月～現在に至る
日本看護倫理学会		2009年6月～現在に至る
日本がん看護学会		2009年12月～現在に至る
日本看護管理学会		2012年10月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし。				
(学術論文) 1. 基礎看護学実習における臨地実習環境の実態(査読有)	共	2016年3月	西南女学院大学紀要 Vol. 20	① 1～2年次に履修する基礎看護学実習は、学生が初めて経験する臨床現場での学習機会であるため、実習環境は、学生の学習効果に大きく影響する。効果的な実習環境について検討する目的で、基礎看護学実習を受け入れている200床以上の病院の看護部教育担当責任者を対象に、質問紙調査を実施し、81病院から回答を得た。調査の結果、実習指導の現状として、臨床実習指導者が学生指導と業務を兼任する病院が半数以上(57.4%)にのぼることが明らかとなり、教員との連携の重要性を再認識した。 ② 共著者：本田輝子，梶原江美，小野聡子，末光順子，飯野英

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				親, <u>小田日出子</u> , 岩本テルヨ ③ 西南女学院大学紀要 (Vol. 20) P. 1-8.
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. ラテックスアレルギー 予防目的で行う看護学生 への2回の手袋使用テスト の有用性	共	2015年8月	日本看護学教育学会 第25回学術集会 (於:徳島 アスティとく しま)	①基礎看護学領域で可能なラテ ックスアレルギー (LA) 予防の ためのスクリーニング法につ いて, 従来の質問紙と使用テス ト1回の併用を使用テスト2回 とした結果を評価・報告した. ②共同発表者: 梶原江美、飯野 英親, 本田輝子, 小野聡子, 末 光順子, 岩本テルヨ, <u>小田日出 子</u> , 浅野嘉延 ③日本看護学教育学会 第25回 学術集会講演集 P. 165
2 . Caring Ability Inventory 日本語版の 信頼性・妥当性の検証	共	2015年8月	日本看護学教育学会 第25回学術集会 (於:徳島 アスティとく しま)	①Caring Ability Inventory (CA I) 日本語版を作成し, その信頼 性・妥当性を検証した. CAIは, 1990年に米国の看護師を対象 にNkonghoによって開発され, 3 7項目から成る. 原版の信頼性 ・妥当性は得られており, 「知 ること」「勇気」「忍耐」とい うケアリングの要素を測定で きるものである. 有効回答は3 84部, 回転前の3因子の因子寄 与率は31.5%だった. 尺度全体 の α 係数は0.801, 各下位尺度 は「知ること」0.789, 「勇気 」0.716, 「忍耐」0.182で, 「 知ること」「忍耐」については , 原版の3下位尺度が混在して いた. 本結果より, 尺度全体の 信頼性は確保されたが, 因子構 造の見直し等, 課題が残った. ②共同発表者: 小野聡子, 飯野英 親, 梶原江美, 本田輝子, 末光 順子, <u>小田日出子</u> , 岩本テルヨ ③日本看護学教育学会 第25回

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. 基礎看護学実習における臨床実習指導体制の実態	共	2015年8月	日本看護学教育学会 第25回学術集会 (於:徳島 アスティとくしま)	<p>学術集会講演集 P. 230</p> <p>①基礎看護学実習中の臨床での実習指導体制の実態を明らかにするために、福岡・山口県内で200床以上を有する202病院の看護部教育担当責任者を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した結果、指導体制の現状は、臨床実習指導者が学生指導と業務を兼担する病院が57.4%のぼり、実習期間中1人の指導者が継続して指導を担当する病院はわずか10.3%だった。こうした状況は、学生の日々の学びや看護学生としての成長を支える継続的かつ十分な指導体制がとれる環境とは言い難く、いっそうの教員-指導者間の連携の必要性和重要性が示唆された。</p> <p>② 共同発表者：本田輝子，梶原江美，飯野英親，小野聡子，末光順子，<u>小田日出子</u>，岩本テルヨ</p> <p>③日本看護学教育学会 第25回学術集会講演集 P. 215</p>
4. アクティブ・ラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価—主観・客観評価の両面からみた情意領域（関心・意欲・態度）への教育効果	共	2015年8月	第46回日本看護学会—看護教育—学術集会 (於:奈良 奈良県文化会館)	<p>① 看護学科の初年次教育として位置づけた「基礎学習ゼミⅠ」において、スタディスキル、アカデミックスキルの修得・育成を目標に取り組んだアクティブ・ラーニング(以下AL)と振り返りポートフォリオ(以下PF)の教育効果について、情意領域(関心・意欲・態度)の観点から、主観・客観両面での評価を報告した。</p> <p>② 共同発表者：布花原明子，塩田昇，村山由起子，石井美紀代，一期崎直美，小野正子，鹿毛美香，松尾綾，吉原悦子，<u>小田日出子</u></p> <p>③第46回日本看護学会—看護教</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5. アクティブ・ラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価—客観評価と主観評価の比較から見えた情意領域（関心・意欲・態度）育成への課題—	共	2015年8月	第46回日本看護学会—看護教育—学術集会（於：奈良 奈良県文化会館）	育—学術集会抄録集 P.162 ① 看護学科「基礎学習ゼミⅠ」でのアクティブ・ラーニングとポートフォリオを組み合わせた初年次教育の評価について、客観的・主観的指標を分析し、その結果及び課題を報告した。 ②共同発表者：塩田昇，布花原明子，村山由起子，石井美紀代，一期崎直美，小野正子，鹿毛美香，松尾綾，吉原悦子， <u>小田日出子</u> ③ 第46回日本看護学会—看護教育—学術集会抄録集 P.163
6. ディベートを活用した初年次教育の試み—看護大学生のクリティカルシンキング志向性に着目して—	共	2015年8月	第46回日本看護学会—看護教育—学術集会（於：奈良 奈良県文化会館）	① 看護学科「基礎学習ゼミⅡ」でのディベートの活用について、看護学生を対象に質問紙調査を実施した。発表では、特に、ディベート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目して分析し、その結果を中心に報告した。 ②共同発表者 一期崎直美，石井美紀代，吉原悦子，小野正子，布花原明子，村山由起子，鹿毛美香，塩田昇，松尾綾，小田日出子 ③第46回 日本看護学会—看護教育—学術集会抄録集 P.164
7. 看護師のケアリング能力と他者との関わりに関する経験との関連	共	2015年9月	第46回日本看護学会—看護管理—学術集会（於：福岡 福岡国際会議場，福岡サンパレス）	①Caring Ability Inventory (CAI) 日本語版を使用して看護師のケアリング能力と関連要因を明らかにし、ケアリング教育に関する課題について検討した。中国・九州地方の9病院に所属する看護師635名を対象に、無記名式自記式質問紙調査を実施した。分析方法は、CAI日本語版によって得られた尺度全体のケアリング得点と対象者の他者との関わりに関する経験の有無及び

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
8. 西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部におけるFDの展開—教職員のハートに火をつける—	共	2015年12月	Q-conference 2015 (於:福岡 福岡教育大学学生会館2階大集会室)	<p>それに関する認識との関連をMann-WhitneyのU検定により解析した。その結果、CAI得点と他者との関わりの経験に関する項目の差の検定において、パートナーとの同居経験(P=0.028)と現在の家族関係に対する認識(P=0.002)、管理職であること(P=0.000)、に有意差を認めた。過去の体験よりも現在どのような体験をしているかがケアリング能力に影響しやすい可能性が示唆された。</p> <p>②共同発表者:小野聡子, 梶原江美, 飯野英親, 本田輝子, 末光順子, 小田日出子, 岩本テルヨ</p> <p>③第46回日本看護学会—看護管理—学術集会抄録集 P.500</p> <p>①2012年度よりスタートしたFD企画委員会の5名のメンバーを中心に行ってきたボトムアップの主体的FD活動について、年度毎のテーマ、FD研修の企画内容と実際の展開、事後アンケート結果に見える参加満足度の変化と教員の意識の高揚変化をまとめ、実践報告とした。</p> <p>②共同発表者:上村眞生, 塚本美紀, 小田日出子, 藤川信幸, 天本理恵, 篠木賢一</p> <p>③Q-conference 2015 in 福岡教育大学ポスターセッションガイド P.12</p>

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
社会人基礎力養成のための「意図的なHidden Curriculum(潜在的カリキュラム)」構築に関する取組み	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	1,008,000	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護協会/福岡県看護協会 ・西南女学院大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル 	会員 「ファーストレベル」講師	2005年4月～現在に至る 2015年7月3日「討議法」オリエンテーション(1時間) 2015年7月20日「討議法」講義(3時間) 2015年8月21日「看護専門職論－看護関連法規」講義(6時間) 2015年9月30日「看護サービス提供論－論理的思考による問題解決」講義(6時間)
<ul style="list-style-type: none"> ・西南女学院大学認定看護師教育課程 	「集中ケア」講師	2015年6月10日「看護管理－医療安全管理」講義(3時間)
<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度シニアサマーカレッジ 	講師	2015年7月17日「気分スッキリ～足湯のすすめ～」講義・演習(4時間)
<ul style="list-style-type: none"> ・西南女学院大学認定看護師教育課程 	「集中ケア」入試委員会委員	2015年4月1日～2016年3月31日 (構成員：保健福祉学部看護学科教員2名のうちの1人として)
<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市国民健康保険運営協議会 	委員(委嘱期間：2013年9月1日～2017年8月31日)	2011年9月1日～現在に至る
<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市国民健康保険運営協議会 	副会長(2012年2月～現在に至る)	2012年2月15日～現在に至る
<ul style="list-style-type: none"> ・九州厚生年金看護専門学校同窓会(厚楓会) 	会長	2014年8月3日～現在に至る
<ul style="list-style-type: none"> ・北九州ゆめみらいワーク 	イベント企画・参加	2015年8月28日(2時間)
<ul style="list-style-type: none"> ・第46回日本看護学会－看護管理－学術集会 	西南女学院大学ブース担当 学術集会抄録選考委員	2015年3月1日～2015年9月30日
<ul style="list-style-type: none"> ・Q-CONFERENCE 2015 	企画セッション・パネラー	2015年12月5日「大学間連携はFD・SDに何をもちたらすか」パネルディスカッション(1.5時間)

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

【大学委員会】

● 2015. 4. 1～2016. 3. 31 看護学科人事委員

大学委員会のうち「人事委員会」に属し、看護学科入試委員として、前年度より持ち越しとなっている7件を含む2015年度教員採用人事12件及び承認人事1件について、看護学科(11件)と助産別科(1件)の公募/再公募、採用人事選考委員の選出、応募者の資格確認、書類審査・面接、推薦書の作成及び看護学科承認人事について審査委員の選出、書類審査等に従事し、看護学科及び助産別科の体制整備に向けた適正な教員採用に係る業務に尽力した。結果として、看護学科6件及び助産別科1件が「採用案件」として処理できた、看護学科の残5件については、「応募なし」または「適任者なし」により、次年度持ち越しとなった。

● 2015. 4. 1～2016. 3. 31 FD研修会企画委員(責任者)

- ✓ 2014年度に引き続き、大学点検評価改善会議の下部組織:FD部門会議に所属し、FD研修会企画委員長として、その役割を果たした。
- ✓ 2015年度FD研修のメインテーマを『 $P(A+C+D) \times T(F+L+R) = \text{“要”}$ —基本に戻って…Hop step jump!!』と決定し、企画の検討を行った。また、企画に当たっては、2014年度実績を基に、大学・大学短期大学の全教員を対象に、今年度、年3回のFD研修会とSD・FD合同の一般公開講座1回を実施することとした。
- ✓ 2015年度FD研修会については、西南女学院としての教育力の実態把握と大学内部の自浄作用への期待を込めて、第1回:学内講師による教育講演、第2回:外部講師による一般公開講座と教育講演、第3回:学内講師陣によるパネルディスカッションを企画・実施することとした。
- ✓ 外部講師を招聘するについては、九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク(Q-Links);田中岳先生(九大)に助言・協力をお願いし、大学教育改革の先駆的存在である金沢工業大学より藤本元啓教授をお招きして、一般公開講座と教育講演をご依頼する方向で、交渉に当たった。
- ✓ 第1回FD研修会は、学内講師3名による小講義(伊藤教務部長「本学が目指す教育改革」、脇教授「今の大学教育に求められるシラバスとは」、谷川学部長「質保証に資する授業評価の改善を目指して—新しい授業評価アンケートとリフレクションの在り方」)(2015.7.31)を企画・実施した。
- ✓ 第2回に、金沢工業大学より藤本元啓教授をお迎えして、第1部:「初年次教育の重要性とその意義～金沢工業大学の教育改革をとおして～」のテーマで、SD・FD合同の一般公開講座を開催した。続く、第2部では、本学教員を対象に「学習成果基盤型カリキュラムとシラバス」をテーマに、金沢工業大学での具体的な取り組みをご紹介いただきながらのご講演を頂いた(2015.8.24)。
- ✓ 第3回は、宮浦崇先生(九工大)をコーディネーターに迎え、『 $P(A+C+D) \times T(F+L+R) = \text{“要”}$ ～確かな学びを支えた授業デザイン～』と題して、学内講師陣;保健福祉学部(古田准教授)、人文学部(塚本講師)、大学短期大学部(阿南講師)により、それぞれが取り組まれた“授業改善”の実践例を具体的に報告いただきながら、パネルディスカッションを展開した(2015.12.8)。
- ✓ 今年度FD研修への教員参加は、毎回、8割を超えていた。年々、参加者の関心、意欲も高まっているようで、事後アンケートの結果からも、研修の企画や方法への満足度は高かった。時に、「意味を感じない」「つまらない」「時間の無駄」「わかりきったこと」など、批判的かつ後退的意見も聞かれたが、それらは1～2件と少数にとどまり、「よい刺激になった」「早速やってみようと思った」「毎回楽しみにしている」など、前向きかつ建設的な意見が多くを占めていた。特に、講師、准教授クラスの若い世代の反応が良かった。
- ✓ 現FD研修企画委員5名は、2012年度より「西南女学院の教育力を高めよう!」をスローガンに、4年をかけてボトムアップのFD研修会を地道かつ誠実に企画・実施してきた。この間の学院全体の変化も肌で感じながら、それぞれがFD研修企画委員の一人として、一定の成果は得られたと感じていると思う。その一方で、さらなるステップアップを目指し、FDも新たな段階へのスタートを切るべき時と感じている。

【学科役割】

- 看護学科人事委員、認定看護管理者教育(ファーストレベル)講師、認定看護師教育課程(集中ケア)講師、認定看護師教育課程(集中ケア)入試委員会委員、また、2014年度より継続して担当している看護学科初年次教育としての「基礎学習ゼミⅠ」(1年前期)と「基礎学習ゼミⅡ」(1年後期)の科目責任者及び2年生アドバイザー担当責任者としての役割を務めた。
- 北九州ゆめみらいワーク(西日本総合展示場)～自分を知る“食・からだ・こころ”に、大学保健福祉学部看護学科のブース担当者として、基礎看護学領域の助手2名とともに参加した。総合学習の一環として会場を訪れた高校生を対象に、基礎看護技術(血圧測定)体験コーナーを開設し、体験学習の場を提供した。訪

れた高校生達は、男女を問わず、皆、興味深そうに測定に取り組んでいた。

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	浅野嘉延	職名	教授	学位	博士(医学)(九州大学1989年)
----	------	----	----	----	-------------------

研究分野	研究内容のキーワード
内科学、看護教育学、高齢者福祉学	看護学生教育、教育指導マニュアル、福祉用具開発

研究課題
<p>看護学生に対する疾病学と疫学保健統計学の有効な教育法の確立を研究課題としている。これまで、臨床現場の患者サンプルを用いた実践的な教材を作成し、4冊のテキストを出版した。今年度は、全国の看護教育機関に疾病学の教育体制に関してアンケート調査を行い、それをもとに教育指導マニュアルの作成を開始した。平成27年度科学研究費「挑戦的萌芽研究」の助成を受けている。</p> <p>また、高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」を舞台に、現場のニーズに基づく福祉用具の開発を西日本工業大学と連携して行っている。今年度は、車椅子用フットプレートカバーの商品化が有菌製作所にて進行中である(平成28年夏に販売開始の予定)。</p>

担当授業科目
<p>疾病学各論Ⅰ(前期)(看護学科) 疾病学各論Ⅱ(前期)(看護学科) 看護のための臨床検査(前期)(看護学科) 看護形態機能学Ⅰ(前期)(看護学科) 保健統計学(後期)(看護学科) 疫学(後期)(看護学科) 疾病学特論(後期)(看護学科) 女性と健康(後期)(生活創造学科) 総合人間学概論(前期)(保健福祉学部、人文学部)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【疾病学各論Ⅰ】【疾病学各論Ⅱ】</p> <p>自著の教科書「看護のための臨床病態学(改訂2版)」を活用して、内科疾患を中心に疾病学の系統的な講義を行った。レントゲン写真などの教材はスライドで提示し、DVD教材なども使用するなど多面的に解説を行った。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、看護師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。外科疾患、小児科疾患、精神科疾患の講義は専門家に依頼し、全体的なコーディネートを行った。</p>
<p>授業科目名【看護のための臨床検査】</p> <p>疾病学各論Ⅰ&Ⅱと連携させて進行し、疾病とリンクして臨床検査の知識が身につくように工夫した。自著の教科書「看護のための臨床検査」を活用して、各々の検査法やデータの解析を解説するとともに、症例を用いて検査データから患者の病態が把握できるようにした。</p> <p>また、心電図、検尿、肺機能、眼底などの検査の演習を行い、学生各人が実際に検査者や被験者になる経験をさせた。</p>

<p>授業科目名【看護形態学Ⅰ】</p> <p>1年生にとって医学とのファーストコンタクトであるため、興味が持てるように、臨床現場の話などを織り交ぜて、DVD 教材なども用いて多面的に解説を行った。配布資料は重要事項を書き込める穴埋め式とした。3名の教員によるオムニバス形式となったため、全体的なコーディネートを行った。</p>
<p>授業科目名【保健統計学】【疫学】</p> <p>学生にとって馴染みの薄い分野であるので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計（改訂2版）」を使用して基礎から分かりやすく解説した。授業の最初の15～20分は前回の復習にあてた。DVD教材なども使用した。計算問題などを繰り返し解かせた。また、保健師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。</p>
<p>授業科目名【疾病学特論】</p> <p>次年度から臨床現場で働くことになる4年生に対して、自著の教科書「解剖生理と疾病の特性」を活用して、疾病学の総復習を行いながら、臨床現場で必要なことを解説した。また、看護師国家試験の直前であるため、国家試験の対策となるようにポイントを示した。</p>
<p>授業科目名【女性と健康】</p> <p>病院での臨床経験をもとに、喫煙の健康被害、生活習慣病、女性におおい疾患などを解説し、命の大切さや女性として自分の体を守る重要性を説いた。婦人科疾患などの講義は専門家に依頼し、全体的なコーディネートを行った。</p>
<p>授業科目名【総合人間学概論】</p> <p>感恩奉仕の精神に基づいた女性としてのキャリア形成を共通のテーマとし、オムニバス形式の講義内容や演者の選択などをコーディネートした。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本内科学科	専門医部会編集担当委員（2006年9月～現在） 専門医部会九州支部委員（2006年4月～現在）	1983年6月～現在
日本血液学科	代議員（1998年4月～現在） 九州支部評議員（2011年4月～現在）	1985年6月～現在
日本癌学会		1986年6月～現在
日本看護科学学会		2008年12月～現在
日本看護学教育学会		2008年12月～現在
アメリカ内科学会		1998年12月～現在

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他の出版物) 1. 右往左往の日々 ～若き研究者時代の思い出～ 2. 聖書に親しむ会	単著	2015年	西南の杜 第9号: 170-175, 2015 西南女学院キリスト教センター便り 89:5, 2015	学生、教職員に向けたエッセイ 聖書の勉強会の紹介
(講演会など) 1. 命と向き合う心がまえ 2. 基調講演 G-CSF 適正使用ガイドライ (2013年版 Ver. 2) の概略	発表者 発表者	2015年 2015年	第12回辰巳塾 一般教養講座 (2015. 4. 北九州) 第102回小倉血液コンソーシアム (2015. 11. 北九州)	医療の最前線の現況を紹介 G-CSF 製剤の使用ガイドラインを紹介

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
看護教育における疾病学の指導マニュアル作成に向けた研究	科学研究費 挑戦的萌芽研究 (平成27～28年度)	1,690,000	

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
社会福祉法人 福音会 北九州いのちの電話 大原病院 神理幼稚園 門司メディカルセンター 文部科学省大学間連携教育共同推進 事業 地域連携による「ものづくり」 継承支援人材育成プロジェクト 北九州市医療センター治験審査委員 会委員、医の倫理委員会委員 社会福祉法人 福音会	産業医 評議員 評議員 評議員 地域医療支援病院運営委員 外部評価委員 委員 評議員	2007年4月～現在 2009年2月～現在 2009年4月～現在 2010年4月～現在 2012年7月～現在 2013年7月～現在 2015年4月～現在 2015年11月～現在

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

宗教委員会 委員 2008年10月～現在 倫理審査委員会 委員 2015年4月～現在 情報システム管理運用委員会 委員 2010年4月～現在 西南女学院 院内評議員 2011年4月～現在 西南の杜 編集委員 2011年4月～現在 キリスト教センター運営委員 2012年4月～現在 外部資金導入プロジェクトメンバー 2013年8月～現在 動物実験委員会 委員 2014年4月～現在 看護学科カリキュラム評価委員 2015年2月～現在 聖書に親しむ会の担当者 2015年4月～10月 西南女学院中学校・高等学校 全体礼拝で奨励 (2015年10月)

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 飯野英親	職名 教授	学位 修士(経済学)
---------	-------	------------

研究分野	研究内容のキーワード
遺伝看護, 小児看護, 看護管理	先天異常, 染色体異常, 奇形症候群, 心理過程, トータルケア, イメージ分析, 臨床遺伝, ラテックスアレルギー, キャリア発達, キャリアアンカー

研究課題
<p>1. 低頻度染色体異常児を養育する両親の心理過程 発生が低頻度な染色体異常児を養育する両親(主に母親)の心理過程を前方視的に分析し, 疾患の特徴や病期による心理反応の特徴を分析する.</p> <p>2. 看護学生におけるラテックスによるアレルギー反応の予防策の検討</p> <p>3. プラダーウィリー症候群をもつ人に対するトランジション・ケアプログラムの開発</p>

担当授業科目
<p>診療関連技術論(前期)(看護学科)</p> <p>看護技術論(前期)(看護学科)</p> <p>生活援助技術論(後期)(看護学科)</p> <p>ヘルスアセスメント(後期)(看護学科)</p> <p>看護過程論(前期)(看護学科)</p> <p>基礎看護学実習Ⅰ(後期)(看護学科)</p> <p>基礎看護学実習Ⅱ(前期)(看護学科)</p> <p>看護基礎マネジメント論(後期)(看護学科)</p> <p>遺伝看護学(後期)(看護学科)</p> <p>看護マネジメント論(前期)(看護学科)</p> <p>看護総合演習(通年)(看護学科)</p> <p>看護総合実習(前期)(看護学科)</p> <p>疾病学各論Ⅱ5コマ(前期)(看護学科)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【看護基礎マネジメント論】</p> <p>本講義では, 知識体系として初学者に理解しやすい看護管理の教科書と, 私自身が看護系雑誌に執筆した原稿を主な教材として用いた. 2年次に講義するため, 今後の臨地実習や自身の就職活動で役立つ, 病院組織の運用・管理の概要を解説した. 例えば, 病院法人格の違いや所轄・管轄の違い, 看護サービスの診療報酬上の経済的対価の内容, 看護体制と看護師配置, 組織図で読み解く組織の権限と機能などである. 初学者が病院管理の概念を理解するのに, いくつかの実例と図表を提示したことで効果があったと判断した.</p>
<p>授業科目名【看護総合演習・実習】</p> <p>看護総合演習・実習では, 急性期総合病院の看護部におけるトップマネジメントの意識・考え方を学ぶことに主眼をおいて教育した. そのため, 数回とくに, 地域診療連携, 患者相談事業, 医療安全, 感染制御など, チーム医療現場への臨地実習をとおして病院全体, 病院と地域施設(社会資源)との関連について考え, 患者の近い将来をアセスメントできるように, カンファレンスなどで知識やアセスメントの視点について学生に確認した. 本実習を通して, 実習先の特定機能病院にゼミ生の2名の就職が決定した.</p>

授業科目名【診療関連技術論】

一次救命処置(Basic Life Support: BLS)技術の習得を目指し、病院から非常勤講師の看護師 5 名の協力を得て行った。その演習では、バイスタンダーとして AED の使用と胸骨圧迫が正しく使えるように練習できている。2012 年からは、附属研究所の研究助成を受けたラテックス・アレルギー調査の研究成果を取り入れて、ラテックスフリー手袋をハイリスクな学生に積極的に学生に使用した。現在の医療現場で利用される「医療安全」を意識したディスポ製品を使い、静脈注射・静脈採血などの注射関連看護技術や無菌操作技術が習得できるように行った。

授業科目名【遺伝看護学】

遺伝看護分野でも、とくに、小児遺伝性疾患児と家族への看護について講義した。教材はオリジナルのレジュメを準備し、臨床の内容は講義担当者の遺伝診療部・小児遺伝外来での臨床経験をもとに解説した。この科目は選択科目、オムニバス形式で運用されたが、授業後のコメントでは「もっと多くの人に聞いて欲しい」、「必須科目にしたらキャリアアップの選択幅が広がる科目」「新しい魅力を感じた」といった、近い将来のキャリア開発につながる科目として意識されていた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本遺伝看護学会	学術雑誌 査読委員 (2015 年度) 学会誌編集委員 (2014.10～現在)	平成 12 年 6 月～現在に至る
他 11 の国内学術学会に所属 2 つの海外の学術学会に所属		

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(査読のある学術論文) 1) 看護師のラテックス アレルギー罹患率と知 識との関連 【査読有】	共著	平成 27 年 3 月	第 46 回日本看護学会 論文集 看護管理 in press	① 看護基礎教育でのラテックスアレルギー (LA) 予防教育を考える上で、臨床現場で働く看護師の LA 既往者と LA 知識の獲得状況を把握するために質問紙調査を実施した。その結果、自己申告による LA 既往率は 3.7%と先行研究と類似の結果だった。 また LA 既往に関わらず、LA に関する獲得知識は症状のみ知っていることが多く、学部での LA 教育だけでなく臨床現場での教育の必要性が示唆された。 ② 共著者名 梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ ③本人担当部分：共同研究者と

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>2) 基礎看護学実習における臨地実習環境の実態 【査読有】</p>	共著	平成 28 年 2 月	西南女学院大学紀要 Vol. 20	<p>して、分析と考察部分を検討した。</p> <p>①1, 2年次に学修する基礎看護学実習は、学生が初めて経験する臨床現場での学習機会であるため、実習環境は、学生の学習効果に大きく影響する。効果的に学修する実習環境を検討するために、基礎看護学実習を受け入れている 200 床以上の病院の看護部教育担当責任者に質問紙調査を実施した。81 病院から回答の得た結果、実習指導の現状として、臨床実習指導者が学生への指導と業務を兼担する病院が半数以上 (57.4%) にのぼり、教員と十分に連携を取っていく必要性を再認識した。</p> <p>② 共著者名 本田輝子、梶原江美、小野聡子、末光順子、飯野英親、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③本人担当部分：共同研究者として、調査書の作成、結果の分析と考察の一部分を検討した</p>
<p>(その他の報告)</p> <p>1) 第 105 回看護師国家試験対策テスト第 3 回 (2015 年 11 月) 小児看護学分野の全問題 19 問の監修</p> <p>2) 学会発表の成否のポイント</p>	共著	平成 27 年 7 月	メディカ出版の第 105 回看護師国家試験対策テスト	<p>①第 105 回看護師国家試験対策テスト第 3 回 (2015 年 11 月) 小児看護学分野の全問題 19 問の監修を行い、一部は解説した。</p> <p>②安酸史子, 飯野英親, 北川明ら他 24 名</p> <p>③本人担当部分：原稿執筆と小児看護学分野の全問題の監修</p>
	単著	平成 27 年 10 月	福岡県看護協会ニュース, 2015 年 10 月 31 日秋号, Vol.111, p.5	①福岡県看護協会と日本看護協会の共同開催で行われた第 46 回日本看護学会 看護管理 学術集会以抄録選考委員会, 委員長を務めた。その委員長の視

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3) 第106回看護師国家試験対策テスト第1回(2016年4月)小児看護学分野の全問題19問の監修	共著	平成28年4月	メディカ出版の第106回看護師国家試験対策テスト	<p>点で、抄録選考過程、研究成果発表過程を通して、学術集会で発表するための残された課題について解説した。</p> <p>②飯野英親， ③本人担当部分：全体の執筆</p> <p>①第106回看護師国家試験対策テスト第1回(2016年4月)小児看護学分野の全問題19問の監修を行い、一部は解説した。</p> <p>②安酸史子，<u>飯野英親</u>，北川明ら他24名 ③本人担当部分：原稿執筆と小児看護学分野の全問題の監修</p>
<p>(学会発表)</p> <p>1) ラテックスアレルギー予防目的で行う看護学生への2回の手袋使用テストの有用性，</p> <p>2) Caring Ability Inventory 日本語版の信頼性・妥当性の検証</p>	共著	平成27年8月	日本看護学教育学会第25回学術集会講演集 p.165	<p>①基礎看護教育の中でできるラテックスアレルギー(LA)を予防するためのスクリーニング法として、これまでの質問紙と使用テスト(1回)の併用を検討し、使用テストを2回試みてその評価を行い、まとめた。</p> <p>②共同発表者名 <u>梶原江美</u>、<u>飯野英親</u>、<u>本田輝子</u>、<u>小野聡子</u>、<u>末光順子</u>、<u>岩本テルヨ</u>、<u>小田日出子</u>、<u>浅野嘉延</u></p> <p>③結果と考察の検討，ポスターの指導</p> <p>①Caring Ability Inventory(CAI)の日本語版を作成し、その信頼性・妥当性を検証した。CAIは、1990年に米国の看護師を対象にNkonghoによって開発され、37項目から成る。信頼性・妥当性は得られており、「知ること」、「勇気」、「忍耐」というケアリングの要素を測定できるものである。有効回答は384部で、回転前の3因子の因子寄与率は31.5%だった。尺度全</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3) .基礎看護学実習における臨床実習指導体制の実態	共著	平成 27 年 8 月	日本看護学教育学会 第 25 回学術集会講演集 p. 215	<p>体のα係数は、0.801、各下位尺度は、「知ること」0.789、「勇気」0.716、「忍耐」0.182で、「知ること」、「忍耐」については、原版の3下位尺度が混在していた。本結果から尺度全体の信頼性は確保されたが、因子構造の見直し等課題が残った。</p> <p>②小野聡子、<u>飯野英親</u>、梶原江美、本田輝子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③結果と考察の検討，ポスターの指導</p> <p>①基礎看護学実習指導体制の実態を明らかにすることを目的に、福岡・山口県内で200床以上を有する202病院の看護部教育担当責任者を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。その結果、実習指導の現状は実習指導者が指導と業務を兼担する病院が57.4%にのぼり、実習期間中1人の実習指導者が継続して指導する病院は10.3%のみだった。この状況は、学生の日々の気づきや看護学生としての成長を捉える上での継続的で十分な指導ができる環境とは言い難く、教員との十分に連携をとる必要性が示唆された。</p> <p>②共同発表者：本田輝子、梶原江美、<u>飯野英親</u>、小野聡子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③考察の検討，ポスターの指導</p>
4) 看護学生が持つ「看護管理」と「看護マネジメント」に対するイメージ（第1報）-SD法を用いたイメージ分析-	共著	平成 27 年 9 月	第 46 回日本看護学会看護管理学会抄録集, p. 268	<p>①対象の基本属性は、平均年齢19.8±1.1歳で、すべて女性だった。250名から回答が得られ（回収率90.5%），有効回答数は248名（99%）だった。「看護管理」の用語に対するイメージでは5因子が抽出された。第1因</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>5) 看護学生が持つ「看護管理」と「看護マネジメント」に対するイメージ(第2報) -テキストマイニング手法を用いたイメージの可視化-</p>	<p>共著</p>	<p>平成 27 年 9 月</p>	<p>第 46 回日本看護学会看護管理学会抄録集, p. 269</p>	<p>子は「難しい-簡単な」などのわかりやすさを意味し、【判然性】とした。第2因子は「うれしい-悲しい」などの感情を意味し【感情】とした。第3因子は「楽しい-苦しい」などから【楽観性】とし、第4因子は「調和した-バラバラな」などから【漠然さ】とし、第5因子は「活動的-落ち着いている」などから【落ち着き】とした。累積寄与率は63.8%だった。一方、「看護マネジメント」の用語に対するイメージでは3因子が抽出された。第1因子は「受け入れやすい-受け入れにくい」「柔らかい-固い」「温かい-冷たい」などから【拒絶性】とした。第2因子は「理解しやすい-理解しにくい」などから【漠然性】とし、第3因子は「活動的-落ち着いている」などから【落ち着き】とした。累積寄与率は69.1%だった。</p> <p>②共同発表者：飯野英親，大塚和良</p> <p>③本人担当部分：データ収集・分析，研究統括</p> <p>①123名の回答が得られ、「看護管理」では195、「看護マネジメント」では200の計395のレコードが収集された。一つの回答には1ないし2つのレコードが含まれていた。これらのレコードから550のキーワードを抽出し，言語的特徴と意味及び感性情報から157のカテゴリに分類した。</p> <p>出現頻度の高い上位5位のカテゴリは、「看護管理」では“管理”，“役割”，“看護”，“まとめる”，“看護師”であり，「看護マネジメント」では，“看護”，“マネジメント”，“<良い> (感性情報)”，“管理”，</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
6) 看護師のラテックスアレルギー罹患率と知識との関連	共著	平成 27 年 9 月	第 46 回日本看護学会看護管理学会抄録集, p.346	<p>“協働” , “支援” , “行う” , “ケア” , “イメージ” であった。</p> <p>独立性の検定では, “まとめる” , “役割” , “厳しい” , “マネジメント” , “協働” で「看護管理」と「看護マネジメント」において, 有意に偏りが見られた ($p < 0.05$) . さらに, カテゴリが同時に出現する共起関係の傾向を, 共起回数2回以上を条件としてネットワーク分析を行ったところ, 「看護管理」では, “まとめる” と “役割” が中心となるネットワークが形成され, 「看護マネジメント」では, “協働” と “支援” の関係性が見られた。</p> <p>②共著者名: 大塚和良, 飯野英親</p> <p>③本人担当部分: データ収集・分析, 研究統括</p> <p>①看護師のラテックスアレルギー (LA) 罹患率と知識状況について、無記名による自記式質問紙調査を実施した。返信あった759名中無回答を除く749名を分析対象とした。対象の中でLAの既往を持つ看護師は28名 (3.7%) で、その内、ラテックス製手袋使用者は13/28名 (46.4%) だった。LAの知識について、知っていると答えた545/749名中、発症の仕組み (29.4%) や呼吸器曝露 (20.7%) の可能性について知っているものは少なかった。LA既往の有無別にカイ二乗検定を行ったが、有意差は認められなかった。このことから、LAの既往を持つ・持たないにかかわらず、LAの知識が低く教育の必要性が示唆された。</p> <p>②共同発表者: 梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
7) 看護師のケアリング能力と他者との関わりに関する経験との関連	共著	平成 27 年 9 月	第 46 回日本看護学会看護管理学会抄録集, p.500	<p>、末光順子、岩本テルヨ</p> <p>③考察の検討, ポスターの指導</p> <p>①Caring Ability Inventory (CAI) 日本語版を使用して、看護師のケアリング能力と関連要因を明らかにし、ケアリング教育に関する課題について検討した。対象は、中国・九州地方の9病院に所属する看護師635名に無記名式自記式質問紙調査を実施した。分析方法は、日本語版質問紙によって得られた尺度全体のケアリング得点と対象者の他者との関わりに関する経験の有無およびそれに関する認識との関連をMann-WhitneyのU検定により検討した。その結果、CAI得点と他者との関わりに関する項目の差の検定において、有意差を認めたのはパートナーとの同居経験 (P=0.028) と現在の家族関係に対する認識 (P=0.002)、管理職であること (P=0.000) だった。過去の体験よりも現在どのような体験をしているかがケアリング能力に影響しやすい可能性が示唆された。</p> <p>②共同発表者：小野聡子、梶原江美、飯野英親、本田輝子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③結果の解釈, 考察の検討, ポスターの指導</p>
8) Knowledge about latex allergy and the sources of knowledge in Japanese nurses.	共著	平成 28 年 3 月	Proceedings of 19th EAFONS East Asian Forum Of Nursing Scholars (Chiba, Japan), Abstract Book Poster Presentation p.531	①看護基礎教育でのラテックスアレルギー (LA) の予防教育プログラムを検討するために日本人看護師のLAについての知識の獲得状況と知識の入手先について調査し、整理した。その結果、症状、対処策、予防策、呼吸器系曝露、長期曝露と発症の関係、ラテックス含有製

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				<p>品との区別、ラテックス含有表示に関するメーカーの表示義務、ラテックス関連フルーツ症候群の9項目全ての知識を持つ者は5% (27/545) だけで、すべて手術室看護師だった。この5%の手術室看護師の知識源の多くは、部署内の勉強会 (74.1%)、専門書 (59.3%)、学術集会 (44.4%)、院内研修 (37%) などの複数の機会を通じて知識を得ていたが、学部教育で習った人はいなかった。今後も学術集会などを通じて啓蒙活動を継続して行っていく他、学生時代にLAについて学ぶ機会を取り入れていくことも予防の一手段となりえるといえる。</p> <p>②共同発表者：Emi Kajiwara、<u>Hidechika Iino</u>、Teruko Honda、Satoko Ono、Junko Suemitsu、Teruyo Iwamoto</p> <p>③結果の解釈、考察の検討、Abstractとポスターの指導</p> <p>教育研究業績 総数 (2016.3. 現在)</p> <p>著書 9 (内訳 単 0, 共 9)</p> <p>学術論文 165 (内訳 単18, 共 147)</p> <p>翻訳 4 (内訳 単 0, 共 4)</p> <p>その他 (雑報) 55</p> <p>学会発表 199 (内訳 単 2, 共 197)</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
ブラダーウィリー症候群をもつ人に対するトランジション・ケアプログラムの開発	科学研究費 基盤研究(C)	○飯野英親, 原山裕子, 小野淳二	900,000円
病院の医療安全管理に関する品質コストと医療サービスの品質との関連性に関する実証研究（平成28年3月まで）	西南女学院大学共同研究費	○飯野英親, 中田範夫, 武田康男	622,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・文部科学省高等教育局医学教育課 GP「課題解決型高度医療人材養成プログラム」	書面審査委員 (ペーパーレフリー)	2014年6月～2015年3月
・日本遺伝看護学会誌への投稿論文の 査読	査読員	2015年
・雑誌「小児看護」へるす出版	査読責任者	2005年～現在に至る
・九州大学大学院医学研究院保健学部 門看護学分野 博士後期課程（科目 名：健康支援ケアシステム論Ⅱ）	非常勤講師	2012年～現在に至る
・山口県立大学看護栄養学部 (科目名「小児看護学」の集中講義)	非常勤講師	2009年～現在に至る
・福岡県新人看護職員研修推進協議会	委員（看護系大学代表）	2014年10月～2015年3月
・山口県下関市民病院 運営外部評価 委員会	委員	2012年7月～現在に至る
・第46回（平成27年）日本看護学会 看護管理 学会準備委員会	委員	2014年5月～2015年9月
・第46回（平成27年）日本看護学会 看護管理 抄録選考委員会	委員長	2014年5月～2015年9月
・山口県看護協会 認定看護管理者教 育課程ファーストレベル 「レポート の書き方・まとめ方・文献検討」	講師	2005年～2014年12月まで

<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル「看護に生かす情報管理」 ・山口県立大学 認定看護師教育課程（感染看護）非常勤講師 「レポートの書き方・まとめ方」 ・山口県テニス協会 医科学委員会 ・九州・山口プラダダー・ウィリー症候群親の会 	<p>講師</p> <p>非常勤講師</p> <p>委員 世話人代表</p>	<p>2014年～現在に至る</p> <p>2014年8月1日～2015年2月28日 3時間講義×1回</p> <p>1997年～現在に至る 2009年～現在に至る</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

- ・保健福祉学部看護学科 入試委員 平成25年4月～現在に至る
- ・保健福祉学部看護学科 実習コーディネーター 平成24年4月～平成26年3月まで
- ・西南女学院大学認定看護管理者研修ファーストレベル教育委員会委員，セカンドレベル教育委員会委員
平成21年4月1日～現在に至る
- ・西南女学院大学認定看護管理者研修ファーストレベルの講師（3コマ） 平成21年～現在に至る
- ・西南女学院大学認定看護管理者研修セカンドレベルの講師（6コマ） 平成21年～現在に至る
- ・日本看護協会 認定看護師教育「集中ケア」（西南女学院大学保健福祉学部）での「看護管理」（2コマ）と「リーダーシップ」の講義（5コマ） 平成22年～平成26年3月まで
- ・教員免許状更新講習会（西南女学院大学保健福祉学部）での講義（2コマ） 平成22年～現在に至る

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	岩本 テルヨ	職名	教授	学位	修士((看護学)、北里大学 1995) 博士((医学)、山口大学、2004)
----	--------	----	----	----	-------------------------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
基礎看護学、医療・看護倫理、看護教育、訪問看護 終末期ケア	看護専門職性、看護の本質、医療・看護倫理、看護教育、訪問看護、終末期ケア

研究課題
臨地実習病院における教育環境の実態調査 Caring Ability Inventory 日本語版の作成と信頼性の検証 看護におけるラテックスアレルギーの実態と予防

担当授業科目
看護学概論(前期) 看護過程論(前期) 看護理論(後期) 基礎看護学実習Ⅰ(後期) 看護倫理(後期) 基礎看護学実習Ⅱ(前期) 生活援助技術論(後期) 看護総合演習(前期) ヘルスアセスメント(後期) 看護総合実習(前期) 看護技術論(前期) 総合人間学概論(前期) 診療関連技術論(前期) 総合看護学(前期)(助産別科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【看護学概論】</p> <p>新入生にとって初めての専門科目であるため、興味関心を持ってもらう目的で授業内容に係るテーマで授業の初めにグループ発表(p.p.使用)を行い(第1回の講義オリエンテーション時にテーマ・グループ等を指定)、意見交換後講義に入っている。同じテーマのレポートを全員に課し、グループの発表内容に関心をもてるようにした。回を追うごとに発表のppは上達を見せている。また、看護の歴史には写真等の視覚に訴えると関心が高まると考え、DVD教材を使用した。</p>
<p>授業科目名【看護倫理】</p> <p>倫理に係る講義だけでは倫理的課題に対し、関心を持ち考えることが難しいため、まず簡単な事案についてグループで意見交換させた。次の授業で事例を提示しグループで意見交換し、全グループ発表させた。学生たちは他のグループ発表を聞くことで様々な考え方があることに気づき、視野が広がったという反応であった。さらに次の授業で事例を提示しグループで意見交換後、各人で考えをまとめる時間をとった(レポート作成)。</p>
<p>授業科目名【看護理論】</p> <p>1理論家1コマとし、まとめとしてDVDを使用しているが、今年度は特に理論の理解を高めるために実践における理論の応用に、昨年よりも大目に時間をとった。各理論ごとに事例を提示し、理論を看護実践の場で活用するための枠組み(プリント)に記入させ、発表させた。実際に考えてみることで各理論家の特性がつかめる機会となり、学生たちが考える機会となった。</p>

<p>授業科目名【看護総合演習】</p> <p>看護技術のまとめを1・2年次の診療関連技術・看護技術論・生活援助技術論において、1・2年生へのピアサポートという形で行った。学生たちは下級生への指導の責任から練習も進んでいき、自分の技術の振り返りができた。看護総合実習に向けての実習計画書については、なかなか目的が絞れなかったため、互いに自分たちのやりたいことを話し合わせ、さらに図書館での文献検索、読み込みを経て、自分の目標を徐々に見出していく方向をとった。</p>
<p>授業科目名【看護総合実習】</p> <p>実習計画書において自分自身の実習目標、実習記録用紙、実習評価表を作成させることで、看護総合実習の目的目標を明確にして実習に臨ませた。主体的に実習を進めざるを得ない環境の中で自分がどうであったのかを特に今回の学生にはわからせたく、実習指導者の評価及び評価表へのコメントを学生に見せることで今後の課題を考えさせた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護研究学会	評議員 (2012~2016) 査読委員 (2012~2016)	1993~現在に至る
日本看護科学学会		1993~現在に至る
日本死の臨床研究会		1997~現在に至る
日本生命倫理学会		1998~現在に至る
日本公衆衛生学会	評議員 (2005-2008)	1999~現在に至る
日本医学哲学・倫理学会		2000~現在に至る
日本看護学教育学会	評議員 (2012~2016)、専任査読委員 (2015-2018)	2002~現在に至る
STTI	第26回学術集会査読委員 (2016年3月)	2008~現在に至る
日本看護倫理学会	評議員 (2015-2018)	2008~現在に至る
日本看護技術学会		2012~現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1.基礎看護学テキスト改訂第2版 EBN 志向の看護実践	共	2015.1.15	南江堂	①科学的根拠に重点をおいて執筆された基礎看護学のテキストであり、看護基礎技術全般を網羅した内容である。 ②編者：深井喜代子、前田ひとみ 共著者名：深井喜代子、前田ひとみ、宮脇美保子、山口三重子、岩本テルヨ他 ③担当部分Ⅷ章診療の補助診療の補助2注射 (p.216-217) Ⅴ章日常生活の援助2生理的ニードを補充する、2-4 清潔を保つ (P.365-390)、重要用語：口腔内自浄作用 p.463

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. 基礎看護学実習における臨地実習環境の実態 (査読付き)	共	2016.2	西南女学院大学紀要 Vol. 20	① 1～2年次に学修する基礎看護学実習は、学生が初めて経験する臨床現場での学習機会であるため、実習環境は、学生の学習効果に大きく影響する。効果的に学修する実習環境を検討するために、基礎看護学実習を受け入れている200床以上の病院の看護部教育担当責任者に質問紙調査を実施した。81病院から回答の得た結果、実習指導の現状として、臨床実習指導者が学生への指導と業務を兼担する病院が半数以上(57.4%)にのぼり、教員と十分に連携を取っていく必要性を再認識した。 ② 共著者名 本田輝子、梶原江美、小野聡子、末光順子、飯野英親、小田日出子、岩本テルヨ ③ P.1-8
2. 看護師のラテックスアレルギー罹患率と知識との関連 (査読付き)	共		第46回日本看護学会 論文集 看護管理	① 看護基礎教育でのラテックスアレルギー(LA)予防教育を考える上で、臨床現場で働く看護師のLA既往者とLA知識の獲得状況を把握するために質問紙調査を実施した。その結果、自己申告によるLA既往率は3.7%と先行研究と類似の結果だった。またLA既往に関わらず、LAに関する獲得知識は症状のみ知っていることが多く、学部でのLA教育だけでなく臨床現場での教育の必要性が示唆された。 ② 共著者名 梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ ③ 印刷中

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. ラテックスアレルギー予防目的で行う看護学生への2回の手袋使用テストの有用性	共	2015.8	日本看護学教育学会第25回学術集会 (於：徳島 アスティとくしま)	①基礎看護教育の中でできるラテックスアレルギー (LA) を予防するためのスクリーニング法として、これまでの質問紙と使用テスト (1回) の併用を検討し、使用テストを2回試みてその評価を行い、まとめた。 ②共同発表者名 梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ、小田日出子、浅野嘉延 ③日本看護学教育学会第25回学術集会講演集 P. 165
2. Caring Ability Inventory 日本語版の信頼性・妥当性の検証	共	2015.8	日本看護学教育学会第25回学術集会 (於：徳島 アスティとくしま)	①Caring Ability Inventory (CAI) の日本語版を作成し、その信頼性・妥当性を検証した。CAIは、1990年に米国の看護師を対象にNkonghoによって開発され、37項目から成る。信頼性・妥当性は得られており、「知ること」、「勇気」、「忍耐」というケアリングの要素を測定できるものである。有効回答は384部で、回転前の3因子の因子寄与率は31.5%だった。尺度全体の α 係数は、0.801、各下位尺度は、「知ること」0.789、「勇気」0.716、「忍耐」0.182で、「知ること」、「忍耐」については、原版の3下位尺度が混在していた。本結果から尺度全体の信頼性は確保されたが、因子構造の見直し等課題が残った。 ②小野聡子、飯野英親、梶原江美、本田輝子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ ③日本看護学教育学会第25回学術集会講演集 P. 230

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3.基礎看護学実習における臨床実習指導体制の実態	共	2015.8	日本看護学教育学会第25回学術集会 (於：徳島 アスティとくしま)	<p>①基礎看護学実習指導体制の実態を明らかにすることを目的に、福岡・山口県内で200床以上を有する202病院の看護部教育担当責任者を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。その結果、実習指導の現状は実習指導者が指導と業務を兼担する病院が57.4%にのぼり、実習期間中1人の実習指導者が継続して指導する病院は10.3%のみだった。この状況は、学生の日々の気づきや看護学生としての成長を捉える上での継続的で十分な指導ができる環境とは言い難く、教員との十分に連携をとる必要性が示唆された。</p> <p>②共同発表者：本田輝子、梶原江美、飯野英親、小野聡子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③日本看護学教育学会第25回学術集会講演集 P.215</p>
4.看護師のラテックスアレルギー罹患率と知識との関連	共	2015.9	第46回日本看護学会—看護管理—学術集会 (於：福岡国際会議場・福岡サンパレス)	<p>看護師のラテックスアレルギー（LA）罹患率と知識状況について、無記名による自記式質問紙調査を実施した。返信あった759名中無回答を除く749名を分析対象とした。対象の中でLAの既往を持つ看護師は28名（3.7%）で、その内、ラテックス製手袋使用者は13/28名（46.4%）だった。LAの知識について、知っていると答えた545/749名中、発症の仕組み（29.4%）や呼吸器曝露（20.7%）の可能性について知っているものは少なかった。LA既往の有無別にカイ二乗検定を行ったが、有意差は認められなかった。このことから、LAの既往を持つ・持たないにかかわらず、LAの知識が低く教育の必</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5.看護師のケアリング能力と他者との関わりに関する経験との関連	共	2015.9	第46回日本看護学会～看護管理～学術集会 (於：福岡国際会議場・福岡サンパレス)	<p>要性が示唆された。</p> <p>②共同発表者：梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ</p> <p>③第46回日本看護学会－看護管理－学術集会抄録集 P. 346</p> <p>①看護基礎教育でのラテックスアレルギー（LA）の予防教育プログラムを検討するために日本人看護師のLAについての知識の獲得状況と知識の入手先について調査し、整理した。その結果、症状、対処策、予防策、呼吸器系曝露、長期曝露と発症の関係、ラテックス含有製品との区別、ラテックス含有表示に関するメーカーの表示義務、ラテックス関連フルーツ症候群の9項目全ての知識を持つ者は5%（27/545）だけで、すべて手術室看護師だった。この5%の手術室看護師の知識源の多くは、部署内の勉強会（74.1%）、専門書（59.3%）、学術集会（44.4%）、院内研修（37%）などの複数の機会を通じて知識を得ていたが、学部教育で習った人はいなかった。今後も学術集会などを通じて啓蒙活動を継続して行っていく他、学生時代にLAについて学ぶ機会を取り入れていくことも予防の一手段となりえるといえる。</p> <p>②共同発表者：Emi Kajiwara、Hidechika Iino、Teruko Honda、Satoko Ono、Junko Suemitsu、Teruyo Iwamoto</p> <p>③Abstract Book Poster Presentation P. 531</p>
6 .Knowledge about latex allergy and the sources of knowledge in Japanese nurses.	共	2016.3	19th EAFONS East Asian Forum Of Nursing Scholars (Chiba, Japan)	①看護基礎教育でのラテックスアレルギー（LA）の予防教育プログラムを検討するために日本人看護師のLAについての

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				<p>知識の獲得状況と知識の入手先について調査し、整理した。その結果、症状、対処策、予防策、呼吸器系曝露、長期曝露と発症の関係、ラテックス含有製品との区別、ラテックス含有表示に関するメーカーの表示義務、ラテックス関連フルーツ症候群の9項目全ての知識を持つ者は5% (27/545) だけで、すべて手術室看護師だった。この5%の手術室看護師の知識源の多くは、部署内の勉強会 (74.1%)、専門書 (59.3%)、学術集会 (44.4%)、院内研修 (37%) などの複数の機会を通じて知識を得ていたが、学部教育で習った人はいなかった。今後も学術集会などを通じて啓蒙活動を継続して行っていく他、学生時代にLAIについて学ぶ機会を取り入れていくことも予防の一手段となりえるといえる。</p> <p>②共同発表者：Emi Kajiwara、Hidechika Iino、Teruko Honda、Satoko Ono、Junko Suemitsu、Teruyo Iwamoto</p> <p>③Abstract Book Poster Presentation P. 531</p>
				<p>教育研究業績 総数 (2016.3現在)</p> <p>著書 6 (内訳 単 0 共 6)</p> <p>学術論文59 (内訳 単12 共47)</p> <p>翻訳 1 (内訳 単 0 共 1)</p> <p>学会発表 89 (内訳 単 6 共83)</p>

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位：円)

--	--	--	--

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・山口県立大学看護研修センター感染管理認定看護師教育課程(看護実践と倫理)	講師	2015年9月29日～30日
・JCHO九州病院看護師研修(看護倫理)	講師	2015年12月11日、2016年1月19日
・西南女学院大学認定看護師(集中ケア)教育課程(看護倫理)	兼任	2015年6月9日
・西南女学院大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル(看護専門職論)	兼任	2015年8月1日
・済生会下関総合病院(看護倫理)	講師	2016年2月5日
・日本看護学会(看護管理)第46回学術集会発表抄録査読	査読委員	2015年4月～6月
・日本看護学教育学会第25回学術集会発表抄録査読	査読委員	2016年3月の予定
・日本看護研究学会学術集会発表抄録査読	査読委員	2016年3月の予定

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
看護学科長 入試委員 看護キャリア支援センター長 ・認定看護師教育課程教育委員会委員長 ・認定看護師教育課程入試委員会委員長 ・認定看護管理者教育課程教育運営会議委員長

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 布花原 明子	職名 准教授	学位 看護学(修士)
-----------	--------	------------

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学教育・学習方法(保健師学生のキャリア教育) 初年次教育 住民組織活動

研究課題
学生と卒業生保健師のネットワーク形成によるキャリア支援に関する研究 初年次教育の効果的な教育方法に関する研究 住民主体の地域保健福祉活動に関する研究 地域母子保健に関する子育て支援ニーズに関する研究

担当授業科目
<1年次> 基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ <2年次> 保健福祉行政論 公衆衛生看護技術論 <3年次> 地区活動論 <4年次> 地区活動論演習 看護総合演習 公衆衛生看護学実習 看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】 基礎学習ゼミⅠでは、前年度に引き続き、初年次教育にアクティブラーニングと学修ポートフォリオを導入した授業を展開し、新入生の学修スキルの修得とともに、主体的な学修態度の変容に重点をおいてゼミ学生への指導を実施した。 また、個々の学生の学修・生活支援として、個別相談を随時実施した。基礎ゼミⅡでは、ディベートを通して学生の論理的思考やプレゼンテーション力の修得を目的に、小グループでの学習に対する指導を行った。学生の発想や意見を尊重し、彼女らが論理を構成する思考過程を重要視して指導するとともに、できるだけ学生間で協力し合えるよう配慮した。
授業科目名【保健福祉行政論】 当該科目のうち3回を担当した。前年度に学生に好反応であった保健師活動DVDを活用し、保健医療福祉制度が看護を行うために重要な法的基盤であることを認識させるよう工夫した。健康政策等、法律や制度に苦手意識をもつ学生は少なくない。次年度は、参考図書の厳選を行い、若い世代にも読まれている文献の紹介等もさらに増やしていきたい。

授業科目名【公衆衛生看護技術論演習】

2015年度の新設開講科目（保健師課程必修科目）である。

2年生後期の公衆衛生看護技術論で履修した保健師の基本的な看護技術の中から、実習で体験必須項目となっている家庭訪問と健康教育の技術演習を行った。新生児家庭訪問事例では、スマホ世代の学生の特性をふまえ、実習環境に沿った電話での家庭訪問予約の演習も取り入れ、事例把握から訪問計画立案、予約、実施、評価のプロセスを展開した。また、健康教育では事前に教員が実習施設とテーマ調整を行い、できるだけ現場に近い健康教育の計画立案ができるよう配慮した。

授業科目名【地区活動論演習】

2015年度の新設開講科目（保健師課程必修科目）である。実習地域を対象として、地域診断演習を行った。そのため、6施設にわたる実習地域ごとに地域診断演習を進める方法を取り、最後に多施設との合同で地域診断発表と意見交換を実施した。

学生は、保健医療統計データをはじめとする地域診断に必要な情報収集の段階から苦慮し、膨大な情報量の中からの抽出作業に想定以上に時間を要していた。今後は、情報収集の優先度を判断する力を強化できるような教員側からの発問が課題である。また、情報の整理及びアセスメントでは、学生間の意見交換の時間を増やし、学生が答えを導き出すような指導の方法を工夫したい。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994年4月～現在に至る
日本看護科学学会	〃	2001年3月～ 〃
日本地域看護学会	〃	2001年4月～ 〃
日本看護教育学学会	〃	2003年4月～ 〃

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. 乳児家庭全戸訪問事業に携わる主任児童委員の事業に対する必要性の認識	共著	2015年11月	日本公衆衛生雑誌 62(11),p.672-683,2015	①北九州市の乳児家庭全戸訪問事業では、主任児童委員を訪問者として登用している。本研究では、当事業に対する主任児童委員の認識に焦点をあて、事業への理解や子育て支援の拡充に関する今後の支援課題について考察した。 ②佐藤優, 布花原明子 ③質的研究部担当, その他は共同研究につき, 本人担当部分抽出不可能
(翻訳)				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(学会発表)</p> <p>1. アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価 —主観・客観評価の両面からみた情意領域（関心・意欲・態度）への教育効果—</p>	共	2015. 8	<p>第46回日本看護学会（於 奈良県文化会館） 日本看護学会集録（看護教育）（P162）</p>	<p>①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅠ」でスタディスキル・アカデミックスキルの修得・育成を目標に取り組んだアクティブラーニングと振り返りポートフォリオの教育効果について、情意領域（関心・意欲・態度）の観点から、主観・客観両面での評価を報告した。 ②共同発表者 布花原明子・塩田昇・村山由起子・小田日出子・石井美紀代・一期崎直美・小野正子・鹿毛美香・松尾綾・吉原悦子 ③本文作成担当</p>
<p>2. アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価 —主観評価と客観評価の比較からみえた情意領域（関心・意欲・態度）育成への課題—</p>	共	2015. 8	<p>第46回日本看護学会（於 奈良県文化会館） 日本看護学会集録（看護教育）（P163）</p>	<p>①アクティブラーニングと振り返りポートフォリオの教育評価について、情意領域（関心・意欲・態度）の客観評価であるPF文字記載量と主観評価の差を比較検討して報告した。 ②共同発表者 塩田昇・布花原明子・村山由起子・小田日出子・石井美紀代・一期崎直美・小野正子・鹿毛美香・松尾綾・吉原悦子 ③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能</p>
<p>3. ディベートを活用した初年次教育の試み—看護大学生のクリティカルシンキング志向性に着目して—</p>	共	2015. 8	<p>第46回日本看護学会（於 奈良県文化会館） 日本看護学会集録（看護教育）（P164）</p>	<p>①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのディベートの活用について、看護学生を対象に質問紙調査を実施した。発表では、特に、ディベート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目して分析した結果を中心に報告した。 ②一期崎直美，石井美紀代，吉原悦子，小野正子，布花原明子，村山由起子，鹿毛美香，塩田昇，松尾綾，小田日出子 ③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能</p>

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
学生と卒業生保健師のネットワーク形成によるキャリア支援に関する研究	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○布花原明子、鹿毛美香、佐藤優、伊藤直子、（平島美也子）、（亟々美香）	218,800

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009年4月～現在に至る
北九州市介護サービス第三者評価機関（社会法人 福岡県社会福祉士会）	事業評価者	2009年4月～現在に至る
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	2012年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<p>1. 学生募集委員会</p> <p>1) 学生募集活動として、地方会場（宮崎）の入試説明会に出席した。</p> <p>2) 看護学科オープンキャンパスの企画及び当日の運営を行った。</p> <p>3) 高校模擬授業（福岡県公立古賀竟成館高校・福岡県立小倉商業高校・山口県立豊浦高校）を実施した。</p> <p>4) 学生募集に係る本学のPR（パンフレット等）を入試課と協働して作成した。</p>

2. 教育の質保証プロジェクト（教育課程の体系化チーム）

- 1) 2015年度シラバス運用時期に合わせ、全学科で、DPと授業科目の到達目標との整合性の再検証を実施した。
- 2) カリキュラムツリー検証結果及びカリキュラムマップ・ツリー作成過程を総括し、全学的に教育課程の体系化を確立する上での問題点を明示した。
- 3) 学生の履修指導の充実を目的に、各学科でのカリキュラムマップ・ツリーの活用状況を集約し、今後の課題を検討した。
- 4) アンケート調査を実施し、全学科の結果及び今度の課題を整理して報告(3月予定である)。

3. 国家試験対策委員

2015年度は、保健師課程履修者を対象とした初の国家試験対策であった。また、旧カリ（看護師・保健師統合カリキュラム）の留年生8名の受験対策も行った。公衆衛生看護学実習終了後から、保健師国試業者模試の実施、結果分析に基づく強化補講対策を講じ実施した。また、看護師国家試験対策では、看護師課程の強化クラスの学生の個別指導を実施した。

4. 2年生アドバイザーリーダー

正規授業外活動として、2年生アドバイザー活動計画を社会人基礎力育成の観点から立案し、以下の通り年間を通じて学生の学修及び生活支援を行った。

- 1) 前期試験対策に向けた学生のグループディスカッションの実施（7月）
- 2) 低学年実力試験の実施、その後の問題解説のノートづくり指導（10月～11月）
- 3) 1年生との交流会について、2年生を主体にした企画、運用の実施（6月・2月）
- 4) 保護者懇談会の企画・運営（10月）

他、随時、アドバイザー学生との個別相談対応を行った。

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	村山由起子	職名	准教授	学位	修士(法学)(九州国際大学 2002年)
----	-------	----	-----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
法哲学、急性期成人看護学、看護教育	周手術期看護、自己決定権、看護診断

研究課題
急性期看護、特に周手術期看護の探求と看護実践能力の育成、急性期看護における看護診断の特徴と有用性、急性期看護における技術演習が臨地実習に及ぼす効果の検証、周手術期看護における患者の自己決定権の認容度

担当授業科目	
救急・クリティカルケア看護学 成人急性期看護方法論 看護総合演習 成人・老年看護学演習	救急・クリティカルケア看護学演習 成人急性期看護学実習 看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 救急・クリティカルケア看護学 】</p> <p>本科目は、必修科目として3年の前期に開講される。授業概要としては、生命危機の状態にある人間の反応、心身の回復過程、医学的介入や治療処置の過程、生命危機の状態にある患者の生命を守り生活を支えるための援助方法について学習する。具体的には、生命危機の状態にある患者及び家族について、①クリティカルケア看護の概念、②主要病態とアセスメント・ケア、③看護技術、④実践を支える枠組み(倫理性とチーム医療)等を教授する。</p> <p>今年度は、4名の教員で分割し、①クリティカルケア看護の概念と④実践を支える枠組み(倫理性とチーム医療)を担当した。救急看護・クリティカルケア看護が提供される場・対象・専門性と役割について、その特性・特徴を講義した。さらに、救急看護・クリティカルケア看護で求められる高い倫理性について、脳死と臓器移植・リビングウィルとDNAR、患者の権利とアドボカシー、インフォームドコンセント等の理論的背景を講義し、急性心筋梗塞の事例を課題として、学生が主体的に倫理的問題や倫理的価値について思考できる講義展開を試みた。その結果、看護職として守るべき倫理的価値・とるべき行動に対する私見を学生自身の言葉で述べることができた。また、救急看護・クリティカルケア看護におけるチーム医療の意義について理解が深まった。</p>
<p>授業科目名【 救急・クリティカルケア看護学演習 】</p> <p>本科目は、選択科目として4年生の後期に開講される。本科目では、救急・クリティカルケア看護を必要とする患者の「いのちを守るために必要な援助方法」を学ぶことを目的として、学内での演習を中心に展開した。</p> <p>3年前期の救急・クリティカルケア看護学の講義内容や4年前期までの実習を踏まえて、できるだけ臨地の場面を想定したうえでの演習内容を計画・実践した。救急・クリティカルケア看護学演習のガイダンスを基に、事例による課題から鎮痛・疼痛管理について危機理論や危機介入に関するグループワークを実施した。その結果、これまでの実習経験や文献学習を踏まえて、学生個々の考えや意見を引き出すことができた。さらに、生命の危機的状況にある患者の看護を理解・体験させるために、集中ケア認定看護師の協力のもと臨床現場を想定した環境づくりを行った。人工呼吸器装着中の看護、特に構造と機能、全身管理、合併症予防など、講義・実演・演習を実施した。その結果、学生から「分かりやすかった」「興味関心が高まった」などの評価を得ることができた。次年度に向けては、4年の後期の選択科目のため、学生が履修しやすいスケジュールの工夫や卒後に役立つ技術項目の精選をさらに思案していく必要がある。</p>

授業科目名【 成人急性期看護方法論 】

成人急性期看護方法論を2年生102名を対象に15回にわたって担当した。急性期と周手術期の概論を中心に教授した結果、急性期の概念と急性期の特徴的な理論を学生に理解させることができた。そのうえで、呼吸器・消化器・循環器・脳神経・性生殖器系の周手術期看護を教授した。看護を理解させるために、形態・機能、病態について小テストや自演学習課題を踏まえて振り返らせ、看護実践の根拠を明確にさせた。系統別の看護の領域が広範なため、どの単元もパワーポイントを作成し、視覚に訴える授業展開を試みた。また、配布プリント等の資料を充実させるとともに、わかりにくいところは実物等を利用して工夫した。特に、消化器・循環器については、急性期にある対象とその家族に対して、看護の視点を明確にさせるため、事例を用いてアセスメント、看護診断を抽出させ思考・判断を強化した結果、看護過程展開の能力を高めることができた。さらに、自己学習に発展できるように課題レポートの内容を吟味した結果、学生全員が課題に誠実に取り組み提出できた。今後は、学生のモチベーションを高めるために、授業中の設問やプレテストの回数を増やした結果、再試験の学生数の減少に繋がった。

授業科目名【 成人急性期看護学実習 】

成人急性期看護学実習は3年生の後期から4年生の6月まで継続的に実施される。3週間を1クールとして、その間学生は1~2人の患者を受持ち、看護過程を展開する。外科系の病棟実習に加えて、ICU、手術室、生命の危機的状況とその後の回復過程の理解を深めることを目標に実践される。急性期看護学実習は、主に周手術期の看護を実践していくため、患者の日々の展開が早く、技術の実践力・観察力が問われる。そのため、単位認定者として、助教および助手の指導、学生の個別指導を重点的に実施した。学生に対する心身両面のサポートと共に、知識及び技術面での指導を強化した結果、実習病院より高評価を得ることができた。個別指導、定期的な面接、病棟指導者・管理者との打ち合わせなど、できるだけ詳細に、かつ具体的に展開した結果、学生の達成感・充実感がるとの感想を得ることができた。また、急性期の講義を担当しており、実習指導を行うことで、講義の見直しや改善にも繋げることができた。

授業科目名【 看護総合演習 】

看護総合演習では、成人系の救急看護・クリティカルケア看護領域を担当し、6名の4年生を受け持った。看護総合演習に引き続き、看護総合実習が実施されるため、実習に連動できるように実習前準備及び実習後の振り返り学習により充実を図った。演習の目的としては、救急看護の概念及びクリティカルケア看護の概念の理解を踏まえ、生命の危機的状況にある患者とその家族への全人的ケアについて理解できるように指導した。具体的には、救急看護・クリティカルケア看護領域で、興味のある事柄や最新のケアに関して、理論や論文による文献検討を行い、看護を実践するための基盤づくりに力を注いだ。演習開始時に1時間程度の講義を実施し、学生の理解を深めるようにした。自ら決定したテーマについて、既存文献を熟読・検討を通して看護における課題を抽出し、ブレインストーミングした上で、論理的に思考を展開し、文章を整理させた。さらに、抽出した課題について目標を設定し、解決策を立案し、実習での実践に繋げさせた。そのうえで、明確にした目標と解決策を看護総合実習の中で具現化するための記録用紙を作成させた結果、救急・クリティカルケア看護の実践に活用できた。実習終了後には、各自のテーマに基づいてレポートを作成させ、ゼミの中で他者の看護について共有化することができた。

授業科目名【 看護総合実習 】

看護総合実習は、4年生最後の実習であり、4年間の達成度をみる集大成の実習として位置づけられている。救急・クリティカルケア看護学領域を急遽担当することになり、実習場所も変更されたことから、臨地の責任者と実習前の打ち合わせを入念に行った。実習開始以後は、学生自身が臨地の指導者とのミーティングやカンファレンスを通して実習内容を検討し、基本的に学生主体による実習展開ができるように調整した。その結果、学生が主体性を発揮しやすい環境づくりができ、救急外来、救急病棟、ICU、OP室でのチーム医療の理解に繋がった。また、救急・救命処置やリビングウィル、DNARなどについて、思考する機会を得ることができた。実習終了後に実施する成果発表会では、プレゼンテーション能力を養えるよう指導した。また、実習の評価面接では、リフレクションの時間を十分にとることで、学生個々に自分自身を見つめ直す機会を設け、専門職としての意識を再認識できるよう指導した。

授業科目名【 成人・老年看護学演習 】

今年度も看護過程の展開の演習では、急性期、特に周手術期の事例展開の責任者として、胃がんの事例について、講義を行った。事例のオリエンテーション、フォーカスアセスメント、看護問題の明確化・問題リスト、看護目標の設定と計画立案について、パワーポイントと配布資料を基に、分かりやすい講義になるように工夫

した。その結果、各グループのグループワークがスムーズに展開され、リーダーシップやメンバーシップの役割習得にも効果がみられた。事例については、内容の再検討、記録の改善を図り、学生が臨地においても活用できる記録用紙を作成した。看護技術の演習では、手術直後の観察とドレーン管理が、主たる担当のため、具体的な計画を立案し、学生に対して講義、演習を実施した。DVD や実演を取り入れて工夫したことから、学生が実習場面を想起でき、技術の実践力向上につながった。特に、臨地における実習を想定していることから、成人急性期看護学実習に効果的に繋げることができた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護診断学会		1994年4月～現在に至る
日本 POS 医療学会		1994年4月～現在に至る
日本生命倫理学会		2006年4月～現在に至る
日本歴史学会		2007年12月～現在に至る
日本笑い学会		2008年4月～現在に至る
日本看護科学学会		2008年10月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価 —主観・客観評価の両面からみた情意領域（関心・意欲・態度）への教育効果—	共	2015. 8	第46回日本看護学会 （於 奈良県文化会館）	①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅠ」でスタディスキル・アカデミックスキルの修得・育成を目標に取り組んだアクティブラーニング(以下AL)と振り返りポートフォリオ(以下PF)の教育効果について、情意領域（関心・意欲・態度）の観点から、主観・客観両面での評価を報告した。 ②共同発表者 布花原明子・塩田昇・村山由起子・小田日子・石井美紀代・一期崎直美・小野正子・鹿毛美香・松尾綾・吉原悦子 ③第46回 日本看護学会集録（看護教育）(P162)

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>2. アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価 —客観評価と主観評価の比較から見えた情意領域（関心・意欲・態度）育成への課題—</p>	共	2015. 8	46回日本看護学会（於 奈良県文化会館）	<p>①看護学科における「基礎学習ゼミⅠ」でのアクティブラーニング(以下AL)と振り返りポートフォリオ(以下PF)を組み合わせて取り入れた初年次教育の評価について、客観的・主観的指標を用いて分析した結果を明らかにし、今後の課題について報告した。</p> <p>②共同発表者 塩田昇, 布花原明子, 村山由起子, 小田日出子, 石井美紀代, 一期崎直美, 小野正子, 鹿毛美香, 松尾綾, 吉原悦子</p> <p>第46回 日本看護学会集録(看護教育) (P163)</p>
<p>3. ディベートを活用した初年次教育の試み —看護大学生のクリティカルシンキング志向性に着目して—</p>	共	2015. 8	第46回日本看護学会（於 奈良県文化会館）	<p>①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのディベートの活用について、看護学生を対象に質問紙調査を実施した。発表では、特に、ディベート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目して分析した結果を中心に報告した。</p> <p>②共同発表者 一期崎直美, 石井美紀代, 吉原悦子, 小野正子, 布花原明子, 村山由起子, 鹿毛美香, 塩田昇, 松尾綾, 小田日出子</p> <p>③第46回 日本看護学会集録(看護教育) (P164)</p> <p>教育研究業績 総数(2015年3月31日現在)</p> <p>著書 7(内訳 単 0 共 7)</p> <p>学术论文 10(内訳 単 0 共 10)</p> <p>翻訳 0(内訳 単 0 共 0)</p> <p>学会発表 20(内訳 単 0 共 20)</p> <p>その他 7</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
1. 福岡県看護協会（皮膚・排泄ケア） 認定看護師教育課程	講師	2015年5月29日
2. 高大連携講座講義 「看護の魅力ー急性期の看護から」	講師	2015年6月15日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<p>認定看護師教育課程入試委員 救急・クリティカルケア看護学及び演習を担当するにあたって、認定看護師教育課程入試委員の役割を担った。認定看護師教育課程の専任教員に対して、教育指導を行った。</p> <p>図書委員 2015年度は、看護学科に関連したDVDや専門書の購入ができた。</p> <p>物品管理係 2015年度の年間スケジュールを基に、看護学科の物品や実習室使用について管理を行った。</p>

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 新木 真理子	職名 准教授	学位 博士(医学) (山口大学 2011年)
-----------	--------	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
老年看護学	祖父母的ジェネラティビティ エリクソン 解釈学的現象学 ハイデガー 要介護高齢者

研究課題
「要介護高齢者の祖父母的ジェネラティビティ発達を促すケアの開発」 介護施設の要介護高齢者の語りを聴き、解釈することを通して、要介護高齢者の気遣いの世界を明らかにし、祖父母的ジェネラティビティの根底にあるものを探求している。ハイデガーの解釈学的現象学を基盤とした、質的帰納的研究という手法で研究に取り組んでいる。既にデータ収集は終了しているが、分析方法に課題があり、新たな知見を得ながら、論文作成を検討しているところである。

担当授業科目
成人・老年看護学概論(前期) 老年看護方法論(後期) 老年看護学実習Ⅰ(通年) 老年看護学実習Ⅱ(通年) 看護総合演習・実習(前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【成人・老年看護学概論】</p> <p>昨年と同様、「加齢による身体的変化」は、事前に資料配布をし、講義開始前に小テストを行なうことで、予習を効果的に行なうことをめざし、講義時の理解度を高めた。「高齢者の発達課題」では、百寿者の著書等を引用し、老年期の統合のプロセスがイメージし易いように工夫した。「生活機能評価」は、チェック表を用い、生活機能をみる視点が具体的に頭に入るように工夫した。</p>
<p>授業科目名【老年看護方法論】</p> <p>昨年と同様、国試の出題基準の小項目ごとにグループワークを行ない、まずパワーポイントを用いて学生に講義をしてもらい、それを解説しながら知識の補足をしていく方法をとった。準備不足についてはグループ別にコメントし修正が可能であったが、当日の発表技法はグループで差があり、早口だったり、聴きとりづらかったりすると、フロアの聴く姿勢に問題が生じた。今後小テスト等を取り入れて改善を図りたい。</p>
<p>授業科目名【老年看護学実習Ⅰ】</p> <p>今年度は、実習の順番を、老年看護学実習Ⅱ(介護施設)からⅠ(回復期病棟)に進むように計画・実施した。介護施設で高齢者の生活機能をつかんだ上で、回復期病棟における高齢患者の生活機能をつかむようにしたことで、段階的に難易度を上げていくことができた。</p>
<p>授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】</p> <p>臨地実習は実質的に3日半となるため、最終日の学内演習で、実践してきたことを互いに発表し合っ、施設ケアのあり方について議論するという場を設けたことは、高齢者ケアの、より深い学びに結びついた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護科学学会 日本老年看護学会 日本老年医学会 日本心理臨床学会 日本看護学教育学会		1995年～現在に至る 2000年～現在に至る 2010年～現在に至る 2001年～現在に至る 2001年～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
				教育研究実績 総数(2016.3.現在) 著書 1 (単0、共1) 学術論文 9(単6、共3) 学会発表 16(単2、共14)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
要介護高齢者の祖父母的ジェネラティブイテ ィ発達を促すケアの開発	文部科学省 基盤研究C	○ 新木真理子 東玲子	1,560,000

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
1. 北九州がんを語る会 2. 認定看護師研修 3. 語りと看護実践の会	世話人 講師	2003年～ 2011年8月～2015年3月 2013年11月～

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

就職委員会 2015年4月1日～2016年3月31日

看護学科3年アドバイザー 2015年4月1日～2016年3月31日

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	石井 美紀代	職名	准教授	学位	修士(看護学) 大分医科大学 2001年
----	--------	----	-----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
地域看護学	在宅看護、家族介護

研究課題
「在宅」の定義が拡大し、必ずしも住み慣れた自宅を指すものではなくなった。多様になった生活の場において、看護職に求められるニーズと、そこで展開されている在宅ケアについて研究する。

担当授業科目
基礎学習ゼミⅠ(看護学科1年 前期) 基礎学習ゼミⅡ(看護学科1年 後期) 保健医療福祉行政論(看護学科2年 前期) 対象別保健指導論(看護学科2年 後期) 在宅看護学(看護学科3年 前期) 在宅看護学演習(看護学科3年 前期) 在宅看護学実習(看護学科3・4年 通年) 看護総合演習(看護学科4年 前期) 看護総合実習(看護学科4年 前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】</p> <p>本授業は、初年次教育として10名の専任教員で学生を10人ずつ担当している。また、基礎学習ゼミは、アドバイザー役割もある。成績不振者の個別指導に加え、精神的に不安定な学生の見守りもあった。これらの学生については、看護学科教員で統一した指導内容で接していった。</p> <p>今回、私は昨年に引き続き、基礎学習ゼミⅡの「ディベート」企画を担当した。昨年の授業評価で、学生から「根拠に基づく説明の方法を再発見した」という意見とともに、① 論題の難易性 ② 課外学習の多忙、を指摘された。そのため、論題の選定には担当する教員全員で複数回協議し、決定した。また、学生には論題の定義までを決めて提示し、目的を論理的思考の強化に絞った。</p> <p>さらに、発表を2回行うことで、グループでディベートでの勝敗の原因を話し合い、より完成度を高めることと考える。</p>
<p>授業科目名【保健医療福祉行政論】</p> <p>本授業は3人の教員で担当するため、事前に講義の項目、内容についての打ち合わせをし、前回の授業の復習からはじめ、それに繋げて今回の授業を展開するようにした。また、科目の名称から、本授業を「看護と関連するものの、看護学とは別物」ととらえている学生も多い。そのため、この内容は患者の看護にどう活用されるかを、意識して説明した。</p> <p>講義資料は、重要な部分を学生が書き込むように空けて作成した。また、毎回、最後に、講義内容に関連した国家試験問題を出題し、解答、解説した。さらに、毎回、出席カードに授業の評価を書いてもらい、質問が書かれていた場合は、次の講義で答えた。しかし、学生の学習量を増やすことができなかつたことが反省点である。</p>

<p>授業科目名【対象別保健指導論】</p> <p>本授業は、保健師課程の必修、看護師課程の選択授業である。看護師課程の受講者も2名あったが、保健師国家試験をクリアする事を目指し、授業の難易度をあげておこなった。教科書とオリジナルの授業プリントで保健師活動の目的、特徴を解説し、保健師ジャーナルから公衆衛生看護で先駆的な活動例を紹介した。ポイントを説明しながら読ませると、学生は保健師専門雑誌に興味を示し、授業の後半では最低限の解説で内容を理解した。まとめのレポートを、「公衆衛生活動の実際を振り返り、試験問題と解説を作成する」とし、全員のレポートを印刷して配布した。このことで試験勉強への意欲を増したのか、定期試験では、初めて再試験者がなかった。</p>
<p>授業科目名【在宅看護学・在宅看護学演習】</p> <p>学生は病院施設内看護の経験しかなく、在宅看護のイメージが難しい。そのため、実習中に実習施設と療養者家族にお願いしてDVDや写真を撮り、在宅看護学の講義ではそれらも媒体に加えた。また、毎回、ミニ演習を作成して思考させ、学生が書いた内容を一部引用して、次の講義を展開した。教科書の言葉でなく学生の表現を使ったことで、講義の導入がスムーズだった。</p> <p>在宅看護学演習では、導入で「訪問看護が必要な寝たきり高齢者にとって望ましいのは住み慣れた自宅で過ごすことである」をテーマにディベートを実施した。ネットで資料を得る学生が多かったが、家族介護を社会のありようにつなげて考えることに有効であった。一方、地域ケアシステムを理解させるため、グループワークでソーシャルサポートを調べて図式化させたが、ネットワークの枠から広がらなかった。本カリキュラムでは、看護師課程が地域ケアシステムを学習する科目が少ないため、この強化を工夫する必要があった。</p>
<p>授業科目名【在宅看護学実習】</p> <p>在宅看護実習は、学生と看護師が1対1で同行訪問を行う。教員は学生が看護を提供する場で直接指導ができないことから、指導看護師と事前に実習目標や進め方の打ち合わせを重視した。</p> <p>病棟の実習では、学生は1人の患者を2～3週間継続して担当するため、複数の患者の看護を同時に考えることができない。訪問看護は、1人の看護師が1日4～6件訪問をするが、実習では同伴訪問1日1～3件に絞って考えさせた。さらに、教員が学生の思考を方向づけながらすすめた。</p> <p>一方で、私を含め4人の教員が学生の指導を担当するため、学生が書いた記録、最終カンファレンス資料等をもとに、時間を見つけて常に教員間でディスカッションを実施した。このことは、指導方法の検討や自己研鑽の機会につながった。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習・看護総合実習】</p> <p>本授業は、卒業研究に代わるものである。そのため、これまでの実習での疑問、もっと深めたいことから、学生自らテーマを選択し、文献検索から実習での介入計画を立案し、論文としてまとめさせた。</p> <p>看護総合演習では、毎週1回、テーマに沿った内容を調べ、プレゼンテーションをさせて行った。段取りする力、資料化する力、わかりやすい発表の工夫につながることを期待したが、保健師課程の学生は演習科目、看護師課程の学生は臨床実習と同時進行だったため、完成度は低かった。</p> <p>看護総合実習は、学生が選んだテーマに合った対象が複数いる訪問看護ステーションにお願いして実習させていただいた。事前に文献で調べていくため、学生は指導看護師に多くの質問やディスカッションができ、看護師の語った内容が学生の考えが及ばない視点にあることも理解できた。しかし、その内容をまとめるにあたり、3年で履修した「看護研究の基礎」と結び付けられず、時間がかかった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本健康福祉政策学会		1997年6月～(現在に至る)
日本地域看護学会		1997年10月～(現在に至る)
日本看護学教育学会		1998年4月～(現在に至る)
日本公衆衛生学会		1998年4月～(現在に至る)
日本老年社会科学会		1999年4月～(現在に至る)
日本学校保健学会		1999年4月～(現在に至る)
日本老年看護学会		1999年8月～(現在に至る)
日本看護研究学会		2001年11月～(現在に至る)
日本在宅ケア学会		2004年8月～(現在に至る)

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) ディベートを活用した初年次教育の試み—看護学生のクリティカルシンキング志向性に着目して—	共	2015年度分として掲載予定	第46回(平成27年度)日本看護学会論文集(看護教育)	①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのディベートの活用について、1年次の学生100名を対象に質問紙調査を実施。 ディベート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目し、ディベートの効果と指導上の課題について検討・報告した。 ②共同研究者 一期崎直美, 石井美紀代, 吉原悦子, 小野正子, 布花原明子, 村山由起子, 鹿毛美香, 塩田昇, 松尾綾, 小田日出子 ③共同研究につき, 本人担当部分抽出不可能
(翻訳) なし				
(学会発表) 認知症高齢者グループホームにおける入居高齢者の排便状況	共	2015.6	日本老年看護学会第20回学術集会 (於 神奈川県横浜市)	①認知症対応型グループホームに入居する認知症高齢者の排便状況をどのように把握し、排便ケアの現状と課題を明らかにするため、施設の介護者に調査した。 ②共同研究者: 吉原悦子、石井美紀代、丸山泰子、原等子 日本老年看護学会 日本老年看護学会第20回学術集会抄録集(p169)
ディベートを活用した初年次教育の試み—看護大学生のクリティカルシンキング志向性に着目して—	共	2015.8	第46回日本看護学会 (於 奈良県文化会館)	①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのディベートの活用について、看護学生を対象に質問紙調査を実施した。発表では、特に、ディベート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目して分析した結果を中心に報告した。

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価 —主観・客観評価の両面からみた情意領域（関心・意欲・態度）への教育効果—	共	2015.8	第46回日本看護学会 （於 奈良県文化会館）	②共同発表者 一期崎直美, 石井美紀代, 吉原悦子, 小野正子, 布花原明子, 村山 由起子, 鹿毛美香, 塩田昇, 松尾綾, 小田日出子 ③第46回 日本看護学会集録（看護教育）（P164）
アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価 —客観評価と主観評価の比較から見えた情意領域（関心・意欲・態度）育成への課題—	共	2015.8	第46回日本看護学会 （於 奈良県文化会館）	①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅠ」でスタディスキル・アカデミックスキルの修得・育成を目標に取り組んだアクティブラーニング(以下AL)と振り返りポートフォリオ(以下PF)の教育効果について, 情意領域(関心・意欲・態度)の観点から, 主観・客観両面での評価を報告した。 ②共同発表者 布花原明子・塩田昇・村山由起子・小田日出子・石井美紀代・一期崎直美・小野正子・鹿毛美香・松尾綾・吉原悦子 ③第46回 日本看護学会集録（看護教育）（P162）
アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価 —客観評価と主観評価の比較から見えた情意領域（関心・意欲・態度）育成への課題—	共	2015.8	第46回日本看護学会 （於 奈良県文化会館）	①看護学科「基礎学習ゼミⅠ」でのALとPFを組み合わせた初年次教育の評価について, 客観的・主観的指標を分析し結果および課題を報告した。 ②共同発表者 塩田昇, 布花原明子, 村山 由起子, 小田日出子, 石井美紀代, 一期崎直美, 小野正子, 鹿毛美香, 松尾綾, 吉原悦子 ③第46回 日本看護学会集録（看護教育）（P163）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市介護認定審査会	委員	2007年4月～2017年3月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

[大学委員会]

教務委員

教育の質プロジェクト（評価部門） 委員

教務総合人間科学小委員会 委員

[学科役割]

1、2年生アドバイザー

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	前田 由紀子	職名	准教授	学位	修士(教育学)(九州大学 2004年) 博士(教育学)(福岡大学 2010年)
----	--------	----	-----	----	--------------------------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
精神看護学、看護教育学	精神科看護師、現象学、共感性、倫理、コンピテンシー、看護継続教育、キャリア

研究課題
精神科看護における倫理に関する研究 精神科看護における共感性獲得に関する研究 精神科看護師のキャリア形成に関する研究

担当授業科目
精神看護学概論(後期)(看護学科) 精神看護方法論(後期)(看護学科) 精神看護学演習(前期)(看護学科) 精神看護学実習(通年)(看護学科) 看護研究の基礎(前期)(看護学科) 看護総合演習(前期)(看護学科) 看護総合実習(前期)(看護学科) 看護教育論(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【精神看護学概論】</p> <p>心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに大いに関心が深まったという感想が多く聞かれた。また、精神科看護における倫理を考える目的で、精神科病棟を舞台にした映画「カッコーの巣の上で」を視聴し、レポートを作成させた。精神疾患を持つ人の人権について考えを深めることができた。思考力や文章を書く力を授業の中で培っていききたい。国家試験対策の一環として、授業毎に国家試験問題を解かせ解説を実施した。</p>
<p>授業科目名【精神看護方法論】</p> <p>精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材DVDは、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビドラマやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。また、実習における看護学生と患者との良好なかかわりの具体例を示した。精神疾患を持つ人に対する先入観が完全に払しょくされることはないが、出席カードに記入されている内容から見て、精神科看護に興味を持つ学生は増えていると感じる。国家試験対策を意識したノート整理の課題を出し、基礎的な知識を確実にするよう努めた。冬期休暇中の課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させた。</p>

<p>授業科目名【精神看護学演習】</p> <p>精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例をグループで展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウツの理論を用い、セルフケアについてグループで十分にディスカッションを行った。学生の柔軟な発想を引き出すためにグループワーク中は机間巡視を助教2名と共に行い、精神看護の個性について熟考させた。精神疾患の特性からどのような観察やケアが必要になるのか、精神科看護のポイントを事例に沿って資料を作成し解説した。配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。実習に必要な基礎力の定着および向上を目的にワークブックを作製し手書きでまとめさせた。パソコンでの作成を希望する学生もいるがコピー防止とノート作成の工夫をさせたいと考えている。</p>
<p>授業科目名【精神看護学実習】</p> <p>実習前は、事前学習（精神疾患、精神看護、精神科リハビリ等の基礎知識）の徹底を図り、学習不足の学生には課題を与えた。精神科の実習では不安・緊張が強い学生がいるため、オリエンテーションの充実にも努め、スムーズな実習ができるよう配慮した。実習では、精神に障がいを持つ患者とのかかわりの時間を十分取れるように計画し、患者との関わりから自己理解、他者理解ができるよう支援した。加えて毎日のカンファレンスやプロセスレコード、テーマレポートの記録物から学生の理解度をみながら適宜個別指導を行った。意欲的な学生には学生主催のレクリエーションを実施させ、さらに精神科看護に理解を図った。帰校日にロールプレイを取り入れることで、自らのコミュニケーションの方法を振り返り、コミュニケーション技法の向上を促した。PSW の講義やデイケア実習を取り入れ、精神に障がいをもつ人の社会復帰について考察を深めさせた。国家試験対策として、実習期間中に国家試験問題を数問課題とし、解説をしている。カンファレンスでの意見交換が年々難しくなっており、今後の課題と考えている。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】</p> <p>6人の学生を担当し、精神看護領域の総合演習、総合実習に取り組んだ。精神看護領域では、精神障がい者の訪問看護と就労支援を中心に展開するが、4年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援に関する文献検索を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマでレポートを作成し、研究的思考が反映されるように支援した。実習では、主体的な実習が展開できるように、実習計画をグループで考えさせ、施設との交渉も学生のできる範囲で進めさせた。新カリキュラム1年目の学生であったが、領域実習が総合実習の準備に重なり、効果的な展開が難しかった。</p>
<p>授業科目名【看護研究の基礎】</p> <p>3年前期の講義で各論実習を経験していないため、学生は看護研究の必要性や研究課題への気づきが難しいようであった。そのため、看護臨床の場を想定した説明に留意し、看護職に研究的思考が必要であることへの気づきを促した。難しい・苦手というイメージが強いようなので、できるだけ解りやすく平易な言葉を用い授業を進めるように心がけた。最終的に研究計画書の作成ができるように、グループ毎に担当教員を決め、グループワークを密に支援した。もっと研究論文に触れさせる機会を多くつくるため、文献クリティークの時間を増やし、研究テーマの絞り込みに役立てることができた。</p>
<p>授業科目名【看護教育論】</p> <p>日本の看護教育制度、看護教育カリキュラム、看護職の生涯教育を取り上げた。日本の看護教育の変遷と戦後数回行われたカリキュラム改正について解説した。その後現在の看護教育制度の課題についてディスカッションし、今後の看護教育のあり方を考えさせた。新カリキュラムになり、4年生後期15コマから8コマの授業になったが、選択科目であるとともに国家試験の勉強が忙しくなる時期になるため、希望者が少なく少人数の授業であった。もう少し興味を持てるようにガイダンスでの工夫をしたい。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

日本看護学会 日本看護福祉学会 日本看護科学学会 日本看護研究学会 日本精神保健福祉学会 日本医学看護学教育学会 日本精神科看護技術協会 日本看護学教育学会	1984年4月～現在に至る 2002年4月～現在に至る 2003年4月～現在に至る 2003年4月～現在に至る 2007年10月～現在に至る 2007年10月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る
-----------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) 精神看護学実習における共感性の獲得のプロセス—教員の介入を中心にして—	共	2016	第46回日本看護学会—精神看護—	①精神看護学実習において、学生が共感性を獲得するプロセスを明らかにするとともに、どのような教員の介入が必要であるのかを検討した。その結果、学生の共感性を獲得するプロセスとして6つの段階が明らかになった。学生の共感性の獲得には、段階を追って、具体的に患者の状況を想像させ、学生が患者に関心を寄せ続けることができるような教員の介入を繰り返し行っていくことが重要である。 ②共著者：松尾綾、前田由紀子 データの分析、考察を担当する。 ③第46回日本看護学会—精神看護—論文集、(印刷中)
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. The Employability Which Japanese Psychiatric Hospital Staff Seek When Hiring New Nurses	共	2015.6	25th International Council of Nurses Conferences (Seoul, Korea)	①精神科臨床からみた新人看護師に求める就業能力について、実習指導者にインタビューを実施した。新人看護師に求める能力は、<チームで働く力><コミュニケーション能力><柔軟性><

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>-Through Interviews With Nursing Practice Instructors-</p> <p>2. Japanese hospital training systems for new nurses from the perspective of competency- Interviews with nursing managers.</p>	共	2015.6	25th International Council of Nurses Conferences (Seoul,Korea)	<p>積極性>の4つのカテゴリーが抽出された。精神科病院は、新人の入職が少なく、孤立化しやすい。病院は、新人が就業を継続できるように居場所づくりなどの工夫が必要である。</p> <p>②Yukiko Maeda, Aya Matsuda, K. Tateishi, E. Tanigishi, T. Matsubayashi</p> <p>①看護師におけるコンピテンシーの視点から各病院の指導体制を分析し、大学教育における不足部分を明らかにした。日本では新人教育にラダー制度やプリセプター制度を採用している。指導者側の意識として「新人看護師は看護職業人としてのファーストステージである」などの【将来ビジョン】を大切にしていた。できたことは褒め、できなかったことは、ネガティブなフィードバックにならないように注意した。大卒看護師のエンプロイアビリティを高めるには、各病院の新人大卒看護師の指導において重点的に行われている各要素を、大学在学中の看護基礎教育において補って教育することが必要である。</p> <p>②E. Tanigishi , K. Tateishi , Yukiko Maeda, T. Matsubayashi</p>
<p>3 . About the employability which Japanese hospital staff seek when hiring new nurses graduated from college. -Through the interviews with nursing managers.</p>	共	2015.10.	14th ENDA (European Nurse Directors Association) & 4th WANS (World Academy of Nursing Science) Congress. (Hannover, Germany.)	<p>①大卒新人看護師に対するエンプロイアビリティの視点から望まれる大学教育のあり方を明らかにした。エンプロイアビリティを測定する基準としては、日本の経済産業省（2006）が提唱する「社会人基礎力」を活用した。大卒看護師の社会人基礎力とは、大学在学中に受ける教育の中でも、単に一般教養教育科目だけで獲得できるものではなく、その後の看護専門科目である臨地</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
4 . New User Experiences with Day Care for Persons with Psychiatric Disabilities during Introductory Period.	共	2015.10.	14th ENDA (European Nurse Directors Association) & 4th WANS (World Academy of Nursing Science) Congress. (Hannover, Germany.)	<p>実習や課外活動、そして学生自身の日常の社会生活の中で総合的に育まれることが明らかになった。</p> <p>②K. Tateishi ,Yukiko Maeda, E. Tanigishi , T. Matsubayashi</p> <p>①精神科デイケア導入期における利用者の経験を明らかにすることを目的である。インタビューの結果、【他者と徐々に築かれた関係】【すべての経験が新しいので、混乱する】【他者と関わることをやめる】【状況に適応しようとする】【コミュニケーションに苦勞する】【看護師と利用者に歓迎されると楽である】</p> <p>【将来への心配】【日常生活の拡大】【回復への気づき】の9つのカテゴリと36のサブカテゴリが抽出された。</p> <p>②Yuko Tijiwa. Yukiko Maeda.</p>
5. 精神看護学実習における共感性の獲得のプロセス—教員の介入を中心に—	共	2015.9	第 46 回日本看護学会—精神看護—学術集会 (於：大阪)	<p>①精神看護学実習において、学生が共感性を獲得するプロセスとして6つの段階が明らかになった。学生の共感性の獲得には、段階を追って、具体的に患者の状況を想像させ、学生が患者に関心を寄せ続けることができるような教員の介入を繰り返し行っていくことが重要である</p> <p>②共同発表者：松尾綾 前田由紀子</p> <p>③第46回日本看護学会—精神看護—学術集会抄録集、p79</p>
6. 精神看護学実習における倫理に関する学生の認識	共	2015.12	第 35 回日本看護科学学会学術集会 (於：広島)	<p>①精神看護学実習を行った学生の倫理に関するレポートの内容をもとに、学生が倫理についてどのような認識を持っているのか分析したところ、【隔離室への恐怖感】【生活環境におけるハード面の不自由さ】【管理的</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
7. 精神科新人看護師の現状と課題 —入職後3か月と6か月の困難—	共	2016.3	第26回医学看護学教育学会学術学会 (於：島根大学)	<p>看護への疑問【看護師の患者に対する態度】【社会的入院に対する対応】の5つのカテゴリーが抽出された。入院患者の人権について命を守るためには仕方がない、と考える学生がいる一方、ジレンマに悩み、答えを出すことができない学生がいた。</p> <p>②共同発表者：前田由紀子 松尾綾</p> <p>③第35回日本看護科学学会学術集会抄録集、p47</p> <p>①精神科病院に新卒で就職した看護師の現状と課題について、検討した。入職後3か月目の困難のカテゴリーは、《病棟の雰囲気になれない》《看護技術への緊張》《本音を吐き出すところがない》《仕事ができないことへの焦り》《患者対応の難しさ》《自己の生活の調整》が抽出された。6か月目は、《業務の緊張》《受け持ち患者の対応》《看護技術の不安》《人間関係の悩み》《疲弊感》が抽出された。共通していることは、本当に相談したい内容を自ら聞くことができていないことであった。</p> <p>②共同発表者：前田由紀子 松尾綾</p> <p>③第26回医学看護学教育学会学術学会抄録集,p35</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

看護実践能力促進のためのキャリアプランニングに必要な教育の検証	文部科学省科学研究費補助金	○(立石和子)、前田由紀子、(谷岸悦子)	2,210,000 円
精神科病院に就職した新人看護師の現状と課題	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所	○前田由紀子、松尾綾	230,000 円
精神看護学における共感性と倫理的感性に関する研究	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所	○松尾綾、前田由紀子	109,040 円

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

[大学委員会] 研究紀要委員会 2015年4月1日~2016年3月31日 [学科役割] 国家試験対策委員 2015年4月1日~現在に至る

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	高橋 甲枝	職名	講師	学位	修士(看護学)
----	-------	----	----	----	---------

研究分野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 運動器疾患を持つ患者の看護 家族看護	<ul style="list-style-type: none"> 看護技術教育 運動器患者の実情 運動器疾患を持つ家族の負担 三角筋筋肉注射の安全性 足浴の生体に及ぼす影響と実践

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> 2008年～2013年にかけて、大分大学の主任研究者清村教授とともに筋肉内注射の部位の検討を行うために解剖体での検討を行った。さらに2013年度はMRI検査を行い解剖体での結果を検証した。MRI検査と解剖体との関係について学会発表を行い、座長推薦演題として論文投稿依頼に対する投稿論文の修正を行っている。 2010年度「研究所研究費」を取得し、電子カルテの「看護診断」について、某急性期病院の看護部との共同研究にて学会発表を行った。その結果をもとに2012年度～2013年度に共同研究費を取得し、調査を行った。2016年度論文にまとめる。 急性期演習変更・急性期技術演習の教材研究を行い、2015年度からループリック評価を行った内容について検討を加える。 2012年度、足浴の基礎的研究を行い、2013年度学会発表を行ったので、2015年度は論文としてまとめ、投稿を行う。今後は、基礎研究で得られた効果について、運動器疾患患者のしびれ等に対する足浴の検討を行っていく。 2014年度より運動器疾患の患者の研究に取りかかり、文献検討を行った。2016年度は運動器疾患の患者を対象に前向き調査を行う予定である(科研費申請中)。

担当授業科目
リハビリテーション看護学(前期) 成人・老年看護学演習(前期) 成人・老年看護学実習(後期) 救急・クリティカルケア看護学(前期) 救急・クリティカルケア看護学演習(後期) 看護総合演習(前期) 看護総合実習(後期) 国際看護論(後期) 看護学(栄養学科)(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【リハビリテーション看護学】前期 15コマ、30時間 リハビリテーション看護学は、3年次開講科目である。2年次までに学んだ疾病論、急性期看護学方法論、慢性期看護学方法論、老年期看護学方法論と密接に関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に上記科目と密接に関連する科目であること、範囲が広いことを伝えている。 3年次前期は、他科目である「看護過程」の課題が多いことを考え、課題を減らし講義内で説明を入れている。そのため、進度が早いと事前に説明を行っていたため、今年度は早いという意見は聞かれなかった。 学生の評価として、「小テストがあったのでその勉強をした」、「文献を探して分からないところを解決した」との意見が聞かれた。外部講師の内容と重なるところがあるため、内容を精選して重なりを少なくすることで

<p>講義内容のゆとりを確保したいと考える。</p>
<p>授業科目名【成人・老年看護学演習】前期 30コマ, 60時間</p> <p>成人・老年看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。看護過程演習は、慢性期事例（肝硬変）、急性期事例（胃がん）の2例を展開した。昨年に続き、今年度も看護過程演習の講義・演習の担当を行い、演習計画立案、事例検討および模範解答の作成を領域教員と行い教員の指導に違いがでないように調整を行った。しかし、学生評価において、先生により内容が異なるという指摘があった。今後は定期的に調整を行っていきたい。また多くの学生から課題が多いという指摘を受けた。しかし、実習では在院日数の短い患者の看護過程の展開は演習よりも速いことを伝え、そのための基盤づくりであることを最初に伝えたい。</p> <p>看護技術演習は、食品交換表、ADL、ドレーン管理、血糖測定、手術後の観察演習の5項目からなる。ドレーン管理（J-VAC）と手術後の観察演習を主に担当した。手術後の観察演習は、シミュレーション演習を取り入れ実際臨地で使用している物品等を使用し、模擬患者を用いて臨場感を持たせた演習を行った。4年生の模擬患者の導入と実際の物品を使用することは学生の興味関心を引き学びに繋がると考えられる。</p>
<p>授業科目名【成人・老年看護学実習】前期 3週間2クール 後期 3週間4クール</p> <p>成人・老年看護学実習は従来の2週間実習にICUおよび手術室見学実習を導入し3週間実習とした。病棟実習では、既習の知識が、実際の患者を通して知識が統合されるように関わった。助教の先生の学生への指導が的確に行われるように、看護診断、関連因子、徴候の確認や看護計画の目標、計画、根拠について確認を行い、学生への指導に繋がるように調整を行った。実習中に問題がある学生については、面接を行い、助教の先生方と教育の方向性を統一するように心がけた。また、最終日には個人面接を行い、個人の課題を明確にすることで次の実習に繋げるように努めた。ICUおよび手術見学実習では、事前課題の提出を求め、学内オリエンテーション時に気管挿管の説明や滅菌ゴム手袋の装着演習を取り入れた。実際の物品をもとに説明を行うことで目的や方法について理解をつなげるように努めた。</p>
<p>授業科目名【救急・クリティカルケア看護学】前期 3コマ6時間</p> <p>4名の急性期の教員と集中ケア認定看護師の5名で講義を行った。担当は、「生体侵襲・生体反応」「侵襲下における代謝・栄養状態とその管理」「まとめ」を担当した。生体反応については、クリティカルな患者の状態とその後の予測を行うためには、理解をしておかなければ看護につながらない内容である。既習の知識（形態機能学、病態生理学や急性期方法論等）に繋げながら説明を行うように努めた。</p>
<p>授業科目名【看護総合実習】後期 2週間（臨地7日間）</p> <p>看護総合実習では、実習施設2か所で実習を行った。自分の課題を明確にし、実習部署を決定して実習を行った。学生は事前に実習指導者と調整を行うなどの経験を通して社会人としての対応も学ぶことができた。学生は積極的に実習を行っており、事前学習を活かして実習に臨むことができた。</p> <p>また、本年度より看護コースを対象としたBLSの導入となった。事前準備、片づけを学生が主体的に行えるように指導した。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習】前期 15コマ30時間</p> <p>看護総合演習では、急性期・回復期7名の学生を担当した。演習では学生の実習に対する目的を明確にし、主体的に学ぶように心掛けた。実習前には、自分たちで実習に必要な事前課題を明確にさせ、学生同士でミニ講義を行い、学習の共有を図った。また、実習に必要な基本的な技術（清潔の援助、点滴管理）や循環器病棟やICUに必要な技術（観察、心電図）の技術演習を行い、実習に備えた。また、実習後は自分たちの目的にそって論文形式でレポート作成の指導を行った。</p> <p>さらに、演習を通して、国家試験の学習支援と就職活動の相談・指導を行った。</p>
<p>授業科目名【国際看護論】後期 8コマ15時間</p> <p>国際看護論は2年後期、選択科目で47名が受講した。3名の外部講師から開発途上国の現状や紛争地域の看護などを学んだ。日頃より海外に興味関心を持ち、講義内容にも関心を持って学習して欲しいため、課題を提示した。学生は全員、課題に取り組み講義を受けることができていたが、個人差が大きかった。学生は国や文化や貧困により様々な問題があることに気づくことができていた。最終レポートは途上国について既習のアセスメントガイドを用いて考察し、看護について述べることができていた。</p>
<p>授業科目名【看護学（栄養学科）】（後期）5コマ10時間</p> <p>看護学は栄養学科、選択科目で9名（4年生8名と3年生1名）が受講した。1名未履修となった。6名の教員が担当し、発達課題、健康段階にそって講義展開を行った。学生の事前準備としては、課題提示を行い講</p>

義に臨むようすることで講義内容の理解と関心に繋がるようにした。

15 回中 5 回担当し、看護概論や栄養学科に関連する疾病（胃がん事例など）を持つ患者の看護の視点を講義し、管理栄養士あるいは栄養士との共通点や違いを説明し、協働のあり方について説明を加えた。評価はルーブリック評価を導入して、レポート評価を行なった。学生は協働する看護師の役割について考えを述べることができていた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会会員		1987 年 4 月～(現在に至る)
日本公衆衛生学会会員		1995 年 5 月～(現在に至る)
日本看護研究学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護科学学会会員		2004 年 7 月～(現在に至る)
日本看護技術学会		2011 年 4 月～(現在に至る)
日本運動器看護学会		2015 年 2 月～(現在に至る)

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
<ul style="list-style-type: none"> ・高校にて模擬授業 (中津北高校の学生を対象に「看護の仕事」について DVD と資料を用い紹介を行った。) ・三田病院看護師研究支援 		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

<p>公開講座委員会:2014.4.1～2016.3.31</p> <p>卓球部顧問:2014.4.1～2016.3.31</p>

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	梶原江美	職名	講師	学位	修士(看護学)(佐賀医科大学2003年)
----	------	----	----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
基礎看護学 看護教育学	ラテックスアレルギー 看護基礎教育 看護技術 コミュニケーション

研究課題
看護基礎教育におけるラテックスアレルギーの予防に関する研究 看護基礎教育における効果的な教育方法に関する研究 ケアリングに関する研究

担当授業科目
看護技術論 (前期)(看護学科) 生活援助技術論 (後期)(看護学科) ヘルスアセスメント (後期)(看護学科) 看護理論 (後期)(看護学科) 診療関連技術論 (前期)(看護学科) 看護過程論 (前期)(看護学科) 基礎看護学実習Ⅰ (後期)(看護学科) 基礎看護学実習Ⅱ (前期)(看護学科) 看護のための臨床検査 (前期)(看護学科) 基礎学習ゼミⅠ (前期)(看護学科) 基礎学習ゼミⅡ (後期)(看護学科) 総合看護演習 (前期)(看護学科) 総合看護実習 (前期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 看護技術論 】</p> <p>科目の構成は、「看護技術における安全と安楽」「コミュニケーション」「記録・報告」「環境」「早期看護実習」である。看護師の役割を実際の臨地で学ぶ早期看護実習を科目の中に位置づけているため、学びが深まるように、実技演習をする他、療養空間での患者体験や測定器具を使用した環境アセスメントを実施した。学生は看護を学び始めるスタートラインに立つ認識があり、意欲的な声が聞かれる。また、現場での用語の理解を促すために配付する看護用語を熱心に覚える学生も多く、モチベーションにもつながっている様子である。一方で、入学直後の開講科目であることと、実習が含まれているため、漠然とした不安を抱える学生も中に入らなうと想定している。対策として、学生の出席や課題提出の状況の把握に努め、些細な不安や相談にも応じるように努めた。</p>
<p>授業科目名【 生活援助技術論 】</p> <p>生活援助技術論は、日常生活援助技術を学習する科目である。科目構成は、「活動と休息」「清潔」「食事」「排泄」「感染予防」である。学生の普段の生活体験と援助を結びつけることを意識する。また、看護形態機能学との関連が特に必要な食事・排泄に関しては、事前課題を出して講義を行った。昨年の反省を生かして課題提示時期を早めた。学習意欲の高い学生は、丁寧な事前学習の仕上がりや</p>

<p>質問に来る者もいた。来年度は、このような学生率を上げるようにしたい。授業は講義と実技演習が主となる。そのために、技術演習指導として携わる他の教員とともに、各演習で事前打合せを行うことは例年に倣い、学生のレディネス、技術指導の要点とその優先度を確認して臨んでいる。しかし、演習終了後の反省は、時間を有効に活用するために各演習担当教員に個別聴取やメールでの通知をお願いした。その後の演習に支障はない様子であったため次年度もこの方法をとっていきたいと考えている。学生への技術支援としては、希望があれば、日程を調整して時間外に技術指導を行っている。また、学生自身が、教員の予定に左右されずに、積極的な学習を可能にする視聴覚教材も一通り作成し終え、今後は、効率的かつ効果的に学習ができるようサポートする予定である。</p>
<p>授業科目名【ヘルスアセスメント】 主にバイタルサイン測定の実技チェックを行い、正確な測定と測定に関する意味が理解・実施できているかの確認をし、必要に応じて助言・指導を行った。</p>
<p>授業科目名【看護理論】 ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」をテキストに使用し、ヘンダーソンが唱えた看護独自の機能とヘンダーソンが14項目挙げている人間の基本的欲求について解説をした。ヘンダーソンの唱える14項目は、日常生活行動を軸に平易な言葉で組み立てられているので学生には親しみやすいという利点がある。「看護の基本となるもの」を事前に読んでくるようにして、講義では、解説のほかに、事例を用いたグループワークを用い意見を促した。</p>
<p>授業科目名【診療関連技術論】 吸引の実技チェックに関わり、基礎看護学領域のメンバーで事前打ち合わせや事後の反省会を設けながら学生の技術習得につなげていった。</p>
<p>授業科目名【看護過程論】 基礎看護活動論演習は、紙上患者を用いて看護過程を展開する演習である。教員一人当たり、2グループ15名前後の学生を担当する。紙上患者のため、患者状況のイメージ化には、これまで同様DVD（教員のロールプレイ）を活用した。また、事例展開して導き出した看護技術は、実際に学生が実施し、情報の整理からアセスメント、看護上の問題を明確化し、目標・計画立案までの思考の整理と実践・評価までをトータルに発表することで一連の看護過程のステップが踏めるように工夫している。特に個人学習を強化するアセスメントとグループでの取り組みでも学習効果が期待できる計画立案など、グループの学習達成状況を踏まえながら指導をしていった。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 この実習では、学生が初めて臨床で患者を受け持ち、自分とも向き合う中で患者の援助を考え実践する。そのため、他の関連科目での授業の中でも実習と関連付けて話すことが多い科目である。基礎看護学実習Ⅰでは、プロセスレコードを用いるため事前準備として、教員が模擬患者となりロールプレイによるプロセスレコードの演習を引き続き取り入れ実施した。実習では、看護学生としての行動がとれるようにメリハリをつけて、助言・指導を行った。短期間の実習であるため、優先順位や患者を訪室した時の観察点などの指導者や教員の助言を生かして学生は実習をしていくが、その助言だけを頼りにしてしまう学生もおり、そのバランスに苦慮した。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 基礎看護学実習Ⅱでは、生活援助技術の提供を臨床で実践できるよう、看護過程のプロセスを経ながら指導をしていった。特に少ない時間で記録を書く必要がある本実習では、次の日までの課題を明確にし、効率よく学習が進められるように臨床指導者とも連携して指導するよう努めた。</p>
<p>授業科目名【看護のための臨床検査】 看護のための臨床検査は、2年生前期に開講されている。担当教員からの依頼を受けて、①音叉や耳鏡を用いた聴力検査とアセスメント、②検眼鏡を用いた眼底の観察の演習を行った。音叉を使用しでの聴力検査は、簡便で看護師が臨床で実施できる可能性が高いフィジカルイグザムとして、全員が演習を行い伝音声難聴と感音性難聴の違いについて解説した。耳鏡を用いた演習では、自分の耳に耳鏡を挿入してPC上に映写することで通常医師が観察している鼓膜がどういうものかを観察したり、耳垢を観察したりすることで清潔の援助に結び付けるよう解説を行った。検眼鏡を用いた眼底観察</p>

<p>は、普段は見ることのない眼底を除くことで、検査に携わり学習することの意欲を高めるように努めた。学生の演習での関心度は高かった手ごたえを感じている。</p>
<p>授業科目名【 看護総合演習 】</p> <p>4年生6名に対して、看護総合実習に向けて、テーマ選択から文献収集、文献を用いた抄読会を実施し、計画立案の指導を行った。また、看護技術演習に参加することで、自らの看護技術力を強化する機会とした。</p>
<p>授業科目名【 看護総合実習 】</p> <p>4年生6名に対して、看護総合演習で各自が立案した計画に基づき、学生自身が臨床指導者と打ち合わせを行いながら、実習を行った。教員は、学生の自立を促しながら目的が達成できるよう助言及び指導をしていった。</p>
<p>授業科目名【 基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ 】</p> <p>1年生100名に対して、10名の教員が担当するゼミ形式の授業である。看護学科の初年次教育として、主体的に学ぶ基礎的スキル（聞く・読む・書く・話す・考える）の強化とメディア・リテラシーの習熟を図ることを目的に活動した。大学生活をスタートするうえで、主体的な学習姿勢を継続的に持つことができるように、毎回の授業時には、学習目標の確認を行いながら実施した。また、アドバイザーとしての役割も担うため、確認・連絡・報告を確実に行うこと、自分で考えて、どうしても分からなかったり、迷うときには相談できることを学生たちと共有していった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		1996年4月
日本看護研究学会会員		2000年9月
日本看護科学学会会員		2003年3月
日本老年看護学会会員		2003年3月
日本公衆衛生学会会員		2003年3月
日本在宅ケア学会会員		2003年3月
日本看護診断学会会員		2003年5月
日本看護学教育学学会会員		2005年4月
日本健康支援学会会員		2005年4月
日本看護技術学会会員		2010年4月
日本看護倫理学会会員		2011年2月
日本死の臨床研究会会員		2011年6月
STTI会員		2011年12月
日本看護管理学会会員		2012年7月
日本ラテックスアレルギー研究会会員		2015年4月

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
1.ラテックスアレルギーに関する医療従事者の国家試験	単	2016.2	日本ラテックスアレルギー研究会会誌	①医療現場でラテックス製品を取り扱う、またはラテックスアレルギー

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
出題の現状と課題			Vol.19 No.2	<p>(LA)への対応が求められる9職種の医療従事者における5年間の国家試験出題状況を調査した。その結果、確認した国家試験出題総数は11,465題のうち、LAに関する出題は、第99回薬剤師国家試験問題(2013)と第33回救急救命士国家試験問題(2010)の2題(0.02%)と非常に少ないことが明らかとなった。</p> <p>③印刷中</p>
2. 基礎看護学実習における臨地実習環境の実態 (査読付き)	共	2016. 2	西南女学院大学紀要 Vol.20	<p>①1～2年次に学修する基礎看護学実習は、学生が初めて経験する臨床現場での学習機会であるため、実習環境は、学生の学習効果に大きく影響する。効果的に学修する実習環境を検討するために、基礎看護学実習を受け入れている200床以上の病院の看護部教育担当責任者に質問紙調査を実施した。81病院から回答の得た結果、実習指導の現状として、臨床実習指導者が学生への指導と業務を兼担する病院が半数以上(57.4%)にのぼり、教員と十分に連携を取っていく必要性を再認識した。</p> <p>②共著者名 本田輝子、梶原江美、小野聡子、末光順子、飯野英親、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③P.1～8</p>
3. 看護師のラテックスアレルギー罹患率と知識との関連 (査読付き)	共	2016. 3	第46回日本看護学会論文集 看護管理	<p>①臨床看護師のLA既往率とLA知識の獲得状況を調査した。その結果、自己申告によるLA既往率は3.7%と先行研究と類似の結果だった。また、LA既往に関わらず、LAに関する獲得知識は症状のみ知っていることが多く、学部でのLA教育だけでなく臨床現場での教育の必要性が示唆された。</p> <p>②共著者名 梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ</p> <p>③印刷中</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(学会発表)</p> <p>1. ラテックスアレルギーに関する医療従事者の国家試験出題の現状と課題</p>	単	2015.7	<p>第20回日本ラテックスアレルギー研究会 ラテックスアレルギー・OAS フォーラム 2015 (於：東京 東京都(独) 国立成育医療研究センター)</p>	<p>①看護師・医師・歯科医師・薬剤師・助産師・臨床検査技師・歯科衛生士・救急救命士・管理栄養士の9職種の医療従事者における国家試験出題状況(2010年～2014年の5年間分11、265題)を調査し、現状把握と課題について検討し、まとめた。 ②梶原江美 ③日本ラテックスアレルギー研究会誌19巻1号 P.53</p>
<p>2. ラテックスアレルギー予防目的で行う看護学生への2回の手袋使用テストの有用性</p>	共	2015.8	<p>日本看護学教育学会第25回学術集会 (於：徳島 アスティとくしま)</p>	<p>①基礎看護教育の中でできるラテックスアレルギー(LA)を予防するためのスクリーニング法として、これまでの質問紙と使用テスト(1回)の併用を検討し、使用テストを2回試みてその評価を行い、まとめた。 ②共同発表者名 梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ、小田日出子、浅野嘉延 ③日本看護学教育学会第25回学術集会講演集 P.165</p>
<p>3. Caring Ability Inventory 日本語版の信頼性・妥当性の検証</p>	共	2015.8	<p>日本看護学教育学会第25回学術集会 (於：徳島 アスティとくしま)</p>	<p>①Caring Ability Inventory(CAI)の日本語版を作成し、その信頼性・妥当性を検証した。原版の3下位尺度が混在しており、本結果から尺度全体の信頼性は確保されたが、因子構造の見直し等課題が残った。 ②小野聡子、飯野英親、梶原江美、本田輝子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ ③日本看護学教育学会第25回学術集会講演集 P.230</p>
<p>4. 基礎看護学実習における臨床実習指導体制の実態</p>	共	2015.8	<p>日本看護学教育学会第25回学術集会 (於：徳島 アスティとくしま)</p>	<p>①基礎看護学実習指導体制の実態を明らかにすることを目的に、看護部教育担当責任者に調査を実施した。実習指導者が指導と業務を兼担する病院が多く教員との十分に連携をとる必要性が示唆された。 ②共同発表者：本田輝子、梶原江美、飯野英親、小野聡子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ ③日本看護学教育学会第25回学術集会</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				会講演集 P.215
5.看護師のラテックスアレルギー罹患率と知識との関連	共	2015.9	第46回日本看護学会～看護管理～学術集会 (於：福岡国際会議場・福岡サンパレス)	<p>①看護師のラテックスアレルギー(LA)罹患率と知識状況について調査を実施した。その結果、LAの既往を持つ看護師は3.7%で、その内、ラテックス製手袋使用者は46.4%だった。また、LAの既往を持つ・持たないにかかわらず、LAの知識が低く教育の必要性が示唆された。</p> <p>②共同発表者：梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ</p> <p>③第46回日本看護学会～看護管理～学術集会抄録集 P.346</p>
6.看護師のケアリング能力と他者との関わりに関する経験との関連	共	2015.9	第46回日本看護学会～看護管理～学術集会 (於：福岡国際会議場・福岡サンパレス)	<p>①Caring Ability Inventory (CAI) 日本語版を使用して、看護師のケアリング能力と関連要因を明らかにし、ケアリング教育に関する課題について検討した。その結果、パートナーとの同居経験と現在の家族関係に対する認識、管理職であることといった、過去の体験というよりも現在どのような体験をしているかがケアリング能力に影響しやすい可能性が示された。</p> <p>②共同発表者：小野聡子、梶原江美、飯野英親、本田輝子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③第46回日本看護学会～看護管理～学術集会抄録集 P.500</p>
7 .Knowledge about latex allergy and the sources of knowledge in Japanese nurses.	共	2016.3	19th EAFONS East Asian Forum Of Nursing Scholars (Chiba, Japan)	<p>①日本人看護師のLAについての知識の獲得状況と知識の入手先について調査し、整理した。その結果、症状、対処策、予防策、呼吸器系曝露、長期曝露と発症の関係、ラテックス含有製品との区別、ラテックス含有表示に関するメーカーの表示義務、ラテックス関連フルーツ症候群の9項目全ての知識を持つ者は5% (27/545) だけで、すべて手術室看護師だった。この5%の手術室看護師の知識源は複数のLA</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				を学ぶ機会を持っていた。 ②共同発表者：Emi Kajiwara、Hidechika Iino、Teruko Honda、Satoko Ono、Junko Suemitsu、Teruyo Iwamoto ③Abstract Book Poster Presentation P.531
				教育研究業績総数 (2015.3.31 現在) 著書 5 (内訳 単 0, 共 5) 学術論文 18 (内訳 単 3, 共 15) 翻訳 0 (内訳 単 0, 共 0) 報告書及び雑報 13 (内訳 単 1 共 12) 学会発表 58 (内訳 単 2 共 56)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
看護基礎教育から始めるラテックスアレルギーの予防教育プログラムの開発とその検証	文部科学省	○梶原江美 飯野英親 (小野聡子)	4,160,000 円
文化的背景に基づいたケアリング能力を測定する尺度開発と看護学生の能力への影響要因	文部科学省	○(小野聡子) 飯野英親 梶原江美	2,210,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

<p>第 46 回日本看護学会－看護管理－ 学術集会 抄録選考委員</p> <p>2015 年度高大連携講座</p> <p>井堀市民センター「生き生きチャレ ンジキッズ学級」</p>		<p>平成 27 年 3 月～平成 27 年 9 月</p> <p>平成 27 年 6 月</p> <p>平成 27 年 6 月</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------	--	----------------------------------------------------------------------

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

<p>教育予算配分委員会 委員 （2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）</p> <p>看護学科 1 年生アドバイザー （2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）</p> <p>看護学科 2 年生アドバイザー （2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）</p> <p>西南女学院大学外部資金獲得プロジェクト主催科研費獲得に向けての研修会報告 （2015 年 9 月 10 日）</p> <p>看護学科カリキュラム評価委員 （2015 年 2 月 12 日～）</p> <p>看護学科物品係 （2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）</p> <p>大学センター試験監督 （2016 年 16・17 日）</p>

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 一期 崎 直 美	職名 講師	学位 修士(教育学)(熊本大学 2010年)
-------------	-------	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
養護教育	学校保健、養護教諭、専門性、ケア

研 究 課 題
<p>養護教諭の子どもへのケアについて考察することを現在研究課題としている。近年、いじめ、不登校など、子どもの問題状況が深刻化している。学校の中でケアされているという感覚を持つことができない子どもの増加が危惧されている。しかし、学校は、学習中心の場である。そのため、ケアを必要としている子どもに対して、ケアより学習が優先されるという状況が考えられる。しかし、教育学においても子どもへのケアを強調する議論がはじまっている。学校の中で養護教諭は、ケアを内実とする職務である。ケアを必要とする子どもに対して、養護教諭が中心となり、子どもを取り巻く人々と共にケアの方途を探りたいと考える。</p>

担 当 授 業 科 目
<p>学校保健教育法と健康相談活動と養護実習と教育実習Ⅰと教育実践研究(4年生)基礎学習ゼミⅠと公衆衛生看護学概論と看護総合演習と看護総合実習(前期)(看護学科)</p> <p>学校保健と養護概説と教職実践演習(養護教諭)と教職実践演習(中・高)と事前及び事後の指導(3年生)と基礎学習ゼミⅡ(看護学科)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【学校保健教育法】</p> <p>学校における保健教育は保健指導・保健学習に大別され、全体的な講義の最後にその2つの授業が実践できるよう構成している。1時間の授業は、知識理解を深化させるための討論と実践力が身につくための演習で構成している。授業に臨むために必要な事前学習を提示し、その中の演習課題については、ブレインストーミングやロールプレイ等の学習方法が身につく事例を選択している。最後の模擬授業に向けて、授業時間外でも学習指導案作成や教材作成について個別支援を行った。また、各学生の模擬授業の題材選択については、4年次の養護実習につながるように示唆している。模擬授業については、録画し振り返りの討論にも使用している。</p>
<p>授業科目名【健康相談活動】</p> <p>養護教諭の職務の特質および保健室の機能を活かした健康相談の基礎・基本について身につくように構成している。1時間の授業は、健康相談に必要な理論と知識の講義だけでなく、討論や演習と組み合わせで構成している。養護教諭の健康相談は、救急処置場面を通して実践されることが多いため、保健室の対応場面を取り入れるよう工夫した。また、ロールプレイの演習には、4年生の参加協力を依頼した。そのロールプレイの様子を録画し、振り返りの討論に活用した。</p>
<p>授業科目名【養護実習】</p> <p>養護実習は、今まで学んできた学校保健活動や養護教諭の職務について、学校での保健室を中心に実習し、養護教諭の実際の働き等について学ぶ。教育実践研究の講義とつなげるだけでなく、実習に向けての心身の準備を整えることや、実習目標を明確にし、学生が目標に到達できるよう事前の個別相談を充実させるようにしている。</p>

授業科目名【教育実習Ⅰ】

教育実習Ⅰは、今まで学んできた看護教員としての授業実践だけでなく、高等学校看護教員の学校組織の中での職務や学級担任としての子どもへの対応等について学ぶ実習である。実習先が出身校ではないため、協力していただける学校を学生と相談しながら依頼を進める。学生の不安を軽減し、実習準備が整えられるよう事前に学生と実習校を訪問する。また、教育実践研究の講義とつなげるだけでなく、実習に向けての心身の準備を整えることや、実習目標を明確にし、学生が到達できるよう事前に個別面談を充実させるようにしている。

授業科目名【教育実践研究】(前期) 4年生

4年次の教育実習と養護実習の事前事後の指導を教職課程担当で実践していく。実習前の講義は、実習校で実施予定の授業について指導案作成や教材づくりを支援し模擬授業につなげていく。また、模擬授業の評価は、自己及び他者評価が深化するよう評価表を事前に学生に提示し、討論にも活用している。授業を充実させていくために時間外に個別指導を実施した。実習後は、実習を振り返るだけでなく、学生同士が実習校での学びを共有するために実習発表会を設定した。発表会は、学生主体で進行していけるよう、授業時間外でプレゼンテーションの資料作成の支援等を行った。また、発表会への意欲を高めるためにも、看護学科教職課程2・3年生に参加を促した。

授業科目名【基礎学習ゼミⅠ】

初年次教育として、読み書きリテラシーの向上とレポート作成および学生同士の交流が深まるような内容で授業が構成されている。授業は、図書司書の講和を経ての文書検索やレポート作成に必要な講話と、ゼミ担当者の指導で学生のレポート作成を支援している。担当ゼミメンバーでの授業では、レポートの作成状況をみながら具体的な資料を提示したり、授業時間外でも学生を支援した。また情報リテラシーを身につける講話は、生活支援にもつながるよう構成されている。10人の担当者が約10人の学生を担当し、担当教員はアドバイザーとしての役割も担い、初年次が充実するような支援に心がけた。

授業科目名【公衆衛生看護学概論】

公衆衛生看護学概論の中の2コマで、学校保健について授業する。学校保健の概論的な内容と、学校保健を主に担う養護教諭の役割について解説する。いじめや不登校や自殺など現代的な子どもの課題や特別支援教育の中の発達障害の子どもについて、テーマについてグループ討論する場面を設定している。発達障害をイメージしやすくするために、インターネットの映像等を活用した。

授業科目名【学校保健】

学校保健の概要について、学生の能動的学習が促進されるような授業構成にした。1時間の授業の事前学習として①課題範囲のまとめ②その範囲の試験問題作成③知見・疑問の記入とそれらの提出を求めた。学びを深めるため、授業中に①でまとめた内容について発表担当者が発表していく。また、学生の学びを深化させるために③の知見について討論を行い、学校における実際の活動についても解説した。事後学習を促進させるために小テストを実施した。また、学校保健でよく利用するホームページや電子書籍サイトの使用方法について授業で紹介し、学生が活用するよう必要資料をダウンロードさせた。

授業科目名【養護概説】

養護概説の概要について学生の予習・復習を含め能動的学習が促進されるよう授業を展開した。1時間の授業の事前学習として①課題範囲のまとめ②その範囲の試験問題作成③知見・疑問の記入とそれらの提出を求めた。毎回、学生の知見を深化させるために、③を使用しグループ討議を行った。また、学生は担当する演習課題(健康診断の各検査や児童生徒への保健指導)について養護教諭役でロールプレイした。その際には学生同士で振り返るようなワークシートを作成した。授業でのグループ討議やロールプレイの振り返りの討議の中で、養護教諭の職務の重要な点や学校で養護教諭の具体的な活動について解説した。学校で実施される環境衛生検査の水質検査を学内で体験した。

授業科目名【看護総合演習】

看護総合演習は、看護実践における自己の課題を探求し、看護総合実習に向けて計画を立案し、実習終了後テーマに基づきレポートする。1時間の授業では、事前学習してきた課題内容について討論しながら復習していくように構成した。学校保健の実習を立案していく際は、看護の専門性をいかにしながら実習校で保健指導が実践できるよう支援した。実習後は、実習について個人で振り返るだけでなく、グループでの振り返りや実習発表会で各自の学びを共有できるようにした。また、各自の実践した保健指導についてレポートを作成できるよう支援した。

<p>授業科目名【看護総合実習】</p> <p>看護総合実習は、看護実習の集大成と位置づけられ、自ら企画した実習計画に基づいて、現場との調整も図りながら主体的に実習を展開する。また、養護教諭の職務の優先順位は1日の中でも変化する。そのため、学校や児童生徒の実態理解と養護教諭の職務の実際を理解するために実習前に見学を企画した。学生自身がPDCAサイクルを活用し、実習内容の変更にも対応できるよう事前に支援した。日々の目標や課題を明らかにし実習目標に到達できるよう、実習準備を中心に支援していった。</p>
<p>授業科目名【教職実践演習】(養護教諭)</p> <p>教職課程担当教員で、これまでの教職課程の学習及び実習を振り返らせ、教員になるための課題を考え解決へと結びつけていく授業である。全員で指導を行う授業と主に担当する授業がある。その担当授業では、養護教諭としての職務実践について、基本的な救急処置時の対応についての振り返り、具体的な保健室経営案の作成、パソコンでの健康診断結果入力とその活用など、実践的な活動を取り入れた。その中で、職務や資質能力についても学生自身が見つめ直す機会となるよう働きかけた。</p>
<p>授業科目名【教職実践演習】(中・高)</p> <p>教職課程担当教員で協力して、これまでの教職課程の学習及び実習を振り返り、教員としての課題を考え解決へと結びつけていく授業である。全員で指導を行う以外に、主に担当する授業の2回は、学生が模擬授業を展開する。そのため、英語学科の学生が教師としても役立つ内容を選択するよう支援した。また、学生が模擬授業を展開できるよう、事前に授業時間外に指導案や教材を検討するなどの支援を行なった。</p>
<p>授業科目名【事前及び事後の指導】(後期)3年生</p> <p>4年次の養護実習の事前事後の指導を教職課程担当者で実践する。3年後期の授業は、人権教育講和を実施する。また、実習前オリエンテーションを行ない、実習に向けての意識を高め不安の軽減をできるように支援していく。</p>
<p>授業科目名【基礎学習ゼミⅡ】</p> <p>基礎学習ゼミⅡでは、論理的思考を高めていくことを重視し、ゼミグループが肯定派と否定派に分かれディベートに取り組んだ。また、授業中のグループ活動だけでなく、授業時間外においてもグループ活動を促進するような授業構成になっている。授業中や授業時間外でも、ゼミグループの進行が遅れないように支援した。振り返りシートを活用し、学生と教員の相互で目標の達成状況を把握していった。授業時間外のグループ活動でもメンバー全員が役割を遂行できるように支援した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本学校保健研究学会		2008年5月
日本養護教諭教育学会		2008年9月
日本健康相談活動学会		2009年1月
日本教育保健学会		2013年3月
日本看護協会		2015年

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表) 1. Effects of group intervention for children's self-esteem and self-efficacy in junior high school classrooms	共	2015. 7	The 14 th European Congress of Psychology (Milan,Italy)	①中学1年生を対象に自尊感情を高めることを目的に、学校での対人葛藤場面における対処についての授業を実践した。その教育効果を事前事後及び1月後の質問紙調査で自尊感情の変化について調査し報告した。 ②共同発表者 倉光晃子・野井未加・一期崎直美 ③第14回 European Congress of Psychology Final Program (P21)
(学会発表) 2. ディベートを活用した初年次教育の試み—看護大学生のクリティカルシンキング志向性に着目して—	共	2015. 8	第46回日本看護学会 (於 奈良県文化会館)	①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのディベートの活用について、看護学生を対象に質問紙調査を実施した。発表では、特に、ディベート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目して分析した結果を中心に報告した。 ②共同発表者 一期崎直美、石井美紀代、吉原悦子、小野正子、布花原明子、村山由起子、鹿毛美香、塩田昇、松尾綾、小田日出子 ③第46回 日本看護学会集録(看護教育)(P164)
(学会発表) 3. アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価—客観評価と主観評価の比較から見えた情意領域(関心・意欲・態度)育成への課題—	共	2015. 8	第46回日本看護学会 (於 奈良県文化会館)	④看護学科「基礎学習ゼミⅠ」でのALとPFを組み合わせた初年次教育の評価について、客観的・主観的指標を分析し結果および課題を報告した。 ⑤共同発表者 塩田昇、布花原明子、村山由起子、小田日出子、石井美紀代、一期崎直美、小野正子、鹿毛美香、松尾綾、吉原悦子 ⑥第46回 日本看護学会集録(看護教育)(P163)
(学会発表) 4. アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価—主観・客観評価の両面からみた情意領域(関心・意欲・態度)への教育効果—	共	2015. 8	第46回日本看護学会 (於 奈良県文化会館)	①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅠ」でスタディスキル・アカデミックスキルの修得・育成を目標に取り組んだアクティブラーニング(以下AL)と振り返りポートフォリオ(以下PF)の教育効果について、情意領域(関心・意欲・態度)の観点から、主観・客観両面での評価を

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				報告した。 ②共同発表者 布花原明子・塩田昇・村山由起子・小田日出子・石井美紀代・一期崎直美・小野正子・鹿毛美香・松尾綾・吉原悦子 ③第46回 日本看護学会集録（看護教育）（P162）
(学会発表) 5. イメージマップを使用した養護教諭志望看護学生の自己評価—学生の抱く養護教諭の職務と資質能力を対象にして—	単	2015.8	第63回九州保健学会 (於 熊本市国際交流会館)	①養護教諭志望看護学生を対象に、自己理解と職業人としての成長を促すことを目的にイメージマップを使用したグループワーク活動を展開し、その際に使用したワークシートの記述結果を分析し報告した。 ②一期崎直美 ③第63回 九州保健学会プログラム・抄録集（P11）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

--

教職課程委員会委員長	2015年4月1日～2016年3月31日
教員免許更新講習プロジェクト	テキスト担当
職員研修委員	2015年4月1日～2016年3月31日
オープンキャンパス看護学科模擬授業担当	2015年9月19日
高校学校内説明会（模擬授業）	2015年11月5日
看護学科1・2年アドバイザー	2015年4月1日～2016年3月31日

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	松下 智美	職名	講師	学位	修士(保健学)(山口大学2011年)
----	-------	----	----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学, 遺伝看護学	慢性期看護, 糖尿病教育・看護, 生活習慣病, 多因子遺伝, 遺伝医療用語

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 遺伝医療用語に対するイメージ分析 2型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究

担当授業科目
緩和・終末期看護学 (看護学科) 成人・老年看護学演習 (看護学科) 成人慢性期看護方法論 (看護学科) 成人慢性期看護学実習 (看護学科) 看護総合演習 (看護学科) 看護総合実習 [慢性期・終末期] (看護学科) 看護学 (栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 緩和・終末期看護学 】 担当：がん看護 (5コマ)</p> <p>がん看護に関する知識は3年次の実習において必要性が高いため、実習で活用しやすいように具体的な看護方法を示しながら講義した。また、疾患・治療による影響のメカニズムやなりゆきを明確にし、それに対応した看護方法を示すことで、看護の根拠を理解しやすいように工夫した。</p>
<p>授業科目名【 成人・老年看護学演習 】</p> <p>看護過程演習では、知識をもとに対象(成人期、慢性疾患をもつ患者/周手術期の患者)にあわせて看護過程を展開する力を身につけ、根拠に基づいた看護、個別性のある看護が導き出せるよう、グループワークの指導に加えて毎回の個別指導を細やかにを行い、思考過程のトレーニングとなるように意識的に関わった。技術演習では、糖尿病の食事療法に関する演習を主担当として行った。事例を題材に、食品交換表を用いて食生活をアセスメントし、改善のために必要な患者教育の内容や心理面への配慮すべき点についてグループワーク・発表を行った。知識の活用のみならず、できるだけ患者の生活を思い描きながら患者の心身の状況に沿った援助を導きだせるように指導を工夫した。</p>
<p>授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】</p> <p>機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆきを予測してアセスメントする力が身に付くよう、代表的疾患を例に挙げ観察項目やアセスメントの視点を具体的に示した。また、慢性疾患をもつ成人やその家族の心理・社会面の特徴をふまえ、QOLをより高め、その人らしく生きるために必要なセルフケア支援についても、看護目標、看護のポイント、症状・苦痛の緩和やコントロール方法、心理・社会面への支援方法を具体的に示し、根拠立てて理解しやすいように講義の流れを組み立てた。全体を通して、病態の理解などは既習科目の復習を本科目の予習として課し、講義では既習科目のポイントのみを押さえるようにした。既習の知識が看護に結びついてくることを実感してもらい、学習への意欲に繋がるよう意識した。</p>

<p>授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】</p> <p>実習中のカンファレンスや学内日、最終面談において、次の2点を意識して直接的・間接的に指導を行った。</p> <p>①患者を全人的に捉えたアセスメントを行い、治療を継続するためにこれまでのライフスタイルや価値観に基づいた個別性のある看護実践ができるように指導を行った。</p> <p>②アセスメント、看護診断(PES)、看護の方向性(目標・計画)、看護実践、評価、という看護展開のなかで論理性・整合性のある思考ができるように、全体の流れとそれぞれの位置づけの関係性を意識できるように指導を行った。</p> <p>特に指導を要す学生に対しては実習前・中・後に個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。</p> <p>また、実習施設との指導方針の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように働きかけた。</p>
<p>授業科目名【 看護総合演習〔慢性期・終末期〕 】</p> <p>実習前の計画立案では、自己課題に基づいた実習テーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、実習計画立案に反映できるよう指導した。</p> <p>実習後のレポートでは、自己の実践を振り返り、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもって検証することで今後の課題が明確になるよう指導した。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有できるように計らった。</p> <p>そのほか、臨地との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。</p>
<p>授業科目名【 看護総合実習〔慢性期・終末期〕 】</p> <p>各論実習からステップアップし、根拠に基づいた総合的な看護実践能力を培うことや自己課題の明確化を目標に、各学生の立案した計画に基づき実習が遂行できるように指導や臨地指導者との調整を行った。</p> <p>また、これまで経験できなかったことなどを積極的に見学・実践し、学びを上げられるように助言を行った。</p> <p>実習姿勢としては、これまでより自立した姿勢をもち、専門職の一員として責任感をもって実習にあたるように指導した。</p>
<p>授業科目名【 看護学 】(栄養学科)</p> <p>本年度より各領域から担当者が選出されたことをふまえ、発達段階別の看護を意識して、慢性期患者の看護、がん看護、終末期患者の看護について解説した。それぞれの患者の特徴、看護の特徴、看護師の役割の理解を目標に、概論的な内容に加えて一部具体例を示しながら、栄養学科の学生にもイメージしやすいように工夫して講義した。また、保健福祉医療チームにおける看護と栄養の専門職間の連携の必要性や具体的内容について説明することで、今後の栄養の専門職としての活動に結び付けられるように努めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護研究学会		2007年4月～現在に至る
日本糖尿病教育・看護学会		2007年5月～現在に至る
日本遺伝看護学会		2007年5月～現在に至る
日本看護科学学会		2012年7月～現在に至る
日本看護学教育学会		2013年7月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 看護過程・実習記録に役立つ！実習でよく挙げる看護診断・計画ガイド	共	2015.4	照林社、プチナース (Vol.24 No.5) 2015年5月号特別付録①	①どの病棟・領域にも共通して実習でよく挙げる看護診断について、診断の意味と標準看護計画を解説している。

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>チャートでわかる！症状別観察ポイントとケア</p>	<p>共</p>	<p>2015.4</p>	<p>照林社、プチナース (Vol.24 No.6) 2015年5月臨時増刊号</p>	<p>②監修者名：小田正枝 共著者名：穴井めぐみ, 安藤敬子, 坂田扶実子, 下舞紀美代, 中西順子, 姫野深雪, 古川秀敏, 古庄夏香, 松下智美, 宮川操, 尹玉鐘 (五十音順) ③担当部分：14 非効果的呼吸パターン (P44~P45), 27 口腔粘膜障害 (P75~P76) 総頁数 P82 ④B5版</p> <p>①実習でよく出会う 13 症状について, Before, On, After に分け, 事前に知っておきたい基本知識, 患者の状態を推測できるチャート, アセスメントに必要な観察項目, その後の基本的なケアおよび主要な疾患 (状態) 別に治療・ケアのポイントを解説している。 ②監修者名：小田正枝, 山口哲朗 共著者名：青木久恵, 窪田恵子, 下舞紀美代, 鈴木智子, 姫野深雪, 古川秀敏, 松下智美, 宮川操, 村山由起子, 山口哲朗, 尹玉鐘 (五十音順) ③担当部分：10 体がだるい (P92~P101) 総頁数 P130 ④B5版</p>
<p>(学術論文)</p>				
<p>(翻訳)</p>				

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
キッズ・コーポレーション主催 私立早稲高等学校進路ガイダンス (2年生への模擬授業)	模擬授業 講師	2015年12月11日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生委員 ・実習コーディネーター (実習施設間との連絡・調整, 各領域間との連絡調整, 実習計画, 会議・オリエンテーション日程の調整など) ・オープンキャンパス模擬講義 (2015年度7月18日)

氏名	吉原 悦子	職名	助教	学位	修士(看護学)(大分大学 2007年)
----	-------	----	----	----	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
老年看護学	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケア ・認知症高齢者グループホーム ・排便ケア

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者グループホームにおける排便ケアについての検討

担当授業科目
(前期) <ul style="list-style-type: none"> ・成人・老年看護過程演習 ・基礎学習ゼミⅠ ・看護技術論 ・基礎看護学実習Ⅱ ・母性看護学演習 ・リハビリテーション看護学 (後期) <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学習ゼミⅡ (通年) <ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学実習Ⅰ ・老年看護学実習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【成人・老年看護過程演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・2年次の看護過程論を基盤とし、看護過程の演習を進めた。まず、特に腹水の貯留の程度がよくわからない学生もいたため、患者像をイメージできるように事例の説明を行った。演習中は、毎回、司会を決めて全員が意見を出せるように声をかけた。個人学習とグループ学習の繰り返しのため、個人作業ではなく学習したことを出し合い、検討し、グループで共通理解が進むことを促した。グループワークが進まないところもあり、その場合は、教員がファシリテートした。4グループを3人の教員で指導したが、他の教員と事前に打ち合わせを行い、進行度や学生が困難に感じていることをその都度確認し、共通して指導を行った。 ・技術項目のADLの援助では、技術演習と技術チェックを組み合わせで行った。排泄の援助を担当したが、病院のトイレを再現することが難しかったが、学生が実習に出向いたときに、排泄介助ができるように、車いすの位置、手を伸ばした時に安全に手すりに掴まることができるのかなど、場面、場面で教員が患者役となり学生に説明を行った。右片麻痺の患者さんの設定であったため、健側をどう使って日常生活を送っているのか患者状況のイメージが可能となるように説明を行った。排泄援助は、実際に実習で実施する項目であり、移動を伴うため、麻痺側を保護し安全に援助ができるようにすること、また、羞恥心を伴うため適切な声掛けが行えるように指導を行った。また、おむつがきちんと当たっているのか、寝衣がずれていないか細かなところにも配慮ができることが必要と伝えていった。 ・ドレーン管理では、陽圧と陰圧を意識して、手順のみではなく体内に入っているドレーンを意識しながら扱

えるように指導した。

授業科目名【母性看護学演習】

・新生児の沐浴の演習を行った。特に実施を行っていない順番のまわって来ていない学生には手順を一緒に確認し、終了した学生には指南役としてメンバーの沐浴を見学した。また、その根拠とともに実施中の学生に伝えるように指導した。さらに新生児の首の支え方、背部の洗い方手の使い方などポイントを伝えていった。

授業科目名【リハビリテーション看護学】

・おもに可動域訓練を担当した。外部講師の講義演習のサポートを行った。実際に可動域訓練を行う場合には、ただ、上肢を上下させるのではなく拘縮や麻痺がある患者さんの場合をイメージするように学生に伝えながら一緒に行った。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】

・情報収集からニーズを導き出し、援助を行うまでの過程を実施した。そこで、患者さんのニーズではなく、学生のできることに視点が向いてしまうことがあり、患者さん中心の援助を適宜確認していった。実際のケア提供に向けて既習の知識・技術を振り返り、安全・安楽・自立の視点でケアが提供できるようにサポートしていった。また、分析をする際には患者さんから得られる1つの情報だけではなく、複数の情報から考えるように促した。

授業科目名【老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ】

・回復期の患者さんの特徴を踏まえるため、疾患が関連していること、療養の過程で引き起こされたことなど多くの要因を学生とともに整理を行った。

・学生は、受け持ちの患者さんが「大丈夫」といえば大丈夫と判断する傾向にあり、できないことばかりに捉われたり、サポートがあってできていることも自立と捉えるなど適切な援助を行うための分析があいまいになることが多く、患者さんの行っているADLを細かく聞き取っていった。特にどの程度できて、どの程度サポートが必要なのかケアにつながるように声をかけた。

・障害によりコミュニケーション能力が低下した高齢者を受け持つことが多く、言語でのコミュニケーションが難しかった。学生は「上手くかわること」が大切としており、患者さんが発信するメッセージをキャッチすることが難しかったため学生と一緒にコミュニケーションを図りながら、助言した。

・特に自発性のアプローチではできるだけ患者さんと一緒に「楽しむ時間」とするように働きかけ、単なる場の提供にならないように助言し、患者さんが「やってみたい」、「今までやっていた」（例えば将棋や囲碁など）ことが学生自身がわからなくても調べてわらうとする方向へ助言し、患者さんと楽しむことを勧めた。

・学生が受け持ち高齢者の持つ加齢や疾病後遺症の影響からくる身体状況により生活に及ぼす影響を考え、退院後の生活をイメージしながら、いま、どんな援助が必要かを検討し、実施できるように心がけた。また、退院後にどのようなサービスを提供可能かなど介護保険制度についても考えていった。

・施設実習では、2人で1人の療養者を受け持つ。施設での生活支援がどのように行われているのかを学ぶためにも積極的に加わることができるように働きかけた。また、看護と福祉がどのように連携をとり療養者の健康管理を行っているのかを考え、3部署（特養・ケアハウス。グループホーム）の特徴をカンファレンスで共有し、それぞれの施設の特徴が理解できるように努めた。

授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】

・学生10名に対し、教員1名で担当し、入学して間もない学生であり、大学生活に関する悩みや不安などをゼミ生とともに共有し解決できるように働きかけた。また、学習や大学生活、進路について2年生や4年生との交流を行い、不安を解消するように努めた。

・基礎ゼミⅠでは、大学で学ぶ基礎的スキルを獲得できるように授業を計画し、かかわっていった。

・基礎学習ゼミⅡは、ディベート発表に向けてディベートの経験がある学生を中心にグループ討議を行っていった。文献を調べていくときに、ネット上での情報に偏りがちであったため、図書館での文献検討を進めていった。

授業科目名【診療関連技術論】

・「皮下注射」注射器・注射針・薬液を使用するため、事故防止のため最新の注意を払っていくことを指導した。また、患者さんには侵襲を伴う技術のため、声かけや身体状態の確認をきちんと行うように指導した。また、患者役の4年生からも助言が行いやすいように声をかけていった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護学教育学会 日本老年看護学会 日本老年社会科学会 日本認知症ケア学会 日本看護科学学会		2001. 4～現在に至る 2003. 4～現在に至る 2003. 4～現在に至る 2006. 4～現在に至る 2008. 6～現在に至る

2 0 1 4 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名 称	概 要
(著書)				
(学術論文) ①ディベートを活用した師年次教育の試みー看護大学生のクリティカルシンキング志向性に着目してー	共	2015 年度分として掲載予定		①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのディベートの活用について、1年次の学生100名を対象に質問紙調査を実施。 ディベート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目し、ディベートの効果と指導上の課題について検討・報告した。 ②一期崎直美、石井美紀代、吉原悦子、小野正子、布花原明子、村山由起子、鹿毛美香、塩田昇、松尾綾、小田日出子 ③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能
(翻訳)				
(学会発表) ①認知症高齢者グループホームにおける入居高齢者の排便状況	共	2015 年 6 月	第 20 回日本老年看護学会学術集会 (於：横浜)	①GHに入居する認知症高齢者の排便ケアの課題を明らかにした。便の性状が泥状から水様の入居者は刺激性の下剤を使用していた。便の性状を整えることは継続課題といえる。 ②吉原悦子、丸山泰子、石井美紀代、原等子 ③老年看護学会学術集会講演集第20回 (p169)
②ディベートを活用した師年次教育の試みー看護大学生のクリティカルシンキング志向性に着目してー	共	2015 年 8 月	第 46 回日本看護学会 (於：奈良)	①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのディベートの活用について、看護学生を対象に質問紙調査を実施した。発表では、特に、ディベート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目して分析

2014年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
③アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価 —主観・客観評価の両面からみた情意領域（関心・意欲・態度）への教育効果—	共	2015年8月	第46回日本看護学会（於 奈良県）	<p>した結果を中心に報告した。</p> <p>②一期崎直美、石井美紀代、吉原悦子、小野正子、布花原明子、村山 由起子、鹿毛美香、塩田昇、松尾綾、小田日出子</p> <p>③第46回 日本看護学会集録（看護教育）（P164）</p> <p>①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅠ」でスタディスキル・アカデミックスキルの修得・育成を目標に取り組んだアクティブラーニング（以下AL）と振り返りポートフォリオ（以下PF）の教育効果について、情意領域（関心・意欲・態度）の観点から、主観・客観両面での評価を報告した。</p> <p>②布花原明子・塩田昇・村山由起子・小田日出子・石井美紀代・一期崎直美・小野正子・鹿毛美香・松尾綾・吉原悦子</p> <p>③第46回 日本看護学会集録（看護教育）（P162）</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は 学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
第 28 回介護福祉国家試験（実技試験）	実地試験委員	平成 28 年 3 月 5 日（土）～ 平成 28 年 3 月 6 日（日）

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

2 年生アドバイザー

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 鹿毛 美香	職名 助教	学位 修士(医科学)(久留米大学2008.3月)
----------	-------	--------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
看護学 産業保健学 労働衛生学 環境医学 公衆衛生学 公衆衛生看護学	労働衛生 ワークストレス 雇用不安 疲労蓄積 大学生の健康 現任教育 住民の健康 保健行動

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・労働者の雇用不安やワークストレスを中心に労働と健康の関連について考察する。 ・産業保健師の活動実態の把握や産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力等を考察する。 ・行政における母子保健および介護予防について施策の導入も含め考察する。

担当授業科目
看護技術論, 生活援助技術論, ヘルスアセスメント, 診療関連技術論, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 基礎学習ゼミⅠ, 基礎学習ゼミⅡ, 感染と免疫, 公衆衛生看護学概論, 疫学演習, 研究の基礎, 在宅看護学演習, 在宅看護学実習, 公衆衛生看護技術演習, 地区活動論演習, 公衆衛生看護学実習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については, 実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 看護技術論, 生活援助技術論, ヘルスアセスメント, 診療関連技術(演習) 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習では, 何に向かって学習していくのか, 目的・目標を学生に適宜に明示し, 学生が学習の方向性を見失わないように努めた。 2. 看護技術の習得の際には, テクニックだけでなく, その行為の根拠を明確にするとともに行為を提供する相手は「人」であることを意識づけた。また, 実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し演習モデルとするなど看護実践能力が身につくよう努めた。
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習指導者と密にコンタクトをとり, 学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。 2. 実習前に学生の講義・演習内容を確認し, 学生の準備状況を理解するよう努め, 実習時は, コミュニケーションを通じて患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し, 個別の学習状況に応じた支援に努めた。 3. 患者のニーズに応じた日常生活援助ができるよう, 看護形態機能学とヘルスアセスメントなどの基礎看護の講義内容を考慮した内容の発問をし, 学生のアセスメントの視点を広げ, 学習効果を上げるよう努めた。 4. 学生がコミュニケーションを通じて患者のニーズを見出しやすいよう, また臨床指導者と学習状況を共有しやすいよう, ワークシートとは別にペーパーに患者の全体像を絵で描かせるなど視覚的教材を準備した。
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習指導者と密にコンタクトをとり, 学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。 2. 実習前に学生の講義・演習内容を確認し, 学生の準備状況を理解するよう努め, 実習時は, 基礎看護学実習Ⅰで獲得したコミュニケーション技術をどのように生かしていくのかを踏まえ, 患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し, 個別の学習状況に応じた支援に努めた。 3. 患者のニーズに応じた日常生活援助ができるように, 基礎看護関連および疾病総論・各論の講義内容を考慮した内容の発問をし, 学生のアセスメントの視点を広げ, 学習効果を上げるよう努めた。

授業科目名【 基礎学習ゼミ I および II 】

1. 専門科目を学習する上でも重要な基礎学習の獲得に向けて、個人でのスキル獲得が困難な学生には、グループダイナミクスの活用、個別的な学習支援（面接含む）を交え行った。また、その際には発問内容やタイミングなどを考慮した。演習内容については、段階的にスキルを学習できるよう計画した。
2. 基礎学習ゼミ I では、特に大学で学ぶための基礎的スキル（聞く・読む・書く・話す・考える）の強化とメディア・リテラシーの習熟を図ることに力点を置き、計画した。
3. 基礎学習ゼミ II では、基礎学習ゼミ I で獲得した基礎的スキルを基に客観的分析・論理的思考・批判的思考・プレゼンテーションスキルを高めていけるようディベートを試みた。その中で、肯定派・否定派のベストチームを選定し、受講学生全員の前で対戦させることで、学生自身が学生のロールモデルとなり、学習効果を高めることができるよう工夫した。

授業科目名【 感染と免疫（実習） 】

1. 初学者であることを念頭に置き、学生自身の体験や実験内容と看護をつなげることを目的とし実施した。
2. 教育の際には、テクニックだけでなく、その行為の根拠を明確にするとともに、その行為が感染予防の第一歩であることを意識づけた。

授業科目名【 公衆衛生看護学概論 】

1. 産業保健および産業看護について、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、図式や画像を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした。また、産業看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにペーパーシュミレーションを取り入れた。
2. 産業保健師の活動の一部を実践させることで、ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた。例えば、校内の職場巡視を実施し、3 管理の視点で改善提案書を記録するなど。

授業科目名【 疫学演習 】

1. 保健師（主に行政・産業）が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法、また、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、ペーパーシュミレーションを取り入れた。
2. 協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように以下のことを試みた。協同学習が未体験の学生を考慮し、まず Think-Pair-Share を用い、グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した。
3. 授業資料の 1 枚目には、毎回、新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ、今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるように試みた。

授業科目名【 研究の基礎 】

1. 今まで履修した学生の講義・演習内容を確認し、学生の準備状況を理解するよう努め、複数の教員で担当するため、単元のつながりや使用語彙に考慮し、講義構成を検討した。また、この科目の構成が講義→演習→講義→演習となっているため、講義の中でも次の演習に向けての実践練習を組み入れる等、学生が思考できるよう努めた。
2. 講義の際には、適宜学習の理解度を確認し、それに合わせて講義内容を変更するとともに、テクニックだけでなく、その行為の根拠を明確にするとともに、その行為が感染予防の第一歩であることを意識づけた。

授業科目名【 在宅看護学演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し、ペーパーペイシエントとするなど看護実践能力が身につくよう努めた。演習の際は、何に向かって学習していくのか、目的・目標を学生に適宜に明示し、学生が学習の方向性を見失わないように努めた。
3. 在宅看護の現場では、治療を優先する病棟看護とは異なり必要最低限の情報しかカルテに記載されていない。そのため、療養者の全体像をとらえるために、どのような患者情報が必要なのか、学生自身が疑問に思い、知りたいと思う情報をどのようにして現場で収集するのかを経験させるために、カード形式で教員とやり取りをする方法を試みた。その情報の必要性を明確にさせ思考できるように発問内容や想起させる場面を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた。

授業科目名【 在宅看護学実習 】

1. 病棟実習とは違い、療養者の生活の場に看護者が伺うということがどのような意味を持つのか、また生活経験が少ない学生に対し、生活に必要なしきたりなども含め学生に対する実習前の指導に時間をかけた。
2. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
3. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
4. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場면을再構成しやすくし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
5. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。
6. 実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を実習中も時間をとり、在宅看護学領域の教員間で検討を重ね、指導の方向性を調整した。

授業科目名【 公衆衛生看護技術演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、協同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
3. 家庭訪問技術に関しては、実習で必ず経験する新生児～4 ヶ月児までの母子への訪問を題材とし、電話によるアポイントから次回の訪問の予約まで、一連の流れをロールプレイ形式で行うことで、この科目の学習と実習との連動を図った。
4. 母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては、現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし、解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた。これは、最近の学生が正誤にこだわることを打破したいための策である。
5. 健康教育（集団）では、地区活動論演習と連動させ、学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど、何のために健康教育をするのかを意識づけさせ、教育スキルだけを学習するのではなく、保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った。

授業科目名【 地区活動論演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、協同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
3. 保健師に必要な情報収集能力を獲得できるよう演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。

授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】

1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
2. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
3. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場면을再構成しやすくし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
4. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。
5. 公衆衛生看護学実習の実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を教員・助教間で検討した。その結果、昨年度試みた実習スケジュールおよび行動目標表と実習記録用紙を継続活用した。
6. 講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。

授業科目名【 その他 】

1. 自分自身が看護職として、学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本産業衛生学会	代議員 (2008年11月～)	2003年4月～現在に至る
日本産業衛生学会産業看護部会		2003年4月～現在に至る
日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会	役員幹事：広報担当 (2006年4月～)	2003年4月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2008年4月～現在に至る
日本産業保健師会		2013年1月～現在に至る
日本産業看護学会		2014年4月～現在に至る
日本公衆衛生看護学会		2015年5月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価—主観・客観評価の両面からみた情意領域 (関心・意欲・態度) への教育効果—	共	2015. 8	第46回日本看護学会 (於 奈良県文化会館)	①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅠ」でスタディスキル・アカデミックスキルの修得・育成を目標に取り組んだアクティブラーニング(以下AL)と振り返りポートフォリオ(以下PF)の教育効果について、情意領域(関心・意欲・態度)の観点から、主観・客観両面での評価を報告した。 ②布花原明子, 塩田昇, 村山由起子, 小田日出子, 石井美紀代, 一期崎直美, 小野正子, 鹿毛美香, 松尾綾, 吉原悦子 ③第46回 日本看護学会集録(看護教育) (P162)
ディベートを活用した初年次教育の試み—看護大学生のクリティカルシンキング志向性に着目して—	共	2015. 8	第46回日本看護学会 (於 奈良県文化会館)	①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのディベートの活用について、看護学生を対象に質問紙調査を実施した。発表では、特に、ディベ

2015年度 研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価－客観評価と主観評価の比較から見えた情意領域（関心・意欲・態度）育成への課題－	共	2015. 8	第46回日本看護学会（於 奈良県文化会館）	<p>ート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目して分析した結果を中心に報告した.</p> <p>②一期崎直美, 石井美紀代, 吉原悦子, 小野正子, 布花原明子, 村山 由起子, 鹿毛美香, 塩田昇, 松尾綾, 小田日出子</p> <p>③第46回 日本看護学会集録(看護教育) (P164)</p> <p>①看護学科「基礎学習ゼミⅠ」でのALとPFを組み合わせた初年次教育の評価について, 客観的・主観的指標を分析し結果および課題を報告した.</p> <p>②塩田昇, 布花原明子, 村山由起子, 小田日出子, 石井美紀代, 一期崎直美, 小野正子, 鹿毛美香, 松尾綾, 吉原悦子</p> <p>③第46回 日本看護学会集録(看護教育) (P163)</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1) 地域自立型の介護予防活動を指して～介護予防サービスに関する仮想評価法を用いた基礎調査～	北九州市	○佐藤優, 伊藤直子, 鹿毛美香	500,000
2) 保健師課程学生を対象とした卒業生保健師によるキャリア支援の試み～職業的アイデンティティの形成に関する有効性の検証～	西南女学院大学	○布花原明子, 鹿毛美香, 佐藤優, 伊藤直子, (平島美也子), (亟々美香)	218,800

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
<p>(公社) 日本産業衛生学会九州地方会 産業看護部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。 産業看護部会本部(全国)と協働し、産業看護職に関する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。 	役員幹事	2006年4月～現在至る
<p>(一社) 日本私立看護系大学協会</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流委員会として、グローバル社会のニーズに対応するための看護教育のあり方などの情報発信の企画から評価までを実施する。 	国際交流委員会事務局担当 (教育、学術および文化の国際交流事業)	2014年4月～現在に至る
<p>第28回介護福祉士国家試験(実技試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実技試験の採点を行う。 	実地試験委員	2016年3月3日～3月5日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職, 委員, 学生支援など)
<ul style="list-style-type: none"> 生協理事

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 大塚 和良	職名 助教	学位 修士(医学)(佐賀大学 2008年)
----------	-------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
臨床看護学、看護情報学、教育工学	eラーニング、教育効果測定、視聴覚教材 医療安全、医療ミス、インシデント・レポート

研究課題
看護基礎教育過程におけるeラーニングの教育効果に関する研究 医療電気機器の安全な使用に関する研究 電子カルテ情報の二次利用による看護の質評価に関する研究

担当授業科目
看護研究の基礎 救急・クリティカルケア看護学 救急・クリティカルケア看護学演習 成人慢性期看護方法論 成人・老年看護学演習 成人急性期看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【看護研究の基礎】 看護における量的研究の研究デザイン、プロセスについて解説した。量的研究の研究方法を理解する上で重要となる統計学について振り返りつつ、実際の研究報告を事例として取り上げて解説した。</p>
<p>授業科目名【救急・クリティカルケア看護学】 生命危機の状態にある人間の反応、心身の回復過程、医学的介入や治療処置の過程、生命危機の状態にある患者の生命を守り生活を支えるための援助方法について講義を行った。 既習の知識に基づき、救急看護・クリティカルケア看護領域の主要病態によって生命危機の状態にある患者のフィジカルアセスメント、処置・ケアの方法について解説した。 クリティカルケア看護に特徴的な生体侵襲と生体反応・せん妄・人工呼吸器関連肺炎・肺保護戦略について解説した。 呼吸・循環障害に対するアセスメントとケア、クリティカルケア看護領域における主要な病態に対するフィジカルアセスメント・処置・ケアについて解説を行った。</p>
<p>授業科目名【救急・クリティカルケア看護学演習】 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者に対する迅速かつ適切なアセスメントための基礎的な学習および看護援助の基本をグループワークで展開した。</p>

<p>授業科目名【成人慢性期看護方法論】</p> <p>腎・排泄機能に障害を持つ人の看護について、腎・排泄機能のメカニズム、CKD の概念、診断、治療、看護について講義を行った。また、末期腎不全の治療としての血液透析療法、腹膜透析療法、腎移植の概要と看護について講義を行った。</p>
<p>授業科目名【成人急性期看護学実習】</p> <p>成人期あるいは高齢期にある人の身体的、心理・社会的特徴の理解を基盤として全体像を描き、対象の身体的・心理的・社会的特長を理解した上で、看護問題および目標を定め、根拠の明確な看護介入を行う基本的な看護過程を展開することができる様実習指導を行った。また、急性期、回復期における看護過程を展開し、個別性のある看護介入の実施が行えるよう指導を行った。臨床における看護の見学あるいは実践を通して「診療の補助」、「日常生活の援助」技術の実践能力を高められるよう実習指導を行った</p>
<p>授業科目名【成人・老年看護学演習】</p> <p>さまざまな健康レベルにある成人期・老年期の対象者および家族の特性を、身体的、心理的および社会的側面から理解し、対象者および家族の健康の回復、生活再構築、自己管理や自立に向けた援助技術を安全・安楽をふまえて適切に実勢出来るように技術演習指導を行った。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習 I】</p> <p>コミュニケーションに主眼を置いた実習であったため、円滑なコミュニケーションがとれるよう指導した。1年次の学習内容を確認し、既習の知識に戻れるように指導を行った。</p> <p>学生の率直な感想を重視し、看護への興味関心が深まるように関わった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本集中治療医学会		2008年2月～現在に至る
日本呼吸ケアリハビリテーション学会		2009年8月～現在に至る
日本看護科学学会		2009年8月～現在に至る
看護学教育学学会		2010年4月～現在に至る
日本医療マネジメント学会		2010年4月～現在に至る
日本看護技術学会		2012年7月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表) 1. 「看護学生が持つ「看護管理」と「看護マネジメント」に対するイメージ(第2報)ーテキストマイニング手法を用いたイメージの可視化ー」	共著	2015年9月	第46回日本看護学会-看護管理-学術集会.	看護管理分野で使用する「看護管理」と「看護マネジメント」用語に対するイメージを定量的に分析し可視化した。看護基礎教育課程の中で看護管理と看護マネジメントの内容や意味の違いを正しく教授することで学生のイメージを変化させることが期待される。 ○大塚和良,飯野英親,
2. 「看護学生が持つ「看護管理」と「看護マネジメント」に対するイメージ(第1報)ーSD法を用いたイメージ分析ー」	共著	2015年9月	,第46回日本看護学会-看護管理-学術集会.	看護管理分野で使用する「看護管理」と「看護マネジメント」用語に対するイメージを定量的に調査・分析した。「看護マネジメント」は3因子構造だったが,【拒絶性】因子は7形容対で構成されたことから,「看護管理」よりも「看護マネジメント」の方が,イメージとして構成しにくい用語であることが推察された。 飯野英親,○大塚和良

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

--

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
第 28 回介護福祉士国家試験 (実技試験)	実地試験委員	2016年3月5、6日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
学生個人情報保護委員会 2015年4月～2016年3月 3年生アドバイザー 2015年7月～2016年3月 認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」講師

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	塩田 昇	職名	助教	学位	修士(工学)九州工業大学大学院2008年
----	------	----	----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
セルフケアと看護	セルフケア, 看護

研究課題
セルフケア行動と行動特性を人で明らかにする。 セルフケア行動と情動特性を人で明らかにする。

担当授業科目
基礎学習ゼミⅠ (前期)(看護学科)
基礎学習ゼミⅡ (後期)(看護学科)
基礎看護学実習Ⅰ (後期)(看護学科)
基礎看護学実習Ⅱ (前期)(看護学科)
成人・老年看護学演習 (前期)(看護学科)
成人急性期看護学実習 (後期)(看護学科)
成人慢性期看護学実習 (後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【基礎学習ゼミⅠ】</p> <p>学生が主体的に学ぶための基礎的スキル(聞く・読む・書く・話す・考える)が強化されるよう意識して関わった。基礎学習ゼミでは連絡・調整・教材の準備などが重要となるため、授業が円滑に進むように準備を行った。</p>
<p>授業科目名【基礎学習ゼミⅡ】</p> <p>学生が主体的に学ぶための基礎的スキル(聞く・読む・書く・話す・考える)の定着するように意識して関わった。ディベートではグループの学習意欲を維持・向上するために、学生の意見を良く聴き、誠実に関わっていった。基礎学習ゼミでは、成績不振者の個別指導を行い、悩みごとの相談にも積極的に行った。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】</p> <p>学生がコミュニケーションを通して自己を振り返ることができるよう、プロセスレコードを用いて指導した。バイタルサイン・援助技術などできるだけ経験できるように臨床と調整を行い、基礎的な技術が身につくよう指導を行った。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】</p> <p>基礎看護学実習Ⅱでは、基礎看護学実習Ⅰで学んだバイタルサインや生活援助技術を的確に実施できるよう指導した。コミュニケーションや看護技術を基盤として、情報収集の支援、アセスメントの指導を行った。看護過程の展開につなげられるように学生と関わるように努力した。</p>

<p>授業科目名【成人慢性期看護学実習】</p> <p>慢性期看護学実習は3週間で事例を展開する。慢性期の特徴を踏まえ、情報収集し、アセスメント、全体像を描くことができるよう指導した。慢性期実習では複雑な事例を受け持つことも多く、学生と面接を繰り返し、病態の理解と看護の展開を支援した。また、対象理解で疾患面だけに偏らないように、学生に指導した。</p>
<p>授業科目名【成人急性期看護学実習】</p> <p>急性期看護学実習は周手術期の対象を受け持ち、2週間で事例を展開する。3週目にICUと手術室で実習を行う。既習の知識が事例を受け持つ中で統合されるよう、学生に発問を繰り返し考えるよう関わった。集中治療室と手術室実習では学生が環境に適応できるよう臨床と調整を図った。実習後の学内ではさらに知識と経験の振り返りを行った。</p>
<p>授業科目名【成人・老年看護学演習】</p> <p>成人・老年看護学演習では、学生に効果的に関わるができるよう、教員間でコミュニケーションを取りながら学生に指導を行った。技術演習では教材の準備、ポスターなど教材の作成、血糖測定などの技術を的確に実施できるよう指導を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本生理学会	なし	2007年11月～現在に至る。
日本看護技術学会	なし	2013年7月～現在に至る。
日本看護科学学会	なし	2012年9月～現在に至る。
日本心身医学会	なし	2016年1月～現在に至る。

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(学術論文)</p> <p>1. Water spray-induced grooming is negatively correlated with depressive behavior in the forced swimming test in rats. 【査読有】</p>	共著	2015. 11	The Journal of Physiological Sciences	<p>①非ストレス下のセルフケア行動と情動特性の関係を神経行動学的に調査した。非ストレス下でのセルフケア行動を多くする個体にはうつ抵抗性があり、異なるうつ指標検査の結果より、セルフケア行動は報酬系とうつ抵抗性に関与する神経伝達物質の神経回路を共有する可能性を初めて証明した。</p> <p>②共同研究者名 塩田昇, 粟生修司, 増田明, 成清公弥</p> <p>③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能</p>
<p>(学会発表)</p> <p>1.セルフケア行動の情動特性：うつ抵抗性との関連</p>	共著	2016. 1	第55回 日本心身医学会九州地方会	<p>①セルフケア行動時の情動特性を行動試験の指標をもとに測定し、セルフケア行動を多くするラットにうつ抵抗性があることを明らかにした。</p> <p>②共同発表者名 塩田昇, 粟生修司</p> <p>③第55回 日本心身医学会九州地方会 抄録集(p57)</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2.セルフケア行動における前頭前野モノアミン動態	共著	2016. 1	第55回 日本心身医学会九州地方会	<p>①セルフケア行動時の前頭前野ドーパミン・セロトニン動態を前頭前野でマイクロダイアリシスにより測定した。霧吹きによって誘発されたグルーミングでは前頭前野でドーパミン・セロトニンともに上昇し、非ストレス下でのセルフケアに報酬系を介する神経経路が関与する可能性が示唆された。</p> <p>②共同発表者名 粟生修司, 塩田昇</p> <p>③第55回 日本心身医学会九州地方会 抄録集(p57)</p>
3. アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価 —客観評価と主観評価の比較から見えた情意領域（関心・意欲・態度）育成への課題—	共著	2015. 8	第46回日本看護学会 (於 奈良県文化会館)	<p>①看護学科「基礎学習ゼミⅠ」でのALとPFを組み合わせた初年次教育の評価について、客観的・主観的指標を分析し結果および課題を報告した。</p> <p>②共同発表者名 塩田昇, 布花原明子, 村山由起子, 小田日出子, 石井美紀代, 一期崎直美, 小野正子, 鹿毛美香, 松尾綾, 吉原悦子</p> <p>③第46回 日本看護学会集録（看護教育）(P163)</p>
4. アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価 —主観・客観評価の両面からみた情意領域（関心・意欲・態度）への教育効果—	共著	2015. 8	第46回日本看護学会 (於 奈良県文化会館)	<p>①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅠ」でスタディスキル・アカデミックスキルの修得・育成を目標に取り組んだアクティブラーニング(以下 AL)と振り返りポートフォリオ(以下 PF)の教育効果について、情意領域(関心・意欲・態度)の観点から、主観・客観両面での評価を報告した。</p> <p>②共同発表者名 布花原明子・塩田昇・村山由起子・小田日出子・石井美紀代・一期崎直美・小野正子・鹿毛美香・松尾綾・吉原悦子</p> <p>③第46回 日本看護学会集録(看護教育)(P162)</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5. デイバートを活用した初年次教育の試み—看護大学生のクリティカルシンキング志向性に着目して—	共著	2015. 8	第46回日本看護学会 (於 奈良県文化会館)	①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのデイバートの活用について、看護学生を対象に質問紙調査を実施した。発表では、特に、デイバート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目して分析した結果を中心に報告した。 ②共同発表者名 一期崎直美, 石井美紀代, 吉原悦子, 小野正子, 布花原明子, 村山由起子, 鹿毛美香, 塩田昇, 松尾綾, 小田日出子 ③第46回 日本看護学会集録(看護教育)(P164)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし	なし	なし	なし

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし	なし	なし	なし

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
なし	なし	なし

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

看護学科2年生アドバイザー 2015年4月1日～現在に至る

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	原山 裕子	職名	助教	学位	修士(看護学)	日本赤十字九州国際看護大学大学院	2009年
----	-------	----	----	----	---------	------------------	-------

研究分野	研究内容のキーワード
新生児看護 小児看護 遺伝看護	カンガルーケア プラダーウィリー症候群

研究課題
カンガルーケア研究においては、近年になり安全性についての議論が高まっており、その根拠や効果、方法論について考察する。 プラダーウィリー症候群研究においては、プラダーウィリー症候群児のケアと児と家族の QOL の向上につながるような養育の指針について考察する。

担当授業科目
小児看護学実習・小児看護学演習・小児看護学方法論・小児看護学概論 母性看護学演習・基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・生活援助技術論・ヘルスアセスメント 看護形態機能学Ⅱ・感染と免疫・看護学(栄養学科)・乳児保育(福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 小児看護学実習 】</p> <p>看護学科3・4年生の学生に対し実習指導に関わった。学生の実習目標の到達状況に応じて、実習が効果的に進められるよう臨床実習指導者とともに環境調整に努めた。小児看護の実習では、小児期の患児との関わりに困難さを感じ生も多く、実際に患児やその家族との関わりを見せながら、学生が児の成長発達に合わせたコミュニケーションがとれるように関わるようにした。また、受け持ち患児とその家族への理解を深め、健康問題を明確にし、看護展開して援助を実施していく上で、既習の知識を活用できるよう、主体的に学習できるように努めた。学内で習得した知識を受け持ち患児に提供できるように支援した。NICU 見学実習では、事前に基本的な知識の確認を行った上で臨めるようにし、見学した看護場面について振り返りの場を持つよう努めた。実習中の学生のカンファレンスで学生が体験した看護場面をグループの学生同士で共有し、問題意識を持ち、自らの考えを発展できるように、学習が主体的に進められるように関わった。</p>
<p>授業科目名【 小児看護学演習 】</p> <p>看護学科3年生の学生に対して、小児成長発達段階毎に紙面上患児を元にグループワークによる看護過程展開を指導した。臨床の看護場面で直面する可能性の高い事例の看護展開するため、実際の場面がイメージしやすいように具体的に助言し、グループ内での討議を促すように努めた。さらに、既習の知識の活用ができるように工夫した。また、技術演習においては、臨床での場面を想定し指導した。技術習得には根拠を明確にすると共に、対象者の健康状態・児の成長発達に合わせて関わるよう指導し、技術の習得を促した。技術の習得が十分でない場合は、個別に指導し、一定レベルの技術を習得できるようにした。技術の習得の確認のため、技術試験を行った。</p>
<p>授業科目名【 小児看護学方法論 】</p> <p>看護学科2年生の学生に対して、低出生体重児の看護について講義した。早産児・低出生体重児のイメージができるように、具体的な例を用いて、児だけでなく家族を含めた看護を解説した。また、NICU の環境や実際の看護が具体的にイメージできるように、写真を多用した。さらに、低出生体重児用と新生児用の看護物品の紹介も行い、実際の臨床経験も取り入れながら講義した。また、低出生体重児の生理学的な特徴や発達を促す看護、保育器の機能や使い方についても解説し、新生児の看護の基本となる基礎的知識を習得できるように講義内容を工夫した。</p>

<p>授業科目名【 小児看護学概論 】</p> <p>看護学科2年生の学生に対して、赤ちゃんふれあい授業の際に関わった。環境を調整し、学生が赤ちゃんに興味を持てるよう、必要時、学生と共に赤ちゃんを含めた親子と接するようにした。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学演習 】</p> <p>看護学科3年生の学生に対して、沐浴の技術演習指導に関わった。モデル人形を使用した沐浴演習では、技術習得のため根拠を明確にすると共に、安全への配慮が行えるように関わった。個別に指導し、一定レベルの技術を習得できるように関わった。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ 】</p> <p>基礎看護学実習Ⅰでは、看護学科1年生の学生に対して実習指導を行った。実習前に学生の学習状況を確認し、個々の学習状況に応じた支援に努めた。学生は学内での演習場面と臨床現場での実際の看護場面の違いに戸惑も多いため、個別に具体的に助言し、受け持ち患者との看護場面を通して、学生が自己の関わりを振り返り、自課題に気づけるように支援した。</p> <p>基礎看護学実習Ⅱでは、看護学科2年生の学生に対して実習指導を行った。学生の学習状況を確認し、学生個々の学習状況に応じた支援に努めた。臨床現場での実際の看護場面において、学生に具体的に助言し、受け持ち患者との看護場面を通して、学生が自己の関わりを振り返り、自らの課題に気づけるように支援した。また、患者のニーズに応じた日常生活援助を導き出し、個別のケアが実施できるように支援した。</p>
<p>授業科目名【 生活援助技術論 】</p> <p>看護学科1年生に対して、日常生活の援助を習得できるように演習で関わった。患者役となった学生の体験を学生間で共有し、患者の立場もイメージできるような声かけを心がけ、必要時、具体的な説明を行った。また、安全・安楽への配慮や環境への配慮などもできるよう助言した。学生が技術習得だけでなく、既習の知識を活用できるように指導することを心がけた。</p>
<p>授業科目名【 ヘルスアセスメント 】</p> <p>看護学科1年生に対して、バイタルサイン測定技術を習得できるように演習で関わった。正確に測定できるよう細かく学生の演習実施状況を把握し、学生の測定状況を教員も共有できるように関わった。バイタルサイン測定時の患者の状況もイメージできるような声かけを心がけ、具体的な説明を行った。学生が技術習得だけでなく、既習の知識を活用できるように指導することを心がけた。</p>
<p>授業科目名【 看護形態機能学Ⅱ 】</p> <p>看護学科1年生に対して、九州大学医学部での解剖見学実習の引率を行った。特殊な環境下での見学となるため、学生の健康状態を把握し、できるだけ意欲的に見学ができるよう声かけを行った。</p>
<p>授業科目名【 感染と免疫 】</p> <p>看護学科1年生に対して、細菌の観察と実験で関わった。安全に実験が行えるように学生の状況を把握し、環境への配慮も行った。また、学生が観察を行う際には既習の知識を活用できるように声かけを行った。</p>
<p>授業科目名【 看護学(栄養学科) 】</p> <p>栄養学科3年生の学生に対し、小児看護について講義を行った。成長発達を具体的に捉えることができるよう、具体的な例を用いて解説し、成長発達に伴って変化する小児の不慮の事故や対応などについて解説を行った。小児看護の特徴や病院で行われている看護なども具体的に講義に取り入れ、日常生活に密着した話題を交えながら、命を守るための看護を考える機会になるよう努めた。</p>
<p>授業科目名【 乳児保育(福祉学科) 】</p> <p>福祉学科3年生の学生に対し、小児の心肺蘇生や異物除去の演習で関わった。保育現場で想定される具体的な例を用いて解説し、AEDの使用方法についても練習器を用いて演習した。また、緊急時の対応について、具体的方法を演習を通して解説した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期

日本看護科学学会 日本小児看護学会 日本新生児看護学会 遺伝看護学会		2009年4月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2010年10月～現在に至る 2010年10月～現在に至る
---------------------------------------------	--	--------------------------------------------------------------------

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(報告書) 稀少染色体異常児を養育する母親のQOL研究に関する基礎的検討	共著	2015年6月	平成26年度西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所報告書	①ダウン症者のQOLに関する研究の現状を調査した。 ②共同発表者名：飯野英親、武田康男、 <u>原山裕子</u> ③平成26年度西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所報告書，P.6-7
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
プラダーウィリー症候群をもつ人に対するトランジション・ケアプログラムの開発	文部科学省科学研究費基盤研究C 研究課題番号：15K11742	○飯野英親、(小野淳二)、 <u>原山裕子</u>	3,900,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
プラダーウィリー症候群児の養育に関する日本版ガイドラインの作成とその妥当性の検証	文部科学省科学研究費若手研究B 研究課題番号：24792532	1,500,000	2012年4月～2017年3月

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
JSISH-ITC 日本医療教授システム学 会国際トレーニングセンター AHA kitakyushu	BLS インストラクター	

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

物品係

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 丸山 泰子	職名 助教	学位 修士(保健看護学) 川崎医療福祉大学 2011年
----------	-------	-----------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
老年看護学	認知症ケア 介護保険施設看護職の専門性

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームにおける排便ケアに関する研究を通し、認知症高齢者の健康管理について探求する。 ・介護保険に関連する施設・事業所に従事する看護職の役割や専門性について探求する。

担当授業科目
成人老年看護学演習(前期) 診療関連技術論(前期) 基礎看護学実習Ⅱ(前期) 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ(後期) 看護学(栄養学科)オムニバス形式(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 成人老年看護学演習(前期) 】 1. 看護過程: 2年次に看護過程論の講義にて看護過程の構成要素やプロセスは学習済みであるが、それぞれが独立したものでなく、前の段階を受けて進んでいくものであることを意識してステップが進むよう指導していくことに努めた。特にアセスメントでは、各パターンで考えるべき視点、疾患のメカニズムを踏まえた分析がなされているかに重点を置き、指導を行った。2人の教員で3グループ(19名)を担当し、教員間で学生の学習状況を連絡しあいながら、学生個々の理解状況の把握に努め、状況にあった指導が行えるよう努めた。 2. 技術演習(ADL): ADL援助技術の演習項目(①臥床～車椅子移乗、②トイレ排泄、③更衣、④食事援助)の中で嚥下障害のある患者への食事援助に関する演習を担当した。事例は脳梗塞、右半身麻痺の患者の設定であり、病態の理解とアセスメント(根拠)を踏まえての援助実践になっているか確認しながら指導した。また、精神的配慮はできているか、安全・安楽・自立の原則に則って行えているか、途中間いかけを行い、学生が自らのケアを振り返り、行動を修正しながら演習できるように配慮した。
授業科目名【 診療関連技術論(前期) 】 「吸入、吸引」「静脈内持続点滴、静脈内採血」「皮下注射、筋肉内注射」 技術指導のみでなく、患者の安全・安楽への配慮や、学生間で援助を受ける患者の思いや立場をイメージしながら、コミュニケーションを活かした技術実践となるように意識して指導を行った。また、実習室での学生の実習姿勢等に対しても具体的説明と注意喚起を行った。

授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ（前期） 】

2年生を対象に看護過程を展開し、個々に応じた日常生活上のニーズを導き出し、ケアを実践する実習である。カルテ情報のみでなく、患者とのコミュニケーションや観察から学生自身が得た情報が分析にいかされているか、情報収集から看護計画立案・実施までの過程をつながりとして学生が認識し看護過程の展開ができていないかに注目して確認し、指導を行った。また、既習の知識を随時振り返り、その知識が実習に活用されているか確認し、不足部分に関しては学習を補いながら実習が進むよう関わった。臨床指導者へは学生の学習進行状況を説明し、臨地指導が円滑に進むよう意識した。

授業科目名【 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ（後期） 】

1. Ⅰでは、回復期にある高齢者との関わりを通し、高齢者看護の指導にあたった。学生が疾患のみでなく、老年期にある対象者の生活に目を向け、生活機能を中心に患者の全体像を捉えることができるよう助言した。世代の違い、立場の違いから学生が患者の身体や精神面の問題に対し、気づき辛い部分もある。学生が自ら気づけるように問いかけ、考えたことがアセスメントにつながるよう指導に心がけた。
 2. チーム医療、協働について学生の理解が深まるよう臨床指導者と調整をはかり、多職種でのケアカンファレンスや医師からの臨床講義など学びの場を設けた。臨床指導者とは日々学生の実習状況を確認し合い、指導の方向性の統一に心がけた。
 3. Ⅱでは、介護施設で生活をする高齢者を担当し、担当する高齢者を、疾患治療を行う入院中の患者ではなく、生活者として理解すること、生活機能の維持改善に向けた支援を学ぶことを目標とした指導を行った。特に、高齢者と関わりながら高齢者の生活史をたどることで、施設という生活の場で、高齢者が日々どのような思いで生活しているのか、生活の中で大事にしているものは何なのかなどに関心を向け、捉えることができるよう、実践の振り返りを重視した。学生個々の高齢者観が育まれることを意識して関わった。
- 両科目共通として、
4. コミュニケーション能力の低下している高齢者も少なくない。その際は、学生と患者との関わりの振り返りや、その時の患者の思いを想起することを促すなどして、患者理解が深まり、患者との良好な関係性の形成につながるよう助言を行った。

授業科目名【 看護学（栄養学科）オムニバス形式（後期） 】

「認知症の看護」、「要介護高齢者の生活を支える施設看護」の講義を担当した。栄養学科の学生を対象に、対象者の抱える健康問題を解説し、それに対し看護職がどのような視点で対象者を看で、看護していくのか、わかりやすく伝えることを意識して講義した。看護専門分野に関する内容では、自己の現場経験をおりませながら解説し、具体的なイメージや理解につながるよう努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本在宅ケア学会		2008年7月～
日本看護研究学会		2010年3月～
日本老年看護学会		2010年5月～
日本看護科学学会		2011年6月～
日本看護学教育学会		2012年5月～
日本認知症ケア学会		2012年5月～

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学术论文) 介護老人保健施設の看護職の役割・認識とやりがい感との関連 (研究報告)	共著	2016年3月下旬予定(校正中)	日本看護研究学会雑誌 38巻5号(掲載予定)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護老人保健施設(以下、老健施設)を対象とし、看護職の役割と認識について構成因子を明らかにし、やりがい感や継続意志との関連を明らかにするため質問紙調査を行った。結果、6因子が抽出された。この6つの実践力・認識とやりがい感や継続意志との関連が示され、老健施設の看護職への教育的支援の方向性が示された。 2. <u>丸山 泰子</u>、<u>櫛直美</u>、<u>横尾美智代</u> 3. 日本看護研究学会雑誌 38巻5号(掲載予定)
(翻訳)				
(学会発表) 認知症高齢者グループホームにおける入居高齢者の排便状況	共	2015年6月12~14日	日本老年看護学会第20回学術集会(於：パシフィコ横浜)	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループホーム(以下、GH)2施設に入居する全入居者26名を対象に排便状況を把握し、排便ケアの課題を明らかにすることを目的に、アセスメントシートを用いた調査を行った。結果の一つとして、便性状が泥状~水様の全員が刺激性の下剤を服用していた。GHにおける課題として、下剤の調整と「心地よく出す」ための更なる援助の必要性が示唆された。 2. <u>吉原悦子</u>、<u>石井美紀代</u>、<u>丸山泰子</u>、<u>原等子</u> 3. 日本老年看護学会 第20回学術集会抄録集 (p169)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
・ 老いを支える北九州家族の会		2011.5 ～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習コーディネーター： 2015年4月1日 ～ 2016年3月31日 ・ 学生募集関連担当（ブログ等運営）： 2015年4月1日 ～ 2016年3月31日

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	松尾 綾	職名	助教	学位	修士(看護学)
----	------	----	----	----	---------

研究分野	研究内容のキーワード
精神看護学	精神看護、家族、レジリエンス、メンタルヘルス、語り、共感性、倫理的感性

研究課題
精神看護学に関して、青年期のメンタルヘルスに関する研究を行っている。メンタルヘルスと家族との関連やストレスや危機的状況からどのように回復していくのかについて、当事者の語りなどから研究している。現在は、本学の看護学生のレジリエンスを測定するとともに、半構造的インタビューを行うことで、学生自身が感じているこれまでのレジリエンス形成要因の実態を把握することとレジリエンスと問題解決行動の関連を明らかにすることを目的とした研究を行っている。また、精神科においては倫理的葛藤場面が多く、学生時からの教育が重要と考えられ、学生の共感性と倫理感の関連の研究を行っている。

担当授業科目
精神看護学概論、精神看護方法論、精神看護学演習、精神看護学実習 看護研究の基礎、基礎看護学実習Ⅱ、基礎学習ゼミⅠ、基礎学習ゼミⅡ 看護学(栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【広域看護活動論演習(精神看護)、精神看護学演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神看護学概論、精神看護方法論、疾病類各論での学習内容をもとに、事例を用いて看護展開を行っている。実習で用いる看護理論を用いて患者のセルフケアをアセスメントさせるとともに、問題点だけを探すのではなく、ストレンクスやエンパワーメントの視点を用いて、患者のQOLを伸ばすようなケアを考えることができるように助言した。また、実習に向けて具体的な場面をイメージできるように臨床のエピソードを交えた。学生のグループワークにおいては、グループ内の討議が活発になるように声をかけ、疑問点が整理できるように努め、グループ間でのディスカッションを促した。また、精神疾患を抱える患者の理解を深めるため、患者の背景や成育歴のエピソードから、精神力動論的な視点を用いて学生に助言を行った。 <p>授業科目名【広域看護活動論実習(精神看護)、精神看護学実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が患者とのコミュニケーションを大切に、患者の疾患や問題だけに捉われずに一人の人間として捉え、理解していくことのできるように指導を行った。また精神科の歴史的な背景や、患者の家族、ソーシャルサポート、社会復帰への視点を持って患者自身と患者を取り巻く環境を踏まえて、患者の身に寄り添って考えることができるよう具体的に学生がイメージできるように助言と発問を行った。患者の日々のケアでは、患者の現在だけでなく、患者自身の希望や今後の方針等も踏まえた関わりができるように指導を行った。 プロセスレコードで書き起こした場面に基いて、学生と共に患者とのコミュニケーションについての振り返りを行い、自己洞察を深め、今後の関わりにつなげていけるように具体的な指導を行うよう努めた。 日々のレポートを通して、学生が実習での患者との関わりから何を考えているのかを論理的に表現することができるような指導を行うよう努めた。 カンファレンスにおいて、学生が自由に自身の考えを表現し、グループ間で活発なディスカッションができるような雰囲気づくりを行った。

<ul style="list-style-type: none"> ・学生と指導者、各専門職との橋渡しを行い、学生が興味を持っていることや実習中に希望をすることが可能な限りスムーズに実現できるように努めた。
授業科目名【精神看護学概論】 <ul style="list-style-type: none"> ・精神科の社会的な背景や歴史を踏まえて、現在の精神疾患を取り巻く環境や偏見などを考えることができるように学生の意見を取り入れながらおこなった。 ・講義内容に沿って、学生の疑問やわからない点について、助言と指導を行った。
授業科目名【精神看護方法論】 <ul style="list-style-type: none"> ・精神科で取り扱う疾患や症状に関する看護に関して、スライドやDVDなどの視覚教材を用いて具体的にイメージしやすいように工夫を行った。特に患者や当事者、家族の思いに触れられるような教材を使用し、看護としてどのように関わっていくのかを考えるように促した。精神科看護においては、看護師自身の言動や感情を振り返ることが重要であり、患者へのよりよい看護につながっていくことを、臨床における具体的なエピソードを交えながら講義し、3年時の実習との連続性を持てるように努めた。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学実習Ⅰで学んだコミュニケーションと関係性作りをベースとして、患者とのコミュニケーションを図ることができるように指導を行った。学生が患者とのコミュニケーションで得た情報をこれまでの学習内容と関連して考えることができるように、学生の学習状況を把握し、それぞれの学習内容から理解できるような助言に努めた。学生が主体的に看護実践を行えるような環境を整えるために、臨床指導者との連携を図った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会		2009年4月～現在に至る
日本うつ病学会		2009年6月～現在に至る
日本精神科看護技術協会		2011年4月～現在に至る
日本看護科学学会		2011年7月～現在に至る
日本精神保健看護学会		2013年7月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(学術論文)</p> <p>1. デイバートを活用した初年次教育の試みー看護学生のクリティカルシンキング志向性に着目してー</p>	共著	平成 27 年度分として掲載予定	第46回(平成27年度)日本看護学会論文集(看護教育)	<p>① 看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのデイバートの活用について、1年次の学生100名を対象に質問紙調査を実施。 デイバート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目し、デイバートの効果と指導上の課題について検討・報告した。</p> <p>②共同研究者 一期崎直美, 石井美紀代, 吉原悦子, 小野正子, 布花原明子, 村山由起子, 鹿毛美香, 塩田昇, 松尾綾, 小田日出子</p> <p>③第46回(平成27年度)日本看護学会論文集 看護教育 2016年</p>
<p>2. 精神看護学実習における看護学生が共感性を獲得するプロセスー教員の介入を中心にしてー</p>	共著	平成 27 年度分として掲載予定	第46回(平成27年度)日本看護学会論文集(精神看護)	<p>①精神看護学実習において、学生が共感性を獲得するプロセスを明らかにするとともに、どのような教員の介入が必要であるのかを質的に検討した。その結果、「自己に関心がある段階」「看護計画を立案する段階」「看護実践の段階」「患者の人生に寄り添う段階」の4つの段階が明らかになり、教員は具体的に患者の状況を想像させ、学生が患者に関心を寄せ続けることができるような介入が必要であった。</p> <p>②共同研究者：松尾綾・前田由紀子</p> <p>③第46回(平成27年度)日本看護学会論文集 精神看護 2016年</p>
<p>(翻訳) なし</p>				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(学会発表)</p> <p>1. The Employability which Japanese Psychiatric Hospital Staff Seek When Hiring New Nurses - Through Interviews with Nursing Practice Instructors - (ポスター)</p>	<p>共著</p>	<p>2015 6.19-6.23</p>	<p>ICN International Conference and CNR 2015 (於 Coex Convention & Exhibition Center, Seoul, Korea)</p>	<p>Subject: This study aims to identify the employability which psychiatric hospital staffs require of new nurses. Result: Subjects were two males and three females. The conditions of new nurses were classified into four categories: mental weakness, lack of social skills, low preparedness for work and inadaptability to a job. The important points when nursing practice instructors instruct new nurses were classified into four categories: confirming of their understanding, making a place of their own, nurturing their sensitivity and allaying their anxiety. The ability required of new nurses were classified into three categories: working as a member of a team, communicating with others, acting depending on the circumstances. 共同研究者: Yukiko Maeda, <u>Aya Matsuo</u></p>
<p>2. アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた諸年次教育の評価 —主観・客観評価の両面からみ情意領域(関心・意欲・態度)への教育効果— (ポスター)</p>	<p>共著</p>	<p>2015 8.6-8.7</p>	<p>第46回 日本看護学会—看護教育—学術集会 (於 奈良県文化会館)</p>	<p>①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅠ」でスタディスキル・アカデミックスキルの修得・育成を目標に取り組んだアクティブラーニング(以下AL)と振り返りポートフォリオ(以下PF)の教育効果について、情意領域(関心・意欲・態度)の観点から、主観・客観両面での評価を報告した。 ②共同研究者: 布花原明子・塩田昇・村山由起子・小田日出子・石井美紀代・一期崎直美・小野正子・鹿毛美香・松尾綾・吉原悦子 ③第46回 日本看護学会集録(看護教育) p162</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. アクティブラーニングとポートフォリオを取り入れた初年次教育の評価 —客観評価と主観評価の比較から見えた情意領域（関心・意欲・態度）育成への課題—（ポスター）	共著	2015 8.6-8.7	第46回 日本看護学会—看護教育—学術集会 （於 奈良県文化会館）	①看護学科「基礎学習ゼミⅠ」でのALとPFを組み合わせた初年次教育の評価について、客観的・主観的指標を分析し結果および課題を報告した。 ②共同研究者：塩田昇・布花原明子・村山由起子・小田日出子・石井美紀代・一期崎直美・小野正子・鹿毛美香・松尾綾・吉原悦子 ③第46回 日本看護学会集録（看護教育） p163
4. ディベートを活用した初年次教育の試み—看護大学生のクリティカルシンキング志向性に着目して— （ポスター）	共著	2015 8.6-8.7	第46回 日本看護学会—看護教育—学術集会 （於 奈良県文化会館）	①看護学科の初年次教育「基礎学習ゼミⅡ」でのディベートの活用について、看護学生を対象に質問紙調査を実施した。発表では、特に、ディベート前・後でのクリティカルシンキング志向性の変化に着目して分析した結果を中心に報告した。 ②共同研究者：一期崎直美・石井美紀代・吉原悦子・小野正子・布花原明子・村山由起子・鹿毛美香・塩田昇・松尾綾・小田日出子 ③第46回 日本看護学会集録（看護教育） p164
5. 精神看護学実習における共感性の獲得のプロセス —教員の介入を中心に— （口演）	共著	2015 9.18-9.19	第46回 日本看護学会—精神看護—学術集会 （於 大阪国際会議場）	①精神看護学実習において、学生が共感性を獲得するプロセスを明らかにするとともに、どのような教員の介入が必要であるのかを質的に検討した。その結果、「自己に関心がある段階」「看護計画を立案する段階」「看護実践の段階」「患者の人生に寄り添う段階」の4つの段階が明らかになり、教員は具体的に患者の状況を想像させ、学生が患者に関心を寄せ続けることができるような介入が必要であった。 ②共同研究者：松尾綾・前田由紀子 ③第46回日本看護学会—精神看護—学術集会抄録集 p79
6. 精神看護学実習にお	共著	2015	第35回 日本看護科	①精神看護学実習を行った学

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
ける倫理に関する学生の認識 (ポスター)		12.5-12.6	学学会学術集会 (於 広島国際会議場、広島市文化交流会館、JMS アステールプラザ)	生の倫理に関するレポートの内容をもとに、学生の倫理に関する認識を質的に明らかにした。その結果、【隔離室への恐怖感】【生活環境におけるハード面の不自由さ】【管理的看護への疑問】【看護師の患者に対する態度】の5つのカテゴリーが明らかになった。 ②共同研究者：前田由紀子・松尾綾 ③第35回 日本看護科学学会学術集会抄録集 p47
7. 精神科新人看護師の現状と課題—入職後3カ月と6カ月の困難— (口演)	共著	2016 3.12	第26回 日本医学看護学教育学会学術学会 (於 島根県立大学出雲キャンパス)	①精神科病院に新卒で就職した看護師の困難として、3カ月目は《病棟の雰囲気慣れない》《看護技術への緊張》《本音を吐き出すところがない》《仕事ができないことへの焦り》《患者対応の難しさ》《自己の生活の調整》、6カ月目は《業務の緊張》《受け持ち患者の対応》《看護技術の不安》《人間関係の悩み》《疲弊感》がカテゴリーとして抽出された。 ②共同研究者：前田由紀子・松尾綾 ③第26回 日本医学看護学教育学会誌 p35

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名 称	概 要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は 学外者	交付決定額 (単位：円)
精神看護学における共感性と倫理的感性に関する研究	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所	○松尾 綾 前田 由紀子	109,040 円
精神科病院に就職した新人看護師の現状と課題	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所	○前田 由紀子 松尾 綾	230,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
第27回介護福祉国家試験（実技試験）	実地試験委員	平成28年3月5日～ 平成28年3月6日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ 2年生アドバイザー

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	佐藤 優	職名	助教	学位	修士(公衆衛生学)
----	------	----	----	----	-----------

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生学・公衆衛生看護学	介護予防事業の評価・介護予防の支払意思額 乳児家庭全戸訪問・主任児童委員

研究課題
<p>1. 介護保険法における介護予防事業について、その事業のアウトカム評価を行い、事業の長期的な効果について考察する。</p> <p>2. 健康高齢者における介護予防サービスに対する支払意思額について明らかにする。</p> <p>3. 乳児家庭全戸訪問事業に携わる主任児童委員の業務への意識を明らかにし、今後の課題について検討する。</p>

担当授業科目
<p>公衆衛生看護学概論(2年生:前期)</p> <p>地区活動論演習(4年生:前期)</p> <p>公衆衛生看護学技術演習(4年生:前期)</p> <p>公衆衛生看護学実習(4年生:後期)</p> <p>看護学(3年生:後期) ※栄養学科</p> <p>在宅看護学演習(3年生:前期)</p> <p>在宅看護学実習(3年生:後期)</p> <p>基礎看護学実習Ⅰ(1年生:後期)</p> <p>基礎看護学実習Ⅱ(2年生:前期)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 公衆衛生学看護概論 】</p> <p>公衆衛生看護における行政保健師の役割について具体的イメージが持てるように、図や写真を用いて解説を行った。また、行政保健師の具体的業務の中に、どのように公衆衛生的観点が組み込まれているかが理解できるように、既習の知識について配慮しつつ理論と実際を示した。国際保健医療における公衆衛生看護の取り組みにおいては、クイズ形式にしたり、事例検討をするなどして、これまでグローバルな視点を持ってこなかった学生でも関心を持てるように配慮して資料を準備した。</p>
<p>授業科目名【 地区活動論演習 】</p> <p>公衆衛生看護における地区診断のための量的データの理解・解釈を促すために、データ収集にかかる時間が極端に多くならないよう、学生の進捗をこまめに把握しながら指導を行った。また、特定の疾患における全国的な死亡分布の偏りや特徴を視覚的に実感し、興味を持ってもらうために GIS ソフトなどを用いながら解説を加えた。また、データの分析については、演習時間外でも学生の質問・相談を受け付けるようにし、学生が課題に取り組みやすい環境を支援するよう努めた。</p>
<p>授業科目名【 公衆衛生看護技術演習 】</p> <p>実習で用いる技術に一人ひとり差ができないように、他の教員と協調し、演習全体の目標を常に意識しながら学生指導にあたった。病院外での看護活動の経験に乏しい学生が、より具合的なイメージを持てるように、一つひとつ解説や経験談を交えながら指導を展開した。</p>

<p>授業科目名【 在宅看護学演習 】</p> <p>在宅看護における専門性や視点を育むために、学生の経験や知識を確認しながら指導を行った。保健医療福祉制度について苦手な学生が多かったため、必要に応じ内容を簡略化して伝えるなどの工夫を行った。実習に向けた姿勢を整える目的で、参考図書などを紹介した。</p>
<p>授業科目名【 在宅看護学実習 】</p> <p>療養者への訪問で観察した事柄から、在宅看護における専門性や視点をどのように考えることができるのか、学生の話(学びや感想)を聞いたうえで、その経験を通してさらに考えるべきことなどの質問を投げかけ、自身の体験を基盤とした気づきが得られるように指導した。また基本的な解剖学・生理学の知識が不十分な学生が多かったことから、アセスメントには教科書を用いるように指導した。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ 】</p> <p>一年次に学んだ看護に関する知識を想起させることを念頭に置き、指導や助言に合わせて、質問や疑問を学生に投げかける方針で支援した。専門職としての基礎的な態度・姿勢を身に着けるため、一度だけでなく、繰り返し伝えるように努めた。また、臨床の看護師に積極的に報告・連絡・相談をするように学生を促した。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ 】</p> <p>看護アセスメントの基本的な視点や判断を学ぶため、一つひとつ可能な限りシンプルになるように留意しながら指導を行った。一人ひとりの学力や個性・思考に沿った指導となるように、学生の説明をまず聞くように努めた。また、リーダーシップを発揮できる学生や発言が苦手な学生など、個々の課題に応じて個人面接等を行い、学生の資質の向上を目指して、実習指導者と指導の方向性を確認しつつ実習を進めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本公衆衛生学会 日本国際保健医療学会 日本公衆衛生看護学会		平成 2008 年～現在 平成 2013 年～現在 平成 2014 年～現在

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1) Households with Insufficient Bednets in a Village with Sufficient Bednets: Evaluation of Household Bednet Coverage Using Bednet Distribution Index in Xepon District, Lao PDR.	共著	2015年6月	Trop Med Health	ラオス国サワンナケート県にある1つの貧困郡にて、マラリア予防のための蚊帳の配布の状況及び使用状況について世帯調査を行い、その実態及び課題について明らかにした。

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2) 乳児家庭全戸訪問事業に携わる主任児童委員の事業に対する必要性の認識	共著	2015年11月	日本公衆衛生雑誌	北九州市の乳児家庭全戸訪問事業では、主任児童委員を訪問者として登用している。本研究では、当事業に対する主任児童委員の認識に焦点をあて、事業への理解や子育て支援の拡充に関する今後の支援課題について考察した。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1) 地域自立型の介護予防活動を指して～介護予防サービスに関する仮想評価法を用いた基礎調査～	北九州市	○佐藤優 伊藤直子 鹿毛美香	500,000
2) 保健師課程学生を対象とした卒業生保健師によるキャリア支援の試み～職業的アイデンティティの形成に関する有効性の検証～	西南女学院大学	○布花原明子 鹿毛美香 佐藤優 伊藤直子 (平島美也子) (亟々美香)	218,800

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
第 28 回介護福祉士国家試験 (実技試験)	実地試験委員	2016年3月3日～3月5日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

1. 国家試験対策担当 2. キャンパス・ハラスメント相談員 3. 日本私立看護系大学協会の幹事校における業務

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 財津倫子	職名 助教	学位 修士(看護学)(広島大学 2005年)
---------	-------	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
・看護教育学→ ・成人看護学→	看護大学生、看護学実習適応感、アタッチメントスタイル 医療システム、退院調整、医療提供システム

研究課題
看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、現在分析中である。 成人看護学(急性期)に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。

担当授業科目
診療関連技術論(前期:看護学科) リハビリテーション看護学(前期:看護学科) 成人老年看護過程演習(前期:看護学科) 看護研究の基礎(前期:看護学科) 救急・クリティカル看護学(前期:看護学科) 救急・クリティカル看護学演習(後期:看護学科) 基礎看護実習Ⅰ(後期:看護学科) 基礎看護学実習Ⅱ(前期:看護学科) 成人急性期看護学実習(後期:看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 診療関連技術論(吸引・吸入) 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員によるデモンストレーション後、学生同士で実施する手技をチェックする。 2. できているところを伝えながら、出来ていないところを指摘し、実際に実践して見せながら指導を行った。
<p>授業科目名【 診療関連技術論(静脈血採血) 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員による静脈血採血後、デモンストレーション後、ビデオ視聴グループに対してビデオ上映を行い、駆血帯の使用を実演し、その後学生同士で実施する。 2. できているところを伝えながら、出来ていないところを指摘し、実際に実践して見せながら指導を行った。
<p>授業科目名【 リハビリテーション看護学 】</p> <p><杖歩行></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 杖歩行を実施し学んでいる学生の杖の使用法を確認し指導する。 2. できているところを伝えながら、出来ていないところを指摘し、実際に実践して見せながら指導を行った。 <p><摂食・嚥下></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. とりみ食を作成する過程をチェックし、実際に学生同士で食事介助を実践する。その実践方法を確認し、指導をおこなう。 2. できているところを伝えながら、出来ていないところを指摘し、実際に実践して見せながら指導を行った。

授業科目名【 成人老年看護過程演習 】

<看護過程>

1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。
2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明を行い、全員が理解できるよう努めた。
3. グループワークでもあり、他者との意見交換の場もつくり、グループワークでの学びも深まるよう指導した。
4. 個々へ、できていないところの指摘もするが、できているところも伝え、前進できるよう指導を行った。

<看護技術：JVAC ドレーン管理>

1. JVAC ドレーンの管理方法・留意点・排液方法の説明が行われた後、管理方法・排液方法のデモンストレーの実施後、学生が実際に JVAC ドレーンの管理方法・排液方法を実践する際、手技を確認し、出来ているところできていないところを伝え、理解しやすいようにした。
2. 擬似血清排液を JVAC に何度も注入し、再度接続することを繰り返せし、学生全員が排液を必ず経験できるようにした。

<看護技術：周手術期の看護>

1. 術直後の観察の実際をデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明していく。
2. 説明後に通して（15分）デモンストレーションする。
3. 学生は、ベッド毎（4人）に別れて、技術練習を実施する。その際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、理解しやすいようにした。または、実際に実演し、わかりやすいよう配慮した。
4. 最後に、2人がペアとなり、技術試験を受ける。その際、試験監督となる。

授業科目名【 看護研究の基礎：質的研究 】

1. 「質的なアプローチの研究とは」とし、質的研究の特徴やその課題と方法論の選択方法、データ収集法の種類をわかりやすく（難しい言葉は説明文章を入れる）説明する。そして最後に研究事例を提示した。 2. 「質的研究のタイプとその比較」では、グランデットセオリーアプローチ・エスノグラフィー・現象学的アプローチ・ナラティブ研究を、研究事例を加えながらわかりやすく説明する。最後に事例を紹介し、自分であったらどのような研究手法を使うかを学生に考えさせる時間を設けた。

授業科目名【 救急・クリティカル看護学 】

1. 急性腹症 2.外傷患者 3.中毒患者 4.熱傷患者の救急処置と検査、その初療時の看護について、図や写真を用いながら、わかりやすく説明する。

授業科目名【 救急・クリティカル看護学演習 】

看護師国家試験問題（循環器系 50 問）を作成し、学生に出題する。

授業科目名【 基礎看護実習 I 】

1. コミュニケーション実習において、学生が自分で考え行動できるよう見守ることを心がけた。
2. 説明を行う際は、具体的にイメージが付きやすいように説明する。または、書物を用いるなど工夫し指導する。
3. 安全・安楽に関する指導は患者の安全に関係するため、さりげなく指導することには努めたが、患者の前でも指導を行っていった。その他の指導に関しては、患者と学生の信頼関係にも関わるため、患者の前では避けている。
4. 記録物の添削については、学生が理解しやすいように記入するよう心がけた。またその添削に対する答えも返してもらうよう努めた。

授業科目名【 基礎看護実習Ⅱ 】

1. 受け持ち患者に必要な看護援助が見いだせるよう、学生が自分で考え行動できるように声をかけ、見守ることを心がけた。
2. 説明を行う際は、具体的にイメージがつきやすいように説明する。または、書物を用いるなど工夫し指導している。
3. 安全・安楽に関する指導は患者の安全に関係するため、さりげなく指導することには努めたが、患者の前でも指導を行っていった。その他の指導に関しては、患者と学生の信頼関係にも関わるため、患者の前では避けている。
4. 記録物の添削については、学生が理解しやすいように記入するよう心がけた。またその添削に対する答えも返してもらうよう努めた。

授業科目名【 成人急性期看護学実習 】

1. 答えを教えるのではなく、学生が自分で考え行動できるように声をかけ、見守ることを心がけた。
2. 説明を行う際は、具体的にイメージがつきやすいように説明する。または、書物を用いるなど工夫し指導している。
3. 安全・安楽に関する指導は患者の安全に関係するため、さりげなく指導することには努めたが、患者の前でも指導を行っていった。その他の指導に関しては、患者と学生の信頼関係にも関わるため、患者の前では避けている。
4. 記録物の添削については、学生が理解しやすいように記入するよう心がけた。またその添削に対する答えも返してもらうよう努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護管理学会	査読委員(2009年4月～現在に至る)	2004年12月～現在に至る
日本運動器学会 (日本整形外科看護研究会より改名)		2005年6月～現在に至る
日本看護科学学会		2007年3月～現在に至る
日本看護学教育学会会員		2015年12月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

3年生アドバイザー(2015年4月1日～2016年3月31日)

2015年3月には1年間の年間計画を立て、3年生に配布する。4月から5月にかけて33名の担当学生の面接を実施する。8月には知識確認テストの実施から結果の掲示、そして結果の配付を行う。10月からは休学から退学を希望する学生の対応（学科長・保護者・学生面談の実施など）を行った。2016年3月8日と3月22日には二度目の知識確認テストを予定している（その結果を来年の国家試験対策に生かす予定）。

キャンパスハラスメント相談員(2015年4月1日～2016年3月31日)

2015年4月にキャンパスハラスメント防止・対策委員会議に出席する。学生からのキャンパスハラスメントの報告はなく、徴集されることなく終了する。

国家試験対策委員(2015年4月1日～2016年3月31日)

4月に知識確認テストを実施し、下位の者を対象に面接を行い、学習方法の確認と指導を行う。7月・8月・10月・11月・12月（予定）・1月（予定）に模試を実施し、結果を集計・掲示し、その結果により学生に対し強化学習を行った。さらには、サバイバルテストの実施や面接、回答率の低い問題に対しては、国家試験対策委員内で担当を決め、解説を実施した。また、既卒生担当であったため、既卒生に対しての連絡調整（模試・受験申請について・自己採点結果など）は全て行った。

看護師国家試験当日（2016年2月14日）には引率し、欠席者無く全員受験できる。2016年3月25日の合格発表を待つのみである。

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 水原 美地	職名 助手	学位 学士(福祉経営学) 日本福祉大学 2007年
----------	-------	---------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
地域看護学	地域生活者, エンパワメント, ケアマネジメント, 社会資源

研究課題
現代社会において、地域で生活する様々な人々の健康について現状を把握し、エンパワメントを志向したケアマネジメントの必要性と、求められる社会資源についての考察

担当授業科目
母性看護学演習 ヘルスアセスメント演習 診療関連技術論(演習) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学演習 在宅看護学実習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【ヘルスアセスメント演習(吸入・吸引、静脈内持続点滴・静脈内採血)・診療関連技術論(フィジカルアセスメント技術:腹部)、母性看護学演習(沐浴)】</p> <p>1. 教員のデモンストレーションや、DVD映像が見えにくい位置にいる学生は、見える位置へと誘導し、演習に十分参加できるよう促した。</p> <p>2. 演習で行われている技術に関して、臨床の現場で起こりうる事故の事例を伝え、実際の人間に実施するという責任感と緊張感を持って演習に臨むよう助言した。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】</p> <p>1. 学生が患者を受け持つにあたり、患者の疾患の基礎知識をもつことは、不可欠である。学生は、疾患の学習は十分ではない段階ではあるが、疾患・そのメカニズム・治療について事前に学習して書面に記したうえで臨地実習に臨むことを求めた。</p> <p>2. 初めて受け持ち患者を担当する実習である。学生と患者との関係性を細かく観察するとともに、プロセスレコードの記載内容から、学生患者間に信頼関係が芽生えているのか、学生に振り返りを促し、自ら気づくよう問いかけた。患者や病棟スタッフに対する言葉遣いやふるまいに関しては、その都度客観的判断を伝え自己の特性を認識できるよう努めた。</p> <p>3. 日常生活行動の援助の実施に関しては、学生に臨床指導者に確認させ、ケアの選択や、体位、実施場所、使用物品など具体的方法について助言を得るよう調整した。臨床指導者とともに実施させて頂いたが、学生の計画と実施ではその場で大幅な変更があった。学生は、準備、実施、観察、評価、すべての過程で自己の知識や技術の拙さも実感することができ、2年次への学習意欲へとつなげることができた。</p> <p>4. 臨地実習終了後の学内実習日には、事後課題を課し、記述することで、患者理解が十分だったかを振りかえる機会とした。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】</p> <p>1. アセスメントに関しては、患者から学生が直接情報を収集するよう、フィジカルアセスメントを実施させ学生自身で確認させた。</p> <p>2. 病棟の特性から、受け持ち患者は全員退院を控えた患者であった。看護技術の計画を行うにあたっては、演習や授業で学んだ基本的手順ではなく、患者個々で異なる退院後の生活・環境を踏まえるよう助言し、計画</p>

に反映させた。

年齢が若く、身体面、認知面ともに自立度が高い状態で退院となる患者を受け持った学生には、退院後の食事に関する説明をケアとして挙げ、実施前日より指導者と内容を確認し患者に必要・かつ実践可能な知識、情報は何かを確認させ準備、実施した。

3. ケアの実践に関しては、できるだけ早期に指導者の助言をもらうよう日々のカンファレンスの時間等も調整し、計画を修正させた。ケアの実践は、ほとんどの学生が臨地実習指導者の直接の指導のもとで行えたため、計画・実施・評価と一連の助言をいただくことができ学生の理解も深まった。

授業科目名【在宅看護学演習】

新カリキュラム2年目、昨年の演習に加え、在宅療養のメリットデメリットを社会的視野で考えるディベートの演習を行った。その後ライフステージ障害別の3種類の地域ケアシステムを図式化する演習、次いで居宅サービス計画書の作成演習と、訪問看護計画作成演習であった。

1. 看護過程演習の事例作成を担当したがその際には、訪問看護実習で出会った実在の療養者をモデルとし、学生への情報提供時には自宅の見取り図や、療養者の外観をイラストで示し、学生が在宅療養をイメージしやすいよう工夫した。

2. 社会資源の図式化の演習では、学生の苦手な社会資源の知識の基礎について、調べる方法を提示し自ら社会の制度に興味を持つよう促した。また、この知識は実習の際にマネジメントプランを考えるための基礎となるものであることを伝え、学習意欲を高めた。

授業科目名【在宅看護学実習】

1. 実習の事前調整では16か所の訪問看護ステーションと、8診療所と1病院について、実習内容の説明、実習時期・実習日の確認・調整を行った。

2. 旧カリキュラムと比較すると多数の療養者宅の訪問を経験できるようになった反面、事前学習が不十分なまま訪問に同行する傾向が見られた。学生には訪問させて頂けることの意義を改めて考え直すよう促し、療養者への責任を問い、事前学習の確認を行い、不足している学生には、臨地実習指導者と訪問件数の調整を行い、十分に事前学習を深めてから訪問させた。

3. 多数の療養者を訪問させて頂いているため、受け持ち療養者の看護展開のみならず、地域で療養する人々を集団でとらえる視点の重要性を強調した、最終カンファレンス資料で文章化する際に、助言したがこの点はまだ達成度が低い。来年度の課題である。

4. 実習期間中、体調不良の学生が見受けられた。その際には、学生の体調を早朝、夜間にも確認し、単位認定者や、臨地実習指導者と連絡を密にとり、学生には、訪問予定の療養者に悪影響が及ばないことが最優先であることを説明し、実習を調整した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護協会		2008年4月～現在に至る
日本社会福祉士会		2009年4月～現在に至る
日本ケアマネジメント学会		2010年4月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2012年9月～現在に至る
日本看護技術学会		2013年4月～現在に至る

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

福岡県社会福祉士会 災害支援部会 第 28 回介護福祉士国家試験(実技試験)	部会委員 実地試験委員	2013 年 8 月～現在に至る 2015 年 3 月 5 日、2015 年 3 月 6 日
-------------------------------------------	----------------	---------------------------------------------------

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)	
<ul style="list-style-type: none"> ◆4 年生対象の保健師国家試験対策に関する業務 保健師国家試験に向けての強化学習に関する支援を行った。 ◆実習コーディネーター (2015. 7～2016. 3) 看護学科実習全般について、調整や事務作業を行った。 	

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	本田 輝子	職名	助手	学位	学士(看護学)(西南女学院大学)
----	-------	----	----	----	------------------

研究分野	研究内容のキーワード
看護教育 がん看護	・技術演習の安全(アレルギー反応予防) ・適応 ・Mastery

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術演習における学生の安全確保のための方法について探求する。 ・がん患者の適応を促進・阻害する要因を明らかにする。

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術論 ・生活援助技術論 ・ヘルスアセスメント ・診療関連技術論 ・看護過程論 ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・看護のための臨床検査

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【看護技術論】</p> <p>この科目で担当した演習は、ベッドメイキングやシーツ交換など看護師の仕事と認識しにくい援助であったが、なぜ看護師が実施することが望ましいのかが伝わるように心掛けた。また、看護師として身だしなみを整えることなどを繰り返し指導した。早期看護実習では学生の発見する力や気づく力が発揮できるように、学生が安心して臨めるような声掛けや雰囲気づくりを心掛けた。</p>
<p>授業科目【生活援助技術論】</p> <p>演習全般において実習室内の配置、使用物品の準備等、学生の演習環境を整えた。また、学生が患者像をイメージできるように説明しながら、各技術項目のポイントを押さえていった。デモンストレーションは、一通りの流れをみせるのではなく、技術を実施するにあたっての重要なポイントがわかるように改善した。患者の立場に立った援助が考えられるように、患者体験からの学びを学生に意識づけできるよう関わった。</p>
<p>授業科目名【ヘルスアセスメント】</p> <p>看護形態機能学で学習した知識と関連させながら技術の実施ができるように、学生の理解度を確認しながら技術指導を行った。すべての項目を統合して患者の全身をアセスメントすることを学生が理解できるよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【診療関連技術論】</p> <p>演習にあたっては、実習室内の配置、使用物品の準備等、学生の学習環境を整えた。注射など侵襲を伴う看護技術演習については、患者の安全・安楽はもちろんのこと、看護師自身の安全も考慮した技術が習得できるよう指導をおこなった。</p>

<p>授業科目名【看護過程論】</p> <p>基礎看護学実習Ⅰでの患者のニーズを把握するための学生の経験を看護過程にあてはめ説明し、まずは看護過程のプロセス全体を概観できるように心がけた。さらにひとつひとつのプロセスを学生が理解できるように、毎回グループワークを開始する前に構成要素を振り返り、どのプロセスを実施するのかを確認した。看護過程の展開については、患者情報の正常な身体機能が障害されるとどうなるかという視点で疾患が理解できるようにし、身体面のアセスメントにつなげた。心理面と社会面についても発達課題などの既習の知識を活用し患者を理解できるよう指導をした。また、学習が効果的に進むように、個人指導とグループワークを適宜選択しながら指導をおこなった。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】</p> <p>学生がコミュニケーションを通して自己の傾向を振り返られるように、プロセスレコードの指導において、気づけている点、気づけていない点を確認しながら指導した。また、明らかになった自己の傾向を活かしながら、患者の日常生活上のニーズを把握することを目的としたコミュニケーションがとれるよう指導した。看護師としての姿勢や態度についても、患者の反応や病棟スタッフのご指導をふまえ実感として残るような指導を心掛けた。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】</p> <p>初めて実際の患者で看護過程を展開するため、学生の気付きから重点をおく領域をしばらく情報収集が効果的に行えるよう指導した。アセスメントの方法は看護過程演習を想起させ、生活者として患者を理解できるよう指導した。計画立案から実際の援助については、一般的な援助方法を立案する学生が多かったため、アセスメントを共に振り返りながら、実際に患者に援助を行う場면을想像し修正を加えていった。</p>
<p>授業科目名【看護のための臨床検査】</p> <p>心電図の演習では、限られた時間の中で、羞恥心に配慮して患者の準備を整えること、正確な位置に電極を装着できることに焦点を当てて指導した。また、心臓の機能の刺激伝導系の知識と結びつけることに留意した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護学教育学会		2011.4～現在まで
日本看護科学学会		2011.7～現在まで
日本看護技術学会		2012.6～現在まで
日本がん看護学会		2014.5～現在まで

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) 1.基礎看護学実習における臨地実習環境の実態(査読付き)	共	2016.2	西南女学院大学紀要 Vol.20	① 基礎看護学実習において、効果的に学修する実習環境を検討するために、病院の看護部教育担当責任者に質問紙調査を実施した。その結果、臨床実習指導者が学生への指導と業務を兼担する病院が半数以上(57.4%)にのぼり、教員と十分に連携を取っていく必要性を再認識した。 ② 本田輝子、梶原江美、小野

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 看護師のラテックスアレルギー罹患率と知識との関連 (査読付き)	共	2016.3	46 回日本看護学会論文集 看護管理	<p>聡子、末光順子、飯野英親、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③ 西南女学院大学紀要 vol.20、p1-8</p> <p>① 看護基礎教育でのラテックスアレルギー (LA) 予防教育を考える上で、臨床現場で働く看護師の LA 既往者と LA 知識の獲得状況を把握するために質問紙調査を実施した。その結果、自己申告による LA 既往率は 3.7%と先行研究と類似の結果だった。また LA 既往に関わらず、LA に関する獲得知識は症状のみ知っていることが多く、学部での LA 教育だけでなく臨床現場での教育の必要性が示唆された。</p> <p>② 梶原江美、飯野英親、<u>本田輝子</u>、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ</p> <p>③ 印刷中</p>
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. 基礎看護学実習における臨地実習指導体制の実態	共	2015.8	日本看護学教育学会 第 25 回学術集会 (於 アスティとくしま)	<p>① 臨地実習指導体制の実態調査から、病院側は教員の積極的介入を求めていることが明らかとなり、教員と実習指導者が連携する必要性が示唆された。</p> <p>② 共同発表者 <u>本田輝子</u>、梶原江美、飯野英親、小野聡子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③ 第25回日本看護学教育学会学術集会抄録集 (p215)</p>
2.ラテックスアレルギー予防目的で行う看護学生への2回の手袋使用テストの有用性	共	2015.8	日本看護学教育学会 第 25 回学術集会 (於 アスティとくしま)	<p>① 基礎看護教育の中でできるラテックスアレルギー (LA) を予防するためのスクリーニング法として、これまでの質問紙と使用テスト (1回) の併用を検討し、使用テストを2回試みてその評価を行い、まとめた。</p> <p>② 梶原江美、飯野英親、小野聡子、末光順子、<u>本田輝子</u>、岩本テ</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3.Caring Ability Inventory 日本語版の信頼性・妥当性の検証	共	2015.8	日本看護学教育学会 第25回学術集会 (於 アスティとくしま)	<p>ルヨ、小田日出子、浅野嘉延</p> <p>③ 第25回日本看護学教育学会学術集会抄録集 (p165)</p> <p>① Caring Ability Inventory (CAI) の日本語版を作成し、その信頼性・妥当性を検証した。有効回答は384部で、回転前の3因子の因子寄与率は31.5%だった。尺度全体のα係数は、0.801、各下位尺度は、「知ること」0.789、「勇気」0.716、「忍耐」0.182で、「知ること」、「忍耐」については、原版の3下位尺度が混在していた。本結果から尺度全体の信頼性は確保されたが、因子構造の見直し等課題が残った。</p> <p>② 小野聡子、飯野英親、梶原江美、<u>本田輝子</u>、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③ 第25回日本看護学教育学会学術集会抄録集 (p231)</p>
4. 看護師のラテックスアレルギー罹患率と知識との関連	共	2015.9	第46回日本看護学会—看護管理—学術集会 (於：福岡国際会議場・福岡サンパレス)	<p>①看護師のラテックスアレルギー(LA)罹患率と知識状況について、調査を実施した。749名中でLAの既往を持つ看護師は28名(3.7%)で、その内、ラテックス製手袋使用者は13/28名(46.4%)だった。LAの知識について、知っていると答えた545/749名中、発症の仕組み(29.4%)や呼吸器曝露(20.7%)の可能性について知っているものは少なかった。LA既往の有無別にカイ二乗検定を行ったが、有意差は認められなかった。このことから、LAの既往を持つ・持たないにかかわらず、LAの知識が低く教育の必要性が示唆された。</p> <p>②梶原江美、飯野英親、<u>本田輝子</u>、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ</p> <p>③46回日本看護学会—看護管理—学術集会抄録集 P.346</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5. 看護師のケアリング能力と他者との関わりに関する経験との関連	共	2015.9	第46回日本看護学会～看護管理～学術集会 (於：福岡国際会議場・福岡サンパレス)	<p>①Caring Ability Inventory (CAI) 日本語版を使用して、看護師のケアリング能力と関連要因を明らかにし、ケアリング教育に関する課題について検討した。その結果、CAI得点と他者との関わりに関する項目の差の検定において、有意差を認めたのはパートナーとの同居経験 (P=0.028) と現在の家族関係に対する認識 (P=0.002)、管理職であること (P=0.000) だった。過去の体験よりも現在どのような体験をしているかがケアリング能力に影響しやすい可能性が示唆された。</p> <p>②小野聡子、梶原江美、飯野英親、本田輝子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③第46回日本看護学会～看護管理～学術集会抄録集 P.500</p>
6. Knowledge about latex allergy and the sources of knowledge in Japanese nurses.	共	2016.3	19th EAFONS East Asian Forum Of Nursing Scholars (Chiba, Japan)	<p>① 日本人看護師のLAについての知識の獲得状況と知識の入手先について調査し、整理した。その結果、症状、対処策、予防策、呼吸器系曝露、長期曝露と発症の関係、ラテックス含有製品との区別、ラテックス含有表示に関するメーカーの表示義務、ラテックス関連フルーツ症候群の9項目全ての知識を持つ者は5% (27/545) だけで、すべて手術室看護師だった。この5%の手術室看護師の知識源の多くは、部署内の勉強会 (74.1%)、専門書 (59.3%)、学術集会 (44.4%)、院内研修 (37%) などの複数の機会を通じて知識を得ていたが、学部教育で習った人はいなかった。今後も学術集会などを通じて啓蒙活動を継続して行っていく他、学生時代にLAについて学ぶ機会を取り入れていくことも予防の一手段となりえるといえる。</p> <p>② Emi Kajiwara, Hidechika Iino, Teruko Honda, Satoko Or</p>

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				o、Junko Suemitsu、 Teruyo Iwamoto ③ Abstract Book Poster Presentation P. 531 教育研究業績 総数 (2016.3現在) 学术论文 8 (内訳 単0、共8) 学会発表 18 (内訳 単0、共18)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
SNSを統合したeラーニングシステムを活用した学習支援環境の構築とその教育効果の評価、分析	西南女学院大学共同研究費	○大塚和良 東玲子 伊藤直子 岩本テルヨ 小田日出子 飯野英親 村山由起子 清村紀子 梶原江美 高橋甲枝 相野さとこ 小野聡子 末光順子 本田輝子	1,605,000円

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

第 28 回介護福祉士国家試験実地試験 委員		平成 28 年 3 月 4 日 ～平成 28 年 3 月 6 日
---------------------------	--	-------------------------------------

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- ・ 2014 厚生部学校委員：幹事会への出席。
- ・ 学生募集関連担当（ブログ等運営）：入学式や卒業式等のイベント、オープンキャンパスの紹介、学内演習に加えて、実習や卒業生の活躍を紹介。
- ・ 物品係：実習室の物品管理、演習や実習の物品調整

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	末光 順子	職名	助手	学位	学士(比較文化学)(北九州市立大学) Bachelor of Comparative culture
----	-------	----	----	----	-------------------------------------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
看護教育	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材の活用 ・看護技術の習得方法 ・技術演習の安全(アレルギー反応の予防) ・ケアリング能力の評価

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・看護学生が看護技術を習得するための有効な方法を検討する。 ・看護技術演習での学生の安全を確保するための方法について探求する。 ・看護職や看護学生のケアリング能力の有効な評価方法を検討する。

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術論 ・生活援助技術論 ・ヘルスアセスメント ・診療関連技術論 ・看護過程論 ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・看護のための臨床検査 ・看護形態機能学Ⅱ ・成人・老年看護過程演習 ・母性看護学演習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目【看護技術論】</p> <p>1年次の最初の演習である。演習は看護技術を習得する重要な授業であるが、同級生同士で実施するため緊張感に欠けることがある。そのため、実習室使用オリエンテーションから演習毎に「実習室は病室であり、患者の生活の場である」ことを繰り返し指導した。</p> <p>また、早期看護実習は、学生にとって初めての臨地体験であり、ここでポジティブなイメージを持つことが、今後の学習意欲に影響する。よりよい実習環境を整えるために、指導者会議だけでなく前日にも実習病棟に連絡し、当日は巡視して学生だけでなく担当看護師に学生の状況を尋ねる等の関わりをした。</p>
<p>授業科目【生活援助技術論】</p> <p>例年、主に担当させてもらっている清潔(足浴、洗髪)の援助に加えて、今年度は栄養(経管栄養)の援助も担当させて頂いた。学生が生活援助に興味関心を持つように、自己の日常生活を意識することや既習の学習内容を生かすことを目的とした事前学習を課した。演習では、事前学習を生かし根拠を考えるように発問した。</p> <p>安全面への配慮として、初めてラテックス製手袋を使用するため、ラテックスアレルギーのハイリスク者を抽出し、該当学生にはラテックスフリー手袋の使用を指導した。</p>
<p>授業科目名【ヘルスアセスメント】</p> <p>ヘルスアセスメントは、正確な技術だけでなく、形態機能学に基づいた知識に活用したアセスメントが重要である。しかし学生は、演習での手技の模倣に留まりがちである。そのため既習の知識と関連させ、観察の意味を考えるように指導した。</p>

<p>実技試験に対しての自己演習での環境を整えると共に、根拠を考えながら練習するように発問し、教科書や資料に戻って学習をするように声かけをした。</p>		
<p>授業科目名【診療関連技術論】</p> <p>診療関連技術の演習では注射器や採血等の針を初めて使用するため、特に安全面への配慮を行った。主に担当させて頂いた酸素療法では、実習での活用や国家試験の問題も意識して行った。</p> <p>演習全般において必要物品の準備や AV 機器の調整等、学生の学習環境を整え、特に今年度は実技試験項目の吸引の kaname.net の教材を修正して更新した。</p>		
<p>授業科目名【看護過程論】</p> <p>前年度の演習では、学生の知識やモチベーションの差が大きくグループワークに苦慮し個人指導に時間を要した。この反省から今年度は小グループでの活動を主に行い、個人学習と学生間の意見交換が活発に行われるように関わった。</p> <p>また、既習の知識（形態機能や病態等）の活用と看護過程展開の技術、そして他者との意見交換という3点にポイントを置いた。具体的には、テキストや資料の活用や小グループ間での意見交換の回数を増やす等を行った。</p>		
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】</p> <p>2つの病棟を担当し病棟を不在にすることがあるため、臨床指導者との連携をより密にした。また、学生にも主体的かつ計画的に行動するように指導した。</p> <p>1年生は初めて受持ち患者を持ち、その患者との関わりや病棟でのスタッフの指導から臨地で看護を学ぶ第一歩を踏み出す。決まった提出物を書くことのみならず、「対象者を理解したい」「看護とは何かを考えたい」という気持ちが自身の中で育っていくように、記録物や面談の中で発問し学生自身が考えるように関わった。</p>		
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】</p> <p>患者の全体像を把握するために、既習の知識と情報収集の技術の重要性に気づき、自己学習を深めて患者理解に繋げるように指導した。また、臨地実習指導者との連携を図り、学生の進捗状況を確認し、患者理解に時間を要している学生に対して具体的な助言を頂き、患者理解とケアに結びつけた。</p> <p>実習期間内で看護過程や思考過程の理解を十分得られなかった学生に対して、実習後にも学習を継続するように勧め、個人指導を行った。</p>		
<p>授業科目名【看護のための臨床検査】</p> <p>尿検査の演習を担当した。検査は尿から得られる身体的データであるが、学生は試験紙の色の変化をみるだけに終わりがちである。そのため、正確に検査を実施する方法を説明するだけでなく、検査から分かる身体の状態を既習の知識と結びつけるように留意した。また、自分の尿を採取することで感じた羞恥心から患者に対しての配慮について考えるように伝えた。</p>		
<p>授業科目名【看護形態機能学Ⅱ】</p> <p>解剖見学実習は、学生にとって初めて死者と対峙するという経験であり、緊張や恐怖心を抱く。そのため、実習中の学生を注意深く観察し、不安な様子の学生に声掛けをして、気分不良の学生に寄り添った。また、人骨を使用する実習は、解剖見学でなく骨を扱うことから人を尊重した姿勢を持ってない学生がいた。その学生らには、実習の意味と目の前にある人骨の提供者への感謝の思いについて考えるように個別に関わった。</p>		
<p>授業科目名【成人・老年看護過程演習】</p> <p>看護技術ドレーン管理の演習を成人領域の教員と共に担当した。学生は事前学習をし、演習ではグループで実践した後にチェックを受ける。チェックのために手順をなぞることに留まらず、観察ポイントとその意味を結びつけるように指導した。</p>		
<p>授業科目名【母性看護学演習】</p> <p>沐浴技術試験を担当した。試験前の沐浴演習に入っていないため、事前に母性領域の教員と具体的な打ち合わせを行い、実際に試験項目に沿って沐浴の実践を行って試験の演習に臨んだ。試験後の面接では、沐浴の安全と声かけ、新生児の観察についてポイントを置いて指導した。</p>		

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

日本看護倫理学会 日本看護学教育学会 日本看護科学学会 日本看護技術学会	2011.2～現在に至る 2011.4～ 2011.7～ 2012.6～
-----------------------------------------------	-----------------------------------------------

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
1. 基礎看護学実習における臨床実習環境の実態 (査読付き)	共	2016.2	西南女学院大学紀要	①1～2年次の基礎看護学実習は、学生が初めて経験する臨床現場での学習機会であり、実習環境は、学生の学習効果に大きく影響する。効果的に学修する実習環境を検討するために、基礎看護学実習を受け入れている看護部教育担当責任者に質問紙調査を実施した。結果、実習指導の現状として、臨床実習指導者が学生への指導と業務を兼担する病院が半数以上(57.4%)にのぼり、教員と十分に連携を取っていく必要性を再認識した。
2. 看護師のラテックスアレルギー罹患率と知識との関連 (査読付き)	共	2016.3	第46回日本看護学会論文集 看護管理	①臨床現場で働く看護師のLA既往者とLA知識の獲得状況を把握するために質問紙調査を実施した。その結果、自己申告によるLA既往率は3.7%と先行研究と類似の結果だった。またLA既往に関わらず、LAに関する獲得知識は症状のみ知っていることが多く、学部でのLA教育だけでなく臨床現場での教育の必要性が示唆された。 ② 共著者名 梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ ③ 印刷中
(翻訳) なし				
(学会発表)				
1. ラテックスアレルギー予防目的で行う看護学生への2回の手袋使用テストの有用性	共	2015.8	日本看護学教育学会第25回学術集会 (於：徳島 アスティとくしま)	①基礎看護教育の中でできるラテックスアレルギー(LA)を予防するためのスクリーニング法として、これまでの質問紙と使用テスト(1回)の併用に加え、使用テストを2回試みてその評価を行い、まとめた。 ②共同発表者名 梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ、小田日出子、浅野嘉延 ③日本看護学教育学会第25回学術集会講演集 P.165
2. Caring Ability Inventory 日本語版の信頼性・妥当性の検証	共	2015.8	日本看護学教育学会第25回学術集会 (於：徳島 アスティとくしま)	①Caring Ability Inventory (CAI) の日本語版を作成し、その信頼性・妥当性を検証した。CAIは、1990年に米国の看護師を対象にNkonghoによって開発され、37項目から成る。信頼性・妥当性は得られており、「知ること」、「勇気」、「忍耐」というケアリングの要素を測定できるものである。尺度全体のα係数

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3.基礎看護学実習における臨床実習指導体制の実態	共	2015.8	日本看護学教育学会第25回学術集会 (於：徳島 アスティとくしま)	<p>は、0.801、各下位尺度は、「知ること」0.789、「勇気」0.716、「忍耐」0.182で、「知ること」、「忍耐」については、原版の3下位尺度が混在していた。本結果から尺度全体の信頼性は確保されたが、因子構造の見直し等課題が残った。</p> <p>②小野聡子、飯野英親、梶原江美、本田輝子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③日本看護学教育学会第25回学術集会講演集 P.230</p> <p>①基礎看護学実習指導体制の実態を明らかにすることを目的に、福岡・山口県内の看護部教育担当責任者を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。その結果、実習指導の現状は実習指導者が指導と業務を兼担する病院が57.4%にのぼった。この状況は、学生の日々の気づきや看護学生としての成長を捉える上で継続的で十分な指導ができる環境とは言い難く、教員との十分に連携をとる必要性が示唆された。</p> <p>②共同発表者：本田輝子、梶原江美、飯野英親、小野聡子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③日本看護学教育学会第25回学術集会講演集 P.215</p>
4.看護師のラテックスアレルギー罹患率と知識との関連	共	2015.9	第46回日本看護学会～看護管理～学術集会 (於：福岡国際会議場・福岡サンパレス)	<p>①看護師のラテックスアレルギー（LA）罹患率と知識状況について、無記名による自記式質問紙調査を実施した。対象の中でLAの既往を持つ看護師は28名（3.7%）で、その内、ラテックス製手袋使用者は13/28名（46.4%）だった。LAの知識について、知っていると答えた545/749名中、発症の仕組み（29.4%）や呼吸器曝露（20.7%）の可能性について知っているものは少なかった。LAの既往を持つ・持たないにかかわらず、LAの知識が低く教育の必要性が示唆された。</p> <p>②共同発表者：梶原江美、飯野英親、本田輝子、小野聡子、末光順子、岩本テルヨ</p> <p>③第46回日本看護学会～看護管理～学術集会抄録集 P.346</p>
5.看護師のケアリング能力と他者との関わりに関する経験との関連	共	2015.9	第46回日本看護学会～看護管理～学術集会 (於：福岡国際会議場・福岡サンパレス)	<p>①Caring Ability Inventory (CAI) 日本語版を使用して、看護師のケアリング能力と関連要因を明らかにし、ケアリング教育に関する課題について検討した。対象は、中国・九州地方の看護師635名に無記名式自記式質問紙調査を実施した。結果、CAI得点と他者との関わりに関する項目の差の検定において、有意差を認めたのはパートナーとの同居経験（P=0.028）と現在の家族関係に対する認識（P=0.002）、管理職であること（P=0.000）だった。過去の体験よりも現在どのような体験をしているかがケアリング能力に影響しやすい可能性が示唆</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
6 .Knowledge about latex allergy and the sources of knowledge in Japanese nurses.	共	2016.3	19th EAFONS East Asian Forum Of Nursing Scholars (Chiba, Japan)	<p>された。</p> <p>②共同発表者：小野聡子、梶原江美、飯野英親、本田輝子、末光順子、小田日出子、岩本テルヨ</p> <p>③第46回日本看護学会—看護管理—学術集会抄録集 P.500</p> <p>①日本人看護師のLAIについての知識の獲得状況と知識の入手先について調査した。その結果、症状、対処策、予防策、呼吸器系曝露、長期曝露と発症の関係、ラテックス関連フルーツ症候群等の全ての知識を持つ者は5% (27/545) だけで、すべて手術室看護師だった。この5%の手術室看護師の知識源の多くは、部署内の勉強会 (74.1%)、専門書 (59.3%)、学術集会 (44.4%)、院内研修 (37%) などの複数の機会を通じて知識を得ていたが、学部教育で習った人はいなかった。今後も学術集会などを通じて啓蒙活動を継続して行っていく他、学生時代にLAIについて学ぶ機会を取り入れていくことも予防の一手段となりえるといえる。</p> <p>②共同発表者：Emi Kajiwara、Hidechika Iino、Teruko Honda、Satoko Ono、Junko Suemitsu、Teruyo Iwamoto</p> <p>③Abstract Book Poster Presentation P.531</p>
				<p>教育研究業績 総数 (2016.3現在)</p> <p>学術論文 9 (内訳 単0、共9)</p> <p>学会発表 20 (内訳 単0、共20)</p>

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

・国家試験対策委員：4年生全体に対して、1年間の学習計画と模試、強化学習を実施した。また、模試の結果や学生からの質問から、弱点の強化や個別指導を行った。特に計算問題の苦手な学生に対して、酸素ボンベ等を使用し問題の考え方を説明した。

具体的には4月の国試対策のオリエンテーションで、年間計画を提示し自分で学習管理を行うように説明し、kaname.net に資料を準備した。強化学習では、学習効果があがるように適時個々の学生に声掛けを行い、教科書や参考書の活用方法を指導した。また、演習室や教室を予約し、学生の学習環境を整えた。

・教職員懇談会：退職された教員の後(8月～)より、担当した。懇談会への参加及び、出席の声かけを実施。

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 樋口 由貴子	職名 助手	学位 学士(西南女学院大学 2002年)
-----------	-------	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
小児看護学	子ども、ワクチン、感染症、発達障害児、家族支援

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。 ・ 大学における感染症予防対策として予防接種勧奨のガイドラインについて検討する。 ・ 一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。 ・ 発達障害児とその家族への支援について考察する。

担当授業科目
小児看護学演習(前期)(看護学科) 小児看護学実習(通年)(看護学科) 小児看護学概論(後期)(看護学科) 母性看護学演習(前期)(看護学科) 基礎看護学実習Ⅰ(後期)(看護学科) 基礎看護学実習Ⅱ(前期)(看護学科) 生活援助技術論(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 小児看護学演習 】</p> <p>ペーパーペイシエントを用いた看護展開と実技演習をおこなった。事例検討では、図書の調べ方や本の利用方法について学生の疑問から説明し、実践した。実際の患児や家族がイメージできるように発問し、看護展開ができるように工夫した。</p> <p>実技演習では、安全面の留意し、根拠と工夫することの重要性について説明し実践することで、学生が習得できるよう援助した。</p>
<p>授業科目名【 小児看護学実習 】</p> <p>形態機能や病理学など基本に戻り、そこから疾患の特徴、一般的な治療と児の一般的な発達を学習できるよう関わった。臨床実習中は、患児と家族のベッドサイドに、まず一緒に行き、コミュニケーション方法や技術の提供方法等を行った。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、達成できるよう支援を求めた。臨床実習の中で、学生がもった「疑問」・「気付き」から明日の看護に結びつける課題を見出せるよう援助した。報告・連絡・相談をおこない、グループダイナミクスの重要性についても指導した。</p>
<p>授業科目名【 小児看護学概論 】</p> <p>NPO 法人ママの働き方応援隊が企画する「赤ちゃん先生プロジェクト」の協力を得て、学生が赤ちゃんとお母さんに触れる中で、子育ての大変さ、喜びを実感しその中で看護師としてどう母子を支えるかを考えるように支援した。</p>

<p>授業科目名【 剛看護演習 】</p> <p>沐浴演習では、新生児の解剖生理学に基づき技術の根拠となる考え方とそれを実践する方法について説明し、学生が理解し安全に実践できるよう援助した。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護演習Ⅰ 】</p> <p>初めて患者を受け持つ実習となる為、学生としての身なり・行動や安全、個人情報取り扱いの責任を持つことを意識行動できるよう具体的に指導した。グループで行動する意味を説明し、報告・連絡・相談を意識して行動できるよう指導の工夫をした。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護演習Ⅱ 】</p> <p>臨床実習では、学生としての身なり・行動や、個人情報取り扱いの注意について指導した。また、自分のしたい看護、できる看護をしようとするのではなく、患者さまを実際に見て、触れて感じたことから患者さまに必要な看護を導きだすよう指導した。カンファレンスを用い自分の意見をまとめて相手に伝えることの大切さ、グループの学びとして共有し、自己に還元することの大切さについて指導した。学生が、実習の中で自己の強みと課題を見出せるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 生活観察演習 】</p> <p>技術の根拠と工夫することの重要性について説明し、学生が根拠を考えながら実施できるように工夫した。また、実際に臨床で出会いやすい場面や状況について補足説明することで、臨床をイメージしやすいように援助した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会会員		平成 14 年 4 月 (現在に至る)
日本小児看護学会会員		平成 21 年 1 月 (現在に至る)
日本小児保健協会会員		平成 21 年 4 月 (現在に至る)
日本環境感染症学会会員		平成 22 年 10 月 (現在に至る)
北九州医療保育士ネットワーク		平成 23 年 3 月 (現在に至る)
日本母性衛生学会会員		平成 25 年 6 月 (現在に至る)
日本看護科学学会会員		平成 25 年 6 月 (現在に至る)

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文・資料) ①大学の感染症予防対策における予防接種指針の検討	共	2016. 3	西南女学院大学紀要 Vol 20.2016	①感染症罹患のリスクが高い医療系と医療系以外の学生について、予防接種勧奨を行う抗体価の基準を設定し、勧奨方法のガイドラインを明示した予防接種指針を作成した。 ②共同著名 樋口由貴子,大内田知英, 藤田 稔子, 目野 郁子 ③ (P9~14)

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. 保育園の感染症対策 - 1 保育園における継続した情報提供の効果 -	共	2015. 6	第 62 回日本小児保健協会学術集会	①福岡県内の1保育園を対象に定期的に感染症と予防接種に関する情報提供をおこない、その効果について検討した。 ②共同研究者 <u>樋口由貴子</u> , 目野郁子 ③第62回日本小児保健協会学術集会講演集 予防接種 (P225)
				教育研究業績 総数 (2016. 3. 18現在) 学术论文 1 (内訳 共1) 学会発表 1 (内訳 共1)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
アレルギー疾患のある中学生の学校生活における「困りごと」に関する研究 (申請中)	文部科学省	○一期崎 直美 <u>樋口 由貴子</u>	2,490,000 円

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

--	--	--

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- ・保健福祉学部1年生および助産別科1年生への感染症予防／予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨
2011年6月～現在に至る

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	井手 裕子	職名	助教	学位	修士(看護学) (大分大学 2006年)
----	-------	----	----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学	慢性期看護学 看護教育

研究課題
成人看護学の教育活動に関して、特に臨床実習の場において、学生が慢性期にある患者の特徴とその看護を理解するための効果的な指導方法について考察する。また、学生に実習で受け持たれた慢性疾患患者と学生との人間関係構築に影響する因子について調査、考察し今後の実習指導の示唆を得る。

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術論(前期) ・基礎看護学実習Ⅰ(後期) ・基礎看護学実習Ⅱ(前期) ・看護研究の基礎(前期) ・成人・老年看護学演習(前期) ・成人慢性期看護学実習(前期・後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【看護技術論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の基本的な技術の習得科目であるため、正確な技術や明確な根拠を常に意識しながら指導を行なった。 ・対象は1年生であり、専門職としての意識・態度を養う最初の場面であるため、演習中の態度などに対しても注意喚起を行った。
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生を対象とした実習Ⅰにおいては、まずは看護職という専門職の立場で患者の前に立つことへの意識づけに主眼を置き、臨地指導者との密な調整を重ねながら個々の学生への指導に当たった。 ・2年生を対象とした実習Ⅱにおいては、看護者として患者を観察すること、そして、療養生活上の看護上の問題点(気がかり)を解決するための看護実践について、基本的知識や技術の定着化を基盤におきながら個別的な援助への工夫にも、目を向けられるよう指導した。
<p>授業科目名【看護研究の基礎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主としてグループワーク時の指導を行った。研究テーマを見出す段階では、学生個々の考えている問題をできるだけ具体的に表現できるように発問を繰り返し、最初に掲げた研究の目的から逸れないよう指導した。 ・「研究」というものに対する苦手意識の強い学生には、グループワーク中にも意見を述べるように意図的に発問をするなどして、興味・関心を持たせるようにした。
<p>授業科目名【成人・老年看護学演習および成人慢性期看護学実習】</p> <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙上患者における看護過程展開において、得られた情報を関連付けてアセスメントすることや、患者を全体的に捉えること意識付けるように指導した。そのなかで既習の知識をどのように活用すべきか、またグループワークという形態での学習であったため、積極的な学生に対して消極的な学生もおり、グループで学習することの意味付けも適宜確認しながら指導を行った。

- ・技術演習（血糖測定・インスリン自己注射）では、看護技術の正確な習得のみならず、看護者として慢性疾患患者の自己管理へむけての指導をいかに実施していくかについて、実際の臨床での様子などを口頭で説明しイメージさせた。

<実習>

- ・学生が書く日々の実習記録の中で、前日の実施した結果が翌日のケアに活かされているか、また、実施した看護活動がなぜ行う必要があったのかを再度評価できるように、ケアの根拠を考察するように指導した。
- ・学生が実習中の学習をする際に、学生向けの雑誌のみに頼る傾向があるため、学内の講義での配布資料や教科書に戻ることを意識づけた。このことは同時に国家試験対策へも関連していくことを伝えた。
- ・療養生活が長期にわたり、尚且つはっきりしない病態へのもどかしさを抱える慢性期疾患患者および家族の精神的苦悩に少しでも共感できるよう、学生と共にベッドサイドへ行き、タッチングなどの技術を通して患者との援助的人間関係を成立させるよう工夫した。
- ・実習中および終了時などに、学生の援助内容についての具体的な意見を受け持ち患者から伺って、その結果を学生に戻し、看護者としての意識が高められるようにした。
- ・学生への指導内容について、教員と臨地指導者間で差異が生じないように日々臨地指導者と密に連絡・調整を図った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
聖路加看護学会		1996年 4月
日本看護研究学会		1996年 6月
日本看護学教育学会		1998年 4月
日本看護診断学会		1998年 6月
日本糖尿病教育・看護学会		2003年 8月
日本看護科学学会		2008年 10月

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学术论文等の名称 (学会発表)	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<p>国家試験対策委員（2015、10～）</p> <p>常勤勤務となった2015.10より国家試験を受験する4年生の指導に当たった。時期的には模擬試験等での成績下位者への対応が主であった。個々の指導に当たっては単なる知識の詰め込みではなく、実習で実践してきたことへの振り返り、教科書での基礎的知識の確認を意識した。</p>

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	後藤 有紀	職名	助手	学位	学士(看護学)(長崎大学 2003)
----	-------	----	----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
精神看護学	教育、認知症

研究課題
2014年度に本学精神看護学前田准教授及び松尾助教により実施された「精神看護学における共感性と倫理的感性に関する研究」について、研究方法を一部変更し、学生の倫理に関する体験等を明らかにし今後の看護教育への示唆を得ることを目的とする。今年度3月の倫理審査委員会にて審査予定。 また、認知症研究に関する活動として第23回ホスピス国際ワークショップへの参加。

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の担当はしていません。 ・生活援助技術論3コマ(9月、11月)、ヘルスアセスメント計5コマ演習指導。 ・10月から2月の精神看護学実習において2病院担当。 ・基礎看護学実習Iにおいて1グループ指導担当。

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【生活援助技術論】</p> <p>実技演習・試験がスムーズに行えるよう学生の誘導や物品の配置を行った。事前に指定図書の該当箇所を確認し、知識の確認と学生の学習内容を確認した。不明な点は適宜責任者に指示を仰いだ。</p>
<p>授業科目名【ヘルスアセスメント】</p> <p>呼吸・循環のアセスメントに関する演習において、責任者の指示のもと指導の補助を行った。また、学生の誘導や演習中の様子を見て、必要な際は声かけや授業責任者への調整を行った。</p>
<p>授業科目名【精神看護学実習】</p> <p>2病院にて計46名の3年次看護学生の実習を担当した。精神科や精神科でのケアの実際を学ぶことはもちろん、対象理解や自己の傾向に気付き洞察すること、コミュニケーションとは何かについて学びが深まるよう意識して指導した(カンファレンスやレポートの活用、教員と学生同士のコミュニケーションも積極的に図るよう努めた)。必要時は精神看護学実習責任者へ指導・指示を仰いだ。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習I】</p> <p>1グループ計6名の1年次看護学生の実習を担当した。1年生にとっては本格的な実習は初めてであるため、極力指導者や病棟看護師との連絡役を務め、患者との関わりに重点を置いて指導した。自分自身も初めての基礎実習担当であったため、逐次実習責任者と連携を図りながら指導を進めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会	なし	平成 28 年 4 月～
日本精神科看護協会	なし	平成 28 年 4 月～

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位 : 円)
「精神看護学における共感性と倫理的感性に関する研究－看護学生へのインタビューを通して－」	附属研究所	前田由紀子、後藤有紀	120,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

国家試験対策委員（平成27年度10月～）

福 祉 学 科

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 杉原好則	職名 教授	学位 学士(教育心理学)(九州大学1972年)
---------	-------	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
福祉行政	介護保険、老人福祉、障害福祉、児童福祉、いじめ問題、福祉サービス第三者評価、リスクマネジメント、生活保護

研究課題
<p>福岡県や北九州市における福祉行政を中心に検討を行い考察する。</p> <p>北九州市における児童虐待事件について検討し考察する。</p> <p>北九州市において発生する障害者虐待について検討し考察する。</p> <p>北九州市の障害支援区分制度について検討し考察する。</p> <p>北九州市の生活保護行政について検討し考察する。</p> <p>高齢者福祉施設の運営管理について検討し考察する。</p> <p>北九州市保健福祉サービスについて検討し考察する。</p>

担当授業科目
<p>福祉経営論(前期)、福祉行政と福祉計画(前期)、相談援助演習I(後期)、相談援助演習II(前期)、相談援助演習III(後期)、相談援助演習IV(前期)、相談援助演習V(後期)、</p> <p>ヒューマンサービス基礎演習(前期)、相談援助実習指導I(通年)、相談援助実習指導II(通年)、相談援助実習(通年)、専門研究I(通年)、専門研究II(通年)、</p> <p>社会福祉特講II(集中講義)、</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【福祉経営論】</p> <p>テキストを用いて、社会福祉施設の運営管理がどのようなものであるかについて、高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」の実例を挙げながら講義を行った。</p> <p>パワーポイントやDVDを用いて、具体的に理解しやすいよう解説を行った。また国家試験問題との関連にも、その都度解説を行った。</p>
<p>授業科目名【福祉行政と福祉計画】</p> <p>テキストを用いて、福祉行財政の仕組みやその財源、関連機関や専門職がどのような仕組みで成り立っているかについて、講義を行った。</p>
<p>授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】</p> <p>人と人との関係をより良くするためのコミュニケーションの在り方について、様々な課題を提示し、グループで課題解決に取り組むことによって体験的に学べるように工夫した。</p>

<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅰ 】</p> <p>相談援助とは何かについて、グループで各種の問題について解決すべく取り組むように指導し、社会福祉士としてのレディネスを形成できるように指導した。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】</p> <p>児童虐待の事例を中心に、虐待された子どもとその家族をどのように支援し、再構築していくかについて、テキストを用いてグループ学習を行った。ロールプレイやグループでのディスカッションを行い、全員参加で課題に取り組むよう指導した。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅲ,Ⅳ 】</p> <p>生活困窮者に対する福祉事務所の対応について、DVDを用いて実際の事例ごとに小グループで検討し、発表を行った。また、クライアント役とケースワーカー役になり、ロールプレイを実施し、具体的に問題解決に結びつくよう検討を行った。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅴ 】</p> <p>地域におけるネットワーク構築のための戦略や技法について、八幡東区で行った高齢者福祉対策モデル事業を中心に検討し、解説を行った。また、他の専門職とのチームアプローチや専門機関との連携について検討し、解説を行った。</p>
<p>授業科目名【 相談援助実習指導Ⅰ 】</p> <p>3年次に行う障害者福祉施設の実習準備のため、障害者福祉の歴史や法制度について解説し、実習施設に提出する自己紹介票や実習計画書の記入の仕方などの個別指導を行った。また、モチベーションを高めるため、障害者福祉施設の見学実習を行った。</p>
<p>授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】</p> <p>実際に実習に臨む時の注意点の指導や、実習日誌や実習報告書の記入の仕方について、具体的にわかりやすく指導を行った。また、実習先で学生が担当した事例について発表を行い、全員で事例の問題点や解決策について検討を行い、理解を深めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
九州臨床心理学会	北九州地区会長 (2013年3月まで)	1972年4月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学术论文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				
(講演) 人権研修		平成27年 10月18日	北九州市立介護実習・普及センター	福祉用具専門相談員指定講習会において、人権についてこうえんをおこなった。
(講演) 北九州市「あゆみの会」学術集会		平成28年 1月9日	社会福祉法人北九州あゆみの会	あゆみの会の学術集会において障害者福祉施設の在り方について講演を行った。
(講演) 北九州市の福祉問題について		平成27年 10月17日 11月7日 12月12日 平成28年 1月23日		生涯学習指導者育成セミナーにおいて、北九州市で発生する各種福祉問題(高齢者、障害者、児童等に関する諸問題)について講演を行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市介護サービス評価委員会 ・(社福) 北九州精神福祉事業協会 ・北九州市社会福祉審議会 ・(社福) 北九州あゆみの会 ・北九州市障害者・児福祉施設等第三者評価委員会 ・(社福) 喜久茂会 ・北九州市障害者施策推進協議会 ・北九州市障害者施策推進基本計画ホローアップ委員会 ・北部九州圏都市計画協議会総合都市交通調査委員会 政策検討部会 ・NPO法人 障害者支援要会 ・(社福) 福音会 ・福岡県社会福祉審議会 ・北九州市障害区分認定審査会 ・健康福祉北九州総合計画推進委員会 	<ul style="list-style-type: none"> 委員 評議員 委員 児童福祉専門分科会 副分科会長 理事・評議員 委員長 理事 副委員長 委員長 委員 理事 理事・評議員 委員長 老人福祉専門部会長 調整委員会 委員 委員 	<ul style="list-style-type: none"> 2004年6月～2013年3月まで 2001年4月～現在に至る (平成28年3月まで) 2001年4月～2012年10月まで 2002年3月～現在に至る (平成28年3月まで) 2003年1月～現在に至る 2003年6月～2011年3月まで 2003年9月～2015年9月まで 2003年10月～現在に至る (平成30年3月まで) 2005年6月～2011年3月まで 2005年9月～現在に至る (期限なし) 2005年10月～2011年3月まで 2006年5月～現在に至る (平成29年6月まで) 2006年5月～現在に至る (期限なし) 2007年3月～現在に至る (期限なし)

・NPO法人 生涯学習指導者育成ネットワーク指導者認定委員会	委員	2008年3月～現在に至る (期限なし)
・福岡県保護司選考委員会	委員	2009年5月～現在に至る (期限なし)
・北九州市障害者支援計画策定委員会	委員 「地域で自立して生活できる基盤整備部会」 部会長	2011年5月～2012年3月まで
・福岡県幸福度に関する研究会	委員	2011年6月～現在に至る (期限なし)
・福岡県高齢者保健福祉計画策定検討委員会	委員長	2014年3月～2015年3月まで
・福岡県総合計画審議会	委員	2011年9月～2014年9月まで
・福岡県介護実習・普及センター事業等企画書選定委員会	委員	2014年5月～現在に至る (期限なし)
・(社福)北九州あゆみの会 [虐待防止委員会]	委員	2013年4月～現在に至る (期限なし)
・(社福)北九州市社会福祉協議会	評議員	2013年4月～現在に至る (平成29年3月まで)
・北九州市介護給付費等の支給に関する審査委員会	委員	2013年4月～現在に至る (平成29年3月まで)
・福岡県介護人材確保・定着促進協議会	委員長	2015年9月～現在に至る (平成28年3月まで)

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

1 倫理審査委員会

大学における研究等について、倫理審査を行った。

2 国家試験対策

通年で週1回、希望する4年生に対して受験対策講座を開講し、社会保障、生活保護、高齢者福祉、障害者福祉とうの学習指導を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本西洋史学会 西洋史研究会 歴史学研究会 スイス史研究会	評議員 (1997年11月～2007年11月)	1973年4月～現在に至る 1973年4月～現在に至る 1984年4月～現在に至る 2004年4月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. 中・近世スイスのド イツ観	単	2016. 3	西南女学院大学紀要 Vol. 20	中・近世のスイスにおいて、救済史的な使命を帯びるドイツ人の一員であるとの自己理解が、東方のオスマン・トルコと西方のブルゴーニュ公ないし仏王とに対する二正面作戦を強いられた時に先鋭化したことを指摘する。(p25～p31)
(その他)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位: 円)

--	--	--	--

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
西南の杜	編集委員	2010年11月～2016年3月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
宗教委員会委員 水泳部顧問

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 谷川弘治	職名 教授	学位 社会学修士
---------	-------	----------

研究分野	研究内容のキーワード
健康臨床心理学 特別支援教育 医療保育	小児慢性疾患 小児がん 白血病 心理社会的支援 セラピューティックアプローチ 自立支援 治癒的遊び 発達支援 病弱特別支援教育 病弱児心理学 医療保育 キャリアパス 多職種研修 多職種連携 多職種協働

研究課題
小児医療における心理社会的支援専門職の専門性向上のシステム構築 小児医療フィールドにおける教師と保育士の言葉の運用に関する研究 小児医療フィールドにおける治癒的遊びの研究

担当授業科目
<p><看護学科> 臨床心理学(2年後期 選択1単位)</p> <p><福祉学科> ヒューマンサービス基礎演習(1年前期 必修1単位) 心理学研究法(3年前期 選択2単位) 家族心理学演習(4年前期 選択2単位) 発達臨床心理学(2年後期 選択2単位) 発達臨床心理学演習(3年前期 選択2単位) 福祉臨床心理演習Ⅰ(2年後期 選択2単位) 福祉臨床心理演習Ⅲ(3年後期 選択2単位) 保育の心理学Ⅰ(2年後期 子ども家庭福祉コース必修2単位) 保育の心理学Ⅱ(3年前期 子ども家庭福祉コース必修1単位) 保育実践演習(4年通年 子ども家庭福祉コース必修2単位) 専門研究Ⅰ(3年通年 必修2単位) 専門研究Ⅱ(4年通年 必修2単位) 卒業論文(4年通年 選択4単位)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【臨床心理学】看護学科2年後期選択1単位(8コマ+定期試験)</p> <p><準備> 2年配当科目であることから、看護師に必要な心理支援の基本を身につけることをねらった。 本年度の受講生は32名(昨年度51名)で選択者が4割減少した。 8コマと短期間であるため、昨年度と同様にすべての基本資料を第1回目に配付し、昨年課題となった基本資料とパワーポイントとの整合性は改善させた。 臨床看護における患者理解に焦点をあてながら論じていることもあり科目に対する関心や学習意欲は高い。昨年度、なじみのない概念、混乱しやすい概念として「リフレーミング」「非機能的な思考」「自己効力の期待」「機能分析」などが特定できたことから、説明範囲を部分的に焦点化した。</p>

「質問・感想・意見」を毎回回収し i 質問への回答, ii 学習を深める上で参考となる感想や意見をまとめたプリントを配付した。また, 意欲・関心に関する DP として得点を配分した。

<評価>

1. アウトカム評価

アウトカムは平均点 67 点 (昨年度 71 点) であった。

学生の授業評価の関連項目 (下記) も学科平均に近かった。

- ①自分なりの目標を達成 : 3.4 (看護学科平均 : 3.5)
- ②DP1-2 関係 : 知識を確認, 修正したり, 新たに得る : 3.8 (同 3.7)
- ③DP1-2 関係 : 事象を理解する視点や考え方を得る : 3.5 (同 3.6)
- ④DP2-1 関係 : 自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力 : 3.5 (同 3.6)
- ⑤DP2-1 関係 : 自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力 : 3.4 (同 3.6)

以上から教育目標は「概ね達成」と判断した。

2. プロセス評価

毎回の「質問・感想・意見」には, 簡単ではあれ, さまざまな質問や意見が書き込まれていた。また, 学生の授業評価において「口頭, 文書など, 何らかの形で学生の質問を受け付け, それに答える機会が作られていた」は 3.8 (看護学科平均 3.5) より若干高めであった。以上の背景として, 「質問・感想・意見」に記されたものの中から学習を深めることにつながる質問や意見, 独自性の高い質問や意見を選定しプリントで紹介, 点数にも反映させた。このことも質問や意見を書くことの動機づけとなっていたと推察される。

「授業の質」に関する学生の授業評価の中で, 看護学科平均よりも-.3 以上低いものは,

- i 「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」 3.3 (同 3.7),
- ii 「授業中に, 自分の意見をまとめる, 話し合う, 発表するなど, 学生が参加する機会が作られていた」 3.0 (同 3.4) の 2 項目であった。

i については, 最初に資料を渡していたので, 予想外であったが, おそらく試験対策を行わなかったことがあげられる。ここは改善の余地がある。

ii については, アクティブラーニングの要素を入れるには 8 コマでは少なすぎるため, 実施してこなかった要素である。

<まとめ>

授業参加者については概ね目標を達成したと思われるが, さらに参加度を高める工夫を行いたい。

- ①「質問・感想・意見」の評価の周知を図る
- ②試験対策の導入

看護師には必要な知識と技術であるため履修者を増やせるように関係者と連携をとりたい。

また, 看護学科にはカリキュラム改定にあたって時間数増の検討をお願いしたい。

授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】福祉学科 1 年前期 必修 1 単位

<準備>

本科目は, 学生達にとって初めて経験する密度の濃い対人関係のリフレクションの時間となっている。その機会を活かすために次を重視してきた。

- a. テーマの説明を丁寧に行う
- b. 達成感がもてるようにする
- c. できたことを評価する
- d. 弱点は長所でもあることを指摘する (リフレーミング)
- e. 「いまできないことがあっても良いが, 卒業するまでには克服するように」と見通しを持たせる
- f. 振り返りの時間を大切にする。

さらに 1 つのテーマ毎に次の流れを作るようにした。

X 回目 :

- a. アイスブレイキングに参加する
- b. テーマの説明を聞く
- c. エクササイズを実施する
- d. 解説を聞く
- e. まとめを作成する（リフレクション）

X+1回目：

- f. まとめをもとに教員が作成した解説を聞くことで再度のリフレクション
- g. 最終のまとめのレポートを作成し、提出する
- h. 次のテーマに移行する（a.から進行する）。

1つのテーマを1回の授業で終わらせるよりも、次の回に解説を聞くことで視野を広げたり深める、少なくとも想起することができると思う。

なお、学生の授業評価によれば、受講動機はほぼ「必修科目である」であった。このことは、授業を通して動機づけを高めていくべきことを示しているため、今後も留意しておきたい。

<評価>

1. アウトカム評価

成績を観点別に見ると次の通りであった。

DP 4-1 78% DP 4-2 85% DP 4-3 64% DP 5-1 86%

学生の自己評価は下記の通りであった。

DP 4 3.8 (3.5) DP 5 技術, 表現共に 4.4 (3.7)

以上のように、学生の自己評価も高く、達成感を持って終わることができている。

また、最終レポートでは、自分の今後の課題も具体的に述べる事が出来ており、的確に実施出来たと考えられる。

2. プロセス評価

日々の学習は全員が熱心に取り組んでいたが、教員との意見のやり取りは滞ることもあった。また、予習復習などは行われておらず、学習課題の提供は必要かも知れない。

担当教員グループで計画されているものを、各教員は許容範囲内でアレンジして実施している。

<まとめ>

1年生前期の導入教育としての目標は概ね果たせていると思われる。しかし、教員が確認できるものは半期共に過ごす関係性の中でのロールプレイ等によるスキル実行状況であって、日常生活への般化は確認できていない。この点は本講座の限界である。

また、現在のスキル実行状況の評価軸は必ずしも明確ではないため、説明責任を果たすためには、さらに客観的な評価のシステムを検討する必要があると思われる。

授業科目名【心理学研究法】福祉学科3年前期 選択2単位（認定心理士希望者のみ）

<準備>

1. 基本的な進め方：

従前より次の点を配慮している。

- ① 科学的な方法論を学習する機会が少ないため、できるだけ身近な例をあげながら解説する。
- ② 実際の課題を提示し、意見を求めたり、可能な範囲でデータ分析を実施しながら進める。
- ③ 中間テストを実施して、振り返りの機会を提供する。

2. 追加したことから：

昨年度の自己点検評価において「質的調査、量的調査、実験を中心においた内容構成から、福祉実践の効果測定に活かせる準実験、一事例実験、実践研究などに重点を移していくことも検討したい」と述べていた。これに従い、実験研究の解説を減らし、準実験、一事例実験、実践研究について内容を充実させた。

3. 学生の準備性に関して：

認定心理士コースの独自科目であり、コース必修である。受講動機もそのことを反映しており、関心があるから受講したものは1割とごく少数であった。つまり、単位上やむを得ず履修しているという現状と思われる。真理を追究する学問の意義や役割について、一定の理解を得て行くにはどうすれば良いかを考える必要があることが理解できた。

<評価>

1. アウトカム評価

中間、期末テスト総合の正答率を観点別に見た場合、下記の通りであった。

DP 1-1 (教養要素) : 75%, DP 1-2 (福祉専門要素) : 59%, DP 3-1 (関心) : 73%,
トータル 68%

一方、学生の評価は下記の通りであった。

- ・DP 1 関連：新たな知識 3.7 (3.8), 理解の視点 3.5 (3.5),
- ・DP 3 関連：意欲 : 3.3 (3.6)
- ・全般 (目標達成) : 3.3 (3.6)

以上から、知識・理解関連の学生評価は学科平均に近かったが、成績評価からは、より福祉専門要素に近い領域の学修に重点を置くべきと考える。つまり、支援過程を対象とするような研究デザインに関する知識理解を伸ばしていくことが求められる。また、意欲関連の学生に関しては学科平均の-.3 下回っており、動機づけの難しさは継続していたものと思われる。

2. プロセス評価

学生の予習復習率は半数を下回っており、図書館等の利用もほとんどなかった。中間テストのような、義務的事項以外への学習の動機づけがなされていない。復習課題を設定することも考えるが、まずは動機づけを高める工夫をさらに追求したい。

<まとめ>

福祉領域の支援過程を対象とする研究法の内容を増やしたが、そのアウトカムを中心に目標達成は不十分であったと判断された。履修動機が資格取得に偏り、説明も難しいと評価される状況で、教養的要素、関心については7割を超えるなど一定水準のアウトカムを得ているところについては、中間テストや期末テスト前に配付するキーワード集の効果が推察された。

一方で、日常的な復習やさらなる学習は進んで居らず、復習課題の提示、動機づけのさらなる工夫など、改善が求められる。

授業科目名【家族心理学演習】福祉学科4年前期 2単位 選択

<準備>

1. 授業の実施方針：

昨年度の自己点検評価報告書では、本演習について「(担当科目中) 学生のコミットメントがもっとも強い科目であり、発表者の発表内容、その後の議論などは、深いものとなっている」と述べていた。この点は今回の演習でも確認できた所である。

演習を進めるにあたり重視してきた点は次の2点である。

①家族の発達過程と直面しがちな課題について最初に学び、家族支援の進め方、最後に家族システム論による理論的な押さえをしていく流れとする。

②学生の状況を考慮し、1回の発表分量を調整する。

さらに、本年度は観点別評価の導入にあわせて、アセスメント、事例検討(グループワーク)を新しく加えた。

2. 学生の学習準備性：

受講動機を見ると、一位「関心のある内容である」67%、二位「資格取得に必要である」「単位数を確保する」共に33%であった。学生の関心の高さが、資格取得や単位の確保を上回っていることは、上述の記述を補強する

ものと言える。このような学生のニーズに応えられる演習となるよう、毎回の準備において下記に気をつけてきた。

①毎回の議論の主題は発表担当の学生が提案するが、教員としても提案できる主題を準備しておく。

②話し合いは学生の進め方を尊重するが、必要に応じて、家族療法の技法である円環的質問の方法を準用するなど、演習の主題に関連する技法も用いてシステムの活性化に努める。

<評価>

1. アウトカム評価

教員評価による観点別の出来具合を表す指標は、次のような結果であった。

DP 1-1 : 60%, DP 1-2 : 79%, DP 2-1 : 87%, DP 2-2 : 57%,

DP 3-1 : 80%, DP 3-2 : 57%, DP 5-2 : 81%, 全体 : 77%

授業評価アンケートでは下記の様であった。

DP 1 : 新たな知識 4.8 (4.0) 理解の視点 4.3 (3.6), DP 2 : 課題検討 4.0 (3.6) 判断 4.0 (3.6),

DP 3 : 意欲 4.0 (3.7), DP 5 : 技術 3.5 (3.7) 表現力 4.5 (3.7)

①知識理解の獲得、表現（意見表明）については効果が高い、②応用のための判断力を養う、関心を持って調べるといふ点では課題が残る、と考えられた。

2. プロセス評価

学生の授業評価によると予復習の時間はばらつきがあるが確保されているが、図書館を利用するといった新たな学習には結びついていない。

次年度の演習企画において、これらの点に配慮したい。

主にDP 3を活かす形を検討したい。

* () は学科平均値

<まとめ>

学生の関心の高さに支えられ、知識理解、意見表明の点では効果の高いプログラムを実施出来ている。しかし、より実践的な判断力、関心を持って追求する姿勢に関しては課題が示された。次年度は、こうした点を改善し、さらに充実したプログラムへと展開していきたい。

授業科目名【臨床発達心理学】福祉学科 2 年後期 選択 2 単位

<準備>

心理学概論 I, 心理学概論 II, 発達心理学 I, 発達心理学 II, 福祉臨床心理学 I, 福祉臨床心理学 II の学修を踏まえて、福祉学科で必要と思われる臨床発達心理学の応用理論について学習を深める科目である。

学生の授業評価によると受講動機の 1 番は「関心のある内容である」50.0%と、福祉学科としては関心優先の履修となっている科目と言える。

昨年度は正解率を問題別に検討し、下記についてはいぬいな説明が必要であることを押さえるようにした。

自立の多義性、老年期の発達課題や心理療法の進め方、臨床面接のルールとアクティンアウト

ポストトラウマティックプレイセラピー、認知療法における中核信念の性質、行動分析

昨年度のまとめから、中間テストに加えて「質問・感想・意見」を求めてコメントを返すという取り組みを行った。

<評価>

履修者は 35 名、採点対象者は 34 名であった。

レディネスの調査では、履修が望ましい 6 科目を全て履修していたものが 19 名 (55.9%) と半数を占めていた。また、社会福祉士希望者が 86%, 精神保健福祉士希望者が 43%, 認定心理士希望者が 17% の順であった。これらを踏まえると児童ではなく成人や老人、保健医療の分野について内容をシフトして良いのではないかと思われる。

1. アウトカム評価

評価方法別の平均点は下記の通りであった。

- ・ 中間テスト ; 14.0 (20 点満点)
- ・ 期末テスト ; 56.4 (70 点満点)
- ・ 小レポート ; 7.7 (10 点満点)
- ・ 合計 ; 78.1 (100 点満点)

学生の自己評価は下記の通りであった。

- ・ 全体 : 自分なりの目標を達成 : 3.2 (学科平均 3.4)
- ・ DP1-1,1-2 : 知識を確認, 修正したり, 新たに得る : 3.5 (同 3.8)
- ・ DP1-1,1-2 : 事象を理解する視点や考え方を得る : 3.3 (同 3.6)
- ・ DP2-1 : 自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力 : 3.4 (同 3.6)
- ・ DP2-1 : 自分が学ぼうとしている専門分野において, 的確に判断する力 : 3.3 (同 3.5)
- ・ DP3-1 : 自分が学ぼうとしている専門分野について, 学びを深めたいと意欲をもつ : 3.5 (同 3.6)

学科平均から-.3 以上低いものは DP1 すなわち知識・理解に関するところであった。

以上の結果から到達目標は「概ね達成」とはいえるものの、範囲の広さや問題の深さに追いつけない印象を学生達はもったと推察される。本科目（その前身である「福祉臨床心理学Ⅲ」）は、もともと 3 年生配当科目であり、上述の傾向は 2 年配当科目としてからは継続している。授業の質に関する学生の評価で学科平均より-.3 以上低いものはアクティブラーニングの要素、説明の難しさの 2 点であったことも、同様のことを考えさせる結果であった。

2. プロセス評価

今回より「質問・感想・意見」を授業の終わりに記入して貰い、回答やコメントを入れてプリントを配付するようにした。計 9 回を実施できた。また、授業をより深く理解することにつながる質問や意見（以下、グッドコメントとする）については点数配分をした。その結果、グッドコメントは 1 人あたり平均 5.4 を得ることができた。そのばらつきは 0~10（1 回に 2 つという場合がある）と大きいものであった。最初の説明不足があったのかも知れない。

<まとめ>

- ①2018 年度カリキュラム改定では、内容を整理の上、実習を経験してから受講する形をとる
つまり、学年配当を上を引き上げる
- ②グッドコメントを得るための動機づけを最初に行う
- ③来年度の内容を、成人や老人、保健医療分野にシフトさせる

授業科目名【福祉臨床心理演習Ⅰ】福祉学科 2 年後期 選択 2 単位

<準備>

ソーシャルスキルトレーニングと家族療法という 2 つのテーマについて、理論の基礎をロールプレイや発表を通して学ぶように手順を明確化して取り組んできた。

テーマ毎のプロシーチャーは次の通りとし、間に体験を挟んで理論への理解を深める構造を作った。

導入（教員による解説）⇒ ロールプレイ・グループワーク ⇒ 理論学習（発表と討論）⇒ まとめ

<評価>

認定心理士コースではない福祉心理養護教諭コースの学生と子ども家庭福祉コースの学生の履修も増えてきた。それゆえ「関心のある内容である」という受講動機が 41%と多くを占めた。

1. アウトカム評価

成績評価は下記の通りであった。

- ・ 全体の平均 : 78.5 点
- ・ ソーシャルスキルトレーニングの得点割合 : .77

- ・家族療法の得点割合：.78
- ・最終レポートの得点割合：.80

学生の授業評価は下記の通りであった。

- ・全体：自分なりの目標を達成：3.3（学科平均 3.7）
- ・DP1-1,1-2：知識を確認，修正したり，新たに得る：3.6（同 3.9）
- ・DP1-1,1-2：事象を理解する視点や考え方を得る：3.7（同 3.6）
- ・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力：3.8（同 3.7）
- ・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力：3.5（同 3.5）
- ・DP3-1:自分が学ぼうとしている専門分野について，学びを深めたいと意欲をもつ：3.5（同 3.7）
- ・DP-5-1,5-2：自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につける：3.4（同 3.6）
- ・DP-5-1,5-2：コミュニケーション力や表現力を高めることができた：3.8（同 3.7）

DP で見る限り学科平均と変わらない範囲と考えるが，自分なりの目標との関係では低い値であった。この傾向は昨年度にも現れていた。受講生達が求めているものに耳を傾けながら内容を作っていくという手順が必要なのかも知れない。

2. プロセス評価

本人達のペースを見ながら進め方を調整していったが，間延びして感じた面もあるかも知れない。てきぱきと進めていく感覚をもつことで，目標達成感も変化する可能性が考えられるため，自らのグループワーク遂行のあり方を見直していきたい。

授業の質に関する学生の授業評価で.3以上学科平均より低いものは，「評価基準が明らか」「学習範囲や課題が明らか」「説明は理解しやすい」の3点であった。これらについても，次年度の改善課題としたい。

<まとめ>

履修者の状況が変わりつつあることを意識して，従来の方法に拘泥しないようにしたい。

- ・SST，家族療法という構成で進めているが，内容について学生の要望を尋ねる機会を設け，調整を行う。
- ・一方で，グループワークの教員側の視点を整理し直し，焦点を再度明確にして取り組みを進める。
- ・教科書を用意する方が良いのかも知れないので，検討を行う。

授業科目名【福祉臨床心理演習Ⅲ】福祉学科3年後期 選択2単位

<準備>

急遽，本年度のみ担当した科目であり，前任者から引き継いで実施した。

高齢者の心理アセスメントは，アセスメントの理論を整理しつつ，手順を実施しながら，高齢者への適応の難しさと工夫などを考えた。

高齢者への心理療方法は，その基本的な考え方，多様な技法の展望を解説の上，回想法を中心にロールプレイ等を通してグループワークを行った。

<評価>

受講動機として資格取得（認定心理士）が81.8%であったが，単位数の確保も27.3%であり，ばらつきを意識して展開する必要があった。

1. アウトカム評価

成績は平均点が73.3点であった。

学生の授業評価は下記の通りであった。

- ・全体：自分なりの目標を達成：2.8（学科平均 3.7）
- ・DP1-1,1-2：知識を確認，修正したり，新たに得る：3.2（同 3.9）
- ・DP1-1,1-2：事象を理解する視点や考え方を得る：3.2（同 3.6）
- ・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力：3.2（同 3.7）
- ・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力：2.9（同 3.5）

- ・DP3-1:自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつ：3.0（同3.7）
- ・DP-5-1,5-2：自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につける：2.8（同3.6）
- ・DP-5-1,5-2：コミュニケーション力や表現力を高めることができた：2.8（同3.7）

以上のように、学生の評価は厳しいものであった。あらかじめ、臨時的に担当すること、高齢者の心理臨床を主体とするものではないことを明示した上での出発であったこともあり、当初より不満を感じていたものと考えている。

2. プロセス評価

必要に応じて本来の担当者に問合せながら進めた。

<まとめ>

このような場合は、その領域を熟知した教員を非常勤として依頼すべきである。

授業科目名【発達臨床心理演習】福祉学科3年前期 選択2単位

<準備>

急遽、本年度のみ担当した科目であり、前任者から引き継いで実施した。

全員が認定心理士コースというわけではないため、発達心理学の論文を読んでいくにあたり、研究方法論に関する解説を分かりやすく入れていくなど、配慮するようにした。また、発表を順に済ませていくことで、達成感を味わえるように進めていった。

<評価>

授業評価結果にある7名の受講動機は「資格取得に必要である」43%、「単位数を確保する」29%、「関心のある内容である」29%であり、「資格取得」が「関心」よりも多い傾向にあった。また、「単位数確保」をあげる学生も29%であった。

1. アウトカム評価：

観点別の成績は下記の通りであった。

DP1-1 71%, DP1-2 64%, DP2-1 70%, DP2-2 80%,

DP3-1 71%, DP3-2 70%, DP5-1 88%, DP5-2 82%

学生の自己評価は下記の通りであった。

DP1：新たな知識3.7 (4.0) 理解の視点3.4 (3.6), DP2：課題検討3.7 (3.6) 判断3.3 (3.6),

DP3：3.4 (3.7), DP5：表現力4.0 (3.7)

表現力は平均を上回っていたが、これは成績評価DP5-1の高さと合致すると思われる。

課題としては、論文の理論的背景まで考察すること（DP1-2）が特に弱いことがあげられる。

2. プロセス評価

さまざまな動機で参加していることを念頭に、設定した課題をこなすなど評価の原則は守りつつ、議論の進め方などでは、「柔軟に、分かりやすく、全員が発言し、傾聴する」を心がけた。

全員が発表する機会があったが、30分以上の予習が0回とした学生が1名いたことは押さえておきたい。

図書館の利用に関して、データベース利用が7名中6名と多かったことは、指導に従って学習が進んだことを示している。

<まとめ>

目標はやや達成されたという状況であり、当初の動機づけ、準備性に合致した解説資料の補充など、今回の授業法に関しては改善の余地があると考えた。

とくに単位を確保するために受講した場合、準備の不十分さを抱えたままでも、参加者の協力でこなすことができたが、生活面の立て直しを図るような指導が必要だったかもしれない。今後の課題としたい。

授業科目名【保育の心理学Ⅰ】福祉学科子ども家庭福祉コース2年後期 必修2単位

<準備>

ルーブリック評価を導入している。

子ども家庭福祉コースであるが子どもと関わる機会が少ないことが背景にあるため、スタート段階で、準備性を確認するレポートの作成を求め、それを出発点におく。子どもらしさの既成概念を壊すこと、子どもと関わる時の価値志向性の多様性などを理解し、自分の考え方を相対化することからはじめている。根拠をもって考えるという姿勢を大切にしたいため、維持していきたいところである。その上で、個の発達について、関わりでの発達について、できるだけ具体例を通して解説している。

また、授業中に問題を提示してのグループワークなど、アクティブラーニングの要素を導入している。

<結果>

受講動機として「必修科目である」、「資格取得に必要である」がいずれも66.7%と多く、「関心のある内容である」は7.4%と少ない。保育士にとって必要な子ども理解を中心とする科目であるが、そのことへの関心の低さは特徴的であった。

1. アウトカム評価

最終成績の平均は73.2（昨年度64）で改善した。

DP別に達成度（成績：満点を1としたときの数値）を見ると下記の通りであった。

知識理解 0.7

思考判断 0.7～0.8

学生の授業評価の結果は下記の通りであった。

- ・全体：自分なりの目標を達成：3.2（学科平均3.4）
 - ・DP1-1,1-2：知識を確認、修正したり、新たに得る：3.8（同3.8）
 - ・DP1-1,1-2：事象を理解する視点や考え方を得る：3.6（同3.6）
 - ・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力：3.7（同3.6）
 - ・DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力：3.5（同3.5）
- いずれも学科平均並みであり、成績も加味してみた場合「概ね達成」と考えて良いと思われた。

2. プロセス評価

問題を提示して意見を求め、それを整理しながら解説したり、必要に応じてグループワークを展開した。ワールドカフェ形式を用いることで、視点が偏らず、議論も比較的活発になったという事例があった。

「質問・感想・意見」を8回収、整理してプリントを返したが、これらに対する積極的な反応が認められた。

ただし、授業評価では「説明は理解しやすいものであった」は平均よりも-.3低い結果であった。後半の認知発達については難しさを感じた可能性がある。

<まとめ>

最初に、子ども理解の講義であることへの動機づけを検討したい。

また、各種のアクティブラーニングの要素の導入には積極的でありたい。

授業科目名【保育の心理学Ⅱ】福祉学科子ども家庭福祉コース3年前期 必修1単位

<準備>

1. 基本的方向性に関する課題：

保育の心理学Ⅰでの学びを受け、より実践的な課題を多く取り入れて、子ども理解と保育の理解を進められるように展開してきた。とくに、子どもの行動観察（VTR）、子どもへの遊びの提供（実技）という課題を提供することで学生の動機づけを高める努力をしてきた。しかし、事後の授業評価での受講動機をみると、多くが「資格取得に必要である（80%）」「必修科目である（45%）」であって、「関心のある内容である」は0%であった。その後の学生の学習状況を見ると、課題一つ一つについての関与は主体的と判断されるが、最初の動機づけのあ

り方から再検討をして行かなければならないことが理解出来た。

2. 今年の新規方針：

シラバス改定による観点別評価の導入により、課題が大幅に増加した（レポート5本、行動観察、遊びの計画と実施、保育の質保障、子育て支援、最終の発表）。以上をこなすために、初回のオリエンテーションで課題全てを提示し、学生が計画的に取り組める様にした。また、前年度の反省からは、行動観察の教材を増やしていくこととしていたが、実際に増やすことが出来た。

<評価>

1. アウトカム評価：

採点結果は下記の通りであった。

DP 1-2：70%， DP 2-1：65%， DP 2-2：70%， DP 3-1：60%， DP 3-2：60%，

DP 4-3：87%， DP 5-2：73%

一方、学生の授業評価は下記の通りであった。

DP 1：新たな知識 3.4 (3.8) 理解の視点 3.3 (3.5)， DP 2：課題検討 3.2 (3.5) 判断 3.1 (3.4)，

DP 3：3.2 (3.6)， DP 5：技術 2.8 (3.4) 表現力 2.9 (3.0)， DP 4：2.8 (3.3)

学生と成績評価が一致して低いところはDP 3興味関心に関するところであった。また、学生の自己評価として学科平均より.5以上低い領域として、技術、行動規範があげられるが、成績評価は低くなかった。主に学生と教員のもつ評価基準の違いによると考えられる。たとえば、学生達は、子どもと遊ぶということでは多くの課題と向き合わざるを得ないため、技術の領域の自己評価が低くなっているのではないだろうか。また、べ切りを守るといったことが必ずしも出来ていなかったところがみられた。

以上からは、遊びなどの技術的要素に一定の達成感を味わえるようなプログラムを作成する、課題の量を調整するといった作業が必要と思われた。

<まとめ>

目標はやや達成されたという状況であり、学生の受講動機の向上、学生の達成感を引き出すためのスキル評価の導入、内容の精選などを進めていく必要性が明らかとなった。

授業科目名【保育実践演習】福祉学科子ども家庭福祉コース4年通年 必修2単位

科目全体として、昨年度の反省に立って学生に求める課題を整理し、計画的に学修が進められるようにオリエンテーションを工夫した。そのこともあって、多くの学生は自発的に学修に参加したと思われる。

谷川は保育の現代的課題のひとつとして、医療保育に関する学習を支援した。今回は、選択制としたこともあり、参加度が高く、自発的な意見が多く出された。これまでになく積極的になった学生も見られたことから、現代的課題についての選択制は効果が大きいことが示唆された。

授業科目名【専門研究Ⅰ】福祉学科3年 必修2単位

本年度は対象者がいなかった。

授業科目名【専門研究Ⅱ】福祉学科4年 必修2単位

ゼミの出発に当たり、下記を明確に示して取り組んだ。

- 積極的、計画的に課題をこなしていく（必須の課題を提示する）
- 協力すべきこと、助けるべきことを厭わない
- 労う
- ゼミの時間は必ず集まる

卒論を書かない6名はゼミレポートの作成を行った。原則として3年時より暖めてきたテーマを深めていったが、4年次に新たなテーマをたてて取り組んだ場合もあった。

テーマは下記の通りであり、すべて文献研究であった。

発達障害のある小学生・中学生の養護教諭の支援
小学生・中学生の不定愁訴の背景と養護教諭に求められる対応
統合失調症の社会生活機能に対する知能の影響
緩和ケアにおけるMSWの役割
医療保育における遊びについて
保育所の中で、親とのつながりをどうつくっていくか ～ 支え合う親のつながりについて
このほか、国家試験対策など、進路の支援を進めていった。 進路、履修状況、生活状況の多様化が進む中で、ゼミへの適応が難しいケースがあったため、公平性を確保しながら、可能な支援を行った。
授業科目名【卒業論文】 福祉学科4年 選択4単位
1名が卒業論文を作成した。ストレスマネジメントに関する文献研究を実施し、〆切りまでに提出を終えた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本医療保育学会	2009年8月まで理事	1997年6月
全国病弱教育研究会	2015年6月から理事	1992年7月
日本特殊教育学会	副会長	1992年2月
日本心理臨床学会		1992年4月
日本小児保健協会		1995年4月
日本造血細胞移植学会		1996年12月
Child Life Council		1998年8月
日本小児看護学会		1999年4月
日本育療学会		2009年10月
その他あり		

2014年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集第4集：子どもの発達を多職種で考える	単	2015年9月30日	谷川弘治	入院児の発達を捉える視点を遊びの場面のVTRをもとに解説し開設し、研修構築のためのノウハウを整理した。 編集者：谷川弘治 執筆者：岡本雅子、大重育美 谷川弘治 A4判、30ページ。
多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集第5集：	単	2016年1月30日	谷川弘治	現職者向けに安全管理と感染管理に関する知識と技術を解説し、研修構築のためのノウハウを整理した。

2014年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
安全管理と感染管理の理解 自信を持ってかわるために				編集者：谷川弘治， 執筆者：山口（中上）悦子， 谷川弘治 A4判，22ページ。
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
『臨床における言葉の運用からみた医療保育と病弱教育（仮称）』の発行と検証	保健福祉学部 附属保健福祉 学研究所	○谷川弘治，文屋典子，小野正子，豊永絵里（山口悦子，西牧謙吾，大重育美，金城ヤス子，吉川由紀子，甲斐恭子）	377,500

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
医療保育、病弱教育に関する多職種合同研修システムの質的向上・普及の研究	日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究（C）	1,200,000	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

病気の子ども支援ネットワーク滋賀 講演会「病気の子どもが自分らしく過 ごすために」	講師	2015年5月30日（フェリエ草津・滋 賀県）
双葉保育園槻田学童保育クラブ研修 会「学童保育を展開するために」	講師	2015年9月17日（双葉保育園）
子ども療養支援士認定講習（治癒的遊 び）	講師	2015年10月4日（順天堂大学）
修猷館高校出前講座（「臨床の知」に アプローチする 医療フィールドを 例に）	講師	2015年10月31日（福岡県立修猷館 高校）
平成 27 年度特別支援中核教員養成講 座（特別支援学校教諭免許状取得コー ス）「病弱児の心理・生理・病理」	講師	2015年10月26日（福岡県教育セン ター）
がんの子どもを守る会九州北支部講 演会「小児がんの子ども達の教育」	講師	2015年11月7日（九州大学医学部）

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

学部長
 保健福祉学研究所長
 倫理審査委員長
 動物実験委員会委員長
 入試会議メンバー
 教学マネジメント検討会メンバー
 FD部門委員（授業評価アンケート作成、データ分析など）
 外部資金導入促進プロジェクト責任者
 COC+企画運営ワーキンググループ責任者

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	稲木 光晴	職名	教授	学位	博士(体育科学)(筑波大学, 1994年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
運動生理学	筋疲労, 持久性パフォーマンス, 持久性鍛錬者

研究課題
持久性鍛錬者の競技力向上に関する研究

担当授業科目
健康科学(前期)(看護学科) 健康科学(前期)(福祉学科) 健康科学実習Ⅰ(前期)(看護学科) 健康科学実習Ⅰ(前期)(福祉学科) 健康科学実習Ⅰ(前期)(栄養学科) 健康科学実習Ⅰ(前期)(英語, 観光学科) 健康科学実習Ⅱ(後期)(看護学科) 健康科学実習Ⅱ(後期)(福祉学科) 健康科学実習Ⅱ(後期)(栄養学科) 健康科学実習Ⅱ(後期)(英語, 観光学科) 運動処方論(後期)(福祉学科) 保育の表現技術Ⅲ(前期)(福祉学科) 保育実践演習(通年)(福祉学科) 専門研究Ⅰ(通年)(福祉学科) 専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科) 母性の運動科学(前期)(助産別科) スポーツ科学実技(通年)(保育科, 生活創造学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【健康科学】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学的メカニズムなど、理解に時間を要すると思われる事柄については、繰り返しモデルの提示を行った。 2. 授業の終わりに、授業内容に関する質問がある場合には紙に書いて提出してもらい、次回の授業で質問に答えるようにした。
<p>授業科目名【健康科学実習Ⅰ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. チームで練習をしたり、試合内容などについて意見交換したりすることによって、十分にコミュニケーションを図れるようにした。

<p>授業科目名【健康科学実習Ⅱ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. 学生主体でラケットスポーツの練習や試合を行わせることにより、自分たちにあった練習の仕方や試合の進め方を考えさせた。
<p>授業科目名【運動処方論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 机間指導や質問をすることによって、学生の理解度合いをチェックしながら授業を進めた。 2. 授業の最初に小テストをすることで、授業の復習ができ、内容を理解しているかのチェックを行った。
<p>授業科目名【保育の表現技術Ⅲ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期運動指針に沿ったさまざまな運動遊びを実際に体験させると同時に、学生本人の体力づくりを行った。 2. 毎回授業で体験した運動遊びについて調べさせ、新たに工夫を加えた遊びを考えさせた。
<p>授業科目名【母性の運動科学】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦運動の効果について、最新の情報を提供するように努めた。 2. 授業の終わりに、授業内容に関する感想や質問を紙に書いて提出してもらい、質問については次回の授業で答えるようにした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本体力医学会 日本運動生理学会 American College of Sports Medicine	評議員 (1999年～) 評議員 (1999年～)	1988年4月～現在に至る 1989年4月～現在に至る 1993年4月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 運動生理学 20 講 第 3 版	共	2015. 4	朝倉書店	<ol style="list-style-type: none"> ① 本書は、運動生理学の各分野で活躍している研究者が、それぞれの研究分野における最新の知見を紹介している。 ② 編者：勝田茂 征矢英昭 ③ 共著者：秋間弘、麻場一徳、<u>稲木光晴</u>他30名 ④ 担当部分 第8講 運動と呼吸・心循環 8.1 運動と呼吸 (P58～P62) 総頁数 P187 ⑤ B5版

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

1. シニアサマーカレッジ からだを使って「生き生き脳」づくり	講師	2015年8月7日（本学）
2. CCRC 公開講座 からだを使って健康長寿	講師	2016年3月5日（西日本工業大学小倉キャンパス）
3. だいすきにつぼん-子どもたちに伝えたい「食」と「あそび」-	スタッフ	2015年7月11日、8月26日、11月21日、12月19日、2016年2月20日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

人事委員長
 入試委員
 キャンパスハラスメント相談員
 陸上部顧問
 西南女学院大学生協・専務理事

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 山根 正夫	職名 教授	学位 修士(教育学)
----------	-------	------------

研究分野	研究内容のキーワード
発達障害児・者の援助方法 障害児保育、応用行動分析、保育ソーシャルワーク	発達障害・自閉症スペクトラム・知的障害・保育・応用行動分析

研究課題
発達障害児・者の療育について行動分析的視点から考察する

担当授業科目
子ども家庭福祉論(前期) 障害者福祉論(後期) 障害児保育(通年) 社会的養護(後期) 生命倫理(後期) 相談援助演習Ⅱ(前期) 相談援助演習Ⅲ(後期) 相談援助演習Ⅳ(前期) 相談援助演習Ⅴ(後期) 保育実習指導Ⅰ(通年) 保育実習(通年) 保育実習指導Ⅱ・Ⅲ(通年) 保育実習Ⅱ・Ⅲ(通年) 専門研究Ⅰ(通年) 専門研究Ⅱ(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 子ども家庭福祉論・障害者福祉論 】 両科目とも2年生の必修科目であるが、教科書の制度面の記述だけでは、自ら体験した者以外に実態や本質について理解しがたい側面があると同時にリスク要因について自ら体験した学生の存在も否定できない。具体的に2年生のレベルで授業内容からその実態をイメージさせたいと、制度やソーシャルワーク的なアプローチの理解を促すことを意図して授業を展開した。授業は解説する内容についてパワーポイントを用い、レジメを準備した。キーワードを()にしてそこに記入するようにレジメを作成してほしいなどの意見があったが、どこが大事かについてメタ認知を働かせることが本質の理解につながると考え学生には伝え授業を展開した。来年度もオリエンテーション時にこの点について学生へ十分に周知していきたい。
授業科目名【 障害児保育・社会的養護・生命倫理 】 「障害児保育」は通年2単位の演習系科目であり子ども家庭福祉コースの学生のための科目であるが、前後期共に講義が中心となったが、詳しく解説できた。学生の参加度が非常に低く、次年度は参加度を高めるためにグループ討議や学生が準備した内容についてのプレゼンテーション機会などを更に取り入れ、参加度を高めたい。「社会的養護」は、保育士資格の必修科目であるが、他コースの学生も選択できる。昨年の反省を含めて授業への参加度・理解度を高めるためにDVD教材を用い教科書の内容と合わせて理解が深まるよう準備した。し

かしながら、最終テストでは殆どの学生が基準点ギリギリの理解であったため教授内容・方法の再検討の必要性を感じている。

「生命倫理」については4年生の、取得単不足者2名が受講し、学生が休みがちであったが生命倫理に関していくつかの内容について考える機会は提供できたと考えられる。

授業科目名【 演習・実習系科目 】

演習系科目は、各時間の課題について学生の準備したプログラムに沿って授業を展開した。全体的に学生の参加度は向上している。

実習系科目は保育士養成のためのものであるが、実習に必要な準備として、教材媒体を学生が練習できる打を設け、授業は比較的順調に進行した。更に充実させる必要がある。

授業科目名【 専門研究Ⅰ・Ⅱ 】

専門研究Ⅰは発達障害と行動分析を基盤において、発達障害についての文献のレビューを中心に学習を深めた。

専門研究Ⅱは、参加学生全体で北九州市における初期の障害児保育を展開していた幼稚園での実践理念やその後の展開について検討した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本特殊教育学会 日本行動分析学会 日本発達障害学会 日本福祉学会 日本保育学会 福岡教育大学附属障害児治療教育センター研究部員		昭和51年4月～ 昭和61年4月～ 平成7年9月～ 平成12年11月～ 平成17年4月～ 平成22年4月～

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表など) 平成27年度発達障害シンポジウム		2015年10月		発達障害のあるきょうだいの支援についてシンポジウムのコーディネートを担当した
全国児童発達支援協議会九州地区職員研修会		2015年11月		「障害児療育の今日」というテーマで記念講演を行った

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
州市児童福祉施設等第3者評価委員会委員	委員	平成26年4月～平成28年3月
北九州市発達障害児（者）支援体制整備検討委員会委員	委員・座長	平成27年4月～平成28年3月
北九州市福祉事業団評議員	評議員	平成24年2月～平成25年11月
社会福祉法人福音会評議員	評議員	平成27年11月～平成29年11月
社会福祉法人喜久茂会理事	理事	平成27年4月～平成29年3月
北九州市社会福祉審議会委員	委員	平成24年11月～平成30年10月
北九州市障害者施策推進協議会委員	委員	平成25年10月～27年9月

北九州市社会福祉協議会 北九州市特別支援教育の在り方検討 会議	理事 構成員	平成27年4月～平成29年3月 平成27年11月～平成29年11月
---------------------------------------	-----------	--------------------------------------

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)	
福祉学科長	

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 岡田和敏	職名 教授	学位 修士(社会学)(佛教大学 1984年)
---------	-------	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
社会福祉学	医療福祉、保健医療福祉制度

研究課題
医療ソーシャルワーク実践における障害者、高齢者、難病患者の保健医療福祉制度に関する研究

担当授業科目			
科目名	単位数		授業評価ポイント ※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載
	必修	選択	
地域福祉論(2年前・後期)	4		/
医療福祉論(2年前期)	2		/
相談援助演習Ⅰ(1年後期)	1		/
相談援助演習Ⅱ(2年前期)	1		/
相談援助演習Ⅲ(2年後期)		1	/
相談援助演習Ⅳ(3年前期)		1	/
相談援助演習Ⅴ(3年後期)		1	/
相談援助実習指導Ⅰ(2年前・後期)		2	/
相談援助実習指導Ⅱ(3年前・後期)		4	/
相談援助実習(3・4年)		4	/
社会福祉特講Ⅱ		2	/

授業を行う上で工夫した事項(※助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 地域福祉論 】</p> <p>社会福祉の動向において「自立支援」「連携」「地域福祉」などが強く求められている時代であることを強調し、地域で暮らす人々の生活をいかに理解し、支援していくかについてを指摘するとともに、新聞記事などの活用を図り、講義の内容が理解できるようにした。</p>
<p>授業科目名【 医療福祉論 】</p> <p>身近な問題であるが、国家試験での正答率が低い。その為、基礎的な理解ができ、医療が身近な問題で誰しにも共通するものであることを説明し、医療保険制度の仕組み、年金制度、社会福祉との関係性についてと医療機関における専門職としての社会福祉士の役割について講義した。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習 1 】</p> <p>社会福祉士に求められる、自己覚知、コミュニケーション技術、個人・家族・集団・地域社会などへの支援を行う際に必要な基本的な面接技術についてをロールプレイ、グループワーク、グループ討議などを交え、体験的に学ばせた。また、現在生じている福祉的課題・問題についてグループで調べさせ発表させた。</p>

<p>授業科目名【 相談援助演習 II 】</p> <p>ソーシャルワークに関するテキストの事例をもとに、ソーシャルワークの展開過程について学び、ソーシャルワーカーが持たなければならない視点や援助の実践についてを考えさせる形で学ばせた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習 III・IV 】</p> <p>問題の実情、社会的把握、援助の過程、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発など相談援助の方法、技術について、医療ソーシャルワークの事例を用い、何を考え、調べ、援助をどのように展開して行くかについて学生の考えを聞きながら解説した。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習 V 】</p> <p>地域福祉の問題の実情、社会的背景、援助のプロセス、地域住民へのアウトリーチ・ニーズ把握、地域福祉計画、サービス評価についてを地域福祉の基盤と開発に係る実践事例をもとに学ばせた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助実習指導 I 】</p> <p>医療領域を担当。他の領域と指導内容は同じであるが、特殊性と専門性をもつ医療領域において、ソーシャルワークを如何に展開していくかイメージ出来るよう資料やビデオを活用し講義した。</p>
<p>授業科目名【 相談援助実習指導 II 】</p> <p>他の社会福祉領域と実習する上では特別ではないが、医療機関の特殊性から、現場実習であってもより実践場面で活動が出来るよう、興味、疑問、不安などに対して個別に指導した。配属実習については一人ひとりの特性に応じ配属に繋げた。</p>
<p>授業科目名【 相談援助実習 】</p> <p>学生の希望を聞くとともに適正に配慮しながら配属先を決めた。また、各医療機関のソーシャルワーカーとの調整を行い、実習生の個別的な指導を行った。</p>
<p>授業科目名【 社会福祉特講 II 】</p> <p>本講義は、6名の教員によるオムニバス方式で、「保健医療施策の動向」を2コマ担当した。保健医療機関に社会福祉士国家資格を持つ医療ソーシャルワーカーがいる意味と実践活動する際に必要となる知識の習得を目指した講義を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会		1990年10月～現在に至る
福岡県医療ソーシャルワーカー協会		1985年4月～現在に至る
佐賀県医療ソーシャルワーカー協会		1998年6月～現在に至る
日本医療社会福祉協会		1998年4月～現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001年4月～現在に至る
福岡県社会福祉士会	外部理事 (2010年4月～現在に至る)	2010年4月～現在に至る
2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項		

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 難病患者の雇用につ いて	単		福岡福祉のあり方研 究会	平成27年1月1日から、 「難病の患者に対する医療等 に関する法律」(難病法)施行 同年7月から、障害者総合支援 法の対象となる障害に「難病」 が加えられ、難病患者の就労支 援策がとられることになった。 現状と課題について発表した。
(その他) 地域での支え合いにつ いて	単	2015. 7. 3 10. 30 11. 30 12. 2	北九州市立年長者研 修大学校「穴生学舎」	研修講師
第11回社会福祉法人 孝徳会法人全体研修会		2015. 6. 6	社会福祉法人孝徳会	研修講師(研究発表コメンテ ーター)
現代社会と福祉		2015. 6. 11	高大連携	研修講師
				教育研究業績 総数(2015. 3. 31 現在) 著 書 0 (内訳 単 共) 学術論文0(内訳 単 共) 翻訳 0(内訳 単 共) 学会発表1(内訳 単 1 共) その他 6(内訳 単 6 共)

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市福祉有償運送運営協議会	会長	2005年8月～現在に至る
北九州市障害者差別解消法連絡会議	構成員（情報保障会議座長）	2015年9月30日～2016年3月31日
社会福祉法人 北九州精神保健福祉事業協会評議委員会	評議員	2014年4月1日～2016年3月31日
北九州市民カレッジ企画運営委員会	運営委員	2015年12月1日～2017年11月30日
社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	理事長	2013年5月～現在に至る
社会福祉法人孝徳会苦情解決委員会	第三者委員長	2003年4月～現在に至る
入所判定委員会	委員長	2003年4月～現在に至る
社会福祉法人 敬寿会	理事・評議員	2014年3月22日～2016年3月21日
特定非営利法人 生活支援館「パートナー」	理事	2002年3月～現在に至る
社会福祉法人 療養介護事業所「ひなた家」	理事・評議員	2014年7月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会ふれあい委	第三者委員	2015年5月～現在に至る

員会 日本 ALS 協会福岡県支部	運営委員	1996年6月2日県支部設立時～
----------------------	------	------------------

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
<p>①公開講座委員会に所属し委員長を担当している。</p> <p>今年度は、60名の募集に対して36名と定員は満たさなかったものの平均年齢が73歳と全受講者の7割が高齢であった。また、講座の開催時期が夏場にもかかわらず、受講生全体の約4割が、全10回の講座に参加された。大学、短期大学の先生方のご協力を頂いたお陰で、バラエティに富んだ講義内容となり概ね好評であった。特に、教員のサポートとして学生の参加によりコミュニケーションがとれる調理実習などが好評で、学生にとっても有意義な時間を持つことができた。</p> <p>また、社会見学については、社会見学については、北九州イノベーションギャラリーにおいて、企画展として、世界文化遺産登録記念展「八幡鐵ものがたり」が開催されていたので見学場所に選定した。地元のことであり受講生の評価も高かった。</p> <p>開講式初日に台風の影響を受け、周望学舎と調整を図り、受講者の安全を最優先に考え、開講式を中止とすることを決定した。2回目以降の講座日程は調整を図るのが困難なため、第1回目の学長の講座を10月第1週の金曜日に開講することとなった。しかしながら、受講生の5割以上がリピーターで、公開講座への期待の高さが伺えた点と、アンケート回答者の7割から来年度も受講したいとの回答を得たことは地域への社会貢献が求められていると評価できると考える。</p> <p>②学生支援においては、これまで通り介護職員初任者研修（ホームヘルパー2級）の資格を取得出来るよう外部事業所との調整と講義の担当を行っている。今年度は、5月19日の開講から10月30日の修了証書授与式まで、福祉学科に加え栄養学科の学生も含め13名が受講し、将来に向けた事前学習にもなったと考える。</p>

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	平田健太郎	職名	教授	学位	博士(医学)	(九州大学 1985年)
----	-------	----	----	----	--------	--------------

研究分野	研究内容のキーワード
精神医学	精神疾患、QOL、地域支援、学校保健

研究課題
精神障害と福祉

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神医学(福祉学科、前期) ・ 基礎演習(福祉学科、前期) ・ 精神保健学(福祉学科、前期) ・ 精神保健学(福祉学科、後期) ・ 基礎演習(福祉学科、後期) ・ 精神保健福祉援助演習Ⅰ ・ 精神保健福祉援助実習Ⅰ ・ 精神保健福祉援助実習Ⅱ ・ 精神保健福祉援助演習Ⅱ ・ 専門研究Ⅱ 4年 ・ 卒業論文 4年 ・ 母子の心理・社会学(助産別科、前期) 疾病治療各論Ⅱ(看護科、前期):精神

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【精神医学:精神疾患とその治療】 VTRの提示、症例提示、グループ討議と発表。 新聞、TV、インターネットなどのマスコミから、講義に関連したトピックを取り上げて興味を持たせるとともに、最新の情報を随時提供し、内容を深めた。
授業科目名【精神保健学】 VTRの提示、症例提示、グループ討議と発表、学生に評判の良い教員の講義方法を参考にした。 新聞やTVなどのマスコミから講義に関連したトピックを取り上げ興味を持たせるとともに最新の情報を随時提示した。さらに、グループ単位での席の指定と、移動、出席表を兼ねた「自己学習記録表」の使用。 毎回の授業終了後に書かれた質問と意見はほぼすべて取り上げ、次回講義の開始時に可能な限り解答した。

授業科目名【基礎演習】

- ・ 15名～16名のグループ内の相互理解を図り、自由な発表と意見交換が出来るような雰囲気作りのため、第一回目はゲーム（他個紹介）を取り入れた。
- ・ 大学生の自覚をもたせるため、高校と大学との違いについて全員から意見を求め、板書させて確認した。このときの司会も学生に担当させ、必要に応じてコメントを加えた。
- ・ この演習のテーマには、学生時代に注意すべき代表的な心身の疾患を用いて自主学習を中心に行なわせ、注意と自覚を高めた。
- ・ デング熱、ME R S、ネット依存症等の社会的に問題になっている疾患についても同様の学習を行った。
- ・ この演習を通して、DRUG 防止教育を今年度も実施した。「ドラッグフリーキャンパスにするにはどうすればいいのか」各自にレポートを課した。
- ・ 4人（または5人）一組で担当した疾病テーマについて自主学習し、発表原稿を作成するとともに、抄録を提出。発表、質問にもそれぞれ各自がマイクを使用した討議を体験させた。必要に応じて知識の修正と追加を加えた。
- ・ 基礎演習終了後の学生たちの感想では、初めてのパワーポイントを用いた発表体験、共同での準備体験、質問体験等を通して、集中力が高まった、講義への興味と積極的参加の姿勢が身についてきた、と述べている。

授業科目名【専門研究Ⅱ、卒業論文】

- ・ 福祉学科内においては、卒業論文・専門研究Ⅱを論文形式での作成指導を行うことが少なくなった中、担当ゼミ生には各自に論文作成を指導してきた。ちなみに、今年度の福祉学科全卒業生のうち、卒業論文の作成者は3名のみである。
- ・ 今年度の卒業論文・専門研究Ⅱの各自のテーマは以下のとおりである。
 - 「PTSD～災害が負傷者の心にもたらす様々な影響とその支援」（卒業論文）
 - 「精神障害を抱える少年の犯罪予防について」（卒業論文）
 - 「感情表出の高い家族に対する家族支援」（専門研究）

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神神経学会	評議員 世話人 評議員 評議員 評議員	1975年～現在に至る
日本てんかん学会		1978年～現在に至る
日本てんかん学会九州支部会		1978年～2013年
九州精神神経学会		2005年～現在に至る
全国大学保健管理研究会		1975年～現在に至る
全国大学メンタルヘルス研究会		1998年～現在に至る
全国大学フィジカルヘルス・フォーラム		1998年～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学术论文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地域で生活する医療観察法対象者や障害のある刑務所出所者等に対する再犯防止サポート体制の構築に関する取組 (2013年度～2015年度)	更生保護法人 日本更生保護 協会	○今村浩司 嶋村美由紀 平田健太郎	1,500,000 (2013年～2015年)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
<ul style="list-style-type: none"> ・北九州てんかん懇話会 (北九州地区においててんかん診療に携わる種々の職種の合同意見交換会) ・九州山口てんかん外科研究会 (てんかん外科の一般社会への普及を図るための会) ・ 精神保健福祉サポーター養成講座 講師 「こころの病気について」 	<ul style="list-style-type: none"> 世話人 世話人 講師 	<ul style="list-style-type: none"> 1995年～現在に至る 1994年～現在に至る 2011年～現在に至る 2014年10月30日10:00～12:00

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

<ul style="list-style-type: none"> ・学生個人情報保護委員会委員 ・保健室・学生相談室支援 2008年4月～現在に至る <p>心的ストレスや、精神疾患に悩む学生に定期的、継続的な修学支援を行ってきた。また、教員、家族からの相談に積極的に応じて医療機関への紹介や家族支援を行ってきた。臨床心理士、看護師とは毎週1回症例検討会を開き、情報交換するとともに学生相談利用の拡張を図ってきた。さらに、少子化を迎えて高水準の学生支援が求められる状況下に、近い将来の保健センター設立を目指した準備を開始した。その一環として、2008年11月には保健福祉研究所主催の講演会で『学生と健康』のテーマで講演を行い、学内に設立の必要を訴えた。さらに、学長を通して大学当局に保健センター設立の提案を行った。</p> <p>その後も上記活動に積極的に取り組んで来た。この活動は、今後も細々とでも継続していく所存である。</p>

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 古川 敬 康	職名 教 授	学位 博 士 (哲 学) (南部バプテスト神学大学 1994 年)
-----------	--------	--------------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
メタファー論、説教のための解釈学と修辞学、喪失心理学	弁証法的メタファー、文学的解釈、悲嘆作業による意味論的癒し

研 究 課 題
<p>現代人が喪失心理学の示す悲嘆作業を経ての癒しを説教への傾聴により体験できるよう、何をどのように説教は語られることを求められているか。</p> <p>具体的には、1) 文学的解釈によって、メタファー的に表現されている聖書の喪失体験物語が提示する使信(福音)を明らかにすること、2) 使信が聴き手にとって癒しの出来事となるように、メタファーの活用法を修辞学的に明らかにすることである。</p>

担 当 授 業 科 目
<p>キリスト教学Ⅰ(前期)(看護学科) キリスト教学Ⅰ(前期)(福祉学科) キリスト教学Ⅱ(後期)(看護学科) キリスト教学Ⅱ(後期)(福祉学科) 宗教と人間(前期)(看護学科) 宗教と人間(前期)(英語学科) 宗教と人間(前期)(観光文化学科) 宗教と人間(後期)(福祉学科) 専門研究Ⅰ(通年)(福祉学科) 専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科) キリスト教と生命倫理(前期)(助産別科)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【キリスト教学Ⅰ】</p> <p>集中力向上のために祈りをもって始めた。授業内容が教科書となったことで授業中に前期後期を問わずに縦横に講義ができるようになった。また学生は、予復習がし易くなった。進むに当たっては、学生のほとんどにキリスト教の背景がないため、理解が出来たかを質問し確認することを心掛けた。板書は、ノートに取り易いよう、黒板を左右半分に分けて行った。</p> <p>授業内容はシラバスに従って建学の精神である「感恩奉仕」の精神の背景にあるキリスト教を学術的に現代の問題に絡めて説明し、その今日的意義を理解できるように工夫した。天地創造からキリスト出現の予言までを扱った。</p> <p>学問的な「批判力」の意義と、批判力の基準としての聖書の価値観を説明し、学生自身が自己の存在意義を意味論から理解を深めるように具体的例を取り上げ、また、学生同士で折々に語りあう機会を持つ工夫をした。テストは、問題を予め提示し、学生が共同して全体の学びを復習できるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【キリスト教学Ⅱ】</p> <p>前期の学びを復習した上で、キリスト教の成立過程、イエス・キリストに対する信仰内容、イエス・キリストの示す神の愛の理解、その愛に照らしての自己理解、及び、奉仕の精神の重要性につき、理解し深めることができるように、前期と同じ方法による工夫をした。すなわち、イエス・キリストの説いた神の国、愛と赦しの教えと癒しの活動、その死と復活と昇天の物語を通して、それぞれの場面で何が大切なこととされているかを、実生活と結びつけながら理解できるように工夫した。</p>

ただ学生の前期の授業評価に鑑み、学生は書き写す時に聞くことが疎かになることの指摘を受け、後期は、改善策として、板書内容をプリントして配布した。また、同様に、全体の中での当該授業の位置づけが必ずしもできていない学生がいたことが明らかになったことから、講義の位置づけを繰り返し明示して、その都度、全体の流れの中で確認できるように努めた。

授業科目名【 宗教と人間 】

学生がキリスト教で培われた「人間性」に関する批判力を、宗教を比較しながら、さらに身につけることができるよう、シラバスに従い、神道、仏教、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教の比較を行い、生活に密着したテーマにそってそれぞれの宗教の特徴を再確認し理解を深める機会を多く持った。関連のビデオ鑑賞を取り入れ、宗教に関する知識を実生活と関連させて統合できるように工夫した。復習がし易いように、毎回、プリントを作成し、配布した。また少人数の授業であったことから、学生との対話とその参加の機会が多くなる工夫をした。

また学生の前期の授業評価から、全体の中での当該授業の位置づけが必ずしもできていない学生がいたことが明らかになったことにより、講義の位置づけを全体の流れの中で確認できるように努めた。

授業科目名【 専門研究Ⅰ 】

学生が意味論に関する基礎的理解を修得することから始め、続いてV・フランクルの意味論を学び、その上で、喪失心理学、死生学、社会学における意味論に関する専門書を読むことができるように指導した。その過程で、テーマに関する研究書の見つけ方、読み方、まとめ方を指導した。

後半は、学生自らが、専門書を読み込み、他の学生に解説し、ディスカッションを導けるように、指導した。

授業科目名【 専門研究Ⅱ 】

専門研究Ⅰで学んだV・フランクルの意味論に関する基礎的理解を前提に、専門的知識の習得として、理解を深めるように多方面に亘るフランクル自身の著作を選択し多く読む工夫を指導した。

学生が養護教員を目指し、生徒の喪失心理の研究をテーマとしたので、カール・ロジャーズのカウンセリング理論とフランクルの意味論、その統合的役割を果たす山田洋子『喪失の語り』を研究対象に加えた。

授業科目名【キリスト教と生命倫理】

助産師を目指す学生の多くにとり、初めてのキリスト教であるので、前半はキリスト教の基礎的知識を扱い、その後で、キリスト教から見た生命の尊さ、生命の誕生、死の意味を扱った。続いて、優生学、不妊治療、人工授精、体外受精、中絶、母子家庭、DVの夫婦関係、離婚などに関するキリスト教の物の見方を解説した。助産師の直面する死産や五体不満足児のケアの課題なども取り上げるように努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
Academy of Homiletics		1991年 (平成3年) 10月
日本キリスト教文化学会	理事 (1993年4月～現在に至る)	1993年 (平成5年) 4月
日本キリスト教教育学会		1993年 (平成5年) 10月
日本基督教学会	幹事 (2007年4月～現在に至る)	1993年 (平成5年) 10月
日本キリスト教社会福祉学会		1994年 (平成6年) 7月
日本新約学会		1994年 (平成6年) 9月
関西新約聖書学会		2010年 (平成22年) 6月

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. キリスト教概論—新たなキリスト教の架け橋 (第2刷)	単	2016.3	勁草書房	① 2014年4月初版のものを、増刷するに当たり、読者からの指摘などに対応し、教会の成立と発展に関する記述に関し、原始エルサレム教会、ヘレニズム教会、パウロによる教会へ

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				の流れ等をより明確にしたものである。 ② 著者名 古川敬康 ③ 総頁数 P224 (本文P216) 20.8×14.8
(学術論文) 「パウロにおける主の晩餐は贖罪論的か ― 十字架の視点からの批判的検討」	単	2016.3	西南女学院大学紀要 Vol. 20	① パウロの記す主の晩餐については、贖罪論が解釈の主流であるが、それに対してコリント教会の抱える問題の状況、贖罪論の問題点、テキストの文言上の分析を経て、パウロの十字架の神学の視点から、主の晩餐を関係論的に展開する試論である。 ② 著者名 古川敬康 ③ 総頁数 P. 15-24 ④ A4
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

なし			
----	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
社会福祉法人北九州ナオミ福祉会	理事	2004年（平成16年）4月 ～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
<p>(本部関係)</p> <p>理事、評議会委員、連絡協議会委員、運営協議会委員、 学院宗教主任、拡大宗教委員会議長、宗教主事会議長 キリスト教センター長、キリスト教教育研究会事務局長、 維持会常任幹事、職員研修懇談会職員研修委員会委員 寄付行為変更検討委員会委員</p> <p>その他、職務上必要的に出席するもの： 幼稚園運営会議・卒園式、中高入学式・卒業式・入試判定会議、後援会役員会・総会、同窓会総会</p> <p>(大学)</p> <p>宗教主事、宗教委員会議長、運営会議構成員、非構成員であるが職務上出席するもの：評議会、 点検評価改善会議構成員、 ITKイラストサークル顧問、映像制作愛好会顧問</p> <p>(大学短期大学部)</p> <p>宗教主事</p>

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 杉谷修一	職名 准教授	学位 教育学修士
---------	--------	----------

研究分野	研究内容のキーワード
教育社会学	子ども、遊び、社会化、相互行為、うわさ、ニューメディア

研究課題
<p>(1) 相互行為としての子どもの遊びにおけるシンボルの役割とそれをめぐる秩序形成に関する研究。</p> <p>(2) 子どもの遊びの構成要素としてのうわさや流言に関する研究。</p> <p>(3) ニューメディアと子どもの社会関係に関する研究。</p>

担当授業科目
<p>道徳教育の理論と実践(前期)(看護学科)</p> <p>道徳教育の理論と実践(前期)(福祉学科)</p> <p>道徳教育の理論と実践(前期)(栄養学科)</p> <p>道徳教育の理論と実践(前期)(英語学科)</p> <p>社会調査の基礎(前期)(福祉学科)</p> <p>現代と教育(前期)(看護学科)</p> <p>現代と教育(前期)(福祉学科)</p> <p>現代と教育(前期)(栄養学科)</p> <p>現代と教育(前期)(英語学科)</p> <p>現代と教育(前期)(観光文化学科)</p> <p>教育原理(後期)(福祉学科)</p> <p>教育社会学(後期)(看護学科)</p> <p>教育社会学(後期)(福祉学科)</p> <p>教育社会学(後期)(栄養学科)</p> <p>教育社会学(後期)(英語学科)</p> <p>社会学概論(後期)(福祉学科)</p> <p>基礎演習(通年)(福祉学科)</p> <p>教職実践演習(後期)</p> <p>教育実習Ⅰ(福祉学科)</p> <p>養護実習(福祉学科)</p> <p>事前および事後の指導三期にわたる(福祉学科)</p> <p>教育実践研究(三期にわたる)(福祉学科)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 道徳教育の理論と実践 】</p> <p>道徳の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道徳教育の実践と結びつけた力を養うことを心がけた。現在進行中の道徳教育の改革動向も踏まえ、特に授業としての道徳の観点から、学習指導案の構造と基本的な書き方を身に付けさせ、模擬授業と事後指導を全体で共有した。授業づくりの基本的ルールを具体的な指導案に反映させる工夫を行った。また視聴覚教材をはじめ、児童生徒にわかりやすい教材づくりを具体的に紹介した。また、今年度途中より変更のあった学習指導要領についてフォローした。</p>

<p>授業科目名【 社会調査の基礎 】</p> <p>国家試験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、基礎をくりかえし学習することで確実に理解できるよう心がけた。特に統計に関連する分野では、計算をさせるのではなく、統計手法が何を意味し、何の役に立つのかという観点から学習を組み立てた。具体的な例、概念図などを工夫して理解を助けた。</p>
<p>授業科目名【 現代と教育 】</p> <p>現代の子どもの遊び文化の特徴を解説し、それと比較する形で昔の遊びの変遷をたどった。特に社会的・文化的な条件が遊びに与える影響をルール・道具・名称・機能等との関連で整理し、遊び研究が単なる遊びカタログの解説とは違う点に注目させた。その上で、改めて現代の遊びを巡る状況と将来展望について論じた。遊びの様子を理解させるために伝統玩具の製作プロセスのビデオを解説し、玩具の実物を手にとって理解できるよう心がけた。</p>
<p>授業科目名【 教育社会学 】</p> <p>子どもの発達社会学というテーマについて、家族・地域・学校といった社会化の場の相互関係をイメージさせながら授業を行った。社会化の場としての学校・地域・家族の関連を近代以降の変遷を通じて解説し、そのための補助教材を工夫した。テキストで不十分な箇所についてはビデオ教材や別資料をもとにしたレジュメ・スライドを作成した。</p>
<p>授業科目名【 社会学概論 】</p> <p>国家試験受験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、社会学の抽象的概念を具体例で考えられるように工夫した。特にモデル図や具体例を多用したレジュメを準備し、丸覚えではなく理解できることを目指した。また、途中で復習の授業を取り入れ、キーワードや問の立て方などを示したプリントを配布し、負担を軽減しながら理解を促した。授業後の質疑応答なども積極的に活用した。新しい試みとして、海外の事例を中心に動画を資料として活用した。</p>
<p>授業科目名【 基礎演習 】</p> <p>少人数の集団学習であるため、その中でさらに小集団を構成し、4回の演習を通じてディスカッションやワークショップを繰り返し、最終的に小集団単位の学習成果をまとめさせた。集団学習における主体性や発表や調べ学習の技法などに関し、具体的実践を通して学んでもらった。また、自己学習を進める上で必要となるデータベースの紹介等も行った。</p> <p>共通部分の演習では、基礎的技能の大切さとそれを大学生活の中で育てるための具体的方法について説明した。特に書く技能については実際に体験させ、添削を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本教育社会学会	紀要編集委員(2009年4月～2011年3月、2016年3月～現在に至る。)	1985年6月～現在に至る
九州教育社会学会		1985年6月～現在に至る
日本教育学会		1990年5月～現在に至る
九州教育学会		1990年5月～現在に至る
日本社会学会		1990年11月～現在に至る
日本教育方法学会		1997年5月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 社会変動と子どもの社会学	共	2015.10	北樹出版	①ニューメディアの現状とそれとかかわる子どもの社会化状況について論じた。遊びや人間関係の形成がニューメディアによって従来とは異なる特徴を見せる点について検討し

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				た。 ②編著者 住田正樹、高島秀樹 共著者 住田正樹、他8名 ③担当部分 第8章 ニューメディアと子どもたち (p.107～p.123) 総枚数 p.173 ④B5版
(学术论文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

--	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
特定非営利活動法人生涯学習指導者 育成ネットワーク	生涯学習指導者育成セミナー 講師	2007.9～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
教職課程委員 2014年4月1日～現在に至る 教員免許更新講習プロジェクト (教育部門担当者) 2012年4月1日～現在に至る 教育の質保証プロジェクト (教育課程の体系化部門担当) 2012年4月1日～現在に至る

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	木村 茂喜	職名	准教授	学位	修士(法学)(九州大学 1997年)
----	-------	----	-----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
社会保障法	社会福祉、責任、児童の権利、社会的孤立

研究課題
福祉サービスにおける各主体の責任分担 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方 社会的孤立の状態にある者に対する社会保障のあり方

担当授業科目
法学概論(前期)(看護学科) 法学概論(前期)(福祉学科) 法学概論(前期)(栄養学科) 日本国憲法(後期)(看護学科) 日本国憲法(後期)(福祉学科) 日本国憲法(後期)(栄養学科) 社会保障論 公的扶助論(前期) 司法福祉論(前期) 権利擁護論(後期) 基礎演習 専門研究 I 専門研究 II 社会福祉特講 II (集中)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【全講義科目】限られた時間により多くの情報を学生に提供するため、詳細なレジュメや資料を配布した。レジュメ・資料を配布の際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。また、講義の冒頭においては、講義内容の継続性の確認および講義内容の理解をより確かなものにするため、「前回のおさらい」と題して前回の講義の要点を説明するとともに、学生が当日の講義内容・要点をあらかじめ認識するために、当日の講義内容に関する「本日のキーワード」を掲げた。さらに、やむなく欠席した学生への便宜を図るほか、学生が講義内容を復習・確認するための一助とするため、配布レジュメ・資料については、講義後に本学サーバに.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が自由にダウンロードすることを可能にした。
授業科目名【法学概論】講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的な場面で密接に関わっているという、看護・福祉・栄養の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。

<p>授業科目名【日本国憲法】抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの憲法判例を紹介し、学生の理解の一助に努めた。加えて、昨今の改憲論議の高まりを踏まえ、学生が今後改憲の是非について判断するための素材として、自由民主党が2012年に発表した憲法改正草案を毎回の講義内容に即して、私見を交えつつ紹介した。</p>
<p>授業科目名【社会保障論】非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、試験を2回（前期末・後期末）行った。また、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。</p>
<p>授業科目名【公的扶助論】最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。また、生活保護の申請拒否・保護の廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。さらに、貧困の実態について紹介するビデオ鑑賞も行った。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。今年度は受講する学生に聴覚に障がいのある学生がいたため、レジュメと併せてパワーポイントのスライドをそのままプリントアウトしたもの（ビデオ鑑賞時はビデオ内容を文字起こししたプリント）をノートテイクに配布し、ノートテイクの負担軽減と当該学生の講義内容の一助に努めた。</p>
<p>授業科目名【権利擁護論】成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。また、成年後見制度の理解をより深めるために、成年後見制度に関するビデオ鑑賞も行い、学生が、成年後見制度に関する具体的なイメージを理解するための一助とした。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。今年度は受講する学生に聴覚に障がいのある学生がいたため、レジュメと併せてパワーポイントのスライドをそのままプリントアウトしたものをノートテイクに配布し、ノートテイクの負担軽減と当該学生の講義内容の一助に努めた。なお、ビデオについては字幕付きバージョンで対応した。</p>
<p>授業科目名【司法福祉論】社会福祉士国家試験の試験科目である「更生保護制度」の内容を踏まえ、更生保護制度に関する説明に重点を置いて講義を行った。また、制度と実際の業務との関連について、学生がより理解できることを目指すため、3名の外部講師（保護観察官・保護司・元少年院長）に講義を依頼した。さらに更生保護制度の実態に関するビデオ鑑賞も行った。</p>
<p>授業科目名【基礎演習】「論理的思考力入門」と題して、論理的に考えることの必要性、論理的な文章の構造、批判的な文章の読み方について、それぞれ学生の発言を積極的に促しながら解説を行った。最後に新聞・インターネットの文章に対する反論を各自発表させ、学生の問題解決能力・批判的思考力の醸成を目指した。</p>

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009年10月～)	1995年12月～現在に至る
日本労働法学会		1998年5月～現在に至る
日本司法福祉学会		2008年8月～現在に至る
日本更生保護学会	事務局員(会計監査担当)(2013年4月～2014年3月)	2012年12月～現在に至る
九州社会法研究会		1995年4月～現在に至る
社会法判例研究会		1995年4月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	研究業績等に関する事項			概要
	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 『ワンステップ法学』	共著	2015年4月	嵯峨野書院	<p>①法学の講義における様々な方法論をミックスした方法を基本に、全体としては、伝統的な法学の講義にしたがって、法全般のガイドとなるように、また、各法の分野においては、できるだけ身近な事例を用いて解説している。これから「法」を学ぶ者に対して、いわゆる「リーガル・マインド」が涵養されるように努めている。</p> <p>②編著：國友順市・畑雅弘 執筆：齋田統・増尾均・川村隆子・目崎哲久・大村和正・大山弘・木村茂喜・吉行幾真</p> <p>③担当部分：第9章 労働・社会保障と法 (251～281頁) 総頁数：324頁</p> <p>④A5判</p>
『社会福祉と法』	共著	2016年3月	放送大学教育振興会	<p>①放送大学の2016年度開講の総合科目（ラジオ開講科目、主任講師：大曾根寛放送大学教授）用の印刷教材（テキスト）である。社会福祉と法との関わりについての講義が中心であるが、社会福祉の領域において市民との人権がいかに尊重されるかだけではなく、社会福祉に関わる事業者、行政機関、立法機関、国際機関の役割と責任という観点からも論じている。</p> <p>②編著：大曾根寛 分担執筆：原田欣宏・廣田久美子・木村茂喜・奥貫妃文</p> <p>③担当部分：第7章 事業者による差別的取扱い・第8章 社会福祉における紛争解決・第9章 社会福祉における行政責任 (126～177頁) 総頁数：292頁</p> <p>④A5判</p>

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

社会福祉法人北九州精神保健福祉事業協会	苦情解決第三者委員	2014年4月～2016年3月
福岡市保育所運営補助のあり方検討委員会	委員	2015年7月～2015年10月

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

西南女学院大学生生活協同組合 理事長	2015年5月27日～2016年5月26日
図書委員会 委員	2014年4月1日～2016年3月31日
教務総合人間科学小委員会 委員	2015年4月1日～2017年3月31日
学生懲戒にかかる調査委員会 委員長	2015年11月27日～2015年12月16日
フォークソング部 顧問	
KOIKOI 顧問	

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 野井 未加	職名 准教授	学位 修士
----------	--------	-------

研究分野	研究内容のキーワード
発達臨床心理学	NICU ハイリスク児 心的帰属 家族への援助 家族の心配事 極低出生体重児の社会性の発達を促進する心理的援助 中学生 自尊感情

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・「NICU入院中のハイリスク児の母親における心的帰属の傾向とその発達に関する研究」：ハイリスク児の母親のわが子に対する認知の変化と、それがわが子に対する行動の変容を促すのかについて検討する。 ・「極低出生体重児とその家族に対する育児支援の成果と長期的な包括支援体制の構築のための調査研究」：母親の心配事という観点から極低出生体重児の家族に対する育児支援の成果について検討する。 ・「中学校における生徒の自尊感情向上を目指した介入授業の成果」：中学1年生を対象とし、対人葛藤場面における対処方法についての介入授業を実施し、自尊感情の変化について質問紙調査(プレ・ポスト・1か月後フォローアップ)を行った。

担当授業科目
心理学概論Ⅰ(前期)(福祉学科) ヒューマンサービス基礎演習(前期)(福祉学科) 障害者心理学(前期)(福祉学科) 福祉臨床心理学Ⅱ(前期)(福祉学科) 福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科) 心理学基礎実験(後期)(福祉学科) 発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科) 福祉臨床心理学Ⅰ(前期)(福祉学科) 専門研究Ⅰ(通年) 専門研究Ⅱ(通年) 発達心理学(近畿姫路大学通信教育課程) 発達検査法(近畿姫路大学通信教育課程)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【心理学概論Ⅰ(前期)(福祉学科)】</p> <p>福祉領域の専門職を目指す学生が、総合的な人間理解の基盤を確立するための1つの学問領域として心のメカニズムを究明する学問である心理学を学ぶことは極めて重要であると位置づけている。心理学概論Ⅰでは特に神経心理学、学習心理学、認知心理学、感情心理学の概要について解説している。上記領域は、内容的には理論的要素の強い学問領域であるため、情報提示の仕方(実験内容を説明する及び一部体験する等)によっては、理論的なものであっても身近に感じやすいことが考えられるため、今後も継続して実践していきたい。</p>
<p>授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習(前期)】</p> <p>ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキル(①自分を表現する力を形成する、②コミュニケーションを通じて関係をつくる力を形成する、③人と協力して物事を進める力を形成する)について、小グループに分かれ、参加型・体験型の演習プログラムを中心とした授業を行った。上記の目的を達成するために、各自の意見・感想を率直に述べられるような雰囲気づくり(例：「他者の意見を批判・批評しないこと」を約束事とするなど)に努めた。また、各自の内省力を高めるために、グループ討議だけではなく、振り返りシートを作成し記入させた。</p>

<p>授業科目名【障害者心理学(前期)(福祉学科)】</p> <p>第1回目の授業において、障害と障害のある人に関する知識を把握するために、学生に小レポート(「障害とは?」)を書いてもらった。その結果、障害の概念や障害のある人の心理特性・生活に関するイメージが十分にできていない学生も少なくなかったため、それぞれの障害についての定義および概念の整理を重点的に行った。また、障害があることによって生じる生活上の困難、発達上の諸問題について事例を挙げながら説明し、イメージの具体化を図った。さらに障害者を家族に迎える際、家族がどのような影響を受けるのかについて解説することを通して、障害者の包括的な支援の在り方についての視座が得られるように努力した。</p>
<p>授業科目名【福祉臨床心理学Ⅱ(前期)(福祉学科)】</p> <p>福祉臨床心理学Ⅱでは、カウンセリングの基本構造、主要なカウンセリングの段階とそのプロセス、代表的な4つのカウンセリングの立場とそのプロセスについて講義を行った。カウンセリングのそれぞれの段階において、どのようなことが主題となりやすいのか、そしてクライアントが解決を導き出していくために、カウンセラーがどのような援助を行っていくのかについて、事例を豊富に取り入れ説明した。技法だけを説明するのではなく、それぞれの技法の意味・期待される効果についても解説し、学生が実践に活かせるように努力した。</p>
<p>授業科目名【福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科)】</p> <p>児童領域で用いられることの多いアセスメントツールである新版 K 式発達検査・田中ビネーV、WISC-IVに関する講義及び実習を行った。それぞれ理論の説明を行った後、受講者各自が検査者役・被検査者役を取り、検査の施行の仕方・留意点について体験的に学ぶ機会を設けた。被検査者役の学生には、検査中に起こりうる子どもの行動を想定し演じてもらうことで、実践場面に近い状況を設定した。また、実習後には各検査のスコアリング・所見の書き方などについても解説を行った。さらに発達相談の場における心理検査の活用の仕方について講義を行った。</p>
<p>授業科目名【心理学基礎実験(後期)(福祉学科)】</p> <p>心理学基礎実験では、実験を通して心理学の基礎的な方法概念について学ばせることを目的としている。また心理学のレポートの書き方、研究計画の立て方、実験等の具体的手続き、および統計処理の基本について解説した。履修者はすべて心理学の研究を行ったことがないため、実験・実習の進捗状況を適宜確認し、グループ討議を行った上で、各自が実験の目的を明確化し、目的に沿った実験・実習を進めていけるよう指導した。また心理学の実験レポートは文系の学生には経験のないものであったため、①レポート提示の際に「ループバック評価」を提示し、②レポート提出前の個別指導に尽力した。</p>
<p>授業科目名【発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科)】</p> <p>発達心理学Ⅰでは、胎児期から児童期までの発達段階や発達特性を中心に講義を行った。具体的内容としては、子どもの発達と環境、胎児期の発達、身体と運動能力の発達、知的機能の発達、感情と動機づけの発達、パーソナリティの発達、人間関係の発達、社会性の発達、性と性意識の発達、脳と発達、発達心理学の理論などについて講義を行った。特に乳幼児期、児童期に現れやすい様々な課題について、事例を交えて説明することで、生涯発達心理学的視座をもった福祉職の育成を目指した。内容的には抽象度の高い理論的なものがあるが、学生の感想を見る限りにおいては自らの発達過程を内省していたと考えられ、人間発達の不思議さや面白さを感じたようであった。今後も両者のバランス(理論的であっても身近なもの)を図っていきたい。</p>
<p>授業科目名【福祉臨床心理学Ⅰ(後期)(福祉学科)】</p> <p>臨床心理学は、人の問題行動や心理的不適応の改善・解決を目指すだけでなく、さらに心の健康や発達を促す専門的な営みを支える実践の科学である。本講では、臨床心理学固有の対象と場の理解を基盤として、臨床心理学の源流となっている諸理論及び臨床心理学的実践の基本的視角について取り上げた。また、学生が臨床心理学的援助における心理アセスメントの視点について理解し、心理アセスメントにおける心理検査の種類と適切な使用法の概要について説明できることを期待して授業を展開した。内容的に理論的要素の強い学問領域であったが、感想を見る限り実際の臨床場面での経験等を交えて解説していったためか、心理臨床実践への興味が深まった者もいたようであり、学生の主体的学習の動機づけに一定の効果を与えたと考えている。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅰ(通年)(福祉学科)】</p> <p>心理学の研究法に関する知識を深め、論文を批判的に読み、学生自身が論文作成を展開できる力を培うため、文献講読及びディスカッションを行った。学生のゼミへの参加態度やディスカッションの内容から、学生が主体的に学ぶ姿勢が感じられた。また、曖昧に理解していたことが発表やディスカッションを通して明確になっていくことを実感しているように思われた。本ゼミにおいては、今後も適宜解説を加えながら、学生自身が主体的に学ぶ姿勢、自らの論を展開していく力を培うことを目標にしていきたい。</p>

授業科目名【専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科)】

専門研究Ⅱでは、学生一人一人が関心を持ったテーマについて研究を進め、それらを他のメンバーの前で発表し討論を繰り返していくことで、研究を深めていくことをねらいとして指導を行った。初めのうちは漠然としていた研究目的が、討論を繰り返していく中で明確化され、後半には主体的に論を進めていく方法を身につけていったと思われる。またメンバー間の協力体制が強固なものとなり、他メンバーへの助言がしやすい雰囲気が生まれたことで、各自客観的な文章の書き方を意識するようになったと考えられる。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本臨床心理学会 発達心理学会 西日本心理劇学会 日本リハビリテーション心理学会 九州臨床心理学会 日本心理学会	北九州地区委員(2006年4月～現在)	1998年7月～現在に至る 1998年2月～現在に至る 2001年1月～現在に至る 1997年4月～現在に至る 2006年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 1. Effects of Group Intervention for Children's Self-Esteem and Self-Efficacy in Junior High School	共	2015.7	The 14 th European Congress of Psychology (Milan, Italy)	①中学1年生の生徒に対して a) 自己及び他者の感情に気づくこと、b) 他者の状況や感情に考慮しながら意見を述べることを目的とし、介入授業を行った。本研究では、介入授業の効果について生徒の自尊感情及び自己効力感の変化という観点から質問紙による調査を行った(プレ

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				<p>・ポスト・フォローアップ(1か月後)。その結果、「自己評価と自己受容」については変化が見られなかった。一方、「関係の中の自己」及び「自己主張・自己決定」ではプレに比べてフォローアップが上昇傾向にあった。</p> <p>②共同発表者 倉光晃子・野井未加・一期崎直美</p> <p>③The 14th European Congress of Psychology Final Program (P21)</p> <p>著書 0(内訳 単0, 共0) 学術論文 0(内訳 単0, 共0) 翻訳 0(内訳 単0, 共0) 学会発表 1(内訳 単1, 共0)</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

九州大学大学院人間環境学府附属発達臨床心理センター	研究員	2004年4月～現在に至る
極低出生体重児の親子遊びの会主催	事務局	2006年4月～現在に至る
近隣病院の臨床心理士へのスーパーヴィジョン	スーパーヴァイザー	2015年4月～現在に至る
福岡女学院大学大学院生へのスーパーヴィジョン	スーパーヴァイザー	2007年～現在に至る
放送大学(北九州サテライトスペース)面接授業講師(担当科目:周産期の心理臨床)	講師	2015年6月6日～6月7日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

国際交流委員(副委員長)
 福祉学科将来構想ワーキンググループ
 福祉学科新生保護者説明会ワーキンググループ

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 吉田 あや子	職名 准教授	学位 修士(教育学)(1997年)福岡教育大学
-----------	--------	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
養護教諭教育 学校健康相談 健康教育学	養護教諭の力量形成 児童生徒の健康課題 健康相談 保健指導の開発

研究課題
(1) 養護活動のFDに関する研究 (2) 学校健康相談に関する研究 (3) 子どもの健康教育

担当授業科目
地域保健Ⅱ (前期) (福祉学科) 養護実習 (通年) (福祉学科) 教育実践研究 (通年) (福祉学科) 事前事後の指導 (通年) (福祉学科) 専門研究Ⅰ (通年) (福祉学科) 専門研究Ⅱ (通年) (福祉学科) 学校保健教育法 (後期) (福祉学科) 学校保健Ⅱ (後期) (福祉学科) 看護学 (後期) (福祉学科) 教職実践演習 (後期) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【地域保健学Ⅱ(健康相談の理論と方法)】</p> <p>健康相談の基本理論や事例分析等の説明では、学生が理解しやすいように図やフローチャート等を作成し活用している。また、実践事例として日常対応・頻回訪室者の対応・長期にかかわる事例等を提示し、プロセスに応じたまとめが出来るようにワークシートを活用している。</p>
<p>授業科目名【学校保健Ⅱ】</p> <p>板書を工夫し、知識や理論を理解しやすいように努めるとともに、授業後の学習カードとして本時のテーマ、キーワード、学んだこと等を記入することで知識の定着化を図るように試みた。理解ができていないところは、次の時間に説明を加えるようにした。</p> <p>また、重要なところはワークシート学習を行った。まず、説明ののち学生自身が自分の情報や考えを記入し、その後グループで協議発表する方法をとった。(アクティブ演習 AL)</p> <p>教員採用試験も視野に入れて、多くの専門用語や理論を理解できるように解説した。さらに学生が納得して知識や理論を吸収できるように、できるだけ実践事例を多く提示するようにした。</p>

授業科目名【看護学】

看護学の総論では、基礎となるナイチンゲール、アンリー・デュナン、近代看護学の理論家等の功績と理論を取り上げ、養護教諭に必要な看護学の基礎を学ぶことができようにした。その方法として、授業者自身の海外研修での調査をもとに解説を行い、自己学習の方法を説明した後課題を提示し、図書館やインターネット等を活用した調べ学習、グループでのカンファレンスさらにグループ発表ができるように工夫した。(アクティブラーニングAL)

各疾患については、学習効果を高めるために、ライフサイクルに応じた看護について説明。その後に課題解決型学習方法等を指導し、課題を与えグループ学習、個別発表の場を設けた。

Active な演習を取り入れ数年経過したが、毎年改善を図ってきた結果、授業中の学習態度や毎回の授業後の学生コメント、プレゼンテーションなどにより、養護教諭になるための力が徐々に付いてきていることが確認できた。

授業科目名【学校保健教育法】

学生の学びを高めるために模擬授業を行い、そのあとにカンファレンスを設定した。カンファレンスでは授業者役の自評と観察者役の意見交換を行い、学生がより良い授業に向けて学習できるように図った。

また、授業に対する意欲や理解が深まるように、実際の学校での保健指導の様子を提示した。学生の興味関心も高まり、積極的に取り組むことができていた。今後さらに授業の進め方を工夫していきたい。

授業科目名【 教育実践研究 】

3年後期から4年前期までの履修期間であるため、方法及び内容を工夫した。オリエンテーションのほか、実習の事前カンファレンス・事後カンファレンスをグループ別に実施した。

人権学習については、2コマを使い外部講師・教育委員会の専門の先生を招聘して教職課程合同で実施した。また、養護実習のための事前指導では、同日に卒業生による体験講話会を実施した。4年生にとっても好評であった。当日の最後に、養護の専門科目担当者として実習目的・目標、実習内容、記録の仕方、個人情報保護について等の実習時の留意事項などを説明したところ、学生の真剣さが伝わってきた。

事前指導の一環として、養護実習先での指導がどの学生も十分にできるように定期的に「課題学習」を取り入れ実施した。また、実習校の状況を踏まえた上で、授業展開等が十分にできるように個別・グループ学習を実践的に行った。出席カートワークシート等から、自主的な学びの態度や協調性が育まれたと推察される。(今年度で終了する科目である。)

授業科目名【養護実習】

養護実習における現地指導では、実習校の管理職、担当の先生方の意向を尊重して実習生の指導を行った。査定授業、指導案作成指導及び反省会・協議会等にもできるだけ参加するように努めた。そのため、学生の実習状況の把握が十分にでき、その実習時期だけでなくその後も適切な指導等につながったように思う。

養護実習生用に作成した「養護実習の手引き」を使い、事前・事後において個別の相談やグループ指導に力を入れた。

【事前・事後の指導】

カリキュラム改正により今年度からの新しい科目（今までは教育実践研究）のため、事前指導として、個別面談・グループ指導に力を入れた。(次年度に養護実習は実施の予定)

授業科目名【 教職実践演習（養護教諭） 】

本講は3年目であり、昨年に引き続き一部のコマは福祉・看護・栄養・英語学科合同で実施することで視野の広い養護教諭を育成することに努めた。

養護教諭養成の分野で、初回とまとめと担当時間と合わせて11コマ担当した。受講生は養護実習を終えており、養護教諭の資質向上を目指して実習体験の振り返りを行い、広い視野で考察できるような教育方法と課題を取り入れた。

また、教育指導方法を各自が提案できるようにグループ学習を取り入れ、学生同士の学びあいを深めることができるようにした。

授業科目名【 専門研究Ⅰ・専門研究Ⅱ 】

研究の力をつける為に、文献の読み方、レポートの作成さらに発表・討議などの基本が学べるようにプロセスを考え、それを重視した。

3・4年生のゼミ生には、出来るだけ小学校での体験学習や児童館等でのふれあい体験、北九州市小児口腔保健学会等への参加機会を設けた。自主参加であるが、ミーティング等で今後も是非参加したいと感想・意見を述べていた。

長期の体験として児童館等でのボランティア、そのほか子どもと関わる体験を希望する学生には、学生の自主性を尊重しながら、対応についての指導・助言を行いフォローに努めた。

今後さらにゼミ生の専門研究意欲が高まるような工夫をしていきたい。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本思春期学会	社団法人日本家族計画協会 (上級思春期保健指導士) (2005年～)	1994年4月～現在に至る
日本養護教諭教育学会	査読担当 2007年 理事 (2009年4月～現在に至る) 学会活動委員会委員 (2009年4月～現在に至る) 査読担当 2009年度	1995年4月～現在に至る
日本学校保健学会	第47回日本学校保健学会実行委員 (1999年5月～2000年11月)	1995年9月～現在に至る
九州学校保健学会	評議員 (2013年8月～現在に至る)	1995年9月～現在に至る
日本健康教育学会		1997年4月～現在に至る
日本地域看護学会		1998年2月～現在に至る
北九州市小児口腔保健学会	理事(1999年6月～2002年) 常任理事(2003年6月～現在に至る) 第23回北九州市小児口腔保健学会大会長 (2014年10月)	1999年6月～現在に至る
日本幼少児健康教育学会	理事 (2003年4月～2014年) 常任理事 (2014年～現在に至る) 健康教育セミナー委員 (2006年～現在に至る) 第29回秋季学会北九州大会会長(2010年) 第69回幼少児健康教育セミナー実行委員長 (2011年～2013年度) 第73回幼少児健康教育セミナー実行委員長 (2012年度) 第76回幼少児健康教育セミナー実行委員長 (2013年度) 第81回幼少児健康教育セミナー実行委員長 (2014年度)	2003年3月～現在に至る
日本学校健康相談学会	査読担当 2005年～2007年	2004年12月～現在に至る

日本歯科医療福祉学会		2007年4月～現在に至る
日本外傷歯学会 (JDTA)	理事(2013年7月～2016年)	2011年7月～現在に至る
ASIAN INTERNATIONAL ASSOCIATION OF DENTAL TRAUMATOLOGY (AADT)	As a director of the ASIAN INTERNATIONAL ASSOCIATION OF DENTAL TRAUMATOLOGY (2013～2016)	2009年9月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 新版 養護教諭の行なう健康相談	(共著)	2016.3	(株) 東山書房	①本書は養護教諭の健康相談に関する教育に必要な事項を網羅し、具体的な事例をあげ、理論を述べている。養護教諭の養成機関での教材だけでなく、現職養護教諭が自分の健康相談を整理・分析し、更なる展開をしていく上でも、貴重な指針として役立つものとして著述した。現在の学校現場の諸問題や動向を取り入れ、健康相談活動の理論および相談プロセス等が分かりやすいように記述した。 ②分担部分：第2章2節2-2)、第3章3節1、3、巻末資料1 ③編著者名：大谷尚子、鈴木美智子、森田光子 著者名：吉田あや子、井手元美奈子、大原榮子、亀崎美智子他 ④B5版 総頁数195頁
2. 新版 養護教諭養成講座「学校における養護活動の展開」	共著	2015.3 予定	(株) ふくろう出版	① 養護教諭を目指す学生が自主的に学ぶことを支援できるように、養護教諭の専門性の基本的な考え方や理論を示した。また、養護教諭が行う活動の展開について、学生が理解しやすいように実践的な内容と図表並びに実践例を多く取り上げ解説した。 ② 担当部分：第6章保健室経営 ③ 編集代表：津島ひろ江 吉田あや子他 ④ A4版 総頁数270頁
(翻訳) なし				

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1. 'Study on the effective 1. health education for preventing children's dental trauma in Japan - first report - '	単	(2015. 7)	The 7th Conference Of ASIANINTERNATIONAL ASSOCIATION OF DENTAL TRAUMATOLOGY (AADT) (北九州市国際会議場)	
2. (座長) シンポジウム「子どもの発育発達における他職種の連携について」	共	2016.2	北九州市小児口腔保健学会第24回学術集会 (於)	シンポジスト 4名
3. 第34回大会【春季：青山大会】一般口演座長	単	2016.3	日本幼少児健康教育学会第34回大会【春季：青山大会】 (於青山学院大学)	一般研究口演演題3本及び討論を担当した。
その他 1. FD 委員「養護教諭養成における倫理教育」	共	2015.9	日本養護教諭養成大学 FD 委員会 (於青山学院大学)	倫理教育委員会 (2012～2014) 報告員会
				教育研究業績 総数 (2015. 3. 31 現在) 著書 2 (内訳:単0 共2) 学術論文 (内訳:単 0共 0) 学会発表、座長、特別講演など 3 (内訳:単2 共 1) その他 (内訳:単 共1)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
日本養護教諭養成大学協議会	評議員	2006～現在に至る
	教育課程カリキュラム検討委員	2007. 7～2010. 9
	FD 委員会委員	2012. 9～2015. 9

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

<p>○本学教職課程委員会委員 (～2015)</p> <p>○教員免許更新講習 【選択領域】教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項「子どもの健康問題と健康教育」(2008年～2015年)企画コーディネーター及び講座講師を担当。</p> <p>○福祉学科養護教諭コース担当(リーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教職カルテの」指導(1年生から4年生まで定期的に個別指導及び全体指導) ・教職採用試験対策、臨時採用等の就職対策指導を精力的に行った。 ・養護教諭志望の4年生を対象に実践力アップ講習を行った。学生の自主参加であった。 ・卒業生に対しても、教採試験対策や就職等の相談活動を行った。 <p>○1年生・2年生アドバイザーを担当し、学生の相談、指導を丁寧に行うよう努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に4回オフィスアワーを設定し、学生の質問・疑問に応えるよう努めた。 ・定期的に交流会を行い、交流を深めるよう努めた。 <p>○養護教諭を目指す学生に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生からのメールでの質問等にもこまめ対応し、意思の疎通を図るよう努めた。 ・特に学生の自主性を重視した指導に努めた。

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 荒木 剛	職名 准教授	学位 修士(社会福祉学)(熊本学園大学2002年)
---------	--------	---------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
高齢者福祉、ソーシャルワーク、実習教育	高齢者福祉、ソーシャルワーク、社会福祉士養成教育

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉領域におけるソーシャルワーク実践のあり方について検討する。 ・社会福祉士養成教育における実習教育のあり方について検討する。

担当授業科目
<p>社会福祉概説(1年次通年)、基礎実習(1年次通年)、高齢者福祉論(2年次通年)、介護技術演習(2年次前期)、相談援助実習指導Ⅰ(2年次通年)、相談援助実習指導Ⅱ(3年次通年)、相談援助実習(3年次通年)、相談援助演習Ⅱ(2年次前期)、相談援助演習Ⅲ(2年次後期)、相談援助演習Ⅳ(3年次前期)、相談援助演習Ⅴ(3年次後期)、社会福祉特講Ⅱ(4年次後期)、専門研究Ⅰ(3年次通年)、専門研究Ⅱ(4年次通年)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【社会福祉概説】 本科目は社会福祉士指定科目の1つであるが、初学者である1年生にとっては難易度が高いと思われる。したがって講義では毎回レジュメを作成するとともに、図表・イラスト等を積極的に用いて学生の内容理解を助けた。また、新聞記事やDVD等を活用し、学生が福祉の話題や問題を身近に感じ、関心を高められるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【基礎実習】 本科目は学生が対人援助のフィールドで体験型の学習を行うものである。実習前には対人援助職への理解や実習への動機が高まるよう個別指導を実施した。また、自己学習により実習先の理解を深めさせ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験から得た学びや気づきの深化を図った。</p>
<p>授業科目名【高齢者福祉論】 本科目は社会福祉士指定科目の1つである。講義内容及び展開は教科書を中心として行った。また、毎回レジュメを作成し、学生の内容理解を助けた。法制度改正など国家試験での出題が予想される内容については、入念に解説を行うとともに、コメントカードを通じて学生の理解度の把握に努めた。また、新聞記事等を活用し、最新の情報提供を積極的に行った。</p>
<p>授業科目名【介護技術演習】 本科目は介護技術の習得を目的とした実技指導を主な内容としており、介護現場に従事する外部講師2名が担当している。講義では外部講師との打ち合わせや連絡を十分に行い、使用物品の準備や環境整備等を図った。また、單元ごとにレポートを提出させ、技術面だけでなく介護者としての視点や考え方の習得度を把握した。</p>

<p>授業科目名【実習指導Ⅰ】</p> <p>本科目は3年次の実習に向けた準備学習を主な内容としている。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当し、グループ学習を通して実習領域・施設、利用者理解が深まるよう指導した。また、視覚教材の活用や見学実習を行うことで、実習のイメージ化と動機づけを行った。</p>
<p>授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】</p> <p>本科目は相談援助実習の事前・事後の指導を主な内容としている。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。実習前の講義では、実習関連書類の作成指導を通して学生の動機を高めた。実習後には個別面談やケース検討会、実習報告会を通して実習で得た学びや気づきを深めさせた。また、実習期間中は巡回訪問を行い、個別指導及び実習指導者への面談を通して、実習状況の確認を行った。</p>
<p>授業科目名【相談援助実習】</p> <p>本科目は対人援助の実践現場において学外実習を行うものである。本科目の実施にあたり実習指導者との連絡調整に努めることで、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、学生の実習配置が適切に行えるよう、履修人数に応じて新規実習施設の開拓を行うなど実習先の確保に努めた。</p>
<p>授業科目名【相談援助演習Ⅱ】</p> <p>本科目は社会福祉士指定科目の1つである。講義ではソーシャルワーカーとしての基本的視点や姿勢、支援過程、面接技法、記録について教授した。グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ等を積極的に取り入れ、体験・参加型の講義となるよう工夫した。また、できる限り学生に発表の機会を与え、主体的な参加を促した。</p>
<p>授業科目名【相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】</p> <p>本科目は社会福祉士指定科目の1つである。講義では高齢者支援の事例を用いてケアマネジメントの手法や権利擁護のアプローチを教授した。また、事例検討においてはグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士の相互交流から様々な学びや視点を獲得できるよう工夫した。</p> <p>※相談援助Ⅲ・Ⅳ・Ⅴはオムニバス形式のため講義内容は同じ。</p>
<p>授業科目名【社会福祉特講Ⅱ】</p> <p>本科目は4年次の開講科目であり、国家試験対策としての位置づけもある。講義では高齢者福祉の基礎的な内容と最新の政策的動向について解説した。また、国家試験での出題が予想される制度改正部分や学生の理解度が低いと思われる内容についても取り上げた。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <p>本ゼミにおいては学生の興味・関心のばらつきが大きいいため、最初にゼミ全体としての研究テーマ（大枠）を設定した。その上で学生各人の興味・関心に応じ個別テーマを与えた。ゼミ指導の全般を通して、学生の学習意欲や主体性が高まるよう努めた。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p> <p>本ゼミでは福祉学科4年間の学習成果の1つとして国家試験を位置づけ、学生各人の個別テーマにおいても国家試験の内容に関わるものを設定した。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを十分に図るとともに、学生同士の相互交流を通じて学習意欲や主体性が高まるよう努めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉士会		1998年4月～現在に至る
日本社会福祉学会		2002年3月～現在に至る
日本地域福祉学会		2007年3月～現在に至る
日本介護福祉学会		2007年3月～現在に至る
日本ケアマネジメント学会		2008年1月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) コメディカルのための 社会福祉概論 第3版	共	2016年2月	講談社	①コメディカルを目指す人に対して、社会福祉や対人援助について基礎から解説した教科書。 ②編者：鬼崎信好、本郷秀和 共著者：今村浩司、片岡靖子、永田千鶴、畑香理、古野みはる、松岡佐智、村山浩一郎、渡辺暁 ③担当部分：第13章 社会福祉を担う人々 (P167～P176)
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
高齢者虐待の予兆察知における介護支援専門員の現状と課題－ソーシャルワークによる支援の方向性－（2014年度～2017年年度）	文部科学省	○（本郷秀和） （鬼崎信好） （永田千鶴） （袖井智子） （畑香理） 荒木剛	4,680,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市社会福祉協議会 (権利擁護・市民後見センター運用委員会)	委員	2009年4月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会 (福祉人材バンク事業運営委員会)	委員	2012年4月～現在に至る
社会福祉法人福音会	第三者委員	2009年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

研究紀要委員会（2015年4月～現在に至る） COC+連携講義検討部門（2015年11月～現在に至る）

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	上村 眞生	職名	准教授	学位	博士(教育学)(広島大学2012年)
----	-------	----	-----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
保育学 幼児教育学	保育の質 保育士のストレス・メンタルヘルス 保育士の労働環境 幼児期の食育

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士のメンタルヘルスに関する国際的状況 ・保育士の労働環境、社会的地位について、科学的根拠を基に改善について考察する。 ・幼児における食育活動の衛生面の課題克服と教育的意義の再検討を行う。

担当授業科目
保育原理(前期) 保育内容 環境(前期) 保育内容 総論(前期) 保育課程論(前期) 保育の表現技術Ⅲ(前期) 保育内容 表現(後期) 保育の表現技術Ⅳ(後期) 保育者論(後期) 保育実習Ⅰ(3年前期～4年前期) 保育実習Ⅱ(通年) 保育実習指導Ⅰ(3年前期～4年前期) 保育実習指導Ⅱ(通年) 保育実践演習(通年) 専門研究Ⅰ(通年) 専門研究Ⅱ(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育原理】 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないように、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。必然的に課題や学生自身による取り組みが多くなるため、授業評価アンケートからもその様子が窺えるが、同時に学生の目標達成、将来への展望にも繋がっていることが確認できた。
授業科目名【保育内容環境】 保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。一方で、昨年度課題として挙げた目的の明確化について、各授業前後に各回の目的を提示することで改善が見られた。

<p>授業科目名【保育内容総論】</p> <p>保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、これまでの学習の総括と総合的且つ専門的な視点からの課題解決について、事例、例題を提示し、毎時間ディスカッションを行った。そのため、学生が授業に参加するに当たっての事前準備にある程度の時間が必要であることと、ディスカッションを基本として授業を進めるため学生間の関係性に起因する議論の方向性の偏りも若干見られた。この点を踏まえ、各回に全体討議とは別に個人個人の検討内容をレポートとして提出させ、各学生の検討内容を評価した。</p>
<p>授業科目名【保育課程論】</p> <p>保育の計画に関して、長期・短期計画について解説した上で、「保育課程」の作成方法を指導した。保育課程作成にあたり必要となる乳幼児の発達、現代の保育における諸課題について、より認識しやすいよう各グループによる発表を基に、ディスカッション、解説を行い、実際に学生一人一人が保育課程を作成する試みを実施した。高度な専門的内容であるため、学修のフォローとして個別指導も実施した。</p>
<p>授業科目名【保育の表現技術Ⅲ】</p> <p>保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。</p>
<p>授業科目名【保育内容表現】</p> <p>表現活動の意味や学生自身の表現を豊かにすることだけでなく、そのための方法論を学生自身が導くことができるよう、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。授業評価アンケートからは、目的を持って参加した姿が伺われた。</p>
<p>授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】</p> <p>保育者として必要な造形表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の造形表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。授業評価アンケートからは概ね目標は達成できたと考える。</p>
<p>授業科目名【保育者論】</p> <p>保育者としての考え方の基本について教授した。専門職としての倫理観、および保育者としての指針について解説した。保育原理同様、講義型の授業のため、知識の提示に留まることがないように、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。昨年度同様、事例提示を増やし、学生の理解が進むよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【保育実践演習】</p> <p>保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <p>研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p> <p>個人で研究テーマを決め、テーマに即した研究活動を支援した。研究の実施に加え、ゼミ内でのプレゼンテーションを課し、物事を客観的に捉え、他者に伝える力を養うことを心がけた。</p>
<p>授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返りでは、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。</p>

授業科目名【保育実習Ⅰ・Ⅱ】

実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。また、1日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本保育学会	特になし	2005年6月～現在に至る
日本小児保健協会	特になし	2006年7月～現在に至る
日本保育園保健学会	特になし	2007年8月～現在に至る
日本ウェルネス学会	特になし	2009年5月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(論文) 日中保育者のメンタル ヘルスに関する比較研 究 - レジリエンスに着 目して -	共同	2016年1月	小児保健研究 Vol.75 No.1 47-53	日本と中国の保育者のメンタルヘルスについて、精神的健康度・疲労度とそれに影響を与える要因であるレジリエンスについて検討した。結果として、日本では新人程メンタルヘルスを損ないやすい状況であるのに対し、中国の保育者は新人程メンタルヘルスは良好で、経年と共に精神的に不健康な状態へ移行することが明らかとなり、両国の養成制度、伝統的な思考体系の違いが明確となった。

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個 人 研 究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考

--	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
・福岡県青少年アンビシャス運動 砂山アンビシャス広場	ボランティア委員	2001年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
<ul style="list-style-type: none"> ・学生委員 委員 2014年4月1日～現在に至る ・FD部門会議 委員 2013年4月1日～現在に至る ・PHOTO部 顧問 2010年12月14日～現在に至る

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 今村 浩司	職名 准教授	学位 修士(福祉社会)(福岡県立大学)
----------	--------	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス(精神保健福祉)領域におけるソーシャルワーク	ソーシャルワーク、臨床実践、メンタルヘルス(精神保健福祉)、生活支援、権利擁護、成年後見、触法障害者、更生保護

研究課題
精神障害者の地域生活支援に関する研究 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関する研究 精神保健福祉士の専門性向上に関する研究 精神障害者の成年後見に関する研究 触法精神障害者の地域定着に関する研究

担当授業科目
相談援助の基盤と専門職(福祉学科1年通年必修4単位) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ(福祉学科3年前期選択4単位) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(福祉学科3年後期選択4単位) 精神障害者地域生活支援論(福祉学科4年後期選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(福祉学科3年通年選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(福祉学科4年通年選択2単位) 精神保健福祉援助演習Ⅰ(福祉学科2年後期選択1単位) 精神保健福祉援助演習Ⅲ(福祉学科4年後期選択1単位) 精神保健福祉援助実習Ⅰ(福祉学科3年選択4単位) 精神保健福祉援助実習Ⅱ(福祉学科4年選択4単位) ヒューマンサービス基礎演習(福祉学科1年前期必修1単位) 相談援助演習Ⅰ(福祉学科1年後期必修1単位) 専門研究Ⅰ(福祉学科3年通年必修2単位) 専門研究Ⅱ(福祉学科4年通年必修2単位) 生活と福祉(短期大学部生活創造学科1年後期選択2単位)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【相談援助の基盤と専門職】</p> <p>福祉学科1年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)の現状や課題の理解を深める、本学科における非常に重要な講義科目である。毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。また、リアクションペーパーにより理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ】</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対するの援助技術全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、視聴覚教材等も利用して、より理解</p>

<p>の促進に努力した。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ】 精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対してのリハビリテーション全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。更には精神科リハビリテーションの実際を視聴覚教材導入して理解を深めさせた。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神障害者地域生活支援論】 精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解をしてきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【生活と福祉】 現代社会における生活全般の福祉に関する現状を詳細に解説し、その課題を整理した。「自分自身」というキーワードを与えて、自らの立場性をイメージさせて、その立場からどう考えるかということによって理解を深めさせた。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】 精神保健福祉士レーン担当の3人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】 上記同様3人の教員合同で行い、実習Ⅰを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、実習後の報告会を設定して、受講生全員で理解を深める努力をした。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅰ】 精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、まずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませるよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】 精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】 対人サービスを行う専門職養成のために、5名の教員で統一テーマに沿ってコミュニケーション、自己表現、チームワークの3つの技能の習得を目指して、特にグループ化しての授業を中心に展開させた。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【相談援助演習Ⅰ】 相談援助者の基本的理解である「受容」「傾聴」「共感」を中核に、クライアントに寄り添う重要性を習得させることに努力をした。小グループでの活動を中心に、できるだけきめ細かい関わりが行えるよう配慮した。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p>

9名のゼミ生に対して、精神保健福祉士として現場実践力の重要性を考慮し、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、積極的に病院や施設見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的なイメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い、参加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】
 専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスをを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告会で発表させ、報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という2つの目標を定め、2015年度4年ゼミ生（8名）は、全員その目標を達成した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001年～現在）	1994年～現在
日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010年6月～2012年6月）	1996年～現在
日本社会福祉学会	代議員（2013年～現在）	1996年～現在
日本病院・地域精神医学会		2006年～現在
日本精神障害リハビリテーション学会		2008年～現在
日本精神保健福祉学会		2012年～現在
九州精神神経学会		2012年～現在
日本更生保護学会		2013年～現在

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書等) 1. コメディカルのための社会福祉概論(第3版)	共	2016年2月	講談社	① コメディカルに対して社会福祉全般の概要を解説したものである。執筆担当部分は「低所得者への福祉」であり、貧困と低所得の関係性、生活保護をはじめ公的扶助の制度的サービス全般にわたり解説して述べている。 ② 編集 鬼崎信好・本郷秀和 ③ 第1部社会福祉とその分野 第8章「低所得者福祉」を執筆P. 100～P. 113 総頁数214頁 ④ A4版
2. 精神障害者の成年後見制度ハンドブック (平成27年度社会福祉	共	2016年3月31日(予定)	公益社団法人 日本精神保健福祉士協会	① 精神障害者に対する成年後見制度の理解を深めるためと、実用的な状況の理解

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
法人社会福祉事業研究開発基金助成金助成事業)				<p>が深めるために作成したハンドブックである。執筆部分は社会福祉専門職が施行する身上監護の重要点やポイントをまとめて解説して述べている。</p> <p>② 編集 日本精神保健福祉士協会クローバー運営委員会</p> <p>③ 第2部 精神障害者への成年後見実務 1 身上監護の留意点を執筆P. 19～P. 22 総頁数47頁</p> <p>④ A4判</p>
(学術論文等)	なし			
(翻訳)	なし			
(学会発表等) 1. 認定成年後見人ネットワーク「クローバー」の現状と課題	共	2015年6月	第14回日本精神保健福祉士学会学術集会(於 ビッグパレットふくしま 福島県)	① 精神保健福祉士が行う成年後見活動の現状と課題について考察し、その報告を行った。 (○浅沼尚子、長谷川千種、今村浩司他)
2. 北九州市の認知症初期集中支援チームの現状と展望～認知症患者医療センターとの連携やモデル実施を中心に～	共	2015年11月	第68回九州精神神経学会、第61回九州精神医療学会(於 マリとピア 佐賀県)	① 認知症初期集中支援チームの現状と展望を、認知症患者医療センターやモデルケースを通して、精神保健福祉士の視点から、その課題と展望について一考した。 (○和田洋臣、井田能成、今村浩司他)
3. 地域で生活する医療観察法対象者や障害のある刑務所出所者等に対する再犯防止サポート体制の取組	単	2016年2月	平成27年度地域司法精神保健福祉研究大会(於 アルカディア市ヶ谷 東京都)	① 地域生活を送る、心神喪失者等医療観察法通院処遇者やその終了者、もしくは刑事施設出所者等に対して、弁護士と社会福祉士、精神保健福祉士が訪問して再犯防止活動について考察した。 (○今村浩司)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地域で生活する医療観察法対象者や障害のある刑務所出所者等に対する再犯防止サポート体制の構築に関する取組 (2013年度～2015年度)	更生保護法人 日本更生保護協会	○ 今村浩司 嶋村美由紀 平田健太郎他	1,500,000 (2013年度～2015年度)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本精神保健福祉士協会	理事（兼診療報酬・配置 促進委員会委員長）	2001年4月～ (2012年6月～2014年6月)
福岡県精神保健福祉士協会	副会長	2001年4月～
福岡県精神科病院協会精神保健福祉士 会	顧問	2012年7月～
北九州地区精神保健福祉士協会	会長	2002年9月～
北九州地区社会福祉専門職5団体連絡協 議会	代表世話人	2006年4月～
北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員長	2005年10月～
北九州成年後見センター	理事	2006年3月～
北九州市障害福祉ボランティア協会	理事	2005年4月～
北九州精神保健福祉事業協会	評議員	2001年4月～
福岡地方裁判所	精神保健参与員	2005年7月～
北九州市保健福祉局	オンブズパーソン	2012年4月～
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2005年4月～
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2006年4月～
北九州市精神障害者社会適応訓練事業 運営協議会	委員	2000年4月～
北九州市教育委員会スクールソーシャ ルワーカー運営協議会	委員	2008年4月～
福岡県教育委員会スクールソーシャ ルワーカー運営協議会	委員	2008年4月～
北九州市高齢者支援と介護の質の向上 委員会	委員（地域包括支援部会兼 務）	2006年4月～
北九州市要保護児童対策地域協議会	委員	2008年7月～
福岡県精神保健福祉審議会	委員	2013年4月～
北九州市発達障害者支援センター連絡 協議会	委員	2013年4月～
福岡県精神医療審査会	委員	2014年4月～
厚生労働省（社会福祉振興・試験センタ	委員	2014年6月～

一) 精神保健福祉士国家試験委員会		
-------------------	--	--

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
研修委員会 (教職員研修懇談会) 委員 学生募集委員会 委員 西南女学院大学精神保健福祉研究会 顧問 (精神保健福祉士養成レーンの卒業生と在学生の会) 福祉学科カリキュラム検討WG、国家試験対策WG、学科報 (ニュースレター) 担当 障害者差別解消法施行に伴う高等教育機関に求められる対応についての研修会 等々

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	納戸 美佐子	職名	准教授	学位	博士(医療福祉学)
----	--------	----	-----	----	-----------

研究分野	研究内容のキーワード
高齢者福祉	認知症高齢者グループホーム・認知症高齢者

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームにおける認知症高齢者へのケアの効果評価に関する検討 ・認知症高齢者を対象としたボランティアの育成プログラムに関する検討

担当授業科目
<p>相談援助の理論と方法Ⅰ(通年)(福祉学科)</p> <p>基礎演習(通年)(福祉学科)</p> <p>ヒューマンサービス基礎演習(前期)(福祉学科)</p> <p>相談援助演習Ⅱ(前期)(福祉学科)</p> <p>相談援助演習Ⅲ(後期)(福祉学科)</p> <p>相談援助演習Ⅳ(前期)(福祉学科)</p> <p>相談援助演習Ⅴ(後期)(福祉学科)</p> <p>相談援助実習指導Ⅰ(通年)(福祉学科)</p> <p>相談援助実習指導Ⅱ(通年)(福祉学科)</p> <p>相談援助実習(通年)(福祉学科)</p> <p>専門研究Ⅰ(通年)(福祉学科)</p> <p>専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 相談援助の理論と方法Ⅰ 】</p> <p>本講義においては、テキストとともに、関連資料やビデオ等を活用し、相談援助について理解を深めることができるよう工夫した。また、講義内で課題を提示し、解決方法や対応方法について学生自身が考える時間を設定し、学生自らが考える時間を設定するよう工夫した。また、ビデオ教材を用いた学習では、要点をまとめたワークシートを作成し、学生が主体的に学べるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【 基礎演習 】</p> <p>本演習では、「調べる」「聴く」「読む」「書く」「発表・討論する」ことを通して、大学での学びに必要な力を身に付けることを目的としている。6名の教員が4コマずつ担当し、教員が設定したテーマに沿って演習を行っている。担当分においては、教材として新聞を用い、新聞を読むことの意義や大学生活における新聞活用の方法について考えることなどをテーマとした。個人ワークだけでなくグループワークを行い、自分の意見を他者に伝えるだけでなく、他者の意見を聞き、ものごとに対して多角的な見方ができるよう工夫した。</p>

<p>授業科目名【 ヒューマンサービス基礎演習 】</p> <p>本演習では、参加型・体験型のプログラムを用いることにより、ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされる基礎的能力を形成できるよう工夫した。</p> <p>2015年度前期授業評価アンケートには、授業の課題以外に学習していない理由として「何をしたいかわからなかった」などの意見があげられていた。次年度は、学生が興味をもてる情報や課題を提供し、学生の主体的な学びを促進していく。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】</p> <p>本演習では、相談援助専門職に必要な相談援助の方法や支援の視点について、グループディスカッション、ロールプレイなどを用いて体験的に学ぶ。また、事例等を用いることにより、福祉課題や利用者の状況について理解できるよう工夫した。ワークシートや振り返りシートの確認を行い、学生の理解状況を把握するよう心掛けた。</p> <p>2015年度前期授業評価アンケートの結果から、予習・復習をした学生は少なく、また、図書館やインターネットを利用した学生も少ないことが分かった。しかし、少数ではあるが、「新聞記事を読んだ」「分からない単語を調べた」との記述もあった。学生が、講義外の時間に学ぶことができるような課題を提示していくことが次年度の課題である。</p>
<p>授業科目名【相談援助演習Ⅲ・相談援助演習Ⅳ・相談援助演習Ⅴ】</p> <p>本演習では、ロールプレイや高齢者に関する事例を用いることにより、相談援助専門職の役割や必要な基礎的な技術および知識等に関して、学生が体験的に学ぶことができるよう工夫した。また、グループディスカッションやプレゼンテーションを行う機会を設定し、ディスカッションやプレゼンテーションについて継続的に学べるようにした。ワークシートや振り返りシートの確認を行い、学生の理解状況を把握するよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】</p> <p>本講義では、高齢者施設での相談援助実習を予定している学生を担当した。調べ学習やグループワークを用いることにより、相談援助実習指導の意義・目的、高齢者に関する福祉的課題等について自ら考えることが出来るよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】</p> <p>本講義では、高齢者施設での相談援助実習を予定している学生を担当した。実習前の指導では、調べ学習を行い、実習施設について理解出来るようにした。また、実習後の指導では、個別面談を行い、学生の課題や達成した目標などについて学生自身が整理できるようにした。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <p>専門研究Ⅰでは、各学生が関心をもっている福祉課題について、調べ学習を行った。学生が調べた文献について、プレゼンテーションし、その内容について学生同士でディスカッションを行った。また、高齢者施設の見学を希望した学生と一緒に高齢者施設を見学した。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p> <p>専門研究Ⅱでは、各学生が興味のある課題を設定し、文献研究を行った。課題設定や研究方法について適宜助言を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会学会員		2000年5月～現在に至る
日本老年行動科学学会学会員		2000年6月～現在に至る
日本行動分析学会学会員		2001年4月～現在に至る
日本地域福祉学会学会員		2002年4月～現在に至る
日本認知症ケア学会学会員		2002年7月～現在に至る
日本福祉心理学会学会員		2004年10月～現在に至る

--	--	--

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 認知症高齢者を対象としたボランティア活動の課題と支援体制についての検討	共	2015年4月	Asian Journal of Human Services, Vol.8	① ボランティアを対象にアンケート調査を実施し、ボランティアが抱える問題や活動を継続するために必要な支援内容について明らかにした。さらに、認知症高齢者を対象としたボランティア活動を行うための課題や支援体制について検討した。 ② 共著者名 納戸美佐子, 野瀬真由美, 小松智子, 井上忠俊, 上城憲司, 中村貴志 ③ (p177-188)
(翻訳)				
(学会発表) グループホーム職員の就労継続に影響を与える要因	共	2015年10月	第13回日本福祉心理学会年次大会 (於 東京福祉大学王子キャンパス)	① 認知症高齢者グループホームにおいて認知症高齢者のケアに関わる職員の仕事・職場環境に関する満足度および就労継続に必要な要件を明らかにし、職員が継続して勤務するために必要な支援体制について検討した。 ② 共同発表者名 納戸美佐子, 中村貴志

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				③ 第13回日本福祉心理学会年次大会プログラム・抄録集(p47) 教育研究業績 総数 (2016年2月4日現在) 学术论文 24 (内訳 単1, 共23) 学会発表 15 (内訳 単1, 共14)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
軽度認知機能障害高齢者の地域活動支援に有効な歩行機能の評価法の開発	日本学術振興会	(○中村貴志), <u>納戸美佐子</u> , (鈴木明宏), (上城憲司)	650,000

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
戸畑区地域ケア研究会 認知症多職種協働研修(田川郡福智町)	運営委員 講師	平成27年4月～現在に至る 平成28年1月22日

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

後援会学校委員 2009年4月1日～現在に至る
就職委員会 2014年4月1日～現在に至る

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	嶋村 美由紀	職名	講師	学位	修士(社会福祉学) 日本社会事業大学大学院 1998年
----	--------	----	----	----	-----------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
精神保健福祉	精神保健福祉士 ソーシャルワーク

研究課題
精神科病院における精神保健福祉士(精神科ソーシャルワーカー)の役割について考察する。 また、精神障害者と家族との関係と精神保健福祉士の関わり(質の向上)について考察する。 当事者や家族へのアプローチ方法と、その支援について整理する。 障害者の障害受容について考察する。

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉に関する制度とサービス ・精神保健福祉相談援助の基盤(専門) ・精神保健福祉援助演習Ⅱ・Ⅲ ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ ・社会福祉概説(栄養学科) ・精神障害者の生活支援システム ・相談援助演習Ⅰ ・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 精神障害者の生活支援システム 】</p> <p>精神保健福祉士国家試験科目であるため、指定教科書以外のテキストからも抜粋しながら毎回講義のレジュメを作成し、受講生の理解を深めるよう努めた。机上の空論で終わらないよう、できるだけ受講生に現実の事例や制度、政策との結びつきを具体的に示し、ビデオ等も使いながら、興味がわくような講義内容になるよう努めた。講義の最後には振り返りのコメント票を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。</p>
<p>授業科目名【 精神保健福祉援助演習Ⅲ】</p> <p>精神保健福祉士国家資格受験資格取得のためのまとめを行う演習であるため、実習での体験を共有し、各自で考える力が備わるよう考察を促した。少人数の演習であるため、学生同士の意見交換や報告・発表等を行い、自律度を高めていけるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 精神保健福祉援助演習Ⅱ 】</p> <p>精神保健福祉士国家資格受験資格取得のための演習であるため、精神科への理解やソーシャルワークの視点などを各自で考える力が備わるよう調べたり、議論をしたり、ロールプレイをしたりしながら考察が深まるように促した。少人数の演習であるため、学生同士の意見交換や報告・発表等を行い、自律度を高めて精神保健福祉援助実習への導入とふりかえりをした。</p>
<p>授業科目名【 精神保健福祉に関する制度とサービス 】</p> <p>精神科や精神障害者に関しての興味関心が広がるように努め、学生の将来について考えることができるよう情報提供を行った。1・2限連続の講義だったので、単調にならないように、視覚教材を用いたり、双方向のやりとりを行ったりしながら、学生が眠くならないように工夫した。講義の最後には振り返りのコメント票を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。重点項目や学生の理解が不十分な制度については、複数回説明して、事例を用いながら学生自身の言葉や方法で理解が進むようにした。</p>

<p>授業科目名【 精神保健福祉相談援助の基盤（専門） 】</p> <p>精神保健福祉士国家試験科目であるため、指定教科書以外のテキストからも抜粋しながら毎回講義のレジュームを作成し、受講生の理解を深めるよう努めた。机上の空論で終わらないよう、できるだけ受講生に現実の事例や当事者の様子等を具体的に示し、ビデオ等も使いながら興味がわくような講義内容になるよう努めた。講義の最後には振り返りのコメント票を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅰ 】</p> <p>福祉の領域や、ソーシャルワーカーの役割・視点等について、具体的事例を提示した上で、学生各自が考えて調べたり、他のメンバーの意見を聞いたりする中で、各々の考え方や他者との関わり方などに気づき、また、再発見することができるように関わった。</p>
<p>授業科目名【 精神保健福祉援助実習Ⅱ 】</p> <p>精神保健福祉援助実習Ⅱに向けての実習指導を行った。障害福祉サービス事業所等社会資源について、精神疾患・精神障害者について、精神保健福祉士の役割・視点について、学生の理解を深めるよう努めた。障害者福祉サービス事業所等地域の社会資源での実習に備えて必要な知識・技術及び実習生としての心構えなど、一人一人の学生の準備が整うよう配慮し、事前指導（個別）を行った。</p>
<p>授業科目名【 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ 】</p> <p>精神保健福祉援助実習Ⅰに向けての実習指導を行った。社会資源について、精神疾患・精神障害者について、精神保健福祉士の役割・視点について、学生の理解を深めるよう努めた。精神科医療機関での実習に備えて必要な知識・技術及び実習生としての心構えなど、一人一人の学生の準備が整うよう配慮し、事前指導（個別）を行った。</p>
<p>授業科目名【 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 】</p> <p>精神保健福祉援助実習Ⅱに向けての実習指導を行った。社会資源について、精神疾患・精神障害者について、精神保健福祉士の役割・視点について、さらに地域で生活している精神障害者の現状や思いについて学生の理解を深めるよう努めた。地域での実習に備えて必要な知識・技術及び実習生としての心構えなど、一人一人の学生の準備が整うよう配慮し、事前指導（個別）を行った。</p>
<p>授業科目名【 社会福祉概説 】</p> <p>栄養学科の学生に向けての講義である為、社会福祉に興味関心がわくような、時事問題や、身近な内容を導入し、福祉への理解を促すことに努めた。講義の最後には、コメント票を配布し、理解度や質問等を書いてもらい、次回講義時にフィードバックを行った。ビデオを使って視覚的なアプローチも行い、学生の視野を広げるよう努めた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会		1998年
日本精神衛生会		2004年
日本精神保健福祉学会		2012年
特別ニーズ教育学会		2013年

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 新・精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I 第2版 第8章第1節	共	2015年2月	中央法規	第8章 相談援助活動のための面接技術 第1節 面接を効果的に行う方法 1.面接の種類 2.面接の原則
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(講座) 精神保健福祉サポーター養成講座		2015年10月	北九州市立精神保健福祉センター	「精神障がい者を地域で支える」
(研修会) 到津地区民生委員定例会		2015年12月	到津市民センター会議室	「精神障がい者と地域生活について」

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
精神障害者等社会復帰促進モデル活動推進事業	更生保護法人 日本更生保護協会	○今村浩司 平田健太郎 嶋村美由紀 他	150万円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市精神医療審査会	保健福祉委員	2004年4月～現在
あかつき会（北九州精神障害者家族会）	評議委員	2005年10月～現在
北九州市自殺対策連絡会議	委員	2010年11月1日～現在
発達障害児・者家族等支援事業審査会	委員	2014年4月～現在

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教務委員 福祉学科キャンパスハラスメント相談員

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	文屋 典子	職名	講師	学位	修士(社会学)
----	-------	----	----	----	---------

研究分野	研究内容のキーワード
ソーシャルワーク方法論	ソーシャルワーク、家族支援

研究課題
ファミリーソーシャルワーク実践の枠組みと方法論

担当授業科目
相談援助の理論と方法Ⅱ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習 相談援助演習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅲ 保育の表現技術Ⅰ 保育の表現技術Ⅱ 保育実践演習 家庭支援論 保育相談支援 専門研究Ⅰ 専門研究Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 相談援助の理論と方法Ⅱ 】 現代の複雑多様化する福祉課題にアプローチする手法として、個人の状況をアセスメントしつつ、地域の福祉課題にも着目していくこと、ミクロ・メゾ・マクロの多角的な視点をもちつつ、包括的な支援の方法について理解することに重点をおいた。ソーシャルワークの多様なアプローチについては、それぞれのアプローチが構築された時代背景や基盤理論を踏まえてそれぞれの特徴を理解し、異なる視座を包含するジェネラリストソーシャルワークについて理解することに重点をおいた。学生の理解度の把握、誤りの修正のために、毎回授業内容の要約の提出を課し、添削修正して返却、補足説明を行った。
授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】 実習前には個別指導を各学生につき複数回行い、各自の実習課題を明確にした。前期実習を終えた後、事前学習不足だった点、実習中に疑問に感じたこと、課題として残ったことを個別指導とグループでの話し合いで共有し、後期実習開始までに各自が取り組むべきことを整理し計画的に後期実習準備に取り組むよう指導した。実習後の振り返りでは実習での体験と学びを共有し、報告会での発表準備にグループで取り組むことによって、各自の体験や学びを説明するために学生同士で様々な意見を交わし、相手の考えを汲みとろうとし、お互いに言葉を選択したり確認したりしつつ考えをまとめていく姿が多く見られた。

授業科目名【 保育相談支援 】

子どもと家庭をめぐる様々な状況に問題意識をもち、多角的に状況を捉えたり、支援方法について考察すること、答えは一つではなく、グループの話し合いにおいて他者の意見に安易に同調せず、自分と異なる意見も受け入れつつ話し合いを進めること、最終的に自分自身の意見を明確にもつこと、表明することができるようになることを重視した。

授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】

事例学習やロールプレイを通して、困難を抱えた状況にある人をできる限り具体的にイメージし、どうかかわっていくかを実践的に学ぶことに重点をおいた。援助関係形成のためのコミュニケーション技法を実際に用いること、情報収集、仮説設定、言語的やりとりが実際にはどのように行われ、見立てのためにほかの授業で学んだ知識がどのように使われるのかをロールプレイを通して実際に学べるよう、ロールプレイ、解説、グループ討議を用いて授業をすすめた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会		1992年10月～ 現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001年3月～
日本ブリーフサイコセラピー学会		1991年11月～
日本家族研究・家族療法学会		1998年11月～
日本小児保健学会		1997年5月～
日本特殊教育学会		1999年8月～
日本保育学会		2011年10月～

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
なし				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
臨床における言葉の運用から見た医療保育と 病弱教育	西南女学院大 学保健福祉学 研究所	○谷川弘治 文屋典子 (豊永絵里)	

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個 人 研 究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
北九州市地域福祉振興協会	理事	2011年8月～2015年6月13日
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議 地域包括支援分科会	構成員	2011年4月1日～2014年3月31日
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議 地域包括支援に関する会議	構成員	2014年4月1日～2017年3月31日
北九州市指定管理者の評価に関する検討会議	構成員	2015年7月～8月
社会福祉法人 喜久茂会	監事	2015年4月1日～2017年3月31日
社会福祉士養成校協会九州ブロック	副運営委員長校(担当)	2015年4月1日～2017年3月31日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

学生募集委員 教育予算配分委員 (委員長) 吹奏楽部顧問

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 金谷 めぐみ	職名:特別契約教員Ⅱ種	学位 修士(芸術学)(日本大学2003年)
-----------	-------------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
教会音楽、歌唱法、音楽教育	キリスト教・音楽・子ども・教育

研究課題
キリシタン時代の日本の音楽と西洋音楽について文献的考察をする。

担当授業科目
保育の表現技術Ⅰ(前期)(福祉学科) 保育の表現技術Ⅱ(後期)(福祉学科) 西洋の音楽と文化(前期)(人文学部 英語学科・観光文化学科) 西洋の音楽と文化(後期)(保健福祉学部 看護学科・福祉学科) 保育実践演習(通年)(福祉学科) 基礎演習(通年)(福祉学科) 保育実習指導Ⅰ(通年)(福祉学科) 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ(通年)(福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【保育の表現技術Ⅰ】</p> <p>音楽理論では、音楽的基礎知識の必要性を理解し、保育場面に適した演奏ができるよう、実践例を挙げて説明した。学生の理解度を確認するために、毎時間、練習問題を独自に作成し、理解できていない箇所を確認し、再度説明するよう心掛けた。</p> <p>歌唱およびピアノの実技指導では、人前で歌うことに慣れていない学生が多かったため、身体運動を伴う呼吸法と発声法を用いて身体の緊張を取ってリラックスして歌うなどの工夫をした。</p>
<p>授業科目名【保育の表現技術Ⅱ】</p> <p>前期にひき続き、歌唱表現では、子どもの歌のレパートリーを増やし、自ら歌詞の内容に合った歌声と身振りを考えて、人前で発表するなどの工夫を行った。また、弾き歌いでは、学生の伴奏に合わせて全員が歌うなどの時間を設け、保育現場を想定した演奏をさせることで伴奏の技術向上を図った。</p>
<p>授業科目名【西洋の音楽と文化】</p> <p>西洋音楽文化の歴史的概観については、キリスト教音楽について解説した。その際、音源やパワーポイントによる映像を用いて、様々な視点から理解できるよう工夫した。また、西洋文化への興味を深めるために音楽と西洋絵画を関連付けて解説した。さらに、学生がグローバルな視点から自分自身と音楽文化について考える機会をもてるよう、身近にある日本の音楽と西洋音楽との関係について解説した。授業だけでなく学内チャペルや教会への関心を高めるため、学生がリクエストした讃美歌について解説し、全員で歌うなどの工夫をした。</p>

授業科目名【保育実践演習】

音楽劇の創作と発表を行った。授業開始時にグループにおける役割について話し合い、全員の役割を各自把握するなどの工夫をした。発表後も振り返りの時間を設け、舞台制作において協働することについての気づきや反省点を発表し、全員で共有するなどの工夫をした。劇の発表においては、学生が自ら場面に合った演技や照明等を考え、意欲的に表現することを楽しみ、練習を積み重ね、質の高い発表をめざした。また、舞台における危険性やその対処法、舞台マナー、舞台上での演技方、声の出し方などを自己体験や経験談を交えて説明するなどの工夫をした。

授業科目名【基礎演習】

図書館の文献検索講座を設け、図書館への積極的な利用を促した。また4回の演習を通して、レポート作成手順について説明した。グループで日常生活における身近な疑問や課題について話し合い、テーマを設定し、各自が文献を探し、レポートの形式を意識して書く。そして発表資料を作成し、発表するという課題を実施した。作業途中で課題や疑問点を全員で共有し、話し合う時間を設け、より良い方法や解決法を提案するなどの工夫をした。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本保育学会 日本声楽発声学会 日本演奏連盟		2012年10月～現在に至る 2013年～現在に至る 2009年12月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 総説「キリシタン期の日本の音楽と西洋音楽の出会い」	共著	2016年3月	西南女学院大学紀要 Vol.20.	① キリシタン期の日本の音楽とイエズス会によってもたらされた西洋音楽（ローマ・カトリック音楽）について概説し、キリシタン期の西洋人と日本人の音楽観について考察し、禁教令により排除された西洋音楽の影響について文献的考察を行った。 ② 共著者名 植田浩司 ③ (p.33～p.41)

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
苅田キリスト教会 苅田町四季の音楽会実行委員会 国立音楽大学同調会福岡県北九州支部 通所介護施設「和楽庵」音楽講師 文化庁事業・福岡県立城井小学校 「子どものための芸術鑑賞」演奏 読売交響楽団トップメンバーとの共演 (北九州ソレイユホールにて) 苅田町中央公民館スプリングコンサート (苅田町役場生涯学習課)	奏楽者 (伴奏) 委員 役員 講師 講師 演奏者 (独唱) 企画・演奏者 (独唱)	2006年～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2011年4月～現在に至る 2011年4月～現在に至る 2015年12月18日 2016年1月10日 2016年2月27日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

入学式の讃美指導

短期大学部および大学のチャペルにおける讃美指導 (短大：月初め、大学：毎週木曜)

西南女学院中学・高等学校讃美歌コンクール審査員 (2015年6月9日)

短期大学部チャペル奨励 (2015年6月10日)

大学チャペル奨励 (2015年6月11日)

大学クリスマス礼拝の会衆讃美指揮、学生聖歌隊指導、独唱 (2015年12月17日)

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 山本 佳代子	職名 助教	学位 学士(体育学) 福岡大学 1996年
-----------	-------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
障害児者の余暇とレクリエーション	障害児・者 余暇活動 放課後 放課後等デイサービス

研究課題
北九州市における放課後等デイサービス事業所の実態調査 放課後等デイサービスを利用する保護者の意識調査

担当授業科目
基礎実習 相談援助演習Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【基礎実習】</p> <p>はじめての現場実習となるため、一人ひとりへの指導が行き届くよう教員3名で学生を分担し、少人数でグループワークや個別指導を行った。事前学習では、実習先への理解を深められるよう課題をだし、また先輩の話や聞く場を設け、それぞれが実習への具体的なイメージを持つことができ、また不安を取りのぞけるように努めた。実習後の個別指導では、日誌をとおり実習中に解決できなかった課題等について共に振りかえる時間を設け、次の実習へつながるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】</p> <p>DVDの視聴や、先輩の体験またはアドバイスを聞く機会を設け、実習に対する具体的なイメージを抱けるよう配慮した。また実習先の領域に関する論文や資料に目を通し、グループで学習を深め、全体でそれらを共有できるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】</p> <p>実習に関する書類作成等を個別指導し、それぞれが明確な課題を持って実習に臨むことができるよう指導した。実習中の巡回指導や実習後の振り返りでは、それぞれの体験から学びや課題、疑問点などを聴く時間を設け、またそれらを全体でも共有することで、体験できなかったことも知識としてひとり一人が吸収できるよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【相談援助演習Ⅰ】</p> <p>毎回振り返りの時間をつくり小レポートの提出を求め、一人ひとりの理解度を確認した。また、そのレポートをもとに次の回に全体で意見を共有し、他者の意見や新しい価値観へ出会えるよう配慮した。また、ボランティア活動の時間を作り、一人一回活動へ参加できるよう調整し、実際の体験を通しての学びや気づきが得られるよう工夫した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本レジャー・レクリエーション学会 九州レジャー・レクリエーション学会		2004～現在に至る 2013～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(その他) 北九州市における放課後等デイサービス事業所に関するアンケート調査	単著	Vol.20.2016	西南女学院大学紀要	北九州市で放課後等デイサービス事業を実施している事業所の実態と課題を把握するために、アンケート調査を実施。その後、得られたデータの一部を分析した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
障害のある子どもへの余暇活動支援	子どもゆめ基金	○山本 佳代子	146000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
特定非営利活動法人 日本障害者スポーツ指導者協議会 福岡支部	監査	2009.4～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

【実習指導室・ボランティア相談室】

外部の団体よりボランティアの依頼を受け、随時学生に案内・掲示しボランティア活動を推奨した。また 4 月オリエンテーション時、主に新入学生を対象としボランティア活動説明会を開催した。説明会では、受け入れ団体の方の話や先輩の体験談を聞く機会を設け、受講生が活動を身近に感じ、意欲的に取り組んでいけるよう調整した。

【チャレンジ】

福祉学科の学生と共に、障害のある子どもときょうだい児を対象としたスポーツ・レクリエーション活動「チャレンジ」を開催し、子ども達の余暇活動支援を行っている。活動では、プログラムの企画・運営を学生と共に計画・実践し、それらを通し学生が具体的に子ども達への関わり方を学ぶことができるよう支援している。

【聴覚障害学生支援】

聴覚障害学生の講義中の情報保障の為、ノートテイカーの確保、スケジュール調整、新メンバーへの研修等を行っている。

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 通山 久仁子	職名 助教	学位 修士(人間関係学)(立教大学 2003年)
-----------	-------	--------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
障害者家族福祉、地域福祉	障害者家族、親当事者、主体形成、発達障害、地域福祉活動

研究課題
「発達障害のある人の親」が行う、発達障害のある人や家族を支援する地域福祉活動に着目し、親としての当事者性(「親当事者」性)を基盤にした自発的な実践活動の生成・展開過程とその活動の意義、またこれらの活動を通じた主体としての「親当事者」への変容過程について明らかにする。

担当授業科目
相談援助実習指導Ⅰ(通年) 相談援助実習指導Ⅱ(通年) 相談援助演習Ⅰ(後期) 基礎実習(通年) 社会福祉特講Ⅱ(集中)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 相談援助実習指導Ⅰ 】</p> <p>事前指導は実習への動機づけや、福祉実践に臨む視点形成に焦点を置いた講義を展開した。講義にできるだけワークなどを取り入れ、学生が自身で考える機会を増やすように工夫した。今年度は新たに車いす・白杖体験を1コマと、基本的知識の習熟度試験を1コマ取り入れ、基本的な技術と知識を学ぶ機会を設けて、事前学習の強化を図った。個別対応の際には、それぞれの学生の特徴や傾向をできるだけ把握し、3年次の実習指導につなげられるよう心がけた</p>
<p>授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】</p> <p>実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、考察するための基礎力をつけることに焦点化した。事後学習では、それぞれの体験のプレゼンテーションの機会を設け、さらにそれをグループで共有することを通して、学生同士の対話から実習体験を意味づけ、理解を深められるような機会を多く設けるようにした。</p> <p>また現在実習施設と共同で実習プログラムの検討を行っており、今後標準化を目指していく予定である。</p>
<p>授業科目名【 相談援助演習Ⅰ 】</p> <p>グループワークを通して他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会をできるだけ設けるようにした。学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。また学生自身が設定した問題意識に基づいてプレゼンテーションを行う機会を設けた。福祉的課題・問題の理解については、ホームレス支援の現場を体験したり、今年度はヒューマン・ライブラリーを実施し、セルフヘルプ・グループに属する当事者から直接話を聞く時間を設けたりした。そして実践を通じてコミュニケーションの取り方を学んだり、当事者の思いを理解したりする機会につなげた。</p>

授業科目名【 基礎実習 】

実習施設に対して、基礎実習導入の趣旨、目的などの事前説明、また実習後の情報交換、および情報共有に努め、学生が希望する施設で円滑に実習が行えるよう、調整に努めた。また事後学習では、幅広い分野での体験を共有し、領域による差異とともに、共通する基盤について理解を深められるよう促した。加えて今年度は個別指導の際に、日誌・レポートを用い、日誌・レポートの内容をフィードバックするかたちで学びを深められるように試みた。

授業科目名【 社会福祉特講Ⅱ 】

本科目は6人の教員によるオムニバス形式の講義である。4年次の国家試験対策として位置づけられており、就労支援サービス論を担当した。講義では、本試験で出題が予想される内容や学生の理解が不十分な内容を中心に、問題演習を取り入れながら実施した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会 日本発達障害学会 障害学会		2004年～現在に至る 2005年～現在に至る 2009年～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 高校生のための社会福祉	共	2016	誠信書房	①社会福祉を高校生対象にわかりやすく解説する書籍である。福祉について考える、社会福祉について知る、社会福祉を担う人たちの3部構成となっている。 ②編者 三本松政之、坂田周一 共著者 三本松政之、坂田周一、通山久仁子、他8名 ③担当部分 第6章 しょうがいのある人と生きること (p.84-96) ④B6版

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
「発達障害のある人の親」による地域福祉活動の生成・展開過程に関する研究	日本学術振興会	1,950,000	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
特定非営利活動法人 nest 北九州市障害程度区分認定審査会	理事 委員	2008年6月～現在に至る 2013年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

【社会福祉士国家試験対策講習会】

オリエンテーション時に国家試験に向かう心構えについて丁寧に説明し、1年間モチベーションを継続して保っていくことの大切さを伝えた。今年度はこれまでの国家試験対策に加え、前期にDVD学習や、年間学習計画による指導を取り入れ、継続して大学に来られるような環境をつくった。また後期には過去問3年分の問題演習を行い、互いに競争心を持って学習に臨めるような環境をつくった。

【実習指導室・ボランティア相談室】

ボランティア相談室として、ボランティア活動を学生が円滑に行えるよう、ボランティア先との連絡調整、学生への情報提供に努めた。またボランティア活動を活性化するため、4月のオリエンテーション時にボランティア入門の講座を1コマ設け、大学での支援体制、実際にボランティア活動をしている先輩や、ボランティアの受け入れ団体の講師を招き、ボランティア活動を具体的に紹介する機会を設けた。

【障害学生支援】

聴覚障害学生支援として、障害学生および支援学生のサポートを行った。導入前には支援学生を対象とした養成講座を開催し、支援学生が活動にスムーズに入っていけるよう支援した。導入後は障害学生が主体的な学びの姿勢をつくっていけるよう助言した。支援学生に対してはノートテイクの方法や困難などの相談を受け、懇談会を開催して情報を集約し、皆で共有できるようにした。

荣 养 学 科

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	八木 康夫	職名	教授	学位	博士(医学) (産業医科大学 2003年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
運動生理学 生理学 生理心理学	exercise, recognition, information proceeding, event related potentials, P300, reaction time, elderly, supplements

研究課題
高次脳機能に及ぼす運動の効果を、事象関連電位 P300 及び反応時間 (RT) を用いて検討する。運動の効果について、一過性の効果、慢性効果、加齢効果、脳血流への効果を検討している。また、高次脳機能に及ぼす歯科咬合の効果についても検討している。その他、運動パフォーマンスに及ぼすサプリメントが代謝経路に及ぼす効果、高次脳機能に及ぼす効果についても検討している。

担当授業科目
健康科学 (栄養学科、1年前期) 健康科学実習Ⅰ (栄養学科、1年前期) 健康科学実習Ⅱ (栄養学科、1年後期) 運動生理学 (栄養学科、4年前期) 健康体力評価論 (栄養学科、4年後期) 卒業ゼミ (栄養学科、4年通年) 卒業研究 (栄養学科、4年通年) 健康科学 (英語学科、観光文化学科、1年前期) 健康科学実習Ⅰ (英語学科、観光文化学科、1年前期) 健康科学実習Ⅱ (英語学科、観光文化学科、1年後期) 健康科学実習Ⅰ (看護学科、1年前期) 健康科学実習Ⅱ (看護学科、1年後期) 健康科学実習Ⅰ (福祉学科、1年前期) 健康科学実習Ⅱ (福祉学科、1年後期) スポーツ科学実技 (短期大学保育科、1年通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 健康科学 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PCを用いてプレゼンテーション・ソフトウェアによる資料提示をおこない、必要に応じて資料を配布した。 2. 最新のトピックスの引用、および、最新の資料の提供に努めた。 3. 単元毎に小テストを行い、1週間内に採点結果を各学生に提示し、学習意欲を誘導した。 <p>本講における小テストの導入は、受講態度は積極的な参加態度に変容したばかりか、質問をする学生が回を追う毎に急増し、それはクラス全体の積極性を生みだし、授業内容の理解度はこれまでになく明確に向上したと思われる。</p>
<p>授業科目名【 健康科学実習Ⅰ 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。 2. 3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業

外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。

3. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
4. 1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
5. 健康科学実習Ⅰでは、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。その結果、受講者は積極的行動へ変容したと思われる。

授業科目名【 健康科学実習Ⅱ 】

1. 受講者は、夏休み明け、後期末に体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係を把握できるようにした。
2. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させることによって自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
3. 1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
4. Ⅱでは職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。

授業科目名【 運動生理学 】

1. パソコンを用いて視聴覚機器による資料提示および配布資料を毎時間行い、最新の資料の提供に努めた。
2. 単元毎に小テストを行い、翌日採点結果を各学生に提示し、学習意欲を誘導するよう努めた。
3. 単元毎に授業ノートを提出させ、添削し、授業に対する緊張感と聴講する集中力を高めるよう努めた。

授業科目名【 健康体力評価論 】

1. 運動生理学の基礎的知識と基礎的実験測定の定着を前提とした、仮説の立て方、実験の方法、結果の解析方法を演習方式で講義した。
2. 数回の実験測定を実際に行い、結果の分析、統計処理を学生の前で行い、仮説の検証の実例を目の前で行い、全データ、統計処理結果を手渡し、レポートを作成させ、測定および解析の実体験から検証方法の基本的考え方を定着させるようにした。
3. 受講者は、自己のデータ及び受講者のデータから論文形式でレポートを作成し、書くレポートごとに個別的指導を行い、論理的考察方法の道筋を会得できるよう努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本運動生理学会	常任理事 (2008.7~2015.3)	1992.4
日本体力医学会	常任理事 (2015.4~至現在)	1985.4
日本生理学会		1991.4
日本臨床神経生理学会		1997.4
西日本生理学会		1990.4
九州体育学会		1988.4

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
(その他) 平成27年度 福岡県バスケットボール リーグ戦 準優勝	共	2015. 4.	福岡県大学バスケット ボール連盟	福岡県総合選手権の出場権を獲得した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第20回 全九州大学春季バスケット ボール選手権大会 五位	共	2015. 4. 26-5. 11	九州大学バスケットボ ール連盟	善戦したが準々決勝で敗れた。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
男子第65回女子64回 西日本学生バスケットボ ール選手権大会 三回戦進出	共	2015. 6. 1-6. 24	関西学生バスケットボ ール連盟主管 (大阪)	三回戦で立命館大学に敗した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第65回 九州地区大学体育大会 優勝 (3年連続5回目)	共	2015. 7. 5-7	九州大学体育連合 (福岡地区)	戦後から続く伝統ある九州イン カレは、九州地区の大学の祭典で ある。本大会において3年連続5 回目の優勝を飾った。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第22回 九州大学バスケットボー ルリーグ戦 4位	共	2015. 9-10	九州大学バスケットボ ール連盟 (九州各地)	得失点差で4位となり、インカレ 出場を逃した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
平成27年度 福岡県総合バスケットボ ール選手権大会 4位	共	2015. 11. 8-9	福岡県バスケットボー ル協会 (福岡市)	全業種が参加する本大会で4 位であった。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
第51回 三地区大学バスケットボール選手権大会 Aチーム優勝	共	2015. 12. 5-7	九州、中国、四国大学バスケットボール連盟 主管：中国大学バスケットボール連盟 (広島)	参加大学約50大学の中で優勝した。 顧問：八木康夫 監督：木村友彦

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
九州大学バスケットボール連盟	常任理事	2005.4~2015.3
北九州市バスケットボール協会	理事	2003.4~
日本バスケットボール協会	JBA 公認 C 級コーチ	~2016.3
日本体育協会	バスケットボール指導員	~2017.9.30
公開講座シニアサマーカレッジ	講師	~2015.8
福岡共同・教員免許状更新講習	講師	2015.8.18

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
人事委員：全学科人事審査及び昇格審査等 学生委員：委員会活動、栄養学科の新入生研修会の計画と総指揮、栄養学科オリエンテーション・記念行事・卒業式栄養学科オリエンテーションの計画・進行・司会等 総合人間科学小委員会委員

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	南里 宏樹	職名	教授	学位	医学博士
----	-------	----	----	----	------

研究分野	研究内容のキーワード
栄養代謝学 生化学 臨床栄養学 細胞生物学	活性酸素 酸化ストレス 抗酸化防御機構 糖毒性 糖化タンパク質 血管内皮細胞

研究課題
栄養が健康に及ぼす影響を、おもに活性酸素による酸化ストレスと高血糖による糖毒性に注目して、生化学・細胞生物学的手法を用いて解析する。特に、高血糖による血管内皮細胞の機能障害を、活性酸素に対する抗酸化防御機能との関連において検討する。

担当授業科目
病理学(後期) 基礎栄養学Ⅰ(前期) 基礎栄養学Ⅱ(後期) 臨床栄養学実習Ⅰ(前期) 管理栄養士演習Ⅱ(前期) 管理栄養士演習Ⅶ(後期) 運動・環境と栄養(後期) 健康と栄養(後期)(看護学科) 栄養学概論(前期) 卒業ゼミ(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 病理学 】</p> <p>病理学は、難解な医学専門用語が多く、栄養学科学生の苦手とする科目であるため、できるだけ具体的な図解や例を挙げるようにした。これまでの授業評価では、「授業進行が速い」、「重要ポイントがわからない」などの感想多いので、重要事項はなるべくゆっくり、繰り返し強調するように留意した。講義で使用したスライドは、すべて配布資料として配布した。また、例年通り、管理栄養士国家試験の過去問(2000年～2015年)の解説集、病理学重要項目の練習問題を時期を早めて配布したが、勉強しやすいと好評であった。</p>
<p>授業科目名【 基礎栄養学ⅠおよびⅡ 】</p> <p>基礎栄養学は、化学を苦手とする学生が多く、分かりにくいという感想が多いので、毎回、講義の始めに前回の講義内容を簡単に復習して、講義全体のつながりが分かるように留意した。また、重要事項は繰り返し強調するように心がけたが、それでもなお、分かりにくいという感想があるので、別の観点からの説明などを加え、さらにゆっくりと説明するようにしたい。講義で使用したスライドは、すべて印刷して資料として配布した。また、本年度も定期試験前に講義内容を復習するための練習問題、過去の国家試験問題(2000年～2015年)とその解説集、および基礎栄養学重要項目の練習問題を時期を早めて配布した。</p>
<p>授業科目名【 臨床栄養学実習Ⅰ 】</p> <p>糖質代謝、脂質代謝、たんぱく質・アミノ酸代謝、エネルギー代謝、貧血に関連する実験・実習を担当した。臨床検査データの測定、数値の解釈について、各種疾患の病態と関連づけて具体的に理解できるように留意した。また、実習内容の栄養学および医学的意義について考えさせるために、ポイントを絞った課題を出し、レポートを提出させた。</p>

<p>授業科目名【 管理栄養士演習ⅡおよびⅦ 】</p> <p>2000年～2015年の基礎栄養学、病理学に関する管理栄養士国家試験の全問題について、各分野それぞれ項目別に分類し、項目ごとに16年分の問題をまとめて解くやり方で演習を実施した。その際、ただ問題の正答を知るだけでなく、問題に関連する周辺事項を含めて幅広く理解させるように留意した。また、全問題についての詳しい解説や重要事項をまとめたプリントを配布した。演習および自主講義として、前期12回、後期15回実施した。また、夏休みの集中ゼミを1回、国試前の直前対策を4回実施した。</p>
<p>授業科目名【 栄養学概論 】</p> <p>栄養学科全教員のオムニバス方式による1年生向けの講義・体験実習である。今年度の体験学習では、新1年生の管理栄養士の仕事に対する理解を深め、管理栄養士としての自覚を高めることを目的として、実社会で管理栄養士として活躍している本学の卒業生および在学生の講演によるセミナーを開催した。各教員は10人前後の学生グループを受け持って、体験学習のレポートを評価した。</p>
<p>授業科目名【 運動・環境と栄養 】</p> <p>三人の教員が分担する栄養学科3年生のための講義で、わたしは「環境と栄養」を担当した。環境に関連する分野は、運動に比べて学生の関心はやや低かったが、ストレス、体内リズムなど、「栄養」を別の観点から考えることは、学生の興味を惹くようであった。</p>
<p>授業科目名【 健康と栄養（看護学科） 】</p> <p>三人の教員が分担する看護学科1年生のための健康と栄養に関する講義である。わたしは「基礎栄養学」を担当した。限られた時間で基礎栄養の全容を講義するのは難しいため、基礎的な重要事項を中心に授業をしたが、それでもなお、5回の授業で終了するには時間的に厳しかった。今後、さらに、基本的事項に焦点を絞った講義にする必要がある。</p>
<p>授業科目名【卒業ゼミ】</p> <p>基礎栄養・応用栄養・臨床栄養に関連するテーマを自分で選択し、それについて主に文献的に調査・検討し、最後にレポート(パワーポイントによる発表とワードによる論文)にまとめるという形式で実施した。文献の集め方、発表の仕方、レポートの作成方法について指導した。毎年、テーマの選択は、自分の興味があるものを選ぶようにしているので、主体的な取り組みができていると思う。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本生化学会 日本栄養・食糧学会 日本肥満学会 日本栄養改善学会 2015年第62回日本栄養改善学会 学術総会実行委員会	総務委員会・副委員長	1977年4月より現在に至る 2003年5月より現在に至る 2008年4月より現在に至る 2014年1月より現在に至る 2014年4月より現在に至る

2014年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2014年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 高血糖による一酸化窒素 産生阻害に対する終末糖 化産物形成抑制物質・抗 酸化物質の影響	共	2015. 9	第 62 回日本栄養改善 学会(於 福岡)	①高濃度のグルコースまたは低分子カルボニル化合物によって阻害された血管内皮由来培養細胞の一酸化窒素(NO)産生を指標として、終末糖化産物(AGEs)形成抑制物質および抗酸化物質の影響について検討した。 ②共同発表者名:南里宏樹 藤原宏美 佐藤千恵 渡邊文音 天本理恵 久保由紀子 ③栄養学雑誌73巻5号、p293

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
第2次北九州市食育推進計画の推進にかかわる意見交換会	構成委員	平成26年～平成28年

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

西南女学院評議員(2015年4月1日～2017年3月31日) 予算委員(2012年4月1日～2016年3月31日) キャンパス・ハラスメント防止・対策委員(委員長)(2014年4月1日～2016年3月31日) 西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部公開講座・周望舎シニアサマーカレッジ・講師(2015年7月31日) 教員免許更新講習・講師(2015年8月19日) 西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座・講師(2015年10月17日)

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	清末 達人	職名	教授	学位	理博・医博
----	-------	----	----	----	-------

研究分野	研究内容のキーワード
1. 心筋細胞イオンチャネルの電気生理学・薬理学 2. 消化管の生理学	electrophysiology, pharmacology, cardiac myocytes, sugar absorption, gastrointestinal tract

研究課題
1. パッチクランプ法を用いた、心筋細胞イオンチャネルの電気生理学的研究。および、実験データの数式化による心筋細胞活動電位のコンピューターシミュレーション。 2. コーヒーに含まれる各種生理活性物質がラット小腸における糖の消化・吸収に与える影響 3. 西南女学院大学栄養学科独自の栄養価計算ソフトの開発

担当授業科目
解剖生理学(前期) 応用生理学(後期) 運動・環境と栄養(後期) 解剖生理学実習(前期) 人体の構造と機能総合実習(後期) 生理学(後期)(福祉学科) 卒業ゼミ(通年) 管理栄養士演習Ⅱ(前期) 管理栄養士演習Ⅶ(後期) 生理学(前期)(短期大学部)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【解剖生理学】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校で生物を履修していない学生にも、人体の神秘について興味がわくような教材、資料等を提供するよう心がけた。 2. 「レニン・アンギオテンシン物語」「バゾプレシンくんの一日」と題した短編小説風のパンフレットを作って配布し、ホルモンによる血圧調節と体液量調節の仕組みについての理解の一助とした。 3. パワーポイントの配布資料をカラー印刷にして、印象を深めるようにした。 4. 出席カードに講義に対する意見・感想を書いてもらい、理解度の把握と次回の授業構成の参考とした。
<p>授業科目名【応用生理学】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌系に焦点をあて、①ホルモン名と分泌器官、②それぞれのホルモンの標的器官と生理作用に関する小テストを2回実施し、得点を期末の成績に反映させた。 2. 「消化管ホルモン3兄弟」という短編小説風のパンフレットを配布し、消化管ホルモンの役割についての理解が深まるよう工夫した。 3. パワーポイントの配布資料をカラー化した。 4. 出席カードに、講義についての感想と意見を書いてもらい、問題点を次の授業で改善するよう努めた。
<p>授業科目名【解剖生理学実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年生にとって前期で唯一の実習科目であることを考慮し、最初の実習項目を骨格のペーパークラフト模型の製作にあて、学生間のコミュニケーションが醸成されるよう工夫した。 2. 実験項目が、解剖生理学の講義の進行となるべく重なるように配慮し、実習と講義との相乗効果がでるよう工夫した。

<p>授業科目名【 生理学(福祉学科) 】</p> <p>1. スパイロメーター、心電計、指尖脈波計などを授業現場に持ち込んで使い方、原理などを提示し、呼吸器や循環器に関する生理学的検査法に対する興味を喚起するように努めた。</p> <p>2. 「脳」に関するビデオの鑑賞と感想文を書くことを通して、脳の働きと精神との関係についての理解を深まるように努めた。</p> <p>3. 出席カードに、その日の感想と意見を書いてもらい、次回の授業構成を考える上で参考とした。</p>
<p>授業科目名【 人体の構造と機能総合実習 】</p> <p>従来の担当実習項目である①ラットの解剖、②ラット腸管における糖吸収のメカニズム、③自転車エルゴメーターによる最大酸素摂取量 (VO2max) の推定に加えて、2014 年度より、④管理栄養士国家試験に頻出する上皮組織に関する問題に対処するため、顕微鏡によるヒト上皮組織の観察を新たに加え、上皮組織の種類と代表的な組織名についての解説を行うようにした。</p>
<p>授業科目名【 運動・環境と栄養 】</p> <p>1. 主に筋肉、骨、呼吸器、循環器について、安静時と比べて運動時の生理機能がどう変化するのかについて概説し、運動療法の意義の理解の一助となるように心掛けた。</p> <p>2. 毎回、管理栄養士国家試験問題などから、授業内容に関連性のある問題を選んで、練習問題として解く時間を設け、内容の理解が深まるように務めた。</p> <p>3. 出席カードに、その日の感想と意見を書いてもらい、次回の授業構成を考える上で参考とした。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本生理学会	評議員	昭和 54 年 4 月～現在に至る
日本循環器学会		昭和 55 年 3 月～現在に至る
日本心電学会	評議員	昭和 57 年 4 月～現在に至る
日本栄養・食糧学会		平成 18 年 1 月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 給食管理実習のための栄養価計算ソフトウェアの開発	共著	2015、3	西南女学院大学紀要 Vol 19	①栄養学科における調理実習や給食管理実習の現場で使用できる栄養価計算ソフトウェアを開発した。それぞれの料理について、「日本人の食事摂取基準 2010」に準拠した推定平均必要量、推奨量、目安量などの観点から採点した得点ランクを表示することができる。 ②共著者

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
大学連携事業としての地域密着型食育活動の展開 -2014年度事業概要ならびに成果報告-	共著	2016. 3	西南女学院大学紀要 Vol 20	<p>青木るみ子、石本祐子、境田靖子</p> <p>③共同研究につき本人分抽出不可能 (P119-P125)</p> <p>①西南女学院大学と九州歯科大学は、「食と健康」に関する啓発活動を通して、地域と大学との連携を深め、地域住民の健康増進に貢献することを目的とした連携公開講座を開催した。参加者数は開催回数とともに、漸次増加し、3回目以降はリピーターが全体の半数以上を占めた。今後とも、両大学の特徴を活かした連携講座を実施していく予定である。</p> <p>②共著者 青木るみ子、田川辰也、辻澤利行、秋房住郎、日高勝美、近江雅代</p> <p>③共同研究につき本人分抽出不可能 (P77-P85)</p>
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

地域住民の健康増進のための食育活動の展開	西南女学院大学	○清末 達人	869,000
大学間連携による地域住民の健康増進のための食育活動の展開	一般社団法人 全国栄養士養成施設協会	○谷川 弘治	60,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

栄養学科長（2012年4月より）

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	尾上 均	職名	教授	学位	博士(医学)(大阪大学1993年)
----	------	----	----	----	-------------------

研究分野	研究内容のキーワード
生化学 細胞生物学	細胞内Ca ²⁺ 動員機構 細胞内Ca ²⁺ 恒常性維持機構 タンパク質相互作用 インスリン分泌

研究課題
① 細胞内カルシウム動員機構 ② 細胞内カルシウム恒常性の維持機構 ③ イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用 ④ インスリン、グルカゴン分泌に影響をおよぼす食品成分に関する in vitro 研究

担当授業科目
栄養学概論 生活の中の化学 生化学I 生化学II 生化学実習 人体の構造と機能実習 管理栄養士演習II 管理栄養士演習VII 卒業研究 卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 栄養学概論 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生理学、生化学、細菌学、食品学および病理学が、栄養学、特に基礎栄養学を習得するための基礎となる科目であること、さらに基礎栄養学という土台の上に応用栄養学や臨床栄養学が構築されていくことを、相関図を用いて説明した 上記の基礎額がいずれも生命に関連したライフサイエンスであること、その上に構築される栄養学も当然ライフサイエンスであること、そして人の健康にとって栄養という営みが極めて重要なファクターであることに力点を置いて説明した 哲学、生物学、化学、物理および数学といった最も基礎的な学問領域の相関図を用いて、自然科学の中での栄養学の位置づけを説明した 講義は、スライドを用いて行った
<p>授業科目名【 生活の中の化学 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩基、触媒、化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを、目標の中心として講義を行った 本科目、生化学Iおよび生化学IIをとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントを配布し、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた 講義は、スライドを用いて行った。講義時間内に情報を取り入れることに学生を集中させるため、スライドのレジュメは、鍵となる重要なものを特に選んで配布した

<ul style="list-style-type: none"> 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた
<p>授業科目名【 生化学Ⅰ 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生体分子の構造および化学的特性については、「生活の中の化学」で講義した内容や知識、言葉を用いて説明するように努めた 代謝に関する講義では、代謝全般に共通する普遍的な法則の理解と知識の習得に力点を置いた。「酸化還元」と「自由エネルギーの出入り」との結びつきの概念を特に強調した講義内容とした 講義に用いるスライドにはゼミの学生の意見を参考に改訂を加えて使用した 講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントに図を加えるなど改訂して配布した 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた 学生には暗記よりも論理的に思考して理解することを要求し続けた。試験も基本的には理解を問う問題を出題した。ただし、基本的な生体化合物の構造式については試験にも出題した
<p>授業科目名【 生化学Ⅱ 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学Ⅰ」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。 講義に用いるスライドにはゼミの学生の意見を参考に改訂を加えて使用した 生化学Ⅰで配布した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた
<p>授業科目名【 生化学実習 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験を通じて「事実（データ）を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを一貫して要求し続けた 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導した レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した
<p>授業科目名【 管理栄養士演習Ⅱ 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせさせた授業内容にした 練習問題はオリジナルに作成した
<p>授業科目名【 管理栄養士演習Ⅶ 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせさせた授業内容にした 練習問題はオリジナルに作成した
<p>授業科目名【 卒業研究 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一名の受講生に「β細胞のインスリン分泌機構に影響をおよぼす成分を含む食品のスクリーニング」というテーマを与え、実験研究を遂行させた。 先行研究の論文抄読等を通して、研究と実験の原理・目的を十分理解させた上で、実験の手技・手法の習得を徹底させた。 研究・実験の具体的計画を学生自身の立てさせ、内容を検討した上で、実験を遂行させた。 実験結果の解釈を学生自身の行わせた上で、ディスカッションを繰り返し、考察を行わせ、発表会で報告させた。
<p>授業科目名【 卒業ゼミ 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一名の受講生に「代謝」を「糖尿病」、「アルコール摂取時」、「栄養バランスと肥満」などと関連づけて考え、理解することをテーマとして設定した。 あらかじめ関連文献を与え、その内容について「考え、理解する」ためのディスカッション形式の講義を一年間行った。

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本生化学会 日本薬理学会		1995年5月～現在に至る 1996年9月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)
(2) 個人研究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
入試委員

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 甲 斐 達 男	職名 教 授	学位 農学博士(九州大学 1992年)
------------	--------	---------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
応用微生物学、食品科学、分子遺伝学、音声学	パネットーネ、酵母、乳酸菌、ゲノム解析、嚙下障害、音声解析、音源修復、I型糖尿病、低糖質食品

研 究 課 題
(1) パネットーネ乳酸菌と酵母のゲノム解析 (2) 嚙下障害の予知と予防に関する音声医学的研究 (3) I型糖尿病患者対応の糖質フリー加工食品の開発 (4) カストラートの音源修復

担 当 授 業 科 目			
科 目 名	単 位 数		開講学期
	必 修	選 択	
加工食品機能論 (栄養学科) × 2クラス	2		後期
食品衛生学実験 (栄養学科) × 2クラス	1		後期
管理栄養士演習Ⅲ (栄養学科)	1		前期
食品衛生学 (栄養学科) × 2クラス	2		後期
微生物学 (栄養学科) × 2クラス	2		前期
微生物学実験 (栄養学科) × 2クラス	1		前期
管理栄養士演習Ⅷ (栄養学科)		1	後期
卒業研究 (栄養学科) 通年科目		4	通年
卒業ゼミ (栄養学科) 通年科目		2	通年

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【微生物学(3年生対象)・食品衛生学(2年生対象)・加工食品機能論(2年生対象)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の問題を6年連続で同じ内容と同じ形式(5択問題50問)にて実施してきた結果、学年ごとの学力特性が把握でき、4年次の国家試験対策への取り組み方を学年ごとに調整するのに役立った。 2. 学生の要望により、成績を学生に開示しているので、評価方法に関するクレームは無かった。 3. 教科書以外の授業資料はプリントで配布したところ、電子ファイルが欲しいという学生が多く、各自のUSBに研究室でコピーをとってあげたところ好評であった。個々の学生と授業のやり方や内容について直接聞く機会を得ることができて有益であった。 4. 本試・再試を通じての合格者は95%を超え、ここ数年、受講生の学力が向上していることを感じた。 5. 私語が皆無であった。「私語が他人の迷惑になる」ことを今期強く説明し続けたことと、私語に対して若干の減点処置を講じたことが効を奏した。
<p>授業科目名【食品衛生学実験(3年生対象)・微生物学実験(2年生対象)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 例年通り、実験における班構成についてはチームワークが発揮できるよう学生の要望をうまく取り入れ、かつリーダーシップを発揮できるような学生を各班に配置し、学生同士が自由に前向きなディスカッションがしやすい雰囲気作りに努力した。この手法は今年度も成功した。班のメンバー構成は極めて重要であることを再認識した。 2. 例年通り、全員参加型の授業(アクティブラーニング)になるよう工夫し、成功したと思われる。 3. 実験レポートの質は、昨年に引き続き、高い状態で推移してきている。レポートの質によって、その学年の学力のポテンシャルが把握できるので、それに応じて、講義のやり方を調整できている。

授業科目名【卒業ゼミ・卒業研究】（4年生、卒ゼミ17名、卒研1名が対象）

1. 昨年に引き続き、1～5名をひとつのチームとしたところ、今年度は失敗した。卒ゼミにまったく参加せず単位を取得できなかった学生が4名、卒研生も途中で研究を棄権した。卒ゼミの場合、卒研に比べて単位数が少ないので、1人が80時間研究を行うという目標を設定し、ほとんどのチームが短い期間にきちんとした良い結果を出してくれた。
2. 卒ゼミで挫折した4名は、ひとつのチームメンバーであり、その進路が各自異なっていた（病院管理栄養士、老人福祉施設、一般企業）。今年は国の方針で就職試験が8月1日解禁であったことが悪い方に作用し、就職活動の時期が各人異なったために、結果的にメンバーが集まって研究を行う時間がとれなかったことが原因であった。今回の反省をもとに、次年度からは、卒ゼミについても卒研と同様、ひとり1テーマという基本方針を掲げたい。また5名前後の少人数体制で臨みたい。
3. 卒研学生については、昨年に引き続き今年度も途中で挫折したが、いずれも、国家試験の受験勉強が思うように進まなくなって挫折したものである。次年度からは、卒研を受講する学生の選考基準を見直すこととともに、早期に結果が出るよう指導体制を強化したい。
4. しかしながら、多くの研究チームにおいてメンバー同士の切磋琢磨によって、就職活動や国家試験の受験勉強に良い結果をもたらした。
5. 受講生を対象に、今年度も、国家試験対策の勉強会を週1回開催したが、国試受験のモチベーションを高めるのに効果的であった。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅲ・Ⅳ】（4年生対象）

気質上、指導しやすい学年であったので、学生の学習意欲を最後までうまく維持させることが出来た。

1. 「食べ物と健康分野」の補講の回数は、昨年同様30コマとし、前期はベーシックな「よくわかる管理栄養士合格テキスト」を、夏休み以降は全国で利用されている「クエスチョンバンク」を用いて、その内容に添って解説することで、学生の理解度の向上を狙った。効果は大きかった。
2. 管理栄養士演習Ⅰ～Ⅹまで10科目あるが、学年によっては、必須科目は受講し、選択科目は履修登録すらしないということが、これまで度々あった。昨年度に引き続き、今年度も、全受験生が、必須・選択の10科目すべてを履修するよう工夫し（主に心理的な側面へのアプローチによる）、それに成功した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本分子生物学会	正会員	1988年4月～現在に至る
日本生化学会	正会員	1991年4月～現在に至る
日本生物工学会	正会員	1994年4月～現在に至る
日本農芸化学会	正会員	1995年4月～現在に至る
米国穀物化学会	正会員	1995年4月～現在に至る
日本食品科学工学会	正会員	2000年4月～現在に至る
日本栄養・食糧学会	正会員	2000年4月～現在に至る
日本食品衛生学会	正会員	2002年4月～現在に至る
日本醸造協会	正会員	2005年4月～現在に至る
日本音声学会	正会員	2010年4月～現在に至る
情報処理学会正会員	正会員	2012年4月～現在に至る
日本臨床栄養学会正会員	正会員	2012年4月～現在に至る
日本嚥下障害臨床研究会正会員	正会員	2012年4月～現在に至る
日本嚥下医学会正会員	正会員	2012年4月～現在に至る
芸術科学会正会員	正会員	2012年4月～現在に至る
日本声楽発声学会	正会員	2014年4月～現在に至る

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
<p>(著 書)</p> <p>① 最新食品学 - 総論・各論 - (第4版)</p>	<p>共著</p>	<p>2016年3月23日</p>	<p>講談社</p>	<p>① 改訂にあたって、編者・執筆者が全員、交替した。これまで短大家政科向けにしていたものを、管理栄養士課程、専門学校(調理師、製菓衛生士、歯科衛生士)にも使えるように内容の深度を深め、取扱い内容を広げ、かつ、最新の情報を織り込んだ。</p> <p>② 編者 <u>甲斐達男</u>、石川洋哉(筆頭編者)</p> <p>③ 著者 石川洋哉、石本祐子、市丸哲造、<u>甲斐達男</u>、古場一哲、小林弘司、木村宏和、高杉美佳子、古田吉史、安田みどり、山下耕平</p> <p>④ 担当部分 1.1-1.2 緒論 (p1-17) 石本祐子・<u>甲斐達男</u> 2.4 無機質 (p57-61) 石本祐子・<u>甲斐達男</u> 2.6 核酸 (p71-72) 石本祐子・<u>甲斐達男</u> 2.7 水 (p73-75) 石本祐子・<u>甲斐達男</u> 総頁数 233頁</p> <p>⑤ B5版</p>
<p>(学術論文)</p> <p>① パネットーネ母種より分離した乳酸菌と酵母の製パン特性とゲノムの解析および選抜した乳酸菌と酵母を用いた製パンシステムの構築</p>	<p>単著報告</p>	<p>2015年8月</p>	<p>公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団平成26年度年報 Vol.30、254-259、2015 <u>甲斐達男</u></p>	<p>① イタリア北部ミラノ近郊のフェッキオにあるベーカリーで150年間植え継いできたパン種から酵母と乳酸菌を分離し、その中から製パンに合う株を選抜し、かつ、製パン方法を開発した。</p>
<p>② テンペの GABA 含量増加のためのアプローチ</p>	<p>共著原著論文</p>	<p>2015年10月</p>	<p>日本食品・機械研究会誌 Vol.35、No.3、115-121、2015 <u>甲斐達男</u>、恵良真理子、石本祐子、長藤信哉、吉野精一</p>	<p>① テンペの GABA 含有量を増加させるために、従来の発酵後に、嫌気的な後発酵を施すことによって、GABA含有量を約2倍に増加させ、外観、風香味、食</p>

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
			(筆頭著者)	感において遜色のない製品を得た。
③ パネットーネに関する研究動向 I. 総論	共著 総説	2015年10月	日本調理食品研究会誌 Vol.21、No.2、66-75、 2015 吉野精一、長藤信哉、 石本祐子、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	① パネットーネとは何か、ミラノで使用されている伝統的製法に関する規定書、イタリアからアメリカそして南米に渡った経緯と変遷、乳酸菌と酵母の共生関係を概説した。
④ パネットーネに関する研究動向 II. 乳酸菌	共著 総説	2016年1月	日本調理食品研究会誌 Vol.21、No.3、 105-110、2015 吉野精一、石本祐子、 長藤信哉、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	① パネットーネの母種に棲息する乳酸菌の製パン上の特性、および最新の学術的な分類学上の位置づけについて詳述した。
⑤ パネットーネに関する研究動向 III. 酵母	共著 総説	2016年2月	日本調理食品研究会誌 Vol.21、No.4、 155-161、2015 吉野精一、石本祐子、 長藤信哉、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	① パネットーネの母種に棲息する酵母の製パン上の特性、および最新の学術的な分類学上の位置づけについて詳述した。
⑥ 古くて新しいパネットーネ種～ヨーグルト種で作るパネットーネ～	共著 総説	2016年1月	Breads & Cakes No.1-2、44-45、70-72、 2016 吉野精一、長藤信哉、 石本祐子、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	① パネットーネについて概説し、市販ヨーグルトに含まれる乳酸菌を利用して作るパネットーネのレシピを紹介した。
⑦ 古くて新しいパネットーネ種～ロングシエルフライフの謎～	共著 総説	2016年3月	Breads & Cakes No.3-4、97-99、2016 吉野精一、長藤信哉、 石本祐子、 <u>甲斐達男</u> (Corresponding Author)	① パネットーネの日持ちが長い理由について、一般的なリッチな配合のパンと異なる点を明確にし、抗菌性物質の産生の可能性を解説した。
⑧ Karyotype Analysis on Panettone Yeasts Chromosome	共著 原著	2016年3月	西南女学院大学紀要 Vol.20、59-65、2016 <u>甲斐達男</u> 、高本なつみ、石本祐子	① パネットーネ酵母をパルスフィールドゲル電気泳動による核型のパターンによって分類した。これを最新の

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
			(筆頭著者)	rDNA 配列解析による分類法と比較検討した結果、全体に見直しが必要であることが示唆された。
⑨ Development of Salt-Tolerant <i>Rhizopus oligosporus</i> for Tempeh Production	共著 原著	2016年3月	西南女学院大学紀要 Vol.20、53-58、2016 甲斐達男、西崎悦子、坂元泰予、石本 祐子 (筆頭著者)	① 原料大豆に適度な塩味(1%程度)をつけて発酵を行うために必要な、テンペ菌 <i>R. oligosporus</i> の食塩耐性株の獲得を目指して育種開発を行い、1%食塩耐性株の育種に成功した。
<p>(講演)</p> <p>① The Last Castorato</p> <p>② 食品の機能性成分</p>	<p>単独</p> <p>単独</p>	<p>2015年9月4日、10:10-11:10</p> <p>2015年9月19日、10:00-14:00</p>	<p>私立大学図書館協会西地区 2015 年度九州地区協議会九州地区研究会(西南女学院大学にて)</p> <p>福岡県職業訓練協会主催調理師講習会(福岡県職業訓練協会ビルにて、福岡市東区千早 5-3-1)</p>	<p>① カストラートとは何かを文献情報をもとに概説し、その音声学的な特徴を解析した研究経過、さらに、世界に唯一の音源を修復する作業経過を解説した。</p> <p>① 現場で働く調理師を対象に、いま注目されている食品の機能性成分について概説し、メニュー開発に役立つ知識を紹介した。</p>
				<p>教育研究業績 総数 (2016.3.18 現在)</p> <p>著書 4 (単0、編者・著者1、共著3)</p> <p>学術論文 44 (単10、筆頭18、責任著者8、共8)</p> <p>国内学会発表 14 (単0、筆頭7、責任発表者1、共6)</p> <p>国際学会発表 6 (単0、筆頭5、責任発表者0、共1)</p> <p>国内講演 5 (単3、筆頭2)</p> <p>海外講演 1 (単1)</p> <p>特許 15 (筆頭発明者6、責任発明者9)</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
音声波形解析による摂食・嚥下障害発症の予知技術確立に関する研究	独立行政法人 日本学術振興会（挑戦的萌芽研究）	○甲斐達男 石本祐子	800,000円

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
バイオインダストリー協会	正会員	1989年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- (1) 図書館長
- (2) 図書委員会 委員長
- (3) 研究紀要委員会 委員
- (4) 学校教育法等の改正に伴う内部規則等の総点検・見直しに関する検討会委員
- (5) 西南女学院大学短期大学部「組織・教育・研究・管理運営等の改善及び充実に関する検討会」副委員長

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	田川辰也	職名	教授	学位	博士(医学)(九州大学 1995年)
----	------	----	----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
循環器内科学 血管内皮機能 酸化ストレス 動脈硬化予防	血管内皮機能障害 一酸化窒素(NO) 抗酸化食品

研究課題
抗酸化食品による血管拡張機能(血管内皮機能)の改善作用に関する研究 非薬物的介入による代謝異常における動脈硬化の予防に関する研究 食生活改善による血管のアンチエイジング戦略ー栄養学による血管内皮機能の改善ー 心血管イベント抑制のための栄養学的戦略ー若年成人からの動脈硬化予防ー

担当授業科目
臨床生理学(前期) 臨床栄養学実習I(前期) 管理栄養士演習I(前期) 栄養学概論(前期) 臨床生化学(後期) 臨床栄養管理学(後期) 管理栄養士演習VI(後期) 臨床栄養活動論(後期) 卒業ゼミ(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【臨床生理学・臨床生化学】</p> <p>臨床生理学・臨床生化学の講義では、人体の生理学的な機能異常に基づく代表的な疾患について、栄養学との関連に留意して概説している。講義内容としては、消化器、肝臓、膵臓、心臓、腎臓などの代表的疾患について、その成因、症状、診断、治療(食事療法を含む)について概説している。パワーポイントによるスライドやプリント等の補助教材の活用し、学生の集中力を高め、できるだけ多くの内容を吸収できるように工夫した。また、疾患を学ぶにあたって、各臓器の生理機能と疾患を関連づけて理解できるように、その基礎となる解剖生理学や生化学を復習した上で、臨床生理学・臨床生化学の講義をしている。資料については、次回の授業プリントを先に配るようにし、予習しやすいようにした。また、理解度の把握、確認のため、授業では、始めに前回の復習テストを、終わりに授業の確認テストを行っている。授業アンケートでは、説明がわかりやすく、スライドも見やすいという意見をいただいた。今後もわかりやすい授業を心がけるつもりである。</p>
<p>授業科目名【臨床栄養管理学】</p> <p>臨床栄養管理学では、ニュートリション・サポート・チームの一員として管理栄養士が備えておくべき栄養管理の専門知識や技術の基本を学び、さらに保健、医療、福祉との連携の中でも、ケア・マネジメントに参画できる能力を養うことを目的として、授業を行った。臨床における栄養管理システムと栄養評価について説明することができるようになるよう、指導した。パワーポイントによるスライドやプリント等の補助教材の活用し、学生の集中力を高め、できるだけ多くの内容を吸収できるように工夫した。また、予習しやすいように次回の授業プリントを先に配るようにした。また、理解度の把握、確認のため、授業では、始めに前回の復習テストを、終わりに授業の確認テストを行っている。</p>

<p>授業科目名【臨床栄養学実習Ⅰ】</p> <p>基本的な身体診察法、救命救急法、心電図、75g糖負荷試験、GIなどの実習授業を行った。これらの内容は、医療現場の実際を体験することであり、医療スタッフとしての管理栄養士を目指すためには重要な内容である。学生たちが興味をもてるように、できるだけ医療の現場に近い形態で、体験型の実習にこだわって実習を行った。学生たちは、実際の医療現場に対する興味が深まったと考えられた。</p>
<p>授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ・Ⅵ】</p> <p>管理栄養士演習では、単に国家試験対策として問題を解かせるだけでなく、毎回の授業で、テストとレクチャーを組み合わせ、ポイントをまとめたプリントを作成し、学生たちが疾患の成り立ちやその治療法に対する理解を深めることができるように努めた。学生の不得意分野を重点的に講義し、参考プリントを作成し、理解しやすくなるように心がけた。今後も学生に理解しやすい授業を心がけるつもりである。</p>
<p>授業科目名【栄養学概論】</p> <p>栄養および栄養学とは何か、また、人の保健・健康に対してどのような影響や意義もつのかを理解することにより、学生自身が栄養学を学ぶ意味を考え、展望を持って学べる姿勢を養う栄養学概論において、栄養と健康および疾患との関係を理解するため、病院での管理栄養士の役割を説明した。特に、栄養サポートチーム(NST)の活動、患者のQOL(生活の質)の改善に対し興味を持てるように努力した。</p>
<p>授業科目名【臨床栄養活動論】</p> <p>臨床栄養活動論のなかで、医療人の倫理について、講義している。管理栄養士は当然医療人であり、倫理観が問われるが、医師や看護師における倫理と管理栄養士の倫理の違いについて、解説している。また、講義内容を理解できているかどうか、確認するため、授業の最後にレポートを提出させ、確認している。今年は、障害者に対する倫理観を問う「クワガタと少年」のビデオを見せ、その感想文を書かせて、学生たちの理解度を確かめた。</p>
<p>授業科目名【卒業ゼミ】</p> <p>前腕血流量測定装置であるプレチスモグラフ、大動脈波伝播速度測定装置である form、酸化ストレス測定装置である FRAS4 を使用し、血管内皮機能と酸化ストレスの測定を行っている。研究課題としては、アルギニン、緑茶カテキン、エイコサペンタエン酸などの食品による血管内皮機能改善効果や抗酸化作用を調べている。学生に研究の面白さを知ってもらえるよう、できるだけ、学生主導で研究を計画、実行している。2014年度はエイコサペンタエン酸が大動脈波伝播速度(PWV)に及ぼす効果について、検討した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本循環器学会	循環器専門医(1996年3月～現在に至る) 九州支部評議員(2004年4月～2008年3月)	1989年4月～現在に至る
日本内科学会	認定内科医(1994年9月～現在に至る) 認定総合内科専門医(2005年12月～現在に至る)	1989年6月～現在に至る
日本高血圧学会	評議員(2002年4月～現在に至る) 特別正会員(2003年4月～現在に至る) 高血圧専門医(2009年4月～現在に至る)	1992年8月～現在に至る
日本臨床薬理学会		2002年5月～2009年9月
日本医師会	産業医(2005年2月～現在に至る) 健康スポーツ医(2006年1月～現在に至る)	2002年6月～現在に至る
日本栄養改善学会		2004年10月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
<p>(学術論文)</p> <p>1. 大学連携事業としての地域密着型食育活動の展開—2014年度事業概要ならみに成果報告—</p>	共	2016年3月	西南女学院大学紀要 20巻	<p>① 西南女学院大学と九州歯科大学は、「食と健康」に関する啓発活動を通して、地域住民の健康増進に貢献することを目的とした連携公開講座を開催した。公開講座は、講演と食事提供をセットとし、生活習慣改善に向けた動機づけを行った。この公開講座の食育活動について、2014年度の事業概要ならびに成果報告を行った。</p> <p>② 共著者名 青木るみ子、田川辰也 辻澤利行、秋房住郎、日高勝美、近江雅代、清末達人</p> <p>③ 担当部分 講演、PWV測定を担当 (P77-P86)</p>
(翻訳)				
<p>(学会発表)</p> <p>1. アルギニンの血管拡張機能改善効果に対する抗酸化ビタミンの影響に関する研究</p>	共	2015年9月	第62回日本栄養改善学会総会 栄養学雑誌 73巻 (5号)	<p>① アルギニン+抗酸化ビタミンとアルギニン単独の長期投与若年健康成人の血管内皮機能に対する影響を検討した。結果、アルギニン+抗酸化ビタミン、アルギニン単独の投与後に反応性充血時のピーク後の前腕血流量が増加し、その増加の程度は両群間で差はなかった。アルギニンは抗酸化ビタミンの同時投与の有無に関わらず、血管内皮機能を改善すると考えられた。</p> <p>② 共著者名 田川辰也、青木るみ子、境田靖子、近江雅代</p> <p>③ 担当部分 研究全般 (P187)</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～（第1報）	共	2015年9月	第62回日本栄養改善学会総会 栄養学雑誌 73巻（5号）	① 西南女学院大学栄養学科と九州歯科大学は連携公開講座を北九州の地域住民を対象に公開講座を実施した。公開講座は2部制とし、第1部は講演、第2部は教員と学生による食事提供とした。この活動は地域貢献、地域密着型の食育活動になると考えられる。 ② 共著者名 近江雅代、石本祐子、青木るみ子、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、久保由紀子、坂巻 路可、田川辰也 ③ 担当部分 講演、血管年齢の測定（P304）
3. 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第2報：参加者の満足度評価～	共	2015年9月	第62回日本栄養改善学会総会 栄養学雑誌 73巻（5号）	① 西南女学院大学栄養学科と九州歯科大学は連携公開講座において、アンケート調査を実施した。その結果、参加の79%が食と健康について「理解が深まった」と解答した。引き続き北九州市における地域密着型の食育活動を行っていききたい。 ② 共著者名 近江雅代、青木るみ子、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、坂巻 路可、久保由紀子、田川辰也、近江雅代 ③ 担当部分 講演、血管年齢の測定（P304）
(講演会等の発表) 1. 糖尿病の波溝～速すぎた食事の変化～	単	2015年6月	2015年度第1回西南女学院大学・九州歯科大学公開講座	① 糖尿病増加の歴史的背景、成因、合併症について説明するとともに、糖尿病の生活習慣の改善による予防および食事療法などの治療について解説した。 ② テキスト（P1-P11）
2. 油は善玉？ 悪玉？～臨床的にみた油の話～	単	2015年10月	2015年度第13回西南女学院大学・九州歯科大学公開講座	① 高LDL-コレステロールが高値の問題点、合併症について説明するとともに、n-3系多価不飽和脂肪酸であるエイコサペンタエン酸の動脈硬化予防効果について解説した。 ② テキスト（P6-P10）

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績 総数 (2016.3.18現在) 学術論文 1 (内訳 単 0, 共 1) 学会発表 3 (内訳 単 0, 共 3) 講演 2 (内訳 単 2, 共 0)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	西南女学院大学	清末達人、田川辰也、他20名	869,000

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
九州大学医学部同窓会	同窓生名簿編集員	2009年4月～現在に至る

学内における活動等 (役職、委員、学生支援など)
倫理審査委員会 委員 2015年4月1日～2016年3月31日 動物実験に関する規定検討会 委員 2015年4月1日～2016年3月31日 ブラッシュアップ支援 (国家試験対策) 委員会 委員 2015年4月1日～2016年3月31日 外部資金導入促進プロジェクト 委員 2015年4月1日～2016年3月31日 弓道部顧問 2015年4月1日～2016年3月31日 アドバイザー

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 近江 雅代	職名 教授	学位 博士(医学)(福岡大学2002年)
----------	-------	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
臨床栄養学、栄養形態学	全身性エリテマトーデス、食事因子、症例対照研究、低タンパク栄養、生食野菜の殺菌、超微形態学的研究

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・全身性エリテマトーデスに関する症例対照研究 ・栄養バランスに配慮したお弁当メニューの開発および提案 ・非加熱野菜による食中毒防止のための殺菌方法の確立 ・低タンパク栄養が母親および乳仔ラットに及ぼす影響

担当授業科目
栄養治療学Ⅰ(前期) 栄養治療学Ⅱ(後期) 臨床栄養学実習Ⅱ(後期)(分担) 総合演習Ⅱ(前期)(分担) 臨地実習Ⅱ(後期)(共担) 管理栄養士演習Ⅳ(前期)(分担) 管理栄養士演習Ⅸ(後期)(分担) 栄養学概論(前期)(分担) 臨床栄養学(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【栄養治療学Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>本科目は、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目標としている。各回、疾患の成因および病態について、2年次までに修得した科目と関連付けながら解説した。その上で、各疾患における栄養食事療法の意義と目的を説き、栄養アセスメント、栄養ケア計画・実施、モニタリングが連動していることを理解できるよう、留意した。教科書を最大限使用し、かつ、ノート作成をするために、できるかぎり板書を行い、講義した。教科書での不足に関しては、補足プリントの配布を行った。臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)と密接に関係した科目であるだけでなく、臨地実習要件科目でもあるため、厳しく、かつ、わかりやすい講義を心がけた。</p>
<p>授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】</p> <p>本実習は、各疾患の病態および栄養状態を把握し、調理実習を通して、栄養・食事療法に対応できる知識および技術を修得することを目標としている。『栄養治療学Ⅰ・Ⅱ』で修得した知識を活用し、身体状況や栄養状態に応じた疾患・病態別の献立を作成し、調理することのできる能力を養うよう、留意した。各回、1疾患を挙げ、栄養管理のポイントを説明した後、調理示範を行いながら、調理のポイントや留意点を説明した。調理実習中は、各班をまわり、個別指導を行った。また、献立作成能力を高めるため、全員の提出献立にコメントをつけ、学生は自身の献立内容の振り返りを行い、今後の献立作成への課題を見つけることができたと思われる。傷病者の栄養管理では、治療用特殊食品を使用することも多く、実習後は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えていることもあり、業者協力のもと、治療用特殊食品を用いた調理実習も行った。また、実習の最終回には、献立作成に必須である食品の目測についての試験(数種類の食品の名称ならびに重量を目測で解答)を行い、食品の目測に対する能力を点数化することで、病院実習ならびに栄養士・管理栄養士業務に向けての、より自主的・意欲的に臨むきっかけになったものと推察する。</p>

授業科目名【総合演習Ⅱ】 本科目は、様々な症例検討を行い、これまでに学んだ専門的知識を統合して、管理栄養士として、適切な栄養管理ができる能力を養うことを目的としている。各回、1～2疾患の症例を提示し、まずは学生自身で検討を行った後、症例疾患の成因、病態および治療法について、学生からの解答を導きながら、説明した。その後、詳細な解説を配布して、疾患を総合的に理解し、具体的な栄養管理方法を解説した。また、最終学年の演習であることから、管理栄養士に必要な最新の情報や関連領域のトピックについても、説明した。		
授業科目名【臨地実習Ⅱ】 本実習は、臨床栄養の実践活動の場(病院)における学外実習を通して、管理栄養士として必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、具備すべき知識・技能を修得することを目標としている。病院において、2～3週間の実習を行うため、事前学習として、3回のオリエンテーションを実施し、実習の目的、実習に対する心構えおよび身だしなみ等について、細かく指導した。実習評価表に記載されている項目に関しては、学生自身の知識を整理するために、自己学習ノートの作成を指示し、実習に対する事前学習の機会を設けた。また、実習施設より出された課題については、時間を問わず、個別に添削指導し、実習をお願いする大学として、できる限りの指導を行った。実習中は、実習施設を訪問し、施設の実習指導担当者の指導等に基づき、学生への指導を行った。また、今後の実習のあり方や事前指導等について、病院管理栄養士の方との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善や実習先確保に繋げた。実習終了後は、事後指導として、事後報告会を開催した。施設ごとに発表資料を作成し、全実習施設が発表を行った。また、その報告会には新3年生を出席させることにより、臨地実習Ⅱへのモチベーションを高めることに繋げた。		
授業科目名【管理栄養士演習Ⅳ・Ⅸ】 本科目は、管理栄養士国家試験教科『臨床栄養学』分野の出題傾向およびポイントを理解することを目標としている。臨床栄養学の問題数は28/200問であり、本演習の中で、過去5年分を網羅するよう、スケジュールを組んだ。1回の演習において、学生は10～15問の過去問を解き、その後、詳細な解説を配布して、1問ずつ説明を加えながら解説した。		
授業科目名【栄養学概論】 本科目は、管理栄養士としてどのような社会的貢献ができるのか、また、将来のキャリアに対する自己の課題を認識し、4年間の学習への動機づけを行うことを目標としている。全8回の講義のうち、第2回『管理栄養士に必要な知識および技能とは？4年間の学習内容について～資質の高い管理栄養士となるために～』を担当した。生活習慣病の蔓延、平均寿命の延伸、医療費の増大等、現代の日本について理解を促し、社会に貢献できる管理栄養士の必要性が高まっている現状を説明した。臨床的および予防的な食支援のできる管理栄養士を目指すため、管理栄養士として身につけるべき知識および技術を解説し、管理栄養士養成施設のカリキュラムに沿って、本学栄養学科の開講科目を説明した。また、第4・5回目『新入生研修』では、食事提供を担当した。栄養学科4年生の学生ボランティアとともに、1年生、教職員およびスタッフの食事を、150食作成し、提供した。大量調理として食事を提供したことは、1年生にとっては自身が身につけるべきスキルを目の当たりにすることができ、また、4年生ボランティア学生にとっては管理栄養士としての自己効力感を高めることに繋がったと思われ、いずれの学生においても大変有益であったと実感した。全8回の講義を通して、管理栄養士としての目的意識を強く持ち、4年間の過ごし方等について改めて考え、今後の学習意欲を高めるものになったと思われる。		
授業科目名【臨床栄養学】 本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目標としている。看護師に必要な臨床栄養の知識を理解するために、病院における栄養管理に始まり、疾患別の栄養管理を解説した。教科書を最大限活用し、重要ポイントについては、板書を行った。教科書の不足に関しては、補足プリントの配布を行った。講義では、これまでに経験した栄養管理の実際や栄養に関するトピック等を話題として取り入れ、臨床栄養をより理解しやすくなるよう、努めた。		

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期

日本栄養士会	正会員	2003年 4月～現在に至る
日本栄養改善学会	評議員	2003年 4月～現在に至る
日本病態栄養学会	評議員	2003年 4月～現在に至る
日本給食経営管理学会	正会員	2012年 4月～現在に至る
日本臨床栄養協会	正会員	2012年 4月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) 1. 大量調理における生食用野菜の殺菌方法の有効性についての検討	共著	2016年3月	西南女学院大学紀要 Vol. 20	①生食野菜の品質を損なうことのない、殺菌効果の高い殺菌方法を野菜種別に確立するために、生食用野菜に対し、各種殺菌方法を施し、細菌学的ならびに形態学的に検討した結果、キュウリ・キャベツは『ブランピング』、レタスは『NaClO 40℃』、セロリ・ミズナ・トマトは『強酸性電解水 40℃』による殺菌が効果的であった。野菜種別殺菌方法を確立したことは、今後、生食用野菜を原因食材とする食中毒の防止に繋がるものと期待される。 ②共著者名：近江雅代、青木るみ子、古田宗宜、藤田 守 ③担当部分：実験、考察および論文執筆
2. 大学連携事業としての地域密着型食育活動の展開～2014年度事業概要ならびに成果報告～	共著	2016年3月	西南女学院大学紀要 Vol. 20	①本学と九州歯科大学は、地域住民の健康増進に貢献することを目的とした連携公開講座を開催している。西南女学院大学は『食と健康』の視点から、公開講座と講演後の食事提供をセットし、地域住民を対象とした食と健康に関する支援活動を実施した。本事業は地域住民の生活習慣病予防ならびに改善のため、生活習慣改善に向けた動機づけの一翼を担うことができたものと推察される。 ②共著者名：青木るみ子、田川辰也、秋房住郎、日高勝美、辻澤利行、近江雅代、清末達人 ③担当部分：実施、考察および

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				論文執筆
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～(第1報)	共著	2015年9月	第62回日本栄養改善学会学術総会 (於 福岡国際会議場)	①本学と九州歯科大学は、連携公開講座を開催しており、第1報では本事業の経緯ならびに概要について報告する。参加者の約8割が市内住民であり、北九州市における食育活動としての開催は実現できた。また、参加者数は開催回数とともに増加したことから、本事業は地域住民への食育推進活動として少なからずとも貢献できていると思われる。 ②共同発表者名：近江雅代、石本祐子、青木るみ子、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、久保由紀子、坂巻路可、田川辰也 ③第62回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P304)
2. 北九州市における大学次連携事業としての食育活動の展開～第2報：参加者の満足度評価～	共著	2015年9月	第62回日本栄養改善学会学術総会 (於 福岡国際会議場)	①第2報では参加者のアンケート集計結果について報告する。参加者数は開催回数とともに漸次増加した。また、第3回ではリピーター参加者が全体の半数以上を占めていたことに加え、アンケート集計では食と健康について「理解が深まった」(平均79%)、昼食の全体的評価として「よかった」(平均85%)という結果から、満足度の高さが窺えた。本事業は講演の後、テーマに関連した食事提供をセットとしていることが、食に対する関心を深め、参加者自身の生活習慣改善への動機づけに繋がっているものと考えられる。 ②共同発表者名：石本祐子、青木るみ子、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、久保由紀子、坂巻路可、田川辰也、近江雅代 ③第62回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P304)

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. アルギニンの血管拡張機能改善効果に対する抗酸化ビタミンの影響に関する研究	共著	2015年9月	第62回日本栄養改善学会学術総会 (於 福岡国際会議場)	<p>①抗酸化ビタミンの投与がアルギニンの血管拡張機能改善に及ぼす影響について検討した結果、両群間に有意差はなかった。このことから、血管拡張機能改善効果は主としてアルギニンによるものであり、抗酸化ビタミン投与の影響は少ないことが示唆された。</p> <p>②共同発表者名：田川辰也、青木るみ子、境田靖子、<u>近江雅代</u></p> <p>③第62回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P187)</p>
4. 女子学生の月経前症候群と食事摂取状況との関連	共著	2015年9月	第62回日本栄養改善学会学術総会 (於 福岡国際会議場)	<p>①本研究では女子学生の月経前症候群(PMS)と食事摂取状況との関連について検討した。解析には『栄養関連学科女性3世代研究』のデータを使用し、対象者は新入学生の3473名とした。月経前愁訴調査は回顧的月経困難質問票(MDQ)を用いた。月経前後のMDQ各領域の得点はいずれも月経前が有意に高く、様々な愁訴がみられた。また、愁訴と栄養素等および食品群別摂取量に相関がみられたことから、PMSに対する食事の影響が示唆され、PMSの予防および改善には適正な食事摂取も重要であると考えられた。</p> <p>②共同発表者名：森口里利子、今井克己、岩本昌子、中園栄里、<u>近江雅代</u>、津田博子</p> <p>③第62回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P284)</p>
5. 管理栄養士養成施設における学生の食品重量目測能力の実際	共著	2015年11月	第11回日本給食経営管理学会学術総会 (於 日本女子大学)	<p>①学生の食品重量目測能力の実際を把握することを目的とし、栄養学科3年次学生を対象に、実物の食品を用い、15品目の食品重量目測試験を実施した。目測重量平均値の標準誤差は14品目において大きく、学生の重量目測は個人差が激しいことが明らかとなった。また、平</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
6. 地域住民の健康増進のための食育活動の展開(第2報)～平成27年度事業概要および参加者アンケートの分析～	共著	2015年11月	第11回日本給食経営管理学会学術総会 (於 日本女子大学)	<p>均目測重量誤差率は『ごま』で非常に大きく、乾物等の軽量な食品の目測が困難であることがわかった。より一層の能力向上のため、目測試験に対する学習支援を強化するとともに、他科目との連携も必要であることが示唆された。</p> <p>②共同発表者名：<u>近江雅代</u>、青木るみ子</p> <p>③第11回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集(P45)</p> <p>①本学と九州歯科大学は連携公開講座を開催しており、本報告では平成27年度事業内容および参加者アンケート調査結果を報告する。参加者は第1回：136名、第2回：144名、リピーター数は第1回：66名、第2回：85名であり、本講座の好評さを窺えた。また、参加回数が増えるにつれ、健康的な生活習慣を心掛けていたことに加え、居住地は小倉北区(本学所在地)が50%強を占めたことから、地域密着型の食育活動の実現とその効果を確認できる取組の土台が構築できたと考える。</p> <p>②共同発表者：青木るみ子、<u>近江雅代</u>、境田靖子、辻澤利行、久保由紀子、坂巻路可、天本理恵、石本祐子</p> <p>③第11回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集(P51)</p>
				<p>教育研究業績 総数 (2016. 3. 31現在)</p> <p>著書3：(内訳：単0、共 3)</p> <p>テキスト2(内訳：単0、共 2)</p> <p>学術論文20(内訳：単1、共19)</p> <p>学会発表50(内訳：単6、共44)</p>

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・福岡大学医学部看護学科『食と生活』	非常勤講師	2008年4月～現在に至る
・中村学園大学大学院栄養科学研究科『臨床栄養学特論』	非常勤講師	2013年4月～現在に至る
・福岡県介護予防市町村支援委員会	栄養改善部会委員	2013年8月～現在に至る
・株式会社西鉄ストアとのコラボ商品(弁当・惣菜)の開発および提案	責任者	2014年3月～現在に至る
・西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	給食担当	2014年4月～現在に至る
・2015年度第2回西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座『残暑も乗り切れ！夏バテ知らずの食生活！～脱水・疲労注意報にご用心～』	講師	2015年8月29日
・平成27年度福岡県栄養士会生涯教育研修会『栄養素の消化と吸収(代謝)』	講師	2015年9月13日
・第62回日本栄養改善学会一般公演(口頭発表)生理・生化学『生活習慣病』	座長	2015年9月26日
・第62回日本栄養改善学会学術総会実行委員会	学術委員 査読委員	2015年9月24～26日
・2015年度第3回西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座『油(脂)と上手に付き合うには？～聴いて、訊いてディスカッション～油(脂)の賢い摂り方・使い方』	講師	2015年10月17日
・発酵 JAPAN in 九州健康生活セミナー『身体に美味しいぬかライフ』	講師	2015年11月7日
・日本ヌカ・オブ・ザ・イヤー2015	コンテスト審査員	2015年11月8日
・平成27年度第3回佐賀県保健体育研究会高等学校部会学校給食小部会研修会『学校における栄養指導のあり方～健康な生活習慣づくり～』	講師	2016年1月27日
・平成27年度九州国立病院管理栄養士協議会研修会『研究デザインの基礎知識』	講師	2016年2月6日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- 教務委員(2014年4月～現在に至る)
- 教育の質保障プロジェクト委員(2014年6月～現在に至る)
- 教務総合人間科学小員会委員長(2015年6月～現在に至る)
- 管理栄養士国家試験対策委員(2013年4月～現在に至る)

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	久保 由紀子	職名	准教授	学位	学士(教養)
----	--------	----	-----	----	--------

研究分野	研究内容のキーワード
栄養教育	乳幼児栄養の実際、栄養教育マネジメント 高齢者の栄養改善、栄養ケアマネジメント

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・2015年1月に実施した幼児期の食生活及び生活習慣調査から、幼児期の栄養の実際と体位との関連を考察する。また小児肥満予防を目的にした食育活動の展開とその効果についても考察する。 ・高齢者施設における栄養管理、経口摂取による栄養改善の方法について考察する。

担当授業科目
栄養教育論Ⅱ(前期) 栄養教育論実習Ⅰ(前期) 管理栄養士演習Ⅳ(前期) 栄養学概論(前期) 栄養教育論Ⅰ(後期) 栄養教育論実習Ⅱ(後期) 管理栄養士演習Ⅸ(後期) 臨床栄養活動論(後期) 臨地実習Ⅱ(後期) 卒業ゼミ(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 栄養教育論Ⅰ・Ⅱ 】 栄養教育の対象となる全てのライフステージ・ライフスタイル・健康度別に、栄養・健康上の特徴と問題点を捉え対処することができるよう、基礎的理論と併せて実際の場面におけるエピソードを交えて講義し、自ら考え判断する力が備わるよう指導した。
授業科目名【 栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ 】 栄養教育論で学んだ理論がどのように展開されていくのか、単なるコピーペーストではなく、各自がマネジメントサイクルの過程を理解し実践していくことができるよう授業を計画した。また、栄養教育は人を対象とした行為である。模擬指導を行い実施後の振り返りを議論で深め、自分の考えを纏めて他者に伝えることができるよう場面を設定した。
授業科目名【 臨床栄養活動論 】 学内の講義及び実習で学習した臨床の場における管理栄養士の活動について、理論と実際を総合的に理解し、臨地実習に向けて課題発見、解決できる力をつけることを目的に、テーマ別に外部講師を招聘し講義して頂いた。臨地実習の事前学習とすることができるよう、復習として講義後の考察、次週の予習として課題レポートを課した。

授業科目名【 臨地実習Ⅱ 】

実習先から課せられた課題について、学内で学んだ理論が実践の場ではどのように応用、展開されていくのか理解できるよう、具体的事例を示して添削指導した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本栄養改善学会 日本病態栄養学会		1973年4月～現在に至る 2000年4月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 1. 幼児期の食生活及び生活習慣と体位との関連 (第1報)	共	2015.9	第62回日本栄養改善学会 学術総会 (於 福岡国際会議場)	① 幼児期の肥満が成人期の生活習慣病の増加の一因になることが指摘されておりまた、幼児期は生活習慣の基礎づくりの時期である。「幼児期の体位、食生活及び生活習慣」の実態を把握し、今後の食育活動の基礎資料とすることを目的に調査し報告した。 ② 共同発表者名 天本理恵 ③ 第62回日本栄養改善学会学術総会要旨集 p. 256
2. 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取り組み～第1報	共	2015.9	第62回日本栄養改善学会 学術総会 (於 福岡国際会議場)	① 本学と九州歯科大学で実施している連携公開講座についての開講経緯及び概要についての報告を行った。 ② 共同発表者名 ○近江雅代、石本祐子、青木るみ子 他6名 ③ 第62回日本栄養改善学会学術総会要旨集 p. 304

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～第2報 参加者の満足度評価～	共	2015.9	第62回日本栄養改善学会 学術総会 (於 福岡国際会議場)	① 上記第1報で報告した大学連携事業(公開講座)参加者の満足度アンケート調査結果について報告を行った。 ② 共同発表者名 ○石本祐子、青木るみ子、境田靖子 他6名 ③ 第62回日本栄養改善学会学術総会要旨集 p. 304
4. 高血糖による一酸化窒素産生阻害に対する終末糖化産物形成抑制物質・抗酸化物質の影響	共	2015.9	62回日本栄養改善学会 学術総会 (於 福岡国際会議場)	① 高血糖による血管内日機能障害に対する有効成分について検討するため、高濃度のグルコースまたは低分子カルボニル化合物によって疎外された血管内皮由来培養細胞の一酸化窒素産生を指標として、終末糖化産物形成抑制物質及び抗酸化物質の影響について検討した。 ② 共同発表者 ○南里宏樹、藤原宏美 他4名 ③ 第62回日本栄養改善学会学術総会要旨集 p. 293
(その他) 北九州市小児保健研究会研究報告書	共	2015.7	平成27年度小児保健研究会理事会及び総会	① 北九州市子ども家庭局保育課が平成24年12月に実施した「生活活動アンケート」によると、4～6歳児の肥満の割合が平成24年学校保健統計に比較し高い結果となっている。そこで、今後の北九州市における「食育活動」展開のための基礎資料とすることを目的に、幼児期の食生活の実態についてアンケート調査を行い、肥満との関連を分析・考察して報告した。 ② 共同発表者 天本理恵 ③ 平成26年度 北九州市小児保健研究会研究報告書 p. 49

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

就職委員会 副委員長	2015年4月1日～2016年3月31日
西南女学院後援会 幹事	2015年4月1日～2016年3月31日
西南女学院大学生協同組合 理事	2015年4月1日～2016年3月31日
L. O. D 顧問	2015年4月1日～2016年3月31日
西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	2015年4月1日～2016年3月31日

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 坂巻 路可	職名 准教授	学位 博士(医学)(神戸大学 2005年)
----------	--------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
① 植物界に広く存在するポリフェノール類の生体内カテコールアミン動態に及ぼす影響について	① 副腎髄質細胞、カテコールアミン、ポリフェノール、フラボノイド
② 高齢者のニーズに基づいた介護食器の共同開発	② 介護食器、介護用箸・スプーン・フォーク

研究課題
① 「植物に含まれるポリフェノール類の生体内カテコールアミン分泌に及ぼす影響」 フランスでは動物性脂肪摂取量が多いにもかかわらず、心疾患による死亡率がイギリス等の他のヨーロッパ諸国に比較し低いという「フレンチパラドックス」の研究発表があり、食品との関連においてはワインの摂取量に差が認められ、ワイン含有のポリフェノールへの関心が高まった。本研究では、ワインのみならず植物に含まれるポリフェノール類の生体内カテコールアミン分泌に及ぼす影響についてウシの初代培養副腎髄質細胞を用いて検討を行い、精神面における鎮静作用の可能性を探求したい。
② 「高齢者のニーズに基づいた介護食器の共同開発」 高齢者施設等における現場のニーズに基づいた介護食器の開発を西日本工業大学と連携し行っている。

担当授業科目
総合人間学概論(前期)(栄養学科)
栄養学実習(前期)(栄養学科)
総合演習Ⅱ(前期)(栄養学科)
管理栄養士演習Ⅳ(前期)(栄養学科)
臨床栄養管理学(後期)(栄養学科)
臨床栄養学実習Ⅱ(後期)(栄養学科)
管理栄養士演習Ⅸ(後期)(栄養学科)
臨地実習Ⅱ(後期)(栄養学科)
国際栄養論(後期)(栄養学科)
栄養学(後期)(福祉学科)
健康と栄養(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【総合人間学概論】</p> <p>担当回の講義テーマでは、管理栄養士・栄養士のキャリアモデルについての解説を行った。様々な分野で活躍する管理栄養士・栄養士について紹介し、活動分野について視野が広まりまたその特性を理解でき関心が高まるよう講義の進め方を工夫した。各人のキャリア形成に役立つ情報提供を行い体験談も交えながら講義を行った。</p>
<p>授業科目名【栄養学実習】</p> <p>栄養学実習では、対象者の栄養状態を的確に評価・判定し具体的な栄養管理の方法を提案できる知識と技術の習得を目指している。各実習テーマ(身体計測、食事調査等)については、演習で解説したテーマについて、次の週に実体験できるよう実習計画がたてられている。各自が実施した結果を用いて考察し栄養状態の評価・判定が実践的に学べるよう進めていった。また、各ライフステージ(成人期、高齢期)で起こりやすい疾患についても演習と調理実習を組み合わせることにより、演習で得た知識を調理実習で実践的学びに繋げるよう実習日程を調整した。高齢期の栄養管理については、高齢者疑似体験セットを用い、実際に高齢者の体験を行った。また介護食器、介護用箸・スプーン等に触れ高齢者の体験をもとになぜそのような形状が必要なのかを考察することにより、より深い理解に繋がった。</p>

<p>授業科目名【総合演習Ⅱ】</p> <p>総合演習Ⅱでは、各テーマに沿った症例検討を行った。初めに病態について説明を行った後、まずは個人で考えをまとめさらにグループでディスカッションを行うよう時間配分を調整した。症例の病態及び栄養管理についてこれまで習得した知識を活用（応用）し理解が深まるよう演習を進めた。グループでまとめた意見はホワイトボードに示し、全体討議及び教員による解説を行い学生の相互理解を図った。</p>
<p>授業科目名【管理栄養士演習Ⅳ】</p> <p>管理栄養士演習Ⅳでは、関連する国家試験問題を解き、解説を行った。演習の初めに問題を解き、全ての問題について解説を行った。各選択肢については、関連事項も併せて解説し、図・表にまとめる等して理解を深めるよう指導した。解説後、正しく理解したうえで、各自で正文を作成するよう進めていった。学習ペースに合わせた時間配分も検討した。</p>
<p>授業科目名【管理栄養士演習Ⅸ】</p> <p>管理栄養士演習Ⅸでは、関連する国家試験問題を解き、解説を行った。本年度は各自、苦手な問題を克服するため間違った問題のみをまとめて、正文を作成し苦手分野を克服できるよう学習を進めていった。昨年と同様に後期は受講生が持っている参考書にも配慮した問題作成を工夫し、演習終了後も正答チェックがしやすいようにし、また理解度に応じ問題の難易度を高めた。</p>
<p>授業科目名【臨床栄養管理学】</p> <p>臨床栄養管理学では、昨年と同様にテキストに沿ったパワーポイント資料による講義を行い、必要に応じて板書を行った。また、講義パワーポイント資料は全て配布した。本年度は、予習が行いやすいよう講義資料を前の週に配布したが、当日講義資料を忘れてくる学生が数人いるため検討課題である。授業の最後に小テストを行い、学生の理解度を確認し、正答できていない問題は次の週に再度詳しく解説を行った。講義の感想・要望を書いて提出された中から、可能なものは改善を行っていった。</p>
<p>授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】</p> <p>臨床栄養学実習Ⅱでは、各テーマの疾患と栄養管理についてこれまで蓄積した知識・技術が実践的な学びに繋がるよう、実習を進めていった。昨年と同様に調理実習時は、テーマとなる疾患の病態について解説し、当日作る献立を示範して調理操作におけるポイントを説明し、どのように病態の栄養管理と結びつくか説明をした。配布資料は、事前に配布し、次回の実習の内容等を説明した。本年度も調理作業の工程表を作成させ、作業分担を決め担当者の記入を指示した。グループ実習では作業の負担割合の差が大きいと不平等感が生じるため、その軽減ができるよう毎年試行錯誤しているが、本年度においては学生からそのような意見は聞かれなかった。実習の円滑な進め方については、今後も改善・工夫に努める。</p>
<p>授業科目名【国際栄養論】</p> <p>国際栄養論では、日本及び世界の栄養問題について、各回のテーマに沿って解説を行った。受講生が少人数であったため講義については、学生の意見を取り入れながら進めていった。講義は各回テーマについて解説し、特定のテーマについては、図書館やパソコン室の利用また JICA 研修施設における体験学習を通して、情報収集を行い学びの深化を図った。</p>
<p>授業科目名【臨地実習Ⅱ】</p> <p>臨地実習Ⅱでは、医療施設における実践的な学びに備え、事前オリエンテーション及び直前オリエンテーションが行われる。また事前学習においては、学生に応じた個別の指導を行った。実習施設の課題については、指導を重ね速やかに実習が開始できるよう、準備を進めた。実習期間は、巡回指導を行い学生の実習状況の把握に努めた。実習終了時には、実習ノートの提出や実習報告会が行われ、各医療施設における体験や学びを共有し相互理解を図った。</p>
<p>授業科目名【栄養学 福祉学科】</p> <p>福祉学科の「栄養学」では、講義テーマに関連する事項や新聞記事等を積極的に活用し、日常生活に関連づけて栄養学をより身近に感じ学習が円滑に進められるよう工夫した。授業に対する感想や要望に関しては、提出された内容を参考にしながら、講義を進めていった。栄養素の種類が多く、学生が混乱しやすい場合は、ブレイクタイムを設け、講義テーマに関連する情報提供等を行い、学生が集中して講義に臨めるよう努めている。</p>

授業科目名【健康と栄養 看護学科】

「健康と栄養」は、看護学科の1年生を対象としている。各講義テーマについては、関連分野の情報提供を行い、より身近に「栄養」を感じてもらうように工夫した。学生からは情報収集のための資料の検索方法について、質問があり興味を持って学習に臨んでいることが視えた。食事調査の説明の際には、実際に食事摂取状況について学生同士で簡単なアンケートを行ったり、BMI や理想体重を実際に算出し結果を確認することでより実践的な学びに繋げた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本栄養・食糧学会		2004年～現在に至る
日本栄養改善学会		2004年～現在に至る
日本薬理学会		2006年～現在に至る
日本公衆衛生学会		2006年～現在に至る
日本栄養士会		2005年～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 1.地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～ (第1報)	共	平成 27 年 (2015年)9月 24日(木)～ 26日(土)	第62回日本栄養改善学会学術総会 2015.9.25発表	① 西南女学院大学と九州歯科大学は、2014年度より教育研究資源を相互に有効活用した特色ある取組として、連携公開講座を開催している。第1報では、本事業の経緯ならびに概要についての報告。 ② 近江 雅代, 石本 祐子, 青木 るみ子, 境田 靖子, 辻澤 利行, 天本 理恵,

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第2報：参加者の満足度評価～	共	平成27年(2015年)9月24日(木)～26日(土)	第62回日本栄養改善学会学術総会 2015.9.25発表	久保 由紀子, 坂巻 路可, 田川 辰也 ③ 2P-123 ① 西南女学院大学および九州歯科大学は、大学連携事業として「食と健康」に関する啓発活動を通して、地域と大学との連携を深め、地域住民の健康増進に貢献することを目的とした連携公開講座を開催している。第2報では、参加者のアンケート集計結果についての報告。 ② 石本 祐子, 青木 るみ子, 境田 靖子, 辻澤 利行, 天本 理恵, 坂巻 路可, 久保 由紀子, 田川 辰也, 近江 雅代 ③ 2P-124
				教育研究業績 総数 (2016年3月10日現在) 著書 7 (内訳 単0, 共7) 学術論文 16 (内訳 単0, 共16) 学会発表 27 (内訳 単0, 共27)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	2015年度西南女学院大学共同研究費	清末達人 他看護・福祉・生活創造・栄養学科教員、九州歯科大教員	869,400
高齢者のニーズに基づいた介護食器の共同開発	H27年度私立大学等啓上費補助金特別補助項目:「平成27年度大学間連携等による共同研究」	坂巻路可	1,020,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
産業医科大学訪問研究員	訪問研究員	2004年4月～現在に至る
福岡県研究教育栄養士協議会	運営委員及び連絡委員	2010年4月～現在に至る
2015年度 西南女学院大学教員免許 状更新講習 「生活習慣病予防と食品 の機能成分」	講師	2015年8月19日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）		
国際交流委員	委員	2009年4月～現在に至る
国家試験対策委員	委員	2009年4月～2014年3月31日、2015年4月1日～現在に至る。
COC+に関わる学内組織 企画運営部門の中に実行部門（A）：連携講義担当者会部門メンバー		2015年1月～現在に至る

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 相良かおる	職名 准教授	学位 博士(工学) 奈良先端科学技術大学院大学
----------	--------	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
情報科学: 自然言語処理	自然言語処理 辞書 データベース 医療用語 日本語学 語彙調査 語彙分類

研究課題
医療文書の分かち書き用辞書 ComeJisyo を作成し無償公開している。 医療記録文書に含まれる実践医療用語を対象とし、語彙調査および語彙分類に関する研究に着手している。

担当授業科目
情報科学演習 I (前期) (栄養学科) 現代社会と統計 (前期) (栄養学科) 情報科学演習 II (後期) (栄養学科) 健康情報処理論 (前期) (栄養学科) 健康情報処理実習 (後期) (栄養学科) 卒業研究演習 (通年) (栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 情報科学演習 I】履修生: Aクラス 55名、Bクラス 53名 栄養学科では初年時導入教育を行っていない。そこで、本科目で情報検索を含むレポートの作成法やモル及濃度等の計算についての授業を行うこととし、オリエンテーション時に履修するようにアナウンスしており、科目であるが1年生のほぼ全員が履修している。</p> <p>そして上記内容に加え、情報処理に必要な基本的知識、クラウドコンピューティングやSNS等の最新のICTに関する情報、そしてインターネット犯罪の現状および情報倫理などの講義と、Word及びExcelの基本操作の演習が含まれる。タイピング教材には日本国憲法全文と、管理栄養士国家試験に頻出するカタカナ語を用いている。また、1年前期の授業であることから、図書館の協力を得て、図書館の活用法および図書検索の演習を行っている。</p>
<p>授業科目名【 情報科学演習 2】履修生: 30名 本授業では、Wordの演習としては、「ネット依存症の予防」等の実用的なパンフレットの作成、Excelの演習としては、銀行およびクレジット会社で使われている利息計算、そしてジェンダー統計や生活基本調査等の統計資料を用いた情報の加工と表現法を行っている。また、図書館の協力を得て、文献・情報検索の演習をした後、自分の住む地域について調べ、問題点を明らかにした上で、地域活性化事業を提案し、レポートにまとめ、PowerPointを使ったプレゼンテーションの演習を行っている。パンフレットおよびプレゼンテーションについては、評価票を用いてクラス全員で評価し、成績評価に反映している。</p>
<p>授業科目名【 現代社会と統計 】履修生: 100名 栄養学科1年前期開講の選択科目であるが、2年次開講の必須科目「健康情報処理論・実習」、「公衆衛生学」の前提知識となる記述統計学を教えることから、出来るだけ履修するようにオリエンテーション時にアナウンスしており、1年生ほぼ全員が履修している。</p> <p>授業の最初10分程を使い、四則演算の簡単な計算や塩分の濃度計算などを行い、分数や少数について学び直している。そして講義60分の後、確認のための小テスト20分を行い、理解度を確認し次回の授業速度の調整を行っている。</p>

また、記述統計や比率の計算を身近な便利なものと認識できるように、廃棄率・可食部の計算とバラツキ（標準偏差）についての授業を終えた頃に、野菜・果物などの食材を実際に購入して重量を測り、バラツキを観察し、またそれらを調理する過程で食品成分表の廃棄率と実際に測定した廃棄率を比較しレポートにまとめる課題を課している。

授業科目名【 健康情報処理論 】履修生：Aクラス 59名、Bクラス 59名
 マスメディアやインターネット上で流布している健康情報の信頼性の評価方法と、自分が必要とする健康情報の収集方法、そして科学的根拠を示す上で基本となる推測統計学の基本を教える授業であるが、適切な教科書がなく、毎回資料を配布して授業を行っている。「フードファディズム (Food faddism)」と「3た論法 (飲んだ、治った、効いた)」については、具体的な事例を紹介し、また身近にある事例を見つけて信頼性を評価するレポート課題を課し、問題解決型の授業を行っている。
 資格取得のため、膨大な知識を暗記する科目が多いことを踏まえ、本授業では、暗記型、一方向型の講義ではなく、学生自身で情報を吟味し、問題を見付け、意思決定する過程を学ぶ「教えない」授業を心掛けている。

授業科目名【 健康情報処理実習 】履修生：Aクラス 46名、Bクラス 45名
 本授業は、「現代社会と統計」、「健康情報処理論」で学んだ知識を前提とし、「栄養疫学 (栄養学研究)」や「公衆栄養」に必要な統計的手法を学ぶ必須科目である。管理栄養士として調査研究する際に必要な、食に関わるアンケート調査票の作成、実施、集計、分析、報告書の作成という一連の流れに沿って学生参加型、共同学習型の授業を構成し、成果物が卒業後も活用出来るように、教材（統計分析やグラフ作成用課題の Excel シート等）を作成している。また、評価においてもグループ評価 20%、課題提出 20%、授業貢献 10%とし、毎回の授業の取組を評価するようにしている。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
情報処理学会		1996年
教育工学会		2000年
医療情報学会		2002年
日本看護科学学会		2004年
大学女性協会		2008年
日本女性科学者の会		2009年
言語処理学会		2011年
情報知識学会		2014年

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表) 経過記録に含まれる誤字・誤変換と同義語・類義語の紹介	共著	2015.7	第16回 日本医療情報学会看護学術大会 論文集 p.110-113	看護経過記録に含まれる誤字パターン(明らかな誤字、誤変換から新語となり常用されているもの等)の分析結果について報告している。
				教育研究業績 総数 88 (2014.2.1現在) 著書 1 (内訳 単0, 共1) 学术论文 14 (内訳 単0, 共14) 詳細抄録 28 (内訳 単2, 共26) 紀要 6 (内訳 単2, 共4) 翻訳 1 (内訳 単0, 共1) 調査報告 2 (内訳 単0, 共2) その他 8 (内訳 単3, 共5) 口頭発表 19 (内訳 単0, 共19) ポスター発表 4 (内訳 単0, 共4) 特許出願公開 5 (内訳 単0, 共5)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
小児・母性領域で使われる実践看護用語の語彙調査	学内共同研究	○相良かおる、 小野正子	540,000

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
実践医療用語辞書 ComeJisyo プロジェクト (特定非営利活動法人 言語資源協会正会員)	代表	2012年～現在
ふくおか県「翼の会」第28回総会	議長	平成27年6月7日(日)
一般社団法人 日本女性科学者の会 (SJWS) 平成27年度 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業 シンポジウム 「親子で考える理系の夢への挑戦	ファシリテーター	平成27年12月20日(日)

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- ◆ 図書委員
- ◆ 宗教委員 (2015.10 栄養学科公開講座)
- ◆ 個人情報保護委員
- ◆ 演劇部 顧問

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	天本理恵	職名	准教授	学位	博士(医学)九州大学2012年
----	------	----	-----	----	-----------------

研究分野	研究内容のキーワード
応用栄養学 分野	小児栄養、母性栄養、栄養指標(臨床検査)、生活習慣病(主に癌、加齢性疾患)とミトコンドリア

研究課題
<ol style="list-style-type: none"> 生活習慣病(主に癌や加齢性疾患)とエネルギー代謝(ミトコンドリアを中心に)との関連を形態学、分子生物学的に検討する。 新しい栄養指標となるような血液中のタンパク質を見つける。 戦中、戦後の低栄養の時代の妊婦の栄養素摂取量と現在の生活習慣病との関連や、妊娠前・妊娠中の体位の変化と低出生体重児出生との関連、および極低出生体重児の成長、発達と栄養管理等について考察する。 幼児と保護者の食生活および生活習慣に関する実態調査を行う。

担当授業科目
応用栄養学Ⅰ (後期 栄養学科) 応用栄養学Ⅱ (前期 栄養学科) 総合演習Ⅰ (前期 栄養学科) 総合演習Ⅱ (前期 栄養学科) 応用栄養学実習 (後期 栄養学科) 管理栄養士演習Ⅲ (前期 栄養学科) 管理栄養士演習Ⅷ (後期 栄養学科) 臨地実習Ⅰ (後期 栄養学科) 卒業ゼミ (通年 栄養学科) 栄養学概論 (前期 栄養学科) 母子栄養学 (前期 助産別科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 応用栄養学Ⅰ,Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概論(講義は1回のみ) 】 <ol style="list-style-type: none"> 視覚教材に Power Point を使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。 1の教材を印刷したプリントと、関連資料を毎回配布し、重要なところをマークさせた。また、Power Point 教材だけでは不十分なところについては、黒板を使用して図式化し、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書+スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説して回収し次の講義の時に返却した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。小テストに質問や感想が書いてある時はそれに必ず答えて返却した。2015年度応用栄養学Ⅱ受講生は、多くの学生が、この小テストに意見や感想、質問を書いてきており(応用栄養学Ⅰの受講生(2年生)は質問する学生が少なかった。)、さらに前期授業評価で、この講義は将来役に立ちそうだという評価を受ける出来たので、応用栄養学への関心の高さが伺えた。 以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。

授業科目名【 応用栄養学実習 】

毎年度ではあるが、この実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、特殊な食品を使用した献立や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにした。この実習を行うために粉ミルクメーカーや食物アレルギー用の食品等（特殊食品）の会社に協力をお願いした。実習では、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養補給法のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養学上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えた。今年も書類上の献立作成では不安な料理や製菓に関しては、助手（教育支援職員）の方たちと一緒に勤務時間外に試作を行うなどして検討した。（この実習は講義時間だけでなくその前後に多くの時間を要してしまう実習であるため、この実習が行えるのは助手の先生方が手伝って下さるおかげだと感謝しています。）学生にとって有意義な実習になるように今後も改善を行っていく。

授業科目名【 総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ 】

総合演習Ⅰは、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、媒体作成、プレゼンなど、もう一人の担当教員および助手教員とともに演習時間外も含め、指導に尽力した。特に、媒体作成に関しては、演習時間外の多くの時間をさいて、学生個々に合わせた個別指導、助言を行った。この科目に関しては、今後も個別指導を徹底していく。

授業科目名【 管理栄養士演習Ⅲ、Ⅷ 】

管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回テーマ別に試験問題を作成し、実施した。その問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は出来るだけ板書し、何度も学生に書き取らせることで、理解を促した。毎回、前回テストの正解率を表にしたものを作成し、正解率の低い問題にはアドバイスやポイントを書いて配布して復習させた。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設しているブラッシュアップ講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。前期授業評価では、上記の講義形式が学生の理解を促しているとの評価を受けており、今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。

授業科目名【 卒業ゼミ 】

今年度から、福祉学科が開いている極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』にゼミ活動の一環として、学生たちを参加させた。提供する間食の作製やレシピの作成、ほほえみの会の親子を支援するための教育媒体の作成など、試作、訂正を繰り返しながら、学生たちが主体的に動けるようにそのサポートを行った。また福祉や看護の学生たちと共に企画から実施、評価を行うことで、学生たちに自然と協働の精神が育まれていると考える。

授業科目名【 母子栄養学 助産別科 】

視覚教材に Power Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。また調乳については講義だけではなく、実際に学生たちに調理して（調乳して）もらうことで、乳汁栄養に関する理解を促した。さらに母性の栄養補給法に関して、実習先での課題があれば出来る限りのアドバイスを行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会		2002年4月～現在に至る
日本栄養改善学会		2002年4月～現在に至る
日本栄養・食糧学会		2002年11月～現在に至る
日本臨床栄養学会		2004年4月～現在に至る
日本癌学会		2010年6月～現在に至る
日本分子生物学会		2012年9月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. イラスト 応用栄養学 (第2版)	共	2015. 4	東京教学社	①応用栄養学 (ライフステージ別の栄養管理、食事摂取基準、スポーツ栄養、特殊環境下の栄養) の各項目について、イラストを多く使い、出来るだけ平易な文章表現で記載しており、学生の理解を促しやすい教科書になっている。第2版は食事摂取基準 2015 年版に準拠させ書き直している。 ②田村明、天本理恵、熊原秀晃、藤木理代、三田有紀子、大和孝子 著 ③担当部分 第4章 妊娠・授乳期 第5章 新生児・乳児期 (p.64~119) 総頁 p.297 ④B5判
(学術論文) 1. The Expression of Ubiquitous Mitochondrial Creatine Kinase Is Downregulated as Prostate Cancer Progression			Journal of Cancer 2016; 7(1): 50-59	①ミトコンドリアクレアチンキナーゼ (MtCK) は、エネルギー (ATP) 供給に必要な酵素であるが、この MtCK は悪性度の高い前立腺癌組織および細胞において、発現は低く、正常組織や悪性度の低い癌で高発現であった。また解糖系の酵素であるヘキソキナーゼは癌組織において MtCK とは逆の発現を示した。よって、前立腺癌においては、悪性度があがるにつれて、MtCK の発現を抑え、ATP 供給の機構を解糖系に移行させていることが考えられた。 ②Rie Amamoto, Takeshi Uchiumi ¹ , Mikako Yagi ¹ , Keisuke Monji ¹ , YooHyun Song, Yoshinao Oda, Masaki Shiota, Akira Yokomizo, Seiji Naito, Dongchon Kang ③担当部分 研究全般、論文作成

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1. 幼児期の食生活および生活習慣と体位との関連性 (第1報)	共	2015. 9	第62回 日本栄養改善学会 学術総会 (於 福岡国際会議場)	①幼児期の子どもの食育活動の基礎資料を得ることを目的に、北九州市保育士会および私立幼稚園連盟に調査協力を依頼し、承諾を得た22施設の4, 5歳児対象に、児と保護者の食生活、生活習慣、体型に関する親の意識と児の体位との関連を解析、考察を行った。 ②共同発表者名：○久保由紀子 天本理恵 ③第62回日本栄養改善学会学術総会要旨集 p. 256
2. 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～第1報	共	2015.9	第62回 日本栄養改善学会 学術総会 (於 福岡国際会議場)	①本学と九州歯科大学で実施している連携公開講座についての開講経緯および概要についての報告を行った。 ②共同発表者名：○近江雅代 石本祐子、青木るみ子 他6名 ③第62回日本栄養改善学会学術総会要旨集 p. 304
3. 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～第2報 参加者の満足度評価～	共	2015.9	第62回 日本栄養改善学会 学術総会 (於 福岡国際会議場)	①上記第1報で報告した大学連携事業(公開講座)参加者の満足度アンケート調査結果について報告を行った。 ②共同発表者名：○石本祐子、青木るみ子、境田靖子 他6名 ③第62回日本栄養改善学会学術総会要旨集 p. 304
4. 高血糖による一酸化窒素産生阻害に対する終末糖化産物形成抑制物質・抗酸化物質の影響	共	2015.9	第62回 日本栄養改善学会 学術総会 (於 福岡国際会議場)	①高血糖状態が引き起こす終末糖化産物や活性酸素の生成が、血管内皮機能の障害に関係していることが考えられ、今回の検討で、終末糖化産物形成抑制物質を含む食品の利用が糖尿病等の血管障害を予防する手段として有効である可能性が考えられた。 ②共同発表者名：○南里宏樹、藤原宏美 他4名 ③第62回日本栄養改善学会学術総会要旨集 p. 293

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5. Mitochondrial p32 supports Ras-dependent oncogenic transformation	共	2015.10	第74回日本癌学会学術総会 (於 名古屋国際会議場)	①前立腺癌培養細胞において、Ras 依存性の形質転換にはミトコンドリアタンパク質である p32 が必要なことが考えられた。 ②共同発表者：○内海健、門司 恵介、天本理恵、塩田真己、横溝晃 ③第74回 日本癌学会学術総会 要旨集 (電子)
6. 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～(第2報)	共	2015.11	第11回日本給食経営管理学会	①本学栄養学科と九州歯科大との連携で実施した公開講座についての報告を行った。 ②共同発表者名：○青木るみ子、境田靖子、石本祐子、近江雅代 他4名 ③第11回日本給食経営管理学会抄録
7. 西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部における FD の展開～教職員のハートに火をつけろ～	共	2015.12	Q カンファレンス 2015 (九州地区大学教育改善 FD・SD ネットワーク (Q-Links) のカンファレンス) (於福岡教育大学キャンパス)	①2012年度よりボトムアップのFD研修会を始めて以降、当初より目的に掲げた「主体的なFD」の実現に向けて、FD研修会企画委員会を中心に、大学全体としての教育力アップに向けて、計画的、継続的に取り組んできた。このカンファでは、2013年度から2年間の本学FD活動、及びそれに伴う教職員の意識の変化について報告した。 ②共同発表者：○上村眞生、他 西南女学院大学FD委員 ③Qカンファレンス2015資料集
(その他) 報告書 1. 幼児期の食生活および生活習慣と体位との関連性	共	2015. 6	平成 26 年度 北九州市委託事業 北九州市小児保健研究会研究報告書	①幼児期の子どもの食育活動の基礎資料を得ることを目的に、児と保護者の食生活、生活習慣、体型に関する親の意識と児の体位との関連を解析、考察を行い、報告書を作成した。 ②共同作成者：○久保由紀子、天本理恵 ③北九州市小児保健研究会研究報告書 p.49-61

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績 2015年度 著書 1 (内訳 単0, 共1) 学術論文 1 (内訳 単0, 共1) 学会発表 7 (内訳 単0, 共7) その他 1 (内訳 単0, 共1)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○清末達人、近江雅代 他栄養学科全 教員、他学科各 科長	869,400
阿蘇地域における地域食材の活用について	西南女学院大学共同研究費	○八尋春海、天本理 恵	387,000
市町との連携による母子保健対策の構築のための調査	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所研究費	○境田靖子、天本理 恵、由田克士	82,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）	
大学点検評価改善会議FD部門 委員	2012年4月～現在に至る
将来計画 教育の質保証部門 委員	2012年12月～現在に至る
学生募集 委員	2014年4月～現在に至る
西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座 実施スタッフ	2014年4月～現在に至る
ほほえみの会（主担当 福祉学科 野井 准教授）における 栄養相談等の栄養士業務、子供の遊びの支援	

チアリーディング部（レース）顧問

2014年4月～現在に至る

2002年4月～現在に至る

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 古田 吉史	職名 准教授	学位 博士(農学)(九州大学 2009年)
----------	--------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
農芸化学、プロセス工学	応用微生物学 食品科学 生物機能・バイオプロセス

研究課題
<p>～ 北九州の伝統食の一つである『糠漬け(糠床)』に関する研究とモノ造り ～</p> <ol style="list-style-type: none"> 米糠からオリジナル糠床の作製(モノ造り) ⇒10・20年先を見据えて各年度の糠床を保存・継承する 北九州近郊に伝わる100年糠床からの有用微生物の分離 (食材への接着性が高い・生残性が高い・特殊な生産物を生産する乳酸菌や酵母 etc) 分離した植物性乳酸菌や酵母の糠床への応用(風味改良・減塩糠床の作製 etc) 該植物性乳酸菌の他の加工食品への応用

担当授業科目
食品学Ⅱ(前期)(栄養学科)×2クラス フードスペシャリスト論(前期)(栄養学科)×1クラス 食品栄養実習(前期)(栄養学科)×2クラス 管理栄養士演習Ⅲ(前期)(栄養学科)分担 食品学Ⅰ(後期)(栄養学科)×2クラス 食品流通・消費論(後期)(栄養学科)×1クラス 食品学実験(後期)(栄養学科)×2クラス 管理栄養士演習Ⅳ(後期)(栄養学科)分担 健康と栄養(後期)(看護学科)分担

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【食品学Ⅱ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 食品学Ⅰとは異なり食品学Ⅱは、実際の食品により近い内容であるため、学生に理解しやすいようにできる限り多くの具体例を挙げて説明することを心掛けた。 同時期に開講する食品栄養実習(加工食品の製法や特性について学ぶ)での実体験に講義内容を極力リンクさせることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。 講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。 講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。
<p>授業科目名【フードスペシャリスト論】</p> <ol style="list-style-type: none"> フードスペシャリスト資格の導入科目であるため、学生にとって馴染みのないフードスペシャリスト資格についての内容や特徴、資格が活かせる職業分野の実状について分かり易く説明することを心掛けた。 本科目はフードスペシャリスト資格要件科目全般の網羅的な内容であるため、できる限り広範囲に広く・浅く、を心掛けて教授した。 講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。 講義終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。

<p>授業科目名【食品栄養実習】</p> <p>①同時期開講の食品学Ⅱの内容を、実体験を通して具体的に！より深く！真剣に・楽しく学ぶ！ことに重点を置き、授業に臨んだ。</p> <p>②食品学Ⅱの講義内容を極力リンクさせること、並びにレポートの項目ごとに課題を与えて自ら調べてまとめる機会を提供することで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。</p> <p>③実習書や食品学Ⅱの講義でカバーしきれない内容については、適時配布資料を準備し学生に配布した。</p> <p>④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p>
<p>授業科目名【管理栄養士演習Ⅲ及び管理栄養士演習Ⅷ】</p> <p>①過去6年分の国家試験の内容を網羅した参考資料を作成して学生に配布。</p> <p>②参考資料をベースに、知識のすり込みを図るために国家試験6年分の問題の解説を繰り返して実施。</p> <p>③食品表示制度など、今期より追加された新規事項についての資料を作成して学生に解説。</p>
<p>授業科目名【食品学Ⅰ】</p> <p>①講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布。</p> <p>②講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p> <p>③食品学Ⅰは、学生らにとって苦手なサイエンス色が強い科目であるため、極力分かり易く、伝える内容をシンプルに！ゆっくり！丁寧に！を心掛けて講義を実施した。</p> <p>④同時期に開講する食品学実験での実体験に講義内容を極力リンクさせることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。</p>
<p>授業科目名【食品流通・消費論】</p> <p>①講義における学生の集中力と習熟度の向上を図るために、毎回穴埋め式のテキストを学生に配布。</p> <p>②フードスペシャリスト資格の必須科目であるため、講義終盤の「まとめと振り返りテスト」として、資格認定試験の過去問題を学生に解かせ、併せて解説し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p> <p>③食品の開発・流通・販売・消費の各場面における諸問題に対する学生らの関心を喚起し、学生自らがそれらに関する情報を収集してまとめる機会を提供するために、レポート課題を学生らに与えた。</p>
<p>授業科目名【食品学実験】</p> <p>①各器具の名称や取扱い方法など、まず「実験の基礎を学ぶ」ということを大前提として、同時期開講の食品学Ⅰの内容を実体験を通して、具体的に！分かり易く学ぶ！という事に重点を置いて授業に臨んだ。</p> <p>②食品学Ⅰの講義内容を極力リンクさせる（再度、思い起こさせる）ことで、学習内容のより効果的なすり込みを図った（レポートは、学生の記憶が薄れないように項目ごとに提出するよう促した）。</p> <p>③実験書や食品学Ⅰの講義でカバーしきれない内容や文科省による分析法等の改訂内容等については、適時配布資料を準備し学生に解説した。</p>
<p>授業科目名【健康と栄養】</p> <p>①食品にあまり馴染みのない看護学科の学生たちの食品への興味・関心を喚起するために、食品が持つ栄養特性や危険性のみならず、「日頃から食している食物の分類や加工特性等についても楽しく学ぶことができる」ということを心掛けて講義に臨んだ（食品に関する豆知識や雑学的な要素を多く盛り込んだ）。</p> <p>②講義における学生の集中力と習熟度の向上を図るために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生物工学会	正会員	1995. 4～現在に至る
日本農芸化学会	正会員	1997. 4～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 最新 食品学 — 総論・各論 — (第4版)	共著	2016. 3. 23	(株)講談社サイエンティフィック	① 本書は、食品成分や個々の食品の特徴などを、食品学を学ぶ学生や一般の方々に分かり易く解説するものであるが、日本食品標準成分表 2015年版の発行、食品関連の法規制の改訂、社会情勢の変化等を考慮して、最新版に改訂した。 ② 監修者名： 石川洋哉、甲斐達男 共著者名： 石本裕子、古田吉史、他7名 ③ 担当部分 第5章 食品各論 「乳および乳製品」「コンビニエンス食品」「調味料（食塩）」 (P171～P180、P198～P210) 総頁数 P228 ④ A4版
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
				教育研究業績 総数 42 著書 1 (単0、共1) 学術論文 12 (単1、共11) 学会発表 20 (単0、共20) 特許 9 (登録8、出願1)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

1. シニアサマーカレッジにおける講義（2015. 9. 25 「みなさんの味と香りへの感度を知りましょう！」）
2. 2015年度第3回FD研修会（2015. 12. 8）における講演「2015年前期の授業準備性について」
3. 入試問題作成業務
4. 管理栄養士国家試験対策ブラッシュアップ支援（前期・後期・夏休み・春休み）
5. フードスペシャリスト資格認定試験の諸手続き（主担当）
6. 九州歯科大との連携公開講座への参画
7. 大学入試センター試験監督業務（2016. 1. 17）

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	青木 るみ子	職名	講師	学位	修士(栄養学)(神戸学院大学 2004年)
----	--------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
健康教育学 栄養学 食教育	青年期・食教育・ライフスキル・ボディイメージ 高齢者・栄養評価・嚥下機能 幼児期・学童期・食育

研究課題
1. ライフスキル形成を基礎とするボディイメージ改善教育の検討 2. 青年期の生活習慣と健康および幸福感に関する研究(大学生健康・栄養調査:多大学共同研究) 3. 幼児期を対象とした食教育の現状調査～保育園と幼稚園における教育者および実施内容の検討～ 4. 児童およびその保護者を対象とした食育料理教室の実施と教育効果の検討 5. 高齢者福祉施設における非侵襲的栄養評価および嚥下機能評価の検討

担当授業科目
栄養学概論(1年前期) 給食計画論(2年前期) 給食経営管理論(2年後期) 給食経営管理実習Ⅰ(2年後期) 給食経営管理実習Ⅱ(3年前期) 総合演習Ⅰ(3年前期) 臨地実習Ⅰ(3年後期) 管理栄養士演習Ⅴ(4年前期) 管理栄養士演習Ⅹ(4年後期) 卒業ゼミ(4年通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【給食計画論】2年前期科目</p> <p>後期開講科目である給食経営管理実習Ⅰ(以降、実習Ⅰとする)の基盤となる科目である。</p> <p>本講義では、給食システムの「栄養・食事管理」業務を重点的に解説している。給食を提供するための栄養・食事管理の内容として、①対象者の栄養アセスメント、②食事摂取基準2015年版の給食管理における活用、③献立立案、④栄養・食事管理の評価、改善、について演習を通して理解と実務の習得を促した。講義を行うための資料としては、指定教科書を中心に行うが、行政通知などの追加資料および重要ポイントをまとめたPPを活用した。また、実習Ⅰ(後期)の栄養・食事管理の資料とするため、履修学生個人の栄養アセスメントを実施させた。得られた情報を教員が集約し、実習Ⅰの資料として活用する旨の説明を行った。前年度も指摘したが、食事摂取基準については理論を学ぶ科目が本講義の後発となるため、この基準の根拠が理解できていない状況での活用となるため、カリキュラム変更の必要性を感じる。</p> <p>本講義では、実習Ⅰに必要な知識として「食材料管理」や「生産・提供管理」、「衛生管理」も詳細に解説している。特に「生産・提供管理」に関しては、給食の品質に大きく影響する管理事項であるため、履修学生には、本講義と当時開講されている給食経営管理実習Ⅱ(3年前期:以降、実習Ⅱとする)の給食試食および試食に関するレポート提出を義務付けている。試食の回数としては2回であるが、「給食」を経営管理する責任者としての管理栄養士の位置づけや、「献立作成」、「生産・提供管理」の難しさ、「衛生管理」の重要性を意識する良い機会となっている。同時に、学生の実習Ⅰへの向学意欲の向上効果を確認することができた。</p>

授業科目名【給食経営管理論】2年後期科目

各種給食施設の特徴及び給食における経営マネジメントを中心に学ぶ科目である。経営学の要素が多く含まれるため、時事ニュースや企業が展開している経営マネジメントやマーケティング、環境分析の実例を挙げ、それに基づいた理解を促した。本講義の中では、同時開講となる実習Ⅰの帳票類全般の解説も行っている。会計・原価管理に必須の「損益分岐点分析」や食料原価の管理に必要な「ABC分析」等を演習することにより、実務につながる内容とした。衛生管理に関しては給食計画論で解説しているが、食中毒事故を防止するためにも重要な内容であるため、「大量調理施設衛生管理マニュアル」に則した帳票の確認も行い、周知徹底に努めた。さらに、3年生後期に控える臨地実習Ⅰの実習先の概要把握に必要な内容として、各給食施設の特徴に関して、各施設の基本事項を重点的に説明し、臨地実習に向けての学習内容として理解を促した。給食経営管理分野の専任となり3年目であるが、講義科目と実習科目の連携が円滑に進められたと確信できた1年であった。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ】2年後期科目

給食における対象者の把握、献立作成業務、大量調理の理論と実際を学ぶ実習である。給食施設における食事の提供のために、対象者の栄養アセスメント、栄養管理、献立作成、調理工程管理、提供管理、原価管理等の管理栄養士業務の一連の流れについて実習を通して習得できるよう指導を行った。実習Ⅰでは、「栄養・食事管理」、「食料管理」、「生産・提供管理」、「衛生管理」を重点的に指導している。1クラスを8班編成とし、4班単位で一連の業務を担当させている。その際、「管理栄養士」班を1班設け、実習全体の管理者としての責務を課した。本年度の学生は、調理実習で身につけるべき基本的な技術が未熟であったため食材の取り扱いの基礎から指導せざるを得なかった。衛生管理に関しても軽視しているところがあり、厳しく指導を行った。生産工程、また、給食施設で備える義務のある帳票などの書類の書き方等1つ1つについて細かく注意をし、丁寧に指導した。特に、本実習の重点項目である「生産管理」に関して、大多数の学生が作業工程の作成能力を修得できていることが定期試験で確認できた。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅱ】3年前期科目

実習Ⅰに引き続き、1クラス8班編成で実習を実施した。本実習は、「給食計画論」で集約した履修学生の栄養アセスメント情報をもとに、「給与栄養目標量」を算定し、これを基準に各班で「女子大学生対象給食献立」の立案を「実習Ⅰ」の課題として行い、献立をもとに提供食数120食の「生産計画」をし、実施・提供をするものである。「給食経営」という特殊分野の理解を深めるため、「給食計画論」～「給食経営管理実習Ⅰ」～「本実習」というように、連動した内容としている。

実習を進めるにあたり、実習Ⅰ同様に、4班単位で業務を行わせ、「管理栄養士」業務担当班に管理者としての責務を課した。本実習では、実際に給食の食券販売を行い、現金管理を行わせ、食品納入業者との対応を通して、特定給食施設の運営および経営管理を行う上での管理責任者としての意識付けを行っている。また、生産管理工程に関しては管理栄養士担当班が中心となり指示・管理をし、人事管理の難しさを経験できるようにしている。提供する給食の献立は実習Ⅰで作成しているため、そのままでは若干季節感に乏しい場合がある。そのため提供期間中に出回っている食品の価格、品質を見ながら、適宜、献立の変更を行わせ、給食提供に反映させている。この対応は、実際の給食施設でもされていることであるため、良い経験となっていると考える。

本実習のみならず、実習Ⅰに関しても、「給食」にはその対象者が必ず存在することから、各管理業務を行わせる過程で担当教員からは非常に厳しい指導を入れている。さらに、給食を提供するにあたって、提供当日の準備のみでは時間内の終了が難しいため、授業時間外での前日準備や指導を実施している。時間外の準備に関しては、学生の空き時間等を活用し、比較的、負担の無いように配慮を行っている。

授業科目【総合演習Ⅰ】3年前期科目

3年後期科目である「臨地実習Ⅰ（給食の運営）」のための事前指導を中心とした科目である。学外での最初の実習であるため、一般常識の定着のため外部講師による「マナー講習」を導入している。また、「高齢者施設」、「児童福祉施設」の現役栄養士・管理栄養士による給食管理業務の実際に関する講義を行うことで、「臨地実習Ⅰ」への理解を促した。給食施設では食事の提供と同時に健康・栄養情報の提供を行う義務があるため、臨地実習先の施設の対象者に適した栄養教育のテーマを設定させ、栄養教育および媒体計画をし、栄養教育を実施させた。本科目による栄養教育は、同時開講の「栄養教育論実習Ⅰ」の進度に合わせて、担当教員同士の協力体制の下で指導を行った。

授業科目【臨地実習Ⅰ】3年後期科目

学外における「給食の運営」の実際を学ぶための実習である。小学校、事業所、高齢者福祉施設、児童福祉施設を実習先とし、各特定給食施設の仕組みや対象者に対する栄養・食事管理を学ぶことが目的である。実習に

際し、実習先より課せられる事前課題（献立作成、栄養教育計画等）の指導を個別に実施した。また、事後指導として、実習先への礼状の指導および臨地実習Ⅰのまとめを行う報告会を実施した。本年度は、実習先2施設の指導担当者が自主的に聴講に来られ、学生の学びの成果を見ていただいた。報告会には、次年度の実習生である2年生の出席を義務付け、次年度対象学生の導入教育としている。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅴ・Ⅹ】4年前・後期

「給食経営管理論」分野の管理栄養士国家試験対策科目である。演習Ⅴでは、特定給食施設関連法規、マーケティング理論、会計・原価管理、生産管理、食材料管理を中心に解説した。また、演習Ⅹでは、病院給食関係する診療報酬、高齢者給食に関する介護保険報酬、学校給食実施基準、食事摂取基準の給食管理への活用、特定給食施設衛生管理マニュアル等を中心に重要ポイントを解説した。特に、診療報酬および介護報酬は改定年度であったため、変更点を中心に知識の定着を行った。各項目とも過去約10年間の国家試験問題および業者模試の問題を徹底的に解説し、繰り返し問題を解かせることで、知識の定着に努めた。その際、管理栄養士演習全体の指定教科書としている要点集と給食経営管理論の教科書の該当箇所の見直しを行った。その結果、本分野の得点率は飛躍的に上昇した。

授業科目名【卒業ゼミ】4年通年

①高齢者や児童対象の食教育を主体とした料理教室の企画・運営を実施させた。企画の段階から、学生の自主性を優先して計画を行わせ、要所での指導を行った。ライフステージの違う料理教室を順次計画させたため、対象者の日常生活上の問題点の把握から行い、計画に反映させていった。教員主体ではなく、学生主体としたことで、学生自身の考える力や問題点の修正能力、協調性等が養われたと考える。本年度はゼミ生が多く、学生間の関係性の構築に問題が生じた。しかし、学生たち自らが話し合いの場を設け、解決するという結果が得られ、問題解決能力も養われたと感じる。

②北九州市主催の「発酵ジャパン」の一環である料理コンテストに公募した。北九州市の伝統食であるぬか炊きおよび糠床を用いた料理を考案し、予選通過者は会場で調理し、試食による審査を受ける。参加を希望する学生が3人1組でグループを組み、2グループがコンテスト挑戦した。伝統食の持ち味を生かした献立考案、試作、改善を繰り返し、無事1組が予選を通過し、本選へと進むことができた。この活動を通して、伝統食のよさ、アレンジによる普及啓発の有効性、アピールするためのプレゼンテーションの重要性が学べたと考える。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本栄養改善学会	正会員	2006.4～現在
日本学校保健学会	正会員	2010.4～現在
日本健康教育学会	正会員	2010.4～現在
日本調理科学会	正会員	2012.4～現在
日本栄養士会	正会員	2012.4～現在
日本給食経営管理学会	正会員	2013.9～現在
日本食生活学会	正会員	2012.4～現在

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(学術論文)</p> <p>大学連携事業としての地域密着型食育活動の展開 ～2014年度事業概要ならびに成果報告～</p> <p>大量調理における生食用野菜の殺菌方法の有効性についての検討</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2016.3.</p> <p>2016.3</p>	<p>西南女学院大学紀要 Vol.20.</p> <p>西南女学院大学紀要 Vol.20.</p>	<p>①本学栄養学科および九州歯科大学との連携公開講座を実施し、地域住民の生活習慣病予防ならびに改善のために、北九州市における地域密着型の食育活動の定着を試みた。</p> <p>②共著者名 <u>青木 るみ子</u>、田川 辰也、辻澤 利行、秋房 住郎、日高 勝美、近江 雅代 清未 達人</p> <p>①生食用野菜に対し、各種殺菌処理を施した後、細菌学的観点より、殺菌効果を検討するのみならず、形態学的に野菜の表面・断面構造の特徴を捉えることにより、生食野菜の特徴を損なうことない最も効果的な殺菌方法を野菜種別に確立した。</p> <p>②共著者 <u>近江 雅代</u>、<u>青木 るみ子</u>、古田 宗宜、藤田 守</p>
<p>(翻訳)</p> <p>なし</p>				
<p>(学会発表)</p> <p>地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～(第1報)</p> <p>北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第2報：参加者の満足度評価～</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2015.9.25</p> <p>2015.9.25</p>	<p>日本栄養改善学会（福岡・福岡国際会議場）</p> <p>日本栄養改善学会（福岡・福岡国際会議場）</p>	<p>①西南女学院大学および九州歯科大学は「食と健康」に関する啓発活動を通して、地域と大学との連携を深め、地域住民の健康増進に貢献することを目的とした連携公開講座を実施した。その内容を報告した。</p> <p>②共同発表者 <u>近江雅代</u>、石本 祐子、<u>青木 るみ子</u>、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、久保由紀子、坂巻路可、田川辰也</p> <p>①第1報に続き、講座参加者の満足度調査結果を報告した。概ね高評価であった。</p> <p>②共同発表者 石本祐子、<u>青木 るみ子</u>、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、久保由紀子、坂巻路可、田川辰也、近江雅代</p>

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
青年期における食生活と主観的幸福感の関連性	共著	2015.9.25	日本栄養改善学会（福岡・福岡国際会議場）	①大学生を対象に、心の健康状態の尺度として主観的幸福感尺度を用い、食習慣および食品摂取頻度との関連性を検討した。 ②共同発表者：青木るみ子、坂井孝
地域住民の健康増進のための食育活動の展開（第2報）～平成27年度事業概要および参加者アンケートの分析～	共著	2015.11.29	日本給食経営管理学会（東京・日本女子大）	①本報告では、2年目を迎えた27年度第1回、第2回の事業内容と参加者アンケート調査の結果を報告した。 ②共同発表者：青木るみ子、近江雅代、境田靖子、辻澤利行、久保由紀子、坂巻路可、天本理恵、石本祐子
管理栄養士養成課程における学生の食品重量目測能力の実際	共著	2015.11.29	日本給食経営管理学会（東京・日本女子大）	①学生の食品重量目測能力の実際を検討した。その結果、目誤差が生じやすのは乾物等の計量な食品である可能性が示唆された。 ②共同発表者：近江雅代、青木るみ子
				教育研究業績総数 （2016年度3.10現在） 著書 0（内訳 単 , 共 ） 学術論文 9（内訳単1, 共8） 学会発表 19（内訳単0, 共19）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
平成27年度子どもゆめ基金助成金	独立行政法人 国立青少年教育振興機構	238,000	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
多大学健康栄養研究会	理事	平成26年2月14日～平成28年3月31日
北九州市教育委員会学校給食審議委員	委員	平成26年4月～平成28年3月
社会福祉法人北九州市福祉事業団 北九州市社会福祉研修所	平成27年度 施設調理員研修 講師	平成28年2月10日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

公開講座委員会 管理栄養士国家試験対策委員（栄養学科） 周望学舎シニアサマーカレッジ講師 井堀地区まちづくり協議会委託事業「井堀校区生き生きチャレンジキッズ」講師 子どもゆめ基金助成事業「大すきにつぼん」食分野担当講師 栄養学科公開講座「給食提供分野」担当 料理研究部顧問

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	境田 靖子	職名	講師	学位	修士(学術)(大阪市立大学 1996年)
----	-------	----	----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
公衆栄養	DOHaD 説, 低出生体重, 生活習慣病, 食育, 青年期, 食生活

研究課題
①妊娠前からの体重管理による低出生体重児と将来の生活習慣病予防との関連について ②青年期の食生活改善を目指した指導プログラムの開発

担当授業科目			
科目名	単位数		授業評価ポイント ※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載
	必修	選択	
公衆栄養学Ⅰ(後期)	2		
公衆栄養学Ⅱ(前期)	2		
地域栄養活動論(後期)		2	
公衆栄養学実習(後期)	1		
臨地実習Ⅲ(後期)		1	
管理栄養士演習Ⅴ(前期, 分担)		1	
管理栄養士演習Ⅹ(後期, 分担)		1	
卒業ゼミ(通年)		2	
栄養学概論(前期, 分担)	1		

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【公衆栄養学Ⅰ, Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定教科書を重点的に使用し、重要な箇所についてはマーカーで線を引かせていたが、口頭での指示プラスOHCを用いて学生と作業を共有するよう努めた。 教科書にないものについては、必要に応じてパワーポイントの資料を配布し、内容によっては教科書に指定したページに添付するように指導した。 適時、小テストや課題を実施し、定期試験へ向けての足掛かりとなるように支援した。 国家試験の出題レベルに合わせると授業時間数が不足し、1つ1つの内容が不十分になるため、思い切って内容をそぎ落とし、最低限臨地実習に必要な範囲にまとめるように心がけた。 臨地実習の履修要件のため、厳しく指導した。 日本人の食生活の変遷については、ビジュアルでイメージを膨らまし納得できるようにDVDを用いて指導した。
<p>授業科目名【地域栄養活動論】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講義により、教科書には記載されていない実際の栄養活動について理解が深まるように支援した。 後期の臨地実習Ⅲ(保健所・保健センター)の実習内容に結び付けて、外部講師の講義内容の補足を行った。 訪問介護における栄養改善活動と配食サービスの実態について、テレビ放映された実際の管理栄養士の活動(NHKプロフェッショナル等)を見ることでイメージがわくように工夫した。
<p>授業科目名【公衆栄養学実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 後期に実施される臨地実習Ⅲ(保健所・保健センター, 病院実習)での課題実践に備えて、実践的な集団指導の手法の取得と事業評価の能力を取得できるように尽力を注いだため、厳しく指導した。

<ul style="list-style-type: none"> ・最終の個人課題レポートの作成は、臨地実習の事前課題の作成および定期試験勉強と時期が重なり、学生にとって過剰な作業だったようなので、今年度からは削除した。 ・臨地実習を履修しない学生はモチベーションが下がるため、同じグループ内での相互評価を取り入れることで緊張感を持たせた。 ・班課題の提出においてルーブリック評価を用いた。学生に評価指標を事前に配布したが、あまり参考にしていないようであった。
授業科目名【臨地実習Ⅲ】 <ul style="list-style-type: none"> ・実習ノートの予習課題について、地域栄養活動論の内容とリンクさせコツコツと作成するように指示したため、実習先から「非常にしっかり書けている」との評価をいただく学生が多かった。 ・実習施設ごとの事前課題を指導し、学生が短い実習期間で実習内容を達成できるように指導した。 ・実習最終日の反省会や学生は発表する日には、なるべく自ら巡回指導を行い、実習施設の指導管理栄養士に直接、学生の学びの様子を伺った。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅴ,Ⅹ】 <ul style="list-style-type: none"> ・公衆栄養学ⅠとⅡで網羅できない範囲を管理栄養士演習Ⅴで行った。 ・演習Ⅹでは模試の正答率を分析し、正答率の低い問題の解説を重点的に行うなど、国家試験の合格へ繋がるよう努めた。
授業科目名【卒業ゼミ】 <ul style="list-style-type: none"> ・まなびとESDステーションでの食事診断会、小倉祇園太鼓での食育コーナーの出展、北九州市保健福祉局の食育推進事業の企画・運営等、管理栄養士としての実践力が身に付くようにフィールドワークを中心に活動した。 ・今年度は、上記活動を4テーマに分け1または2人1組でゼミ報告書の作成をし、取りまとめた。
授業科目名【栄養学概論】 <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習のレポートに、感想や誤字脱字等の訂正、文脈の不明瞭さの指摘を赤字で書き入れ、コピーを取ったのち、原本を返却した（コピーは学科保存）。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本栄養改善学会		2000年4月～現在に至る
日本学校保健学会		2002年4月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2003年6月～現在に至る

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 1. 青年期の食生活改善を目指した食育活動	共	2016. 3.	西南女学院大学紀要 Vol. 20	①大学生が自ら、食に関する課題を見つけ改善に向けた啓発活動を行うことで、食・健康への関心を高めることを目的とし、主体的に事業を企画し実践したので報告した（北九州市保健福祉局委託事業「若い世代の

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				食育推進」) ②共著者名：○境田靖子，石本祐子，細井陽子，宮原昌宏 ③担当部分：共同研究につき，本人担当部分抽出不可能 (p87～98)
(翻訳)				
(学会発表) 1. 学生企画による大学生対象の食育実践～男女混合調理実習への取り組み～	共	2015. 9.	第 62 回日本栄養改善学会学術総会 (於 福岡国際会議場)	①大学生が、ワークショップ等により食に関する課題を見つけ、改善に向けた啓発活動を行うことで、食・健康への関心を高めることを目的とし、主体的に事業企画、実践したので報告する。 ②共同発表者名：○境田靖子、石本祐子、細井陽子 ③栄養学雑誌Vol. 73, No. 5 (p318)
2. アルギニンの血管拡張機能改善効果に対する抗酸化ビタミンの影響に関する研究	共	2015. 9.	第 62 回日本栄養改善学会学術総会 (於 福岡国際会議場)	①アルギニンを含むアイソカルアルジネートの経口投与による若年健康成人の前腕血管拡張機能の改善作用について、抗酸化ビタミンを含む場合と含まない場合について検討した。 ②共同発表者名：田川辰也、青木るみ子、境田靖子、近江雅代 ③栄養学雑誌Vol. 73, No. 5 (p187)
3. 地域住民の健康増進のための食育活動の展開～大学連携事業としての取組～ (第1報)	共	2015. 9.	第 62 回日本栄養改善学会学術総会 (於 福岡国際会議場)	①教員と学生の協働による生活習慣の改善を図ることを目的とし、公開講座と食事提供を1セットとした地域住民対象の公開講座を実施した。 ②共同発表者名：近江雅代、石本祐子、青木るみ子、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、久保由紀子、坂巻路可、田川辰也 ③栄養学雑誌Vol. 73, No. 5 (p304)
4. 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第2報：参加者の満足度評価～	共	2015. 9.	第 62 回日本栄養改善学会学術総会 (於 福岡国際会議場)	①第1報で報告した公開講座に参加した地域住民に対し、講座に対する満足度のアンケート調査を実施した。参加者数は回数とともに漸次増加し、リピー

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				<p>ターが約半数以上を占めること、アンケート結果から約8割が食と健康について理解が深まったと回答したことから、満足度は高いと評価した。</p> <p>②共同発表者名：石本祐子、青木るみ子、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、坂巻路可、久保由紀子、田川辰也、近江雅代</p> <p>③栄養学雑誌Vol. 73, No. 5 (p304)</p>
5. Diet and lifestyle features of groups of Japanese individuals classified according to metabolic syndrome criteria	共	2015. 5	12 th Asian Congress of Nutrition (於 パシフィコ横浜)	<p>①日本人のメタボリックシンドローム患者3770人の生活習慣および食習慣について調査し、分析を行った。</p> <p>②Katsushi Yoshita, Keiko Ochiai, Nahoko Baba, Michiko Morikawa, Chiaki Yamazaki, Akemi Misawa, Yoko Tsujimoto, Yasuko Sakaida, Osamu Kushida, Tatsuya Koyama, Aki ko Iwahashi, Tomoe Fukumura, Masaji Tabata</p> <p>③12thACN Abstract Book (p442)</p>
				<p>教育研究業績総数 (2016. 3. 31現在)</p> <p>著書 3 (内訳 単0, 共 3)</p> <p>学術論文 10 (内訳 単1, 共9)</p> <p>翻訳 0</p> <p>学会発表 46 (内訳 単0, 共46)</p>

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位: 円)
市町との連携による母子保健対策の構築のための調査	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所	○境田靖子 天本理恵 (由田克士)	82,000

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
北九州市保健福祉局委託事業「若い世代の食育推進」	北九州市 保健福祉局	○境田 靖子	531,924

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
大学間連携共同教育推進事業「まちなかESDセンターを核とした実践的人材育成」	運営委員, ワーキングメンバー	2012年10月～(5年間)

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
学生募集委員会 (2013年4月1日～現在に至る) 将来計画 教育の質保証プロジェクト (2013年8月～現在に至る) (学科内) 国家試験対策委員 (2012年4月1日～現在に至る)

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 銀光	職名 講師	学位 博士(医学)(九州大学 2005年)
-------	-------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
分子疫学研究 栄養疫学研究	大腸がん 糖尿病 胃がん 食生活習慣 遺伝子多型 疫学

研究課題
1. 症例対照研究におけるDNA修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究 2. アルコール関連遺伝子多型と2型糖尿病に関する分子疫学研究 3. コーヒー摂取と胃がんに関する栄養疫学研究 4. コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と2型糖尿病に関する分子疫学研究

担当授業科目
公衆衛生学(前期) 健康管理概論(前期) 栄養疫学(後期) 管理栄養士演習Ⅰ(前期) 管理栄養士演習Ⅵ(後期) 栄養学概論(前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【公衆衛生学】 聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけスライドを多く作り、授業内容が分かりやすくすることに気がついた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。
授業科目名【健康管理概論】 スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。
授業科目名【管理栄養士演習ⅠⅥ】 国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。
授業科目名【栄養疫学】 公衆衛生学では、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書をほとんど読んでないことに気がついた。それで、栄養疫学の授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
アジア太平洋がん予防学会	会員	2002年 10月～現在に至る
日本疫学会	会員	2003年 1月～現在に至る
日本癌学会	会員	2003年 10月～現在に至る
日本がん疫学研究会	会員	2004年 8月～現在に至る
日本公衆衛生学会	会員	2010年 12月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 1. Associations between vitamin D receptor (VDR) gene polymorphisms and colorectal cancer risk and effect modifications of dietary calcium and vitamin D in a Japanese population.	共著	2015年 3月	<i>Asian Pac J Cancer Prev.</i> 2015;16(5):2019-26.	<ul style="list-style-type: none"> ① この研究では、福岡大腸がん研究において、大腸癌患者 685 例および対照 778 例の比較検討を行った。ビタミン D レセプターである ApaI 遺伝子多型と大腸がんリスク低下との関連が見られた。 ② 共著者： Takeshige N, Yin G, 他 12 名 ③ P2019-2026
2. Genome-wide association study of clinically defined gout identifies multiple risk loci and its association with clinical subtypes.	共著	2015年 2月	<i>Ann Rheum Dis.</i> 2015 Feb 2. pii: annrheumdis-2014-206191. doi: 10.1136/annrheumdis-2014-206191.	<ul style="list-style-type: none"> ① この研究は、1994名の日本人男性痛風患者と 2547名の健康な対照を用いた Genome-Wide Association Study である。ABCG2 遺伝子と SLC2A9 遺伝子が痛風発症と関連していることが示唆された。 ② 共著者 Mtsuo H Yin G 他 38 名 ③ doi:10.1136/annrheumdis-2014-206191

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. Associations between body mass index and serum uric acid levels in a Japanese population were significantly modified by LRP2 rs2544390.	共著	2014年8月	<i>Nagoya J Med Sci.</i> 2014 Aug;76(3-4):333-9.	<p>① この研究は、J-MICC コホート研究の1つの地区である名古屋大学静岡地区の横断研究に参加した3477名の男女を対象とした分子疫学研究である。BMIと血清尿酸値の関連はLRP2遺伝子多型により修飾されていることが示唆された。</p> <p>② 共著者: Suma S Yin G 他7名</p> <p>③ P333-339</p>
4. Impaired 8-hydroxyguanine repair activity of MUTYH variant p.Arg109Trp found in a Japanese patient with early-onset colorectal cancer.	共著	2014年4月	<i>Oxid Med Cell Longev.</i> 2014;2014:617351. doi: 10.1155/2014/617351.	<p>①この研究は、福岡大腸がん研究において、大腸がん患者685名と健常な対照778名を対象にした症例対照研究である。結果として、MUTYH Arg109Trp 遺伝子多型が初期大腸発がんに関連していることが示唆された。</p> <p>②共著者 Shinmura K Yin G 他10名</p> <p>③doi:10.1155/2014/617351</p>
(翻訳)				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1. 遺伝子多型と赤血球系検査値との関連:既報ゲノムワイド関連解析結果の検証	共著	2016年1月	第26回 日本疫学会学術総会(米子コンベンションセンター)。	①対象者はJ-MICC Study(日本多施設共同コーホート研究)静岡地区ベースライン調査に参加した35—69歳の男女4995名である。この研究では、日本人における赤血球系検査値と7種のSNPとの関連を確認した。 ②清木俊雄、内藤真理子、銀光、他9名 ③第26回疫学会学術総会抄録集(P150)
2. がん罹患歴とPTPN11 遺伝子多型(rs2301756)の関連: J-MICC Study 静岡地区	共著	2015年10月	第74回 日本癌学会学術総会(名古屋国際会議場)	①対象者はJ-MICC Study(日本多施設共同コーホート研究)静岡地区ベースライン調査に参加した35—69歳の男女5000名である。この研究では、PTPN11 遺伝子多型と女性のがん罹患歴との関連が示された。 ②川合紗世、銀光、浜島信之他5名 ③第25回疫学会学術総会抄録集(p280)
3. ABCG2 dysfunction causes not only renal urate overload hyperuricemia but also renal urate underexcretion hyperuricemia	共著	2015年1月	第25回疫学会学術総会(於名古屋)	①J-MICC Study(日本多施設共同コーホート研究)ベースライン静岡地区調査参加者のうち、2267名を対象とした。この研究では、ABCG2の遺伝子機能障害は高尿酸血症発症に影響を与えていることが示唆された。 ②共同発表者:松尾洋孝、銀光 他18名 ③第25回疫学会学術総会抄録集(P103)

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				<p>教育研究業績総数 (2016年3月18日現在)</p> <p>著書 3 (内訳 単 1,共 2)</p> <p>学術論文 37 (内訳 単 0,共 37)</p> <p>学会発表 25 (内訳 単 0,共 25)</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
コーヒー摂取習慣遺伝子多型と2型糖尿病に関する分子疫学研究	独立行政法人 日本学術振興 会	4,680,000 円	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
情報システム管理運用委員会 委員 2015年4月1日～2017年3月31日

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	山田 志麻	職名	講師	学位	修士
----	-------	----	----	----	----

研究分野	研究内容のキーワード
調理学、調理科学、食育、地域開発歯科学 高齢者の栄養	調理科学 食品学 食育、嚥下食 咀嚼 低栄養 健康増進

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・在宅高齢者の口腔状態と栄養状態 ・子供の健康と食育 ・ソフト食の開発 ・郷土料理とアレンジレシピの開発 ・スポーツクッキングとレシピ開発

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・応用調理学実習 ・フードコーディネート論 ・管理栄養士演習Ⅲ ・栄養学概論 ・基礎調理学実習 ・調理学 ・管理栄養士演習Ⅷ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 応用調理学実習 】</p> <p>1年後期で学んだ基礎調理の知識や技術を活かし、さらに応用調理の技術を身につけるため、低コストで多数の料理を作れるよう心掛けた。また、少量調理から大量調理へのステップアップのための知識習得のため、食品の重量やカサ、栄養や見た目の彩や盛付など幅広く説明を行った。</p>
<p>授業科目名【 フードコーディネート論 】</p> <p>フードスペシャリスト認定試験 100%合格のため、ガイドラインにそった講義を行い、過去問で出題頻度の高い問題やキーワードを中心に単元ごとにまとめて講義した。</p>
<p>授業科目名【 調理学 】</p> <p>調理学の中核として、食材それぞれの特徴、取扱い(保存や調理加工)、それにとまなう調理科学について、例をあげながら具体的に説明した。最終的には、単元ごとにまとめた復習プリントを作成し、すべての重要項目や国試出題頻度が高いキーワードについて学習させた。</p>
<p>授業科目名【 基礎調理学実習 】</p> <p>食や栄養、食文化やマナーなどに関して、知識や理解、経験等が乏しい現代の学生を対象としているため、食品について見る、触れる、切る、調理、盛付、配膳まで一連の流れが理解できるようつとめた。また、食品の取り扱いや食品成分表の使い方、栄養価計算の方法まで次の応用調理で困らないよう周知徹底させた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本栄養改善学会 日本家政学会 日本食生活学会 日本口腔衛生学会 日本調理科学会		

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 介護施設利用高齢者における簡易嚥下状態評価 (EAT-10) と口腔内・栄養・嚥下状態との関連	共 著	2015 年 5 月 23・24 日	第 75 回九州歯科学会	EAT-10は口腔機能低下、低栄養状態および嚥下機能低下とその自覚症状との間に関連が見られ、簡便で有用なスクリーニングツールであった。
在宅高齢者における簡易嚥下状態評(EAT-10)と栄養状態および栄養素摂取との関連.	共 著	2015 年 5 月 28 日	第 64 回 日本口腔衛生学会	EAT-10は筋肉量や運動機能の対価と関連がみられ、サルコペニアの早期発見ツールとして有効かもしれない。

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位 : 円)
【応募中】 基盤研究 (C) (一般) (H28~H30) オーラルフレイルの予測に向けた食欲指標 SNAQ の有用性の検証に関する疫学研究	科研	○山田志麻 (九州歯科大学 : 安細敏弘他 3 名)	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究：題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
【2016年度採択】 オーラルフレイルの予測に向けた食欲指標 SNAQの有用性の検証に関する疫学研究	学内 附属研究所研究	147,000円	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
2015 西南女学院大学・九州歯科大学 公開講座 2015 栄養改善学会会長表彰受章 2016 グリーンパーク食育事業予定		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・公開講座
- ・ハラスメント委員
- ・COC+高齢者支援学
- ・アドバイザー

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 手嶋 英津子	職名 講師	学位 修士(栄養科学)(中村学園大学2013年)
-----------	-------	--------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
栄養教育	食行動 QOL 食育 ICT教育

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した新しい食育の授業デザインの構築とタブレット端末用教材アプリの開発 ・北九州市における骨粗鬆症の現状ならびに骨密度改善に対する栄養支援の効果 ・2型糖尿病患者における血糖コントロールと食行動およびQOLとの関連

担当授業科目
栄養カウンセリング論(前期) 栄養教育論実習Ⅱ(後期)(分担) 学校栄養指導論Ⅰ(前期) 学校栄養指導論Ⅱ(後期) 教育実践研究(三期)(分担) 教職実践演習(栄養教諭)(後期)(分担) 事前及び事後の指導(2013年度入学生)(三期)(分担) 栄養教育実習(通年) 栄養学概論(前期)(分担)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【栄養カウンセリング論】</p> <p>本科目は、人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性や、カウンセリングマインドを持つことの重要性を理解することが目標である。栄養カウンセリングに必要な知識および行動科学理論は、テキストを中心としパワーポイントを使用して解説した。パワーポイント資料や、補足資料はプリントして配布した。また、栄養カウンセリングに必要なスキルを身に付けることができるように、多くの事例を提示し、グループワークやロールプレイを実施した。さらに、ロールプレイによる発表を行い、フィードバックすることで多くの気づき(身だしなみ、姿勢、態度、話し方など)を共有できた。次年度への課題としては、学生のコミュニケーションスキルを高めるために、ディスカッションの場を増やすことや、授業の改善・充実のために、授業の最後に振り返りを行い、理解度や疑問点を把握していきたいと考えている。</p>
<p>授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】</p> <p>本実習は、栄養カウンセリング論や栄養教育論で学んだ知識と関連付けて、栄養カウンセリングに必要な技術を修得し、疾病別に対応した栄養教育を実践的に修得することを目標とする。個人栄養支援では、主にロールプレイングを実施し、聞き取りによる食事調査や栄養カウンセリングの実際を体験した。また、栄養教育に使用する媒体として、リーフレットやパワーポイントの作成を行った。提出された媒体は、全員に個別指導を行いながら返却し、訂正を繰り返すことで資料作成能力を高めることができたと考えられる。授業での課題や発表時には、必ずフィードバックをする機会を設け、各自の課題を見つけ改善へと繋がるように工夫した。</p>

<p>授業科目名【学校栄養指導論Ⅰ】</p> <p>本科目は、栄養教諭の使命と役割をよく理解し、児童生徒の食に関する実態を把握し、食に関する課題を解決するための、意識・態度・姿勢を持つことを目標とする。栄養教諭の職務内容や、職務の実態を学ぶ数少ない専門科目であるため、教育現場で応用できるように事例を多く提示することで、栄養教諭の具体的な取り組みを学べるように工夫した。課題としては、受動的な学習が多かったため、アクティブラーニングを取り入れ、教員として必要である思考力や表現力が身に付くような、能動的な学習を積極的に取り入れたい。また、教員採用試験の専門科目と深く関連するため、確実に知識が定着できるように定期的に小テストを実施し、振り返りの場を設けたいと考えている。</p>
<p>授業科目名【学校栄養指導論Ⅱ】</p> <p>本科目は、学校栄養指導論Ⅰの基礎学習をふまえ、小・中学校の教科における食に関する指導内容や授業計画案を作成し、具体的に指導する実践力を身に付けることを目標とする。授業は、非常勤講師の先生と担当し、主にワークシートを中心とし、重要なポイントが明確にわかるようになっている。さらに、小テストを毎回実施することで、重要ポイントが確認でき、知識の定着へと繋がった。授業計画案～模擬授業は、学生の理解度に合わせて個別指導を行った。また、教員としての表現力を高めるために、毎時間、異なる対象者を設定し、食や健康に関連する内容で1分間スピーチを実施した。回を重ねるごとに話し方や態度が変化することで、学生の自信へと繋がり、大変有益であったと実感した。</p>
<p>授業科目名【教育実践研究】</p> <p>本科目は、栄養教育実習の事前・事後指導を実践する科目である。非常勤講師の先生と担当し、栄養教育実習を受けるに当たっての心がまえや、予備知識の確認、食の指導に関わる授業研究についての解説を行った。食に関する指導については、模擬授業を繰り返し実施し、学生同士で評価しあうことで、教員としての姿勢や取組について意識を高めた。また、授業外においても個別指導を実施し、指導案の作成や課題の添削等、できる限りの指導を行った。実習中には、全ての実習校を訪問し、校長先生や栄養教諭の先生との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善に繋げた。実習後は、実習報告書および発表資料を作成し、学生同士が、教育実習での学びを共有できるように報告会を設定した。また、その報告会には3年生も参加し、次年度の栄養教育実習へのモチベーションを高めることに繋げた。</p>
<p>授業科目名【教職実践演習(栄養教諭)】</p> <p>本科目は、教職課程担当者と協力して、これまでの教職課程での学習と栄養教育実習を振り返りながら、栄養教諭としての使命感や、実践的スキルと資質・能力の向上を目標とする。将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識やスキルを補うことが必要である。そのために、各自の課題を整理し、全員でディスカッションを行った。主に課題として挙げられたのは、指導力不足(板書、問いかけの方法など)、知識不足、調理技術不足、表現力不足である。これらの課題を解決するために、模擬授業や料理教室のデモンストレーションの模擬体験等を実施した。また、外部講師として現職の栄養教諭(小・中学校)を招き、講義後に交流の場を設けることや、中学校への研究授業の参加等、教育現場との積極的な関わりを通して、栄養教諭の職務や意義と役割を再認識し、学びの集大成となるように工夫した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003年4月～2013年3月 2015年4月～現在に至る
日本栄養改善学会	正会員	2003年4月～2013年3月 2015年4月～現在に至る
日本病態栄養学会	正会員	2008年4月～現在に至る
日本食育学会	正会員	2015年4月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学术论文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. 2型糖尿病患者における血糖コントロールと食行動およびQOLとの関連	共	2016年1月	第19回日本病態栄養学会年次学術集会 (於 パシフィコ横浜)	2型糖尿病患者を対象に調査を行い、QOLと血糖コントロールおよび食行動がどのように関連しているか検討した。血糖コントロールが良好であっても食行動が異常であるとQOLが有意に低下することが示された。糖尿病患者のQOLの低下を防ぐためには、血糖コントロールだけでなく食行動を把握し是正につながる栄養支援が重要であることが示唆された。 教育研究業績総数 (2016.3.31現在) 著書 1(内訳：単0、共 1) テキスト 1(内訳：単0、共 1) 総説 1(内訳：単0、共 1) 学术论文 3(内訳：単1、共 2) 学会発表 24(内訳：単0、共24)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
・西南女学院大学・九州歯科大学連携 公開講座	第2回「塩味閾値判定」担当 第3回「骨密度測定」担当	2015年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程委員会 (2015年4月～現在に至る) ・教員採用試験対策個別指導(一次試験、二次試験)

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	石本 祐子	職名	助手	学位	学士
----	-------	----	----	----	----

研究分野	研究内容のキーワード

研究課題

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生学実験 (前期:2クラス) ・応用調理学実習 (前期:1クラス) ・食品栄養実習 (前期:2クラス) ・基礎調理学実習 (後期:1クラス) ・応用栄養学実習 (後期:2クラス) ・微生物学実験 (後期:2クラス)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 食品衛生学実験 】</p> <p>食品の安全性について、様々な条件のもと比較実験を行うにあたり、特に対象となる実験サンプルの調製については操作手順が複雑なものもあり、手順に誤りのないよう留意した。また、ペーパークロマトグラフィーや薄層クロマトグラフィー、エーテル抽出などは、特に細かい操作を慎重に行う必要性が高く、安全に且つ確実に結果に結びつくことができるよう、各班を頻繁に回りアドバイスした。</p>
<p>授業科目名【 応用調理学実習 】</p> <p>新任教員の担当科目であり、新メニューに対応する器具類の確認、食材等の調達、打ち合わせに多くの時間を割き実習に臨んだ。1年次後期に基礎調理学実習を経ての応用実習であり、基礎的な調理技能修得の確認と作業の効率性を併せ指導にあたった。これから展開される他の調理系実習にも共通する事柄や衛生面等に関しては、特に厳しく指導を行い、学生の意識向上にも努めた。自発的な質問も多く、学生の理解度に合わせ、個々の実習が有意義なものとなるようアドバイスした。</p>
<p>授業科目名【 食品栄養実習 】</p> <p>新任教員の担当科目であり、作業にかかる時間配分や器具類の打ち合わせなどを行い、計画通り実施できた。実習前講義での実習理論や目的を理解し、要点を押さえながら学生が実習に臨めるよう、各班での実習指導にあたった。この実習は、班ごとに配合をかえたものを交換して製造評価することもあり、比較という観点からもポイントを助言し、市販の加工食品製造への関心が高まるよう指導を行った。また実習項目によっては、使用器具が特殊なものもあり、怪我のないよう留意した。</p>
<p>授業科目名【 基礎調理学実習 】</p> <p>1年次後期、初めての調理系実習である。調理への興味を持ち、それを将来的には職業の中で活かすために、食品自体の特徴について理解し、栄養価計算をはじめとした献立作成等についても進んで取り組めるよう、食材料の取り扱い、調理法による食材料の形態の変化など、一つ一つ修得するよう指導した。また、グループとして一つの献立を調理するにあたり、作業の効率性やチームワーク、声かけなども重要であることを助言した。</p>

授業科目名【 応用栄養学実習 】

3年次後期科目であるこの実習では、学生は、調理作業にも慣れ、作業は比較的容易にこなしているように感じるが、ライフステージ毎の調理形態の工夫や加熱調理の差異についても理解できるようアドバイスをを行った。学生がこれまでの調理系実習で得た知識と経験とを生かし、対象者に適した「食作り」ができることを目指して、示範調理をとおして理解を深められるよう心掛けた。

授業科目名【 微生物学実習 】

将来的に「食」に携わるものとして、微生物と食のつながりを知り、また、環境中の微生物の存在から調理中の衛生管理や食中毒についても再認識できるよう助言に努めた。実験サンプルや条件の相違により得られる結果から考察が導き出せるよう、滅菌操作や培養上の注意点、また、手順が実験結果に影響しないよう細部にわたって留意するようアドバイスした。グラム染色のデモンストレーション時には、目的と原理についても操作をしながら再度説明をすることで、理解が深められるよう努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
<ul style="list-style-type: none"> ・日本栄養士会 ・日本栄養改善学会 ・日本栄養・食糧学会 ・日本食品科学工学会 		2006年5月～現在に至る 2006年5月～現在に至る 2014年4月～現在に至る 2014年4月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 最新食品学総論・各論 (第4版)	共著	2016.3	株式会社講談社	①第3版からの改訂にあたり、管理栄養士養成課程にも更に対応できるよう、内容の充実が図られた。日本人の食事摂取基準 2015年版、日本食品標準成分表 2015年版(七訂)等、最新の情報を織り込んでいる。 ②編者 甲斐達男、石川洋哉 著者 石川洋哉、 <u>石本祐子</u> 、市丸哲造、甲斐達男、小林弘司、木村宏和、高杉美佳子、古田吉史、山下耕平 ③担当部分 1.1-1.2 緒論 (p1-17) <u>石本祐子</u> ・甲斐達男 2.4 無機質 (p57-61) <u>石本祐子</u> ・甲斐達男 2.6 核酸 (p71-72) <u>石本祐子</u> ・甲斐達男 2.7 水 (p73-75) <u>石本祐子</u> ・甲斐達男

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				総頁数 233 頁 ④B5 版
(学术论文) テンペの GABA 含量増加のためのアプローチ	共著	2015.10	日本食品・機械研究会誌 Vol.35、No.3、15-21 (2015)	①テンペ菌発酵過程において生産される GABA 含量を増加させるための検討を行った。産生量は、原料大豆の銘柄、かつ、使用菌株によって大きく異なることが見いだされた。また、嫌気状態で後発酵を行うことで GABA の産生を大幅に増大させることに成功した。 ②甲斐達男、 <u>恵良真理子</u> 、 <u>石本祐子</u> 、 <u>長藤信哉</u> 、 <u>吉野精一</u> ③ p 15-21
パネットーネに関する研究動向 I.総論	共著	2015.10	日本調理食品研究会誌 Vol.21、No.2、18-26 (2015)	①パネットーネに関する概説、製法を記した規定書、南米に渡った経緯と変遷、およびパン種における酵母と乳酸菌の共生関係について述べた。 ② <u>吉野精一</u> 、 <u>長藤信哉</u> 、 <u>石本祐子</u> 、 <u>甲斐達男</u> ③ p 18-26
パネットーネに関する研究動向 II.乳酸菌	共著	2016.1	日本調理食品研究会誌 Vol.21、No.3、13-18 (2015)	①パネットーネ母種から分離された <i>Lb.sanfranciscensis</i> の学術的分類について述べた。また、酸味成分に関して HPLC で定性分析し考察した。 ② <u>吉野精一</u> 、 <u>石本祐子</u> 、 <u>長藤信哉</u> 、 <u>甲斐達男</u> ③ p 13-18
パネットーネに関する研究動向 III.酵母	共著	2016.2	日本調理食品研究会誌 Vol.21、No.4、19-25 (2015)	①パネットーネ母種から分離された酵母の学術的分類について述べた。また、種々のパネットーネ酵母の生地発酵力を糖発酵能や乳酸菌との共発酵の点から考察した。 ② <u>吉野精一</u> 、 <u>石本祐子</u> 、 <u>長藤信哉</u> 、 <u>甲斐達男</u> ③ p 19-25

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
古くて新しいパネッtone種～ヨーグルト種で作るパネッtone種～	共著	2016.1	Breads & Cakes No.1-2、44-45、70-72 2016	①パネッtoneの発祥について、市販ヨーグルトの発酵種を使用したレシピ、工程を紹介した。 ②吉野精一、長藤信哉、 <u>石本祐子</u> 、甲斐達男 ③p 44-45、p 70-72
古くて新しいパネッtone種～ロングシェルフライフの謎～	共著	2016.3	Breads & Cakes No.3-4、97-99、2016	①パネッtoneの日持ちが長い理由について、一般的なリッチな配合のパンと異なる点を明確にし、抗菌性物質の産生の可能性を解説した。 ②吉野精一、長藤信哉、 <u>石本祐子</u> 、甲斐達男 ③p 97-99
Karyotype Analysis on Panettone Yeasts Chromosome	共著	2016.3	西南女学院大学紀要 Vol.20、2016	①パネッtoneの母種から分離・同定された主な4種の酵母の分類については、各種表現型やリボソームDNAのスペーサー配列による遺伝子型などの同定方法により、研究者によって様々な学名が付されている。そこで、4種の酵母の核型解析をPFGEにより行い、分類方法は全体的に見直しが必要であり、大きく3群に分類されることが示唆された。 ②甲斐達男、高本なつみ、 <u>石本祐子</u> ③p 59-65
Development of Salt-Tolerant <i>Rhizopus oligosporus</i> for Tempeh Production	共著	2016.3	西南女学院大学紀要 Vol20、2016	①原料大豆に適度な塩味（1%程度）をつけて発酵を行うために必要な、テンペ菌 <i>R. oligosporus</i> の食塩耐性株の獲得を目指して育種開発を行い、従来の製造において問題ない1%食塩耐性株の育種に成功した。 ②甲斐達男、西崎悦子、坂元泰予、 <u>石本祐子</u> ③p53-58

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
青年期の食生活改善を目指した食育活動	共著	2016.3	西南女学院大学紀要 Vol20、2016	<p>①大学生が自ら食に関する課題を見つけ改善に向けた啓発活動を行うことで、食・健康への関心を高めることを目的とし、食育ワークショップや男女混合調理実習を行った。アンケートと選択したメニューの分析を行ったところ、関心期の緑黄色野菜摂取量が有意に高く、今後も継続的に実施する必要があることが示唆された。</p> <p>②境田靖子、石本祐子、細井陽子、宮原昌宏</p> <p>③p 87-97</p>
(学会発表) 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開 ～第1報：事業概要～	共著	2015.9	第62回日本栄養改善学会学術総会 (於 福岡国際会議場、福岡サンパレス)	<p>①本学栄養学科と、九州歯科大学口腔保健学科が連携し、地域住民に対する生活習慣改善に向けた取り組みとして公開講座を行った。講座は2部制とし、第1部は講演、第2部はテーマに沿った食事を提供し、質疑応答、アンケート調査を実施した。</p> <p>②近江雅代、石本祐子、青木るみ子、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、坂巻路可、久保由紀子、田川辰也</p> <p>③第62回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集 (p 304)</p>
北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開 ～第2報：参加者の満足度評価～	共著	2015.9	第62回日本栄養改善学会学術総会 (於 福岡国際会議場、福岡サンパレス)	<p>①「食と健康」に関する啓発活動、生活習慣の改善を図ることを目的とし、地域住民に対して連携公開講座を行った。アンケートの集計結果では、本事業の特徴である、講座とそのテーマに沿った食事を提供することにより、食に対する理解は深まり、参加者の生活習慣病予防、改善への動機づけになったことが推察された。</p> <p>②石本祐子、青木るみ子、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、坂巻路可、久保由紀子、田川辰也、近江雅代</p>

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
学生企画による大学生対象の食育実践～男女混合調理実習への取り組み～	共著	2015.9	第 62 回日本栄養改善学会学術総会 (於 福岡国際会議場、福岡サンパレス)	<p>③第62回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集 (p 304)</p> <p>①青年期は食に対する意識が低く、野菜摂取量が少ない、朝食欠食が多いなど、食に関する課題が多い。大学生がワークショップや調理実習などを通して、食に対する課題を見つけ、食・健康への関心を高めることを目的とし、主体的に事業企画、実践したことを報告した。</p> <p>②境田靖子、石本祐子、細井陽子</p> <p>③第62回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集 (p 318)</p>
地域住民の健康増進のための食育活動の展開 (第2報)	共著	2015.11	第 11 回日本給食経営管理学会学術総会 (於 日本女子大学)	<p>①地域住民の健康増進に貢献することを目的とした連携公開講座も2年目を迎え、第1回第2回のアンケート結果について報告した。昨年度の参加者実績と比較しても増加傾向を示し、リピーター数も約6割を占めている。参加回数が上がるにつれ、健康的な生活習慣を心掛けていることが確認され、地域に密着した食育活動の実現と取り組みの土台が構築されたと考えている。</p> <p>②青木るみ子、近江雅代、境田靖子、辻澤利行、久保由紀子、坂巻路可、天本理恵、石本祐子</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
音声波形解析による摂食・嚥下障害発症の予知技術確立に関する研究	独立行政法人 日本学術振興会（挑戦的萌芽研究）	○甲斐達男 石本祐子	800,000
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○清末達人 栄養学科教員	869,400

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市保健福祉局委託事業 男女混合調理実習	スタッフ	

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・教職員懇親会委員
- ・管理栄養士国家試験対策委員

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	石井 愛子	職名	助手	学位	医学(博士)(山口大学 2014年)
----	-------	----	----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
分子栄養学、食品化学	インスリン、脂肪細胞分化メカニズム

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・化合物Aによる膵β細胞のインスリン分泌能への影響を解析する ・食品因子による脂肪細胞分化制御への影響を検討する

担当授業科目
栄養学実習(前期) 給食経営管理実習Ⅱ(前期) 総合演習Ⅰ(前期) 基礎調理学実習(後期) 給食経営管理実習Ⅰ(後期) 臨床栄養学実習Ⅱ(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 栄養学実習 】(前期:2クラス)</p> <p>栄養価計算や食事摂取頻度調査表(FFQ)のソフト、栄養アセスメントキットは学生が初めて使用するため、使用方法の指導を行った。高齢者体験キットの装着時には手伝い、学生全員がスムーズに体験できるよう促した。自己献立による創作料理では、食器の選択などの質問に対応した。</p>
<p>授業科目名【 給食経営管理実習Ⅰ、Ⅱ 】(前期・後期:2クラス)</p> <p>大量調理の作業で注意する点や、施設・器具の使用方法について、学生が疑問に思うことに対して指導を行った。調理作業については、学生がこれまでの学習の積み重ねを活かし、大量調理に応用できるよう学生自身で考える力を身につけるよう助言した。管理栄養士班が、主体的に調理作業の手順や食事提供の順序など指示が出せるように促した。大量調理の衛生管理については、水質検査方法など質問が多かったため、指導を行った。</p>
<p>授業科目名【 総合演習Ⅰ 】(前期:2クラス)</p> <p>栄養指導の発表では、栄養媒体の片づけや準備を手伝い、進行がスムーズに行くよう促した。臨地実習に必要な物品の準備・購入に関しては、業者と連携し、必要に応じて個別に対応した。栄養媒体に使用する模造紙、画用紙の発注、管理を行った。臨地実習の報告会では、タイムキーパーとして進行がスムーズに行くよう努めた。</p>
<p>授業科目名【 基礎調理学実習Ⅰ 】(後期:2クラス)</p> <p>学生が初めて調理室を使用するため、調理室の使用法や器具の使い方、個人の衛生管理、掃除方法等、丁寧に指導した。調理技術に個人差が見られたため、切り方や加熱料理の火加減など適宜指導を行った。食材分配に関しては、担当以外の学生が自発的に手伝う場面が多々あり、スムーズに行うことができたが、班でのグループ作業が慣れていなかったため、盛り付け作業や洗い物などグループ内で協力するよう促した。</p>

授業科目名【 臨床栄養学実習Ⅱ 】(後期:1クラス)

経腸栄養管理の実習では、器具の使用方法が複雑であったため、細かく指導を行った。軟・流動食の実習での重湯や全粥作成では、火加減が大事であるため、特に注意を促した。調理実習では、学生に食材の分配をもらい、野菜の切り方や食材の計量など、今後の実習に応用できるようサポートした。実技試験の食材重量の目測では、食品交換表の写真と同様に見えるよう、食材の選別や、お皿の置き方を工夫した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本薬理学会		2008年 4月～現在に至る
山口医学会		2011年 12月～現在に至る
栄養学若手研究会		2012年 4月～現在に至る
日本栄養・食糧学会		2014年 9月～現在に至る
福岡県栄養士会		2015年 4月～現在に至る
日本栄養改善学会		2015年 4月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○清末達人 栄養学科教員	797,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

--

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 田中 貴絵	職名 助手	学位 博士(医学)(山口大学 2012年)
----------	-------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
細胞生物学	細胞内Ca ²⁺ 動員機構 インスリン ビタミン

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> 膵β細胞のインスリン分泌機構 インスリン分泌機構にビタミンがおよぼす影響

担当授業科目
解剖生理学実習(前期) 生化学実習(前期) 臨床栄養学実習Ⅰ(前期) 人体の構造と機能総合演習(後期) 食品学実験(後期) 栄養教育論実習Ⅱ(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【解剖生理学実習】(前期) 1クラス <ul style="list-style-type: none"> 学生にとって、初めてレポート提出が課される実習科目であることを考慮し、実習中の態度やレポートの提出期限の厳守について指導した。 身体計測器具や検査機器、顕微鏡などの様々な機器について、使用法を詳細に説明した。特に顕微鏡の使用頻度が高いため、正しい使用法を繰り返し指導した。
授業科目名【生化学実習】(前期) 2クラス <ul style="list-style-type: none"> 学生にとって、初めての本格的な実験であることを考慮し、実習中にノートをとることや、実習時の服装等について指導した。 実験器具の取り扱いを詳細に説明した。特に、禁止事項を行った際に引き起こされる結果や事故について解説し、安全な器具の取り扱いができるよう指導した。
授業科目名【臨床栄養学実習Ⅰ】(前期) 2クラス <ul style="list-style-type: none"> 測定の試料として生体試料を取り扱う際に、感染の防止に細心の注意を払い怪我のないよう努めた。 生化学、生理学的測定において複数の測定項目がある場合、試料・試薬が混同することがないように、ラベルによる色分けや配置を工夫した。
授業科目名【人体の構造と機能総合演習】(後期) 2クラス <ul style="list-style-type: none"> 分子模型を用いた実習では、正解を示す前に構造式と見比べ、学生自身が間違いに気づき修正できるように指導した。 ラットの解剖ではヒトとマウスの臓器の相違を説明しながら、臓器の形状と働きについて解説した。特に消化器の内面と心臓の内面については実体顕微鏡などを用いて観察させ、機能の違いが構造の違いに繋がっていることを理解できるように指導した。

授業科目名【食品学実験】

- ・ 基礎実験と食品成分分析を通して実験の基本操作を身につけ、食品に含まれる成分についての理解を深められるよう形状や特徴について解説・指導した。
- ・ 教員によるデモンストレーション後に、さらに実験書を確認し、実験の流れを理解してから実施するよう指導した。

授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】

- ・ 媒体作成において、対象者に理解してもらう為の工夫（フォントやレイアウトなど）をアドバイスした。
- ・ 学生個人々にインターネットから得られる情報の取捨選択についてアドバイスした。引用する場合は「出典先の表記をする」など、著作権を侵害しない方法を指導した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本薬理学会 日本栄養改善学会		2007年8月～現在に至る 2015年4月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

--

人 文 学 部

英 語 学 科

2015年度教育研究活動報告用紙

氏名 阿部 弘	職名 教授	学位 MA(TESL) (カンザス大学 1976年)
---------	-------	----------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
英語教育における英語音声学	英語教育、音声学、小学校英語

研究課題
<p>継続的な研究テーマは「英語教育における効果的な音声指導の探究」である。中学校・高等学校の学習指導要領には、「コミュニケーション能力の育成」の重要性が謳われており、その中でもとりわけ音声教育に関しては強調されている。一方、公立小学校においては「総合的な学習の時間」における「国際理解教育」の中で英語を教えることが可能になったことや、2011年度から小学校5・6年生対象に英語が「必修化」されたため、ますます音声教育の重要性が増してくることになる。しかしながら、現場の先生方は音声指導に関しては不得手な方が多いため、現在取り組んでいる実践的な研究が現場での教育の一助になり得ると確信している。そして最終的には小・中・高・大における音声指導の一貫性が重要な意味を持っていることを提唱したい。</p> <p>いみじくも、2016年1月6日付の日経朝刊には、文科省が英語教員の「話す・書く」能力強化に2018年度から着手するとあり、その中で、「中学生や高校生の指導に必要な正しい発音、話す力、書く力を養成するには十分とはいえない」（文科省担当者）と書かれており、音声指導の重要性が指摘されている。</p>

担当授業科目			
科目名	単位数		
	必修	選択	
Practical English Phonetics I (前学期)	2		<input type="checkbox"/>
Practical English phonetics II (後学期)	2		
英語教科教育法V (前学期)	2		
専門演習 (通年) (英語学科3年)	2		
卒業研究 (通年) (英語学科4年)	4		
教育実践研究 (不定期) (英語3・4年)	1		
教職実践演習 (後学期オムニバス) (英語)	2		
英語III (前学期) (看護・栄養学科2年)		1	
英語IV (後学期) (看護・栄養学科2年)		1	

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 Practical English Phonetics I 】</p> <p>担当しているどの科目も「授業学」ということばを念頭に置いた教育を実施している。Practical English Phonetics I (前学期) は英語学科1年生対象の必修科目である。授業は90分を二分して、前半45分は理論中心の展開の中で全体の practice を行い、後半45分は小グループに分けて、隣室小部屋での Group Lesson と呼んでいる発音の個人矯正指導を実施した。このことにより、英語学習における正しい音声修得の重要性を受講生に認識させた。4月から7月にかけては英国 Winchester 大学から来た2名の学生にも授業を参観させ、課題を採求させながら日本人学生に対して英語のモデルとしての働きを担わせた。</p>
<p>授業科目名【 Practical English Phonetics II 】</p> <p>この科目も英語学科1年生対象の必修科目である。中身は前学期と同様な時間配分での授業になっている。とりわけ指導上絶対に切り離せないのが、受講生に好評な発音の個人矯正指導である。他にも、前・後学期を通してテキストの本文を各自録音させ提出課題とし、総合評価の一部とした。</p> <p>授業評価アンケートの結果によると、ほぼ担当者のねらい通りの結果を得ているので、満足度は高いと言えます。</p>

る。しかしながら、予習・復習に時間をかけていない学習者が少数ながら存在したのは残念であり、新年度の対策としたい。

授業科目名【 英語教科教育法Ⅴ 】

教職課程履修4年生対象の必修科目である。教育実習に行く直前の指導であるため、主として模擬授業を中心に展開させ、それをお互いに批評し合い、教師が最後のコメントを行うという実践的な内容であった。さらに、一人ひとりを対象に、実習直前の発音個人矯正指導も、毎年恒例のことながら、授業時間外に実施した。
※受講者4名のうち、1名が北九州市の教員採用試験に合格した。

授業科目名【 専門演習 】

英語学科3年生対象の通年必修科目である。ゼミのテーマは「英語音声学的見地からの英語力強化と個人総合力強化戦略」である。前学期はリスニングの強化訓練を主軸とし、英字新聞記事を利用した英語力強化と世界情勢の把握に取り組みさせた。また、日本の各新聞からの情報収集は1年間継続し、記事の筆写には、前学期は強制的に、後学期は各自随意に取り組みさせた。特に後学期は就職活動を意識させながら、会社研究や面接対策にも目を向けさせ、模擬面接も各自に2度試みた。さらに、ビブリオバトルにも、ひとり3回挑戦させた。

授業科目名【 卒業研究 】

英語学科4年生対象の通年必修科目である。3年次で学習したことを一部継承させながら、就職活動の手助けになるような指導を行った。同時に4年次の最終目標は卒業論文を完成させることにあるので、「論文&レポートの書き方」という本を輪読しながら、テーマ設定やアウトライン作成をさせて行った。12月7日、14日、21日に、12名の受講生の論文発表会を実施し、その後、完成品を「卒業論文集」として冊子にした。

授業科目名【 教職実践演習 】

大学全体の教職課程履修4年生対象の必修科目である。これまでの教職課程での学びと教育実習を振り返りながら、教師としての使命感、保護者や地域社会への責任、信頼される学校づくり等の課題について総合的な理解を深めることで、実践力をさらに伸ばす機会となることを意図して開講されている。オムニバス形式であるため、教職課程に関わる複数の教員による授業となっている。15週のうち自分が単独で担当したのは、12月16日(水5時限)の「模擬授業(2)」の箇所であった。「模擬授業(1)」を受け継ぐことになっていたため、英語学科の4名のうち2名に模擬授業をさせて、講評した。なお、二人の担当箇所は以下の箇所であった。①「New Horizon 2 Unit 5 : A New Language Service p.50」、②「New Horizon 3 Unit 1 : Dialog p. 5」

授業科目名【 英語Ⅲ 】

看護学科・栄養学科2年生対象の選択科目である。ただし、看護学科の場合は「英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の4科目の中から2科目(2単位分)選択必修、栄養学科は「英語Ⅲ・Ⅳ」とも選択となっている。異なる2学科の合同授業となるので、基本的には両学科のDP1-1の中にみられる「広い教養・基礎的な教養」を念頭に置いた内容になるように工夫した。そのため、テキストは、2007年、当時読売新聞西部本社編集委員であった方によって、英字新聞「The Daily Yomiuri」(現在のThe Japan News)に毎週掲載されたコラム「英語でさるく」(Wandering through English)を読みながら教養力を身につけさせた。また、副教材として、両学科生に使用可能な範囲のものとして、医療英語・食育と健康、に関する内容のものを、適宜ハンドアウトとして使用した。なお、受講生は、看護学科2名、栄養学科3名の計5名であった。

授業科目名【 英語Ⅳ 】

看護学科・栄養学科2年生対象の選択科目である。選択の仕方は、上記「英語Ⅲ」で示した通りである。テキストは前学期使用のものを継続使用し、色々な分野の情報を読み取りながら、「広い教養・基礎的な教養」を念頭に置いて指導した。当科目においては栄養学科の受講生はなく、看護学科の5名のみであったため、「医療英語日英対照表」を用いて医療英語の語彙や表現などを十分に指導した。特に音読指導には時間を割いた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
九州英語教育学会 外国語教育メディア学会 大学英語教育学会 日本児童英語教育学会 日本英語音声学会 全国英語教育学会	全国大会事務局長2回、副会長・評議員 九州・沖縄支部長(2010年4月～2013年3月) 九州・沖縄・四国支部理事 (1996年12月～現在に至る) 上記掲載の通り、九州で全国大会開催時に2度事務局長(1992年、1999年)	昭和52年12月～現在 昭和53年1月～現在 昭和54年10月～平成21年3月 平成2年8月～現在 平成8年12月～現在 平成14年4月～現在

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著 書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
(その他)				
				教育研究業績総数(2015.1現在) 著書 学術論文 学会発表

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本英語検定協会 ・ 文部科学省初等中等教育局国際教育課 ・ スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)委員会 ・ 北九州市英語教育研究協議会 ・ 北九州市英語教育研究協議会 ・ 北九州紫水ライオンズクラブ ・ 北九州紫水ライオンズクラブ ・ 北九州紫水ライオンズクラブ ・ 北九州紫水ライオンズクラブ ・ 北九州紫水ライオンズクラブ ・ 北九州紫川ライオンズクラブ ・ JASTEC(日本児童英語教育学会)第20回九州沖縄支部研究大会 ・ 英検2次試験面接対策講座① ・ 北九州ゆめみらいワーク(英語学科として出展) ・ 英検2次試験面接対策講座② 	<ul style="list-style-type: none"> 二次面接試験委員 英語教育集中研修講師 運営指導委員 運営委員 運営委員(アドバイザー) 市民教育レオネスレクリーション委員 国際協調 YCE・LCIF 委員 社会福祉・公衆安全・環境保全・青少年指導・薬物乱用防止委員長 国際協調 YCE・LCIF 副委員長 社会福祉・公衆安全・環境保全・青少年指導・薬物乱用防止委員 賛助会員 支部長兼実行委員長(於西南女学院大学) 企画・運営・講師(於北九州まなびと ESD ステーション) 企画・運営・(模擬授業)(於西日本総合展示場) 企画・運営・講師(於北九州ま 	<ul style="list-style-type: none"> 1992年11月～2014年3月 2003年4月～2008年3月 2005年4月～2008年3月 2006年10月～2008年3月 2008年7月23日～2010年3月 2008年10月～2009年6月 2009年7月～2010年6月 2010年7月～2011年6月 2011年7月～2012年6月 2012年7月～2013年6月 2013年7月～2014年6月 2012年10月27日(土) 2015年6月27日(土) 2015年8月29日(土) 2015年11月1日(日)

	なびと ESD ステーション)	
--	-----------------	--

学内における活動等 (役職、委員、学生支援など)
<ul style="list-style-type: none"> ・英語学科長(2006年4月～2010年3月) ・学生委員会委員 (2007年4月?～現在) ・人文学部長(2010年4月～2012年3月、この間大学理事) ・英語学科長(2012年4月～現在) ・学長選考委員(2012年7月～2013年1月) ・ウィンチェスター大学教育実習生に「PHONETICS」の講義(2014年4月～6月、7年連続) ・教員免許状更新講習講師(2015年8月18日、2009年以降7年連続) ・人事委員(2012年4月～現在) ・2013年度FD研修会(テーマ:西南女学院としての教育力を高めよう)における、第3分科会(テーマ:学生のやる気を引き出す授業づくり)で、代表者のひとりとして20分間の講師 (2013年9月26日) ・オープンキャンパス2015 模擬授業 テーマ:「英語の発音を学ぼう」～あなたはアナログ派? or デジタル派?～ (2015年8月23日) ・2015年度職員研修懇談会にて英語学科のSWOT分析について発表 (2015年9月5日) ・北九州市立板櫃中学校・北九州市立思永中学校における、英語学科教職課程履修者による学習支援のコーディネーター(前者は2014年4月～現在、後者は2015年4月～現在) ・「英検準1級」合格者(3年生1名)の二次面接対策個人指導(2016年2月19日) →結果は「合格」 ・2016年度に英語学科で新規開講の科目「キャリア開発」の準備に向けて、「平成28年度広島大学全学FD PBLシナリオ作成ワークショップ」に登録・参加(2016年3月15日 於 広島大学東広島キャンパス) (部活動・その他) ・朝礼司会及びチャペルの司会(チャペルの司会は年間計6回) (2014年度より追加部分) ・大学・短期大学部テニス部顧問 (2003年4月～現在) (短期大学時代は1987年4月に部昇格以来2003年3月までテニス部顧問、九州1部リーグに昇格して3年、3年前2部に転落したため、現在チーム再建中)

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 L.D.Woolbright	職名 教授	学位 修士(文学)(デンバー大学 1982年)
-------------------	-------	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
教育学、パブリック・スピーキング	slang, world English, movies, English Haiku

研究課題
English Haiku

担当授業科目
Oral English I (前期) Oral English II (後期) Public Speaking I (前期) Public Speaking II (後期) English Discussion I (前期) English Discussion II (後期) Debate (後期) 英会話A 英会話B 卒業研究(前期・後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 Oral English I 】 このクラスでは、語彙の構築に取り組み、効果的な語彙の使い方を指導するなかで、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能の習得に取り組んだ。また e-Learning の CH1eru を取り入れ、学生が自主学習を行うように毎週課題を与えた。学生の語彙習得の状況がわかり効果的な指導を行うことができた。
授業科目名【 Oral English II 】 夏季休暇中の活動について英語でレポートを出すよう奨励し、夏休みに課題を与えた。 少人数制のクラスのため、ペアワークを多く行った。また、個人のペースで英語が上達するように手助けをすることを心がけて授業を進めた。 それぞれのレベルと授業についていけているかを確認するために、毎週ミニテスト(クイズ)を行った。 また、3分間スピーチの課題を与え、上位の学生は毎年実施するシオンカップコンテストに出場させた。 前期と同様、個々の生徒に出席表と授業の進捗表を渡した。教員はその都度スタンプを押し、各自の出席状況がはっきりわかるようにした。この方法で、学生の出席状況の改善に役立てた。
授業科目名【 Public Speaking I & II 】 スピーチ作成準備の時間を十分にとったことで、今年度は授業方法を理解し、納得のいくスピーチを作成することができた。今年度は、スピーチの他已評価だけでなく、自分評価を導入することにより、数名の学生が期日までにスピーチの提出ができなかったことから、次年度は個別指導を積極的することで改善したい。
授業科目名【 English Discussion I 】 テキストは"Impact Issue 2" を使用し、学生には毎週レポートを課した。新しい単語を使用し文章を書かせることで多くの語彙を学ばせる工夫を行った。更に、英語を使用する機会を増やすためにペアワークの機会を

<p>作ったことは、ある程度一般的なコミュニケーション技術を向上させることに有効であった。</p> <p>また個々の学生の英語学習に役立てるようコンピュータ支援学習を取り入れたこと、English Lecture への出席を課すことで、ヒアリング能力の向上に効果があった。</p>
<p>授業科目名【 English Discussion II 】</p> <p>Discussion I と同様のやり方で授業を継続しているが、パワーポイントを使用しているグループでプレゼンテーションを行うことを課した。優秀なプレゼンテーションについては、英語学科の英語コンテストにおいて発表する機会を設けたことで、学生が課題に積極的に取り組み、効果的であった</p>
<p>授業科目名【 Debate 】</p> <p>基礎的なディベート技術を習得してもらうために、より緩やかでシンプルに教材を使用することを心掛けた。今年度は簡単な意見交換から始めた。次に、根拠による意見の指示の仕方、証拠を使用した根拠の指示の仕方、そして有意味なメッセージを情報に組み入れる方法を補うためのディベートの基礎的学習へと移行する方法をとった。また、学生は、相手の節目に反論するための議論の仕方、証拠に対して異議申し立てを行う方法、一つの意見に対する反論を組み立てる方法を授業の中に取り入れている。最後には、意義のある、徹底したディベート方法を学ぶことができた。</p>
<p>授業科目名【 卒業研究 】</p> <p>今年度はゼミ生（9名）によるグループ・ワークを中心に、学生たちが興味をもっている幅広い内容を取り上げた。英国留学生が授業に参加することで、英語を話すことに対する高い動機づけとなり効果が高かった。</p> <p>今年度も、卒業論文作成へ向けての指導も行い、9名とも卒業論文を完成することができた。さらに、北九州が実施する清掃ボランティア活動に参加するとともに、就職試験に向けての面接指導を行い、就職希望者全員の就職が決まった。</p>
<p>授業科目名【 英会話 A 】</p> <p>このクラスでは、語彙の構築に取り組み、効果的な語彙の使い方を指導するなかで、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能の習得に取り組んだ。英語専攻でない初級クラスのために、西洋音楽の英語の歌を歌うことで、英語学習の動機づけを行った。</p>
<p>授業科目名【 英会話 B 】</p> <p>英会話 A で使用したテキストを続けて使用し、更なる語彙の構築に取り組んだ。学生の英語能力に差があり、英語習得に苦戦する学生がいたため、特に試験前は復習の時間にかなり割いた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
全国語学教育学会	平成 3.9～福岡支部ニューズレター編集委員、平成 4.2～福岡支部 Publicity Secretary 委員、平成 5.1～福岡支部長、平成 6.1～理事、平成 10.1～北九州支部長、平成 11.2～広報支部長、平成 12.1～平成 12.12 JALT2000 News 編集委員、平成 14.10～平成 15.12 編集委員 平成 16.10～平成 19.3 北九州支部長	1985年4月～現在に至る
日本コミュニケーション学会		1990年2月～2000年3月
大学英語教育学会		1991年4月～現在に至る
九州英語教育学会		1991年8月～現在に至る

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文)				
(学会発表)				
(その他) 入賞	単独	11月3日	第2回オンリーワン鹿兒島木の俳句コンテスト(第30回国民文化祭・かごしま)	以下の英語俳句が入賞した。 "A gnarled plum tree Also waits Reincarnation"

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
第15回 IBCスピーチコンテスト	西鉄国際ビジネスカレッジ スピーチコンテスト審査員	2015年11月20日
第66回ギャロット杯争奪英語弁論大会	西南学院大学スピーチコンテスト審査員	2015年11月21日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

○国際交流委員会

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 マルコム ロス スワンソン	職名 教授	学位 大学教育部大学院修士課程
---------------------	-------	-----------------

研究分野	研究内容のキーワード
1. Second language learning 2. Tablet devices and CALL 3. Self-access learning centres	e-Learning, learner autonomy, student-centered learning, computer assisted language learning, self-access, tablet devices

研究課題
1. Student centred learning through self-access centres 2. Digitising the English language learning classroom 3. Use of tablet devices for second language learning

担当授業科目
Academic English Writing Advanced English Discussion I & II Area Studies II Extensive Reading I, II, III (supervision) Media English / English Multimedia Media Skills Oral English I & II Presentation Skills / English Presentation 英会話 I & II (栄養学科) 専門演習 卒業研究

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【Oral English I & II】</p> <p>今年度この科目は、過去数年行っているプログラムを継続している。一方で、学生には CHieru を使用してのeラーニング学習をより一層推奨し、その結果プレゼンテーションやディスカッションでは完成されている。スキルの向上が明確に示された。今年度は、観光文化学科との協働による新カリキュラムが予定されている。これにより、学生の会話力及びリスニング・スキルの向上の機会となることが期待されている。2016 Goal: Build students' vocabulary levels.</p>
<p>授業科目名【Advanced English Discussion I & II】</p> <p>非常勤講師・ジッツマン先生との協働により、なお一層のディスカッション・スキルの伸ばすために、カリキュラムの総点検を行っている。学期の初めに、トピックから授業プログラムの残りすべてのコースの授業計画を学生が立てるようにした。彼らはまた教員と協議し、自己評価も行った。後期には、ビジネスによる手法、そして事例研究や共同調査研究を中心に構築した授業方法を用いた。その結果、学生が研究した結果が他の学生への教材として示されている。両コースは、実によく機能しており、以前と比較するとクラス・アクティビティにおいて学生が英語を使用する際、学生にとって満足するものとなっている。2016 Goal: Develop more Critical Thinking activities to get students more engaged.</p>

<p>授業科目名【Media Skills】</p> <p>ウェブサイト“seinan-jo.com”を使用をし、語学学習者に有効ないくつかの技術を検討しつづけていた。ソーシャル・ネットワーク、ポッドキャスト、グラフィックス、ウェブデザイン、調査法、オンライン語学学習ツール、ビデオサイトなどである。いつも人気のコースであり、学生はよりウェブ知識に精通するようになるが、ますますそれらを網羅した教材を探すのが困難となっている。</p>
<p>授業科目名【Academic English Writing】</p> <p>このコースでは、情報調査の仕方、情報の組み当て方、Writing の過程を学ぶといった、学術的なレポートの構成に焦点を当てている。学生は関連する Activities と、学期の最後に評価のためのレポートを提出する。これらのレポートは冊子にまとめられ、学生に手渡すようにしている。</p>
<p>授業科目名【Presentation Skills】</p> <p>この科目では、マイクロソフト社のパワーポイントのようなプレゼン用ソフトを使用し、調査する、作成する、練習する及びプレゼンで伝達するといった準備するために必要な技術について焦点を当てている。学生は個人個人で、ウェブ上に6つのミニプロジェクトをアップロードさせ、完成させるという課題を課した。また、ワークブック、上手なプレゼン練習についての小論文、最終的なプレゼンを提出されることで評価を行った。次年度は、パワーポイントに焦点を当てずに、他のプレゼン用ソフトを中心に使用することにしている。2016 Goal: To concentrate on the CONTENT of the presentations more than the design.</p>
<p>授業科目名【Extensive Reading I & II】</p> <p>今年度は、この科目のプログラムを拡張した。具体的には、受講生のスマートフォンに X reading の学習コース（本）をダウンロードさせることによって、学生はいつでもどこでも、ダウンロードした本を読み、テストを受ける学習が可能となった。このプログラムにより、彼らの読書量の増加した。2016 Goal: To build our students' vocabulary and reading speeds so they can read more effectively</p>
<p>授業科目名【Media English / English Multimedia】</p> <p>この授業は、このクラスで iPad を初めて使用している。2016 年度にはアクティブ・ラーニングルームが開設した際には学習プログラムが拡張されるであろう。</p>
<p>授業科目名【英会話 I & II (栄養学科)】</p>
<p>通常授業以外に、英語学科の学生のために以下の特別行事を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 俳句・花見イベント (Haiku & Hanami Event) ● 英語講義 6 回シリーズ (English lectures (6x)) ● フレッシュ・キャンプ (English Camp) ● シオン英語スピーチ・コンテスト (Zion Cup English Contest) ● クリスマス・インテンシブ (Christmas Intensive) ● ムービー・ウィーク (Movie Month) ● Chieru を使用しての e-Learning 学習 ● 高校生を対象とした英語検定 2 次対策講座・ワークショップ (7 月・11 月)

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
全国語学教育学会	会員	1996年～現在に至る
	第 40 全国語学教育学会 大会研究発表 記録集編集長 Website 編集委員	2015年10月 2010年5月～現在に至る
CALICO (コンピュータ支援言語 教育コンソーシアム)	会員	2005年5月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) EFL 学習者の速読力向上に関する研究	共著	2016年3月	西南女学院大学紀要 Vol.20	効果的な読解力の習得をサポートすることは、英語力を向上させる上で重要なステップである。特に、多読は語彙を増やし、速読を促し、文法力も向上させる訓練としての可能性を秘めている。本研究では、同時開講された2つの多読クラスを比較検討し、速読力向上に焦点を充てたクラスが読解力にも向上が見られたか検証する。 (共同研究者：Paul Collett)
(翻訳)				
(学会発表) Developing a Digital Phonetics Course	単著	2015年4月	JALT CALL 2015, 九州産業大学	西南女学院大学英語学科科目におけるデジタル・音声学を創造する上での討論過程について発表した。
Increasing reading rates through timed reading	共著	2015年6月	JALT Extensive Reading Seminar	西南女学院大学の科目「Extensive Reading」において受講生の読書スピード向上の試みについて報告した。(共同研究者：Paul Collett)
Use of presentation software for student collaboration	単著	2015年8月	Apple Distinguished Educators Event (Singapore)	学生間の協働作業を創りあげるためにiPadのソフトウェアをどのように利用したかについて概説した。
Group posters for structured language building	単著	2015年8月	Vietnam Teacher Workshops- 全国語学教育学会 THT SIG	ベトナム高校教員を対象にした、学生の英語スキル向上のためのポスターの使用法についてワークショップを行った。
iPad apps for teaching and Learning	共著	2016年1月	Apple Store, Fukuoka	教員を対象に授業の中で iPad を使用しての指導および学習のための使用方法についてワークショップを行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
福岡県東峰村におけるグリーンツーリズムの推進による地域活性化の研究	西南女学院大学	木沢誠名, 飯田一郎, マルコム スワンソン	2,120,000
<i>Going Paperless in the Classroom: Creating e-textbooks for use on iPads</i>	西南女学院大学	マルコム スワンソン、阿部弘、八尋春海	760,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
梅光学院大学ESSスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2015年6月7日
MPI 主催 パートナー キッズコンテスト	子供スピーチ・コンテスト審査員	2015年11月21日
キャンベル杯ディベート&スピーチ・コンテスト	西南女学院高等学校ディベート&スピーチ・コンテスト審査員	2016年3月12日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

<p>教育経費予算配分委員 英語学科の予算委員を担当し、2014年度委員長となる。</p> <p>情報システム管理運用委員 531 教師のアクティブ・ラーニング・センターについての計画に取りかかる。</p> <p>オープンキャンパス、英語学科のオープンキャンパス、保護者懇談会、マロリーカップ（スピーチコンテスト）の委員となって企画、運営を行う。</p> <p>英語学科ウェブサイトの管理 英語学科のウェブサイト情報をアップデートするための委員会の責任者となる。</p>

英語学科フレッシュ・キャンプ委員

プログラムの企画検討を行う。(行き先：山口県西長門リゾートホテル)

教育の質保証プロジェクト会議

アクティブ・ラーニングについての検討委員会のメンバーとなる。

シニアサマーカレッジ担当

「日常生活におけるタブレットの使い方」についてワークショップを行い、受講生に好評だった。

Extensive Reading Seminar 実行委員長

本学で JALT Extensive Reading 学会が 6 月に開催され、実行委員長となった。この大会では英語学科学生がボランティアで運営のサポートを行った。

東峰村エコツーリズム・プロジェクト

春期・秋期の 2 回、英語学科学生とフィールドトリップに参加し、ローカルツーリズムにおける農業について体験学習を行った。

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	横溝 紳一郎	職名	教授	学位	博士(ハワイ大学大学院 1997年)
----	--------	----	----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
小中連携の英語教育、学習意欲と教師の言動の関わり、教師教育者の役割	連携(アーティキュレーション)、学習意欲(モチベーション)、アクション・リサーチ

研究課題
小学校と中学校の英語教育の連携の「あるべき姿」を、協働的アクション・リサーチを通じて調査・分析している。また、教師の言動が学習者の学習意欲にどのような影響を与えるのかについても、包括的な調査を行っている。加えて、「実習生や現職教師に対して、教師教育者がどのように働きかけるべきか」についての、理論的・実証的研究を進めている。

担当授業科目
日本語教育実習(通年) 専門演習(通年) 卒業論文(通年) 異文化間コミュニケーションⅠ(前期)(英語学科) 異文化間コミュニケーション(前期)(観光文化学科) 日本語教育方法論Ⅰ(前期) 日本語教育方法論演習Ⅰ(前期) 英語教科教育法Ⅱ(前期:教職課程) 教育実践研究(前期:教職課程) 教育実習(前期:教職課程) 異文化間コミュニケーションⅡ(後期)(英語学科) ことばと文化(後期) 日本語学概論(後期) 日本語教育方法論Ⅱ(後期) 日本語教育方法論演習Ⅱ(後期) 英語教科教育法Ⅲ(後期:教職課程) 教育実践研究(後期:教職課程) 教育実践演習(後期:教職課程) 事前・事後の指導(後期:教職課程) 教育実習Ⅱ(後期:教職課程)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
通 年
授業科目名【日本語教育実習】 教育実習の教壇実習授業として、(1)ウィンチェスター大学からの留学生相手の授業、(2)北九州 YMCA での授業と、2度実施した。各教壇実習授業の回数と授業時間の増加により、昨年度に比べ、1.5倍近くの実習授業時間を確保した。また、それに付随する形で、事前・事後指導だけでなく、実際の教壇実習指導の現場でも必ず実習生と行動を共にした。
授業科目名【専門演習】 前期は社会人基礎力について、後期はロジカル・ライティングについて、演習形式で授業を進めた。

<p>授業科目名【卒業論文】</p> <p>卒業論文の完成まで、授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、個別対応の指導を課外授業という形で行った。各履修生が選んだテーマを最大限に尊重することで、卒業論文執筆への意欲を高めた。</p>
<p>前 期</p>
<p>授業科目名【異文化間コミュニケーションⅠ・異文化間コミュニケーション】</p> <p>集中力の維持をめざして、(1)教科書の使い方の工夫、(2)画像や映像教材の多用、(3)ふり返りの時間の確保、(4)わたしメッセージの発信、(5)座席指定と数回の席替え等の対策を講じた。</p>
<p>授業科目名【日本語教育方法論Ⅰ】</p> <p>日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。そのことにより、外国語の学び方も学べる環境を整えた。</p>
<p>授業科目名【日本語教育方法論演習Ⅰ】</p> <p>日本語教育方法論Ⅰ及びⅡでカバーした内容を基に、日本語教育の現場を演習形式で体験する授業を展開した。</p>
<p>授業科目名【英語教科教育法Ⅱ】</p> <p>教師の役割、読む・聞く・話す・書くことの教え方、読む・聞く・話す・書くことを統合した教え方等、英語の教え方について、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。そのことにより、英語の学び方も学べる環境を整えた。</p>
<p>授業科目名【教育実践研究：教職課程：集中】</p> <p>他の2名の担当教員と協力して、「教育実習」の授業に役立つよう、授業内容を調整しながら進めた。</p>
<p>授業科目名【教育実習：教職課程：集中】</p> <p>教育実習に行く前、学生の教案作成や教材準備等の面で、具体的な指導を行った。</p>
<p>後 期</p>
<p>授業科目名【異文化間コミュニケーションⅡ・ことばと文化】</p> <p>日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当て、授業を運営した。視聴覚教材等の使用により、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大し、社会的出来事を広く深く考える機会を履修生に与えた。</p>
<p>授業科目名【日本語学概論】</p> <p>日本語学についての基礎知識に関する授業なので、日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、予習→授業での解説→日本語教育能力教育検定試験の問題回答、という流れで進めた。</p>
<p>授業科目名【日本語教育方法論Ⅱ】</p> <p>日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。テーマとして「教室運営」を選び、教師の言動の大切さを伝えた。</p>
<p>授業科目名【日本語教育方法論演習Ⅱ】</p> <p>次年度の日本語教育実習につなげるために、授業観察、教案作成、マイクロ・ティーチング、等を演習形式で行った。マイクロ・ティーチングの直後に、撮影した授業のDVDを作成し、各授業担当者にその日のうちに手渡し、映像による授業のふり返りの機会を与えた。</p>
<p>授業科目名【英語教科教育法Ⅲ：教職課程】</p> <p>発音の教え方、「教室運営」のし方、テストの作成方法、アーティキュレーション（連携）の作り方など、英語科教育法Ⅱでカバーしなかった内容に焦点を当て解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。その結果、英語科教育法Ⅱと英語科教育法Ⅲを受講することにより、英語教育に関する基本的な知識を得ることを可能にした。</p>
<p>授業科目名【教育実践研究：教職課程：集中】</p> <p>他の担当教員と協力して、授業内容を調整しながら進めた。</p>
<p>授業科目名【教育実践演習：教職課程：集中】</p> <p>他の担当教員と協力して、授業内容を調整しながら進めた。</p>
<p>授業科目名【事前および事後の指導：教職課程：集中】</p> <p>教育実習の前後に、英語の教え方に関する具体的なアドバイスを与えた。</p>
<p>授業科目名【教育実習Ⅱ：教職課程】</p> <p>教育実習に行く前、学生の教案作成や教材準備等の面で、具体的な指導を行った。</p>

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本語教育学会	評議員 (2001年7月～2007年6月) 研究集会委員 (2006年7月～2011年6月) 理事 (2007年7月～2013年6月)	1988年8月～現在に至る
九州日本語連絡協議会	事務局長 (2007年4月～2011年3月)	2005年10月～現在に至る
日本教師教育学会		2004年4月～現在に至る
日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク	副代表 (2010年10月～現在に至る)	2010年10月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 日本語教育 学の デザイナー—その地 と図を描く—	共	2015.5	凡人社	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本語教育学の「今まで」を整理し、「今」の社会的状況を踏まえた上で、「これから」を考えていくための「地図を描き、それを見せる」ことを目的として書かれた本である。 ② 監修者名 神吉宇一 共著者名 名嶋義直、柳田直美 他 30名 ③ 担当部分 第3章の5「ことばの教師の育成について」(pp.180～181) 総頁数 P230 ④ A5版
2. 日本語教師の7つ 道具シリーズ⑧教 案の作り方	共	印刷中	アルク	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本語授業の教案に関して、作成手順を渡りやすく提示することで、教育実習生や新人教師が教案作成できるように導く指導書である。さらに、20名の現役日本語教師が作成した教案も掲載し、そこから学ぶ点についても解説を加えている。 ② 共著者名 坂本正 ③ 担当部分 全ページに渡り共同執筆・編集を個なっているため、抽出不可能。 総頁数 P100 (予定) ④ B5版
(学術論文) 1. 教案作成・実習授 業準備における、 教師教育者の指導 のことば—タイミ ング・質・量の適 切さに関する一考 察—	単	印刷中	南山大学外国人 留学生別科 40 周年記念事業プ ロシーディングス	<ul style="list-style-type: none"> ① 2015年6月13日に開催された「日本語・日本語教育研究大会」での発表を論文形式にまとめた論文集の中で、教師教育者の指導のことばのあるべき姿について、タイミング・質・量の面から多角的に考察した。

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
7. 学習者が自分たちで学ぶ授業をめざして一頑張るのは、教師ではなく学習者一	共	2016.1	国際シンポジウム「現場を支える日本語教育研究—学ぶ・教える・評価する」(東京)	① 日本語学習の主体は学習であるという観点から、教師ができること・すべきことに関して、具体的に論じた。 ② 共同発表者 嶋田和子 羅曉勤
				教育研究業績 総数 (2016.4.1現在) 著書 25 (内訳 単 3, 共 22) 学術論文 38 (内訳 単 30, 共 8) 翻訳 1 (内訳 単 0, 共 1) 学会発表 62 (内訳 単 30, 共 32) (その他) 視聴覚教材 3 (内訳 単 2, 共 1) 書評 1 (内訳 単 1, 共 0) 科研成果報告書 4 (内訳 単 0, 共 4) 事典 1 (内訳 単 0, 共 1) 文化庁委嘱 2 (内訳 単 0, 共 2) 事業報告書 その他の報告書等 11 (内訳 単 0, 共 11) 以上

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
教師教育者・メンターの成長に関する研究— 熟達者と新人の情感性と身体性に着目して—	日本学術振興会	○ (柳瀬陽介) (檜葉みつ子) (今井浩之) (玉井健) (山本玲子) (長嶺寿) (田尻悟郎) (吉田達弘) 横溝紳一郎	1,000,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
協働的アクション・リサーチによる、中1入門期の英語教育に関する総合的研究	日本学術振興会	1,200,000	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
福岡市立博多小学校外部評価委員	委員長	2007年4月～現在に至る
福岡市立博多中学校サポーター会議	委員	2007年4月～現在に至る
福岡市国際教育礎プラン運営指導委員会	委員	2015年4月～現在に至る
福岡市国際教育懇話会	座長	2015年4月～現在に至る
福岡県立香住丘高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール事業運営指導委員会	委員	2011年4月～現在に至る
福岡県立香椎高等学校スーパープロフェッショナル・ハイスクール事業運営指導委員会	委員	2015年4月～現在に至る
福岡市教育センターG研（グループ研修）	研究指導者	2015年4月～現在に至る
福岡市中学英語教育研究会主催 Yoko-Yoko Network	コーディネーター	2012年4月～現在に至る
公益財団法人日本英語検定協会講師派遣	講師	2012年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

学生募集委員会 委員	2013年4月1日～2016年3月31日
教職委員会 委員	2015年4月1日～2016年3月31日
就職委員会 委員	2015年4月1日～2016年3月31日
外部資金導入プロジェクト 委員	2015年4月1日～2016年3月31日

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 村橋 素行	職名 教授	学位 フランス語学士(西南学院大学)
----------	-------	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード

研究課題
ホーソンにおけるピューリタン信仰と芸術(文学)の相克

担当授業科目
前期: Intensive Reading I, TOEIC 演習 A, 現代ビジネス人材論(旧カリキュラム) 後期: Intensive Reading II, TOEIC 演習 B, 現代ビジネス人材論(新カリキュラム), インターンシップ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【Intensive Reading I, Intensive Reading II】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校までの文法・語法・構文についての学修内容を再確認し、その知識に基づく英文解釈。 ・ 教材の客観的理解と、視点を提示することによるクリティカルシンキングの支援。 ・ 規範文法では説明できない生きた英語への対応力養成。
<p>授業科目名【TOEIC 演習 A, TOEIC 演習 B, TOEIC 演習 D】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米におけるビジネスや社会生活のしくみや実例を紹介し、実社会で必要とされる英語情報の処理技能につながる学修。 ・ 個人別の弱点分野の把握に努め、添削や研究室で個別指導。
<p>授業科目名【現代ビジネス人材論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人基礎力の概念とその自律的な向上を図る手順を、パワーポイントで提示。 ・ ビジネス実務で不可欠な状況分析手法、口頭・文書による各種コミュニケーション、企業会計知識、マナー・プロトコルなど、即戦力として必要な基本手法を整理して提供。
<p>授業科目名【インターンシップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップで当面必要とされる職場における基本動作、基本知識の獲得と自主的な業界研究の支援。 ・ 社会の動向に関心を持ち、自らの視点で意見をまとめ発表するための手法と語法の定着化。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本アメリカ文学会 九州アメリカ文学会 北九州アメリカ文学研究会		2014年5月 同上 2014年9月

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任 期 期 間 等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

--

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	大谷 浩	職名	教授	学位	EFL修士
----	------	----	----	----	-------

研究分野	研究内容のキーワード
英語教育、第2言語習得	日本の英語教育改革、小中高大連携、英語力評価試験

研究課題
日本の教育システム全体を視野に入れつつ、小規模地方大学が英語教育分野で果たすべき役割を考察し、もって勤務校の発展につながる方策を追究する。具体的には、高校卒業後も英語力向上に意欲を持つ学生に対して、いかにして実際にその力を向上させるかが最大の課題。また、英語を通して視野を広げさせ、自らがどのような社会貢献ができるかを自覚し、それに向け努力する態度を養成するか、などの研究。

担当科目
英語学概論Ⅰ、英語学概論Ⅱ、基礎演習Ⅱ、Extensive ReadingⅢ、Paragraph Writing、Creative Writing、専門演習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【英語学概論Ⅰ】</p> <p>教科書で説明されている内容をふまえ、より身近で学生達に馴染みのある事例を交えながら、わかりやすい説明を心がけた。抽象度が高く理解が進まない分野については、予定よりも多くの時間をかけて確実に理解できるまで説明した。毎回の授業でリアクションペーパーを提出させ、自らの学習を振り返る時間を取った。</p>
<p>授業科目名【英語学概論Ⅱ】</p> <p>英語学概論Ⅰに同じ。</p>
<p>授業科目名【基礎演習Ⅱ】</p> <p>教科書にある例題をきっかけに、関連事項を新聞記事から紹介して、例題に見られる考え方が現実社会に必要であることを示した。また、常に卒業論文の書き方と深く関係することを教示した。毎回の授業でリアクションペーパーを提出させ、自らの学習を振り返る時間を取った。</p>
<p>授業科目名【Extensive ReadingⅢ】</p> <p>学生のレベルを考慮し、難しすぎない教材を選出した。読むだけでなく、内容が把握できているかの確認を行えるようにした。</p>
<p>授業科目名【Paragraph Writing】</p> <p>クラス全体への説明では理解できない学生が多いので、個人指導の時間を必要に応じて多めに取った。</p>

授業科目名【 Creative Writing 】

自分たちが関心のあるテーマを選ばせ、それについて書かせるようにした。書いた内容は尊重しつつその表現の仕方について、クラス全体から意見を求めながら書き方を向上する指導を行った。

授業科目名【 専門演習 】

2年時までの勉強や生活に問題を抱える学生達なので、ゼミに参加することが楽しく感じられる工夫をした。覚えて楽しく役に立つ表現集を使ったり、互いの悩みを隠さず打ち明けられるような雰囲気を作り出したりにすることに心がけた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
全国英語教育学会 九州英語教育学会	役員 (常任)、幹事 (常任)、事務局長 (2001-2001)	1995年 1994年

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 動画配信授業でできる こと、できないこと	単著	2015年11月	上智大学英語教員研 究会 ASTE	ICT技術を駆使した動画配信授業 の実践を報告した。その上で、I CT技術で実施できる授業及び学 習形態と、人間が指導しながら行 わなくてはならない学習形態の 違いについての考察を深めた。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
入試委員会委員、学生募集委員会委員、教学マネジメントWGメンバー、入試問題作成委員、入試問題点検委員、高校への出前授業担当多数、シニアサマーセミナー講師担当、英検２次面接対策講座担当（英語学科で実施）、

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	ブラウン馬本 鈴子	職名	講師	学位	文学博士
----	-----------	----	----	----	------

研究分野	研究内容のキーワード
イギリス文学、イギリス文化	ドリス・レスリング、ジェイン・オースティン ジェンダー、イギリス、

研究課題
主に現代の女流イギリス文学に関する研究を行う。大まかには、女性の精神的・社会的な幸福にフェミニズムがどのように関与しているのかの分析を行う。 今年の具体的な研究課題は、授業でも取り扱っているジェイン・オースティンに関する論文を完成させることである。

担当授業科目(後期)
女性研究 英語資格演習Ⅴ 英米文学作品研究(劇・詩) 英語文学入門Ⅱ、英米文学論 基礎演習Ⅰ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 女性研究 】</p> <p>現代の学生が共感しやすい映画『プラダを着た悪魔』を鑑賞しながら、せりふや文化背景を学んでいく中で欧性の置かれている社会的地位や、彼女たちが持つ価値観や本音を学習し、日本の女性と比較できるように誘導 女性学に関するキーワードが載った自習教材を毎回配布し、学生たちの意識を女性の生活向上に向けるようにした。毎回の授業で行う復習テストやレポート提出、中間テストによって、学習意欲を高めた</p>
<p>授業科目名【 英語文学入門Ⅱ、英米文学論 】</p> <p>速読と精読の両面から文学作品にアプローチするための導入の授業として、欧米人にはなじみの深いアメリカとイギリスの小説を取り扱った。またそれぞれの小説の文学的批評を紹介し、映画の解釈との比較も学生に行わせた。レポートに比重を置いたので、レポート作成にあたってのメールでの個人指導や、図書館の多読コーナーへの誘導も行った。</p>
<p>授業科目名【 英米文学作品研究(劇・詩) 】</p> <p>英米の主要な詩人の詩をテーマにして、その詩の技法・鑑賞方法を指導した。授業の初めは、詩歌の音やリズム、意味の解釈の練習として、欧米のポップソングを使用した。授業の終わりには、その日学んだ詩を題材にして各個人で解釈を行う時間を設けた。後期授業の後半では、詩の暗唱テストを行い、リズムや発音の個人指導を行った。</p>
<p>授業科目名【 基礎演習Ⅰ 】</p> <p>大学に入学して約半年経過した1年生に改めて大学生活を学業・生活の面で振り返りを促し、より効率的な勉強の仕方、基本的なスタディ・スキルの指導(2回の授業はパソコン室にて)を行った。その集大成として、学生は自分で選んだアカデミックなテーマに関する徹底調査・研究を行いレポートを作成、更にパワーポイントを使用してプレゼンテーションを行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本英文学会九州支部 映画英語教育学会 (ATEM) 九州支部 日本オーステイン協会	支部評議員 (なし)	2001年10月～現在に至る 2006年10月～現在に至る 2015年11月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等 (役職、委員、学生支援など)
(委員) 倫理審査委員 図書委員 (学生支援) 「英検準1級勉強会」と題し、後期の毎週1回90分有志の学生を集めて勉強会を行った。最後まで勉強を続けた学生たちは、610語の英単語を覚え、過去2回分の英検準1級の全問題を解答し、教師は解説を行った。

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 塚本美紀	職名 講師	学位 修士(教育学)(テンブル大学 2005年)
---------	-------	--------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
英語教育学	CLT (Communicative Language Teaching), TETE (Teaching English Through English), ELF (English as a Lingua Franca)

研究課題
英語教育学について、コミュニケーション能力を育成する指導方法について中心に考察する。また、現代の国際社会において、英語が事実上の国際語であるという視点から英語教育をとらえ考察を深めたい。

担当授業科目
Grammar & Composition I (A)、(B) (前期) 小学校英語教育入門 (前期) Grammar & Composition II (A)、(B) (後期) 小学校英語教育研究 (後期) 英語教科教育法 I (後期) 英語教科教育法 IV (後期) 専門演習 (通年) 卒業研究 (通年) 事前及び事後の指導 (通年) (英語学科) 教育実習 II (通年) (英語学科) 教職実践演習 (中・高) (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【Grammar & Composition I】 間違いやすい文法項目について、解りやすい説明と例文の提示を心がけた。また、教科書に出てくる語彙のためにスマートフォンで利用できるアプリを利用して、学生がいつでも学習しやすいようにした。</p>
<p>授業科目名【小学校英語教育入門】 英語教育の理論的背景や法律などについては、学生の理解が進むように具体例を説明するなどの工夫をした。</p>
<p>授業科目名【Grammar & Composition II】 言語を分析的に捉える訓練として、毎回学生には授業で取り扱う範囲の中から質問を考えて、事前にメールで送らせ、授業中に解説する方法で授業を行った。</p>

<p>授業科目名【小学校英語教育研究】</p> <p>最後に学生が実施する模擬授業につながるよう、さまざまな指導の方法を紹介したり、授業の様子をビデオで視聴させたりした。</p>
<p>授業科目名【英語教科教育法Ⅰ】</p> <p>これまで自分が受けてきた英語の授業を教師の立場から振り返らせるという作業を繰り返すことで、各学生の指導観の形成を図った。</p>
<p>授業科目名【英語教科教育法Ⅳ】</p> <p>学生が参加している小学校、中学校、高等学校での学習支援での経験と授業での学びが繋がるように、学習支援での経験を振り返らせりながら授業を進めた。</p>
<p>授業科目名【専門演習】</p> <p>卒業論文のテーマ設定につながるよう、年間に二度、ミニ・プロジェクトを実施させ、その成果を発表してもらった。</p>
<p>授業科目名【卒業研究】</p> <p>卒業論文の進捗状況を定期的に授業の中で報告してもらい、それについて学生が互いに質問しあったり、メールや個人面談で指導したりすることによって、論文の中身が深まるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【事前及び事後の指導】</p> <p>教員の在り方や英語教育の在り方などに対する学生の考えを広めたり深めたりできるよう、中学校、高等学校、特別支援学校等で活躍される先生方に来ていただきご講演いただいた。</p>
<p>授業科目名【教育実習Ⅱ】</p> <p>教育実習の前に準備しておくべきことなどを折に触れ説明し、学生がそれらに対してきちんと対応しているかを確認した。</p>
<p>授業科目名【教職実践演習（中・高）】</p> <p>教育実習や学外での学習支援など、それぞれの学生が自分の経験を発表したり、他の学生の経験を聞いたりし、それについて討議することで、学生がそれぞれの課題について気づくことができるよう工夫した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アクロス「英語教師のための異文化研究会」	会員	1990年9月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 1. Pronunciation exercise for Japanese EFL teachers to teach English through English: Theory & practice	共	2016. 2	12 th CamTESOL Conference (於 Institute of Technology of Cambodia, Phnom Penh, Cambodia)	① 日本人英語教員に有効な英語の発音訓練について、その理論的背景と実践について述べる。 ② 共同発表者名 井川好二，辻荘一，塚本美紀
			教育研究業績 総数 (2016. 3. 31現在) 著書 1 (内訳 単 0、共 1) 学術論文 9 (内訳 単 6、共 3) 学会発表 6 (内訳 単 0、共 6)	

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位: 円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本英語検定協会 e-dream-s（教育分野での国際貢献を 目指すNPO法人） 北九州ESD協議会 Zonta International（世界の女性の地 位向上を目指す国際的奉仕団体）	面接委員 理事（2001年9月～現在 に至る） 会員 会員	1993年7月～現在に至る 2000年7月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2015年6月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

教務委員会 副委員長（2014年4月1日～2016年3月31日） 大学点検評価改善会議FD部門会議 委員（2013年4月1日～2016年3月31日） 教育の質保証プロジェクト会議 委員（2013年4月1日～2016年3月31日） キャンパスハラスメント相談員（2014年4月1日～2016年3月31日） ゴールデンZクラブ 顧問（2014年4月1日～2016年3月31日）

觀 光 文 化 學 科

2015年度教育研究活動報告（様式9（2015））

氏名 須藤 秀夫	職名 教授	学位 修士（経営学） (米国ペンシルバニア大学ウォートン校 1978年)
----------	-------	-----------------------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
国際金融、 国際ビジネス	金融危機、企業統治、 企業の社会的責任(CSR) BoP ビジネス

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> 金融危機および通貨危機を発生させる要因の一つである企業統治について考察する。 企業の社会的責任(CSR)、CSRを基準にする投資(SRI、またはESG投資)について、欧米と日本での動向を考察する。 貧困層を相手にするBoPビジネスの動向を考察する。

担当授業科目			
科目名	単位数		授業評価ポイント ※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載
	必修	選択	
経済交流論/国際経済入門(2学科合同)(前期)		2	
国際ビジネス論(2学科合同)(前期)		2	
基礎演習A(前期)	1		
専門演習II(前期・後期)	2		
卒業研究(前期・後期)	4		
多国籍企業論(後期)		2	
ビジネスコファイナンス(後期)		2	

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【経済交流論 / 国際経済入門(前期)】(観光文化学科と英語学科学生向け2学科合同)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の疑問・質問を「出席票(兼)質問票・感想票」に書かせ、学生にとって授業で分かりにくかった点等を把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させることに努めた。 複雑な事象(例えば、通貨危機、世界的金融危機等)の因果関係、仕組みなどをなるべく図示して、また最新のデータや写真を使って解説し学生の興味を引き出すことに努めた。 ほぼ毎週、最近の新聞記事を配付して、授業で扱っている国際経済の事項(輸出とアベノミクス、自由貿易協定FTAとTPPなど)が、現在進行中の世界と日本の出来事であることを理解させるように努めた。 学生の国際経済に対する関心・意識を向上させるために、新聞・雑誌の記事等から得られる情報に関するレポートの提出課題を与えた。 WORDの文章(これを配付教材としている)を画面に表示するのは、字が小さくて読みづらいので、PowerPointだけにしてほしいとの意見に留意し、ポイントとなる事柄は、PowerPointに図を使った解説を行って別途配付した。また、教材の中で、覚えてほしい語句は、穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。

授業科目名【国際ビジネス論（前期）（英語学科学生および観光文化学科学生向け合同）】

- ・複雑な貿易取引、対外直接投資の仕組みなどをなるべく図示して解説し、理解しやすくなるように努めた。
- ・国際ビジネスの現場の状況、考え方を知り、理解してもらうために、商社の中国ビジネスの歴史的事例に関する文献を読みレポートを提出する課題を与えた。また、多くの学生が関心をもつ日本航空の、成長が期待される中国人マーケットでの文化的摩擦という苦い経験の事例を取り上げ、提出課題とした。これによって学生が国際ビジネスの異文化理解および異文化間コミュニケーションの側面に関心を寄せることを狙った。
- ・貿易・直接投資の取引に関する新聞・雑誌の記事を紹介し、学習していることが現在の世界のビジネス社会で起こっていると関係していること、また就職事情にも関係することが理解できるように努めた。
- ・学生からの質問を「出席票(兼)質問票・感想票」の形で受け付け、学生にとって分かりにくかった点、知りたいこと等を把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させること、積極的な受講態度を引き出すことに努めた。

授業科目名【基礎演習 A（前期）】

- ・教材として『知へのステップ』を使用、高校と大学での学びの違いを理解させ、自分の意見を分かり易く伝える重要性、なぜ自分はそう考えるのかをきちんとと言えることの重要性を理解させることに重点をおいた。そして、実践として、自分でテーマを選び、口頭でプレゼンし、論文を作成する経験をさせた。それにより、発信することの面白さを感じ取ってもらおうとした。
論文作成の課程で、改善するために何をすべきかを学生と個別に面談し議論した。
- ・学生に漢字の出題をさせ、仲間に答えさせる時間帯を設けることにより、飽きが来るのを避けること、参加意欲を引き出すこと、漢字という基礎学力の重要性に気付かせることを狙った。

授業科目名【多国籍企業論（後期）】

- ・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどうか、学生が関心を寄せるのはどうかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し学生の理解の改善に努めた。
- ・学生にとって馴染みのある企業（COACH、Disney 等）のブランド戦略、経営戦略等に関する具体的な事例、新聞記事を数多く提示し、学生が多国籍企業を身近に感じ、もっと知ろうとする意欲が高まるように努めた。
- ・写真やビデオを用いて、CSR、企業戦略などに関する事例を紹介し、書物だけではわかりにくい現場の情景を実感させ、理解を深めるように工夫した。
- ・学生自身が関心をもつ多国籍企業のホームページ・決算短信などからその企業の営業活動、社会的責任、社会貢献活動などについてのレポートを提出する課題を与えた。その狙いは、その企業の活動に関する理解・認識から、その企業のファンになること、さらには就職先候補として検討するように仕向けることである。
- ・馴染んでもらいたい重要な語句を、教材の中で穴埋めの形式にして学生に書かせ、学生の注意喚起を促した。

授業科目名【ビジネス・ファイナンス（後期）】

- ・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどうか、学生が関心を寄せるのはどうかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し学生の理解の改善に努めた。また、一方通行にならないように、学生とのやりとりを通して理解を容易にするように努めた。
- ・複雑な外国為替取引の仕組み、決算書の読み方、損益分岐点などの解説に際しては、図を多用した。
- ・財務分析を理解させ、前向きな受講態度を引き出すため、学生が個々に関心をもつ企業が実際に発表している数字を扱う課題を与えた。同業2社の数字を比較させることによって、財務分析の意味をよりよく理解させるように努めた。また、危ない会社を見分ける方法など、就職活動に役立てられることを狙った。
- ・EXCELを十分使わず習い放しにしている嫌いがあると見受けられたので、EXCELの表計算を使った収支計画の課題を与え、EXCELの知識・スキルの有用性に気づくことを狙った。
- ・最近の新聞記事を紹介し、授業で扱っている財務の問題が今日的な経済社会問題につながっていることを示し、学生の関心を高めることに努めた。
- ・利回り計算、為替差損益などは、金融界に就職すると求められる資格である外務員（金融商品）の試験に必須の項目であることなどを強調し、動機付けを図った。

授業科目名 【専門演習 II (前期・後期)】

- ・実際の為替相場を使った 模擬外為ディーリング で利益を挙げる競争を行わせ、どのように為替取引が利益・損失につながるのか、どのような要因が相場の変動につながるのか等の理解を深めさせることに努めた。
- ・学生が自分たちで選んだテーマ「働くということ」について 討論させ、自分の意見を言い他人と議論する面白さを認識させることを狙った。また、グループワーク として、ある商品を外国一国で作って売するための海外進出に際して必要な情報を自分たちで考える課題を与え、国際ビジネス展開への理解と関心を高めることを狙った。
- ・日本の経済社会（ビッグデータ、女性活躍・ブラック企業などの労働事情、アベノミクスなど）に関する文献（『日本の論点』）を 輪読し、自分の意見を言わせるとともに、自分で疑問に思ったことを質問として書かせた。これにより、経済社会問題に対する関心と理解を深めさせるように努めた。
- ・こうした議論、発表に際しては、学生のコミュニケーション能力向上を狙って、自分はこう考える、どうしてそう考えるのかを言うように指導した。

授業科目名 【卒業研究 (前期・後期)】

- ・考察・論述の枠組みが筋道立ってしっかりするように、学生各人との一対一の対話、email 交信などを通して、学生に考えさせた。とくに、何を言いたいのか、なぜ自分はそう考えるのか、という論旨を明確にすること、信頼性のあるデータ・事例などの論拠を明示することを強調した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
国際ビジネス研究学会	会員	2002年10月～現在に至る
日本金融学会	会員	2012年5月～現在に至る

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
				教育研究業績 総数 (2016年3月31日現在) 著書 なし 学術論文 16 (内訳 単14 共2) 翻訳 なし 学会発表 なし

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個 人 研 究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
株式会社ジェイコム九州 北九州局	テレビ放送審議委員 (兼) 審議委員会会長	2012年12月～2013年11月 2013年12月～2014年11月 2014年12月～2015年11月
「日本ヌカ・オブ・ザ・イヤー2015」 実行委員会 (北九州の食文化ヌカを使った料理 コンテスト)	実行委員長 (観光文化学科の社会貢献学生 グループ WILL の顧問、並びに 人文学部長として) (北九州市産業経済局食の魅力 創造・発信室からの要請による)	2015年7月～2015年11月

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

・人文学部長

・観光文化学科の社会貢献グループ WILL の顧問 (高橋先生と共同で顧問)

(WILL は上記「日本ヌカ・オブ・ザ・イヤー2015」の他、若松地区の地域活性化事業やバスツアー、世界遺産登録された官営八幡製鐵所に関するマンガ教材制作やバスツアーなどの活動を幅広く実施した)

特記事項： 次の二つの WILL 活動案件に市の補助金・助成金を獲得した。

① 「まちづくりステップアップ事業」として「若松区地域活性化プロジェクト」

(補助金額 173,000 円)

② 「にぎわいづくり認定事業」として「近代化産業遺産（世界遺産）のマンガ教材とツアー」

(助成金額 400,000 円)

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	八尋春海	職名	教授	学位	文学修士
----	------	----	----	----	------

研究分野	研究内容のキーワード
観光学	阿蘇市、観光、地域振興

研究課題
阿蘇市における観光による地域振興

担当授業科目
<p>前期 7コマ</p> <p>Intensive Reading I (2コマ)</p> <p>航空ビジネス研究</p> <p>専門演習IA</p> <p>基礎演習A</p> <p>卒業研究</p> <p>専門演習II</p> <p>後期 6コマ</p> <p>映画で学ぶ世界遺産</p> <p>現代日本事情</p> <p>映画で学ぶ英米文化(観光文化)</p> <p>映画で学ぶ英米文化(英語)</p> <p>卒業研究</p> <p>専門演習II</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【専門演習IA】</p> <p>学生が授業に集中できるように、毎時間、テキストで取り上げた論文執筆の手法について、その場で実践させてレポートを出させた。次の週の授業で、そのレポートの講評をした。</p>
<p>授業科目名【現代日本事情】</p> <p>英字新聞を活用することにより、英語力の増強も行った。毎時間、日本の企業の業界研究を行い、就職活動のサポートをした。</p>

授業科目名【映画で学ぶ世界遺産】 世界遺産についての理解が深まるように、地図、パワーポイント、板書を駆使した。
授業科目名【映画で学ぶ英米文化】 学生が集中できるように、毎時間、学生が見たことのない映画を取り上げて、その解説を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本比較文化学会	副会長 2010年～ 理事 2006年～	1996年
日本比較文化学会九州支部	支部長 2010年～	1996年
余暇ツーリズム学会	九州支部事務局長 2014年～	2005年
映画英語アカデミー学会	理事・福岡支部長 2015年～7	2013年

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) English Delight of Movie English and TOIEC	共	2015年4月	ミネルヴァ書房	映画を通して英語を学習する教材でTOEICの試験対策にもなるものである。 共著者：山崎祐一、山下友子、藤山和久他
(学術論文) 阿蘇カドリー・ドミニオンと観光業界との関わりについて	単	2015年4月	『比較文化研究 116号』	阿蘇市の宿泊施設などが阿蘇カドリー・ドミニオンをプロモーションの材料としてどう活用しているのかを論じた。
阿蘇地域の宿泊施設による地域観光資源の活用について	単	2015年10月	『比較文化研究 118号』	阿蘇の食材や体験プログラムを宿泊施設がどう活用しているのかについて論じた。
(翻訳)				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 阿蘇地域の宿泊施設の宿泊プランについて	単	2015年7月	2015年度余暇・ツーリズム学会九州支部大会 (於 ももちパレス)	阿蘇市の宿泊施設の宿泊プランについて、インターネットサイトを分析して、何を売りにしているのかを論じた。
翻訳を通して見るアメリカ文化—『スクール・オブ・ロック』を事例として	単	2015年8月	2015年度日本比較文化学会九州・中四国・関西3支部合同研究会 (於 高知大学)	『スクール・オブ・ロック』の翻訳について、特に固有名詞の翻訳の際の文化の相違について論じた。
阿蘇地域における地元食材の活用について	単	2015年9月	2015年度余暇・ツーリズム学会全国大会 (於 大妻女子大学)	熊本県の地産地消の取り組みについて阿蘇地域の事例分析を行った。
『サイモン・バーチ』に見るアメリカ社会	単	2015年9月	映画英語教育学会第17回九州支部大会 (於 福岡医療短期大学)	アメリカにおける少数者の現状について映画『サイモン・バーチ』を題材として分析を行った。
				2016年度研究業績 著書 (共著) 1 学術論文 (単著) 2 学会発表 (単独) 4

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
阿蘇地域における地域食材の活用について	西南女学院大学	○八尋春海 天本理恵	387,000円
福岡県東峰村におけるグリーンツーリズム推進による地域活性化の研究	西南女学院大学	○木沢誠名 八尋春海 飯田一郎 神崎明坤 マルコム・スワンソン (若菜啓孝)	1,260,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

学生部長 教育経費予算委員

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 林裕二	職名 教授	学位 修士(文学)(西南学院大学 1993年)
--------	-------	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論

研究課題
英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画(脚本)を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。

担当授業科目
総合人間学概論(前期)(英語学科・観光文化学科) Extensive Reading I(前期)(観光文化学科) Grammar & Composition I(前期)(観光文化学科) 欧米文化交流研修B(前期)(英語学科・観光文化学科) 基礎演習A(前期)(観光文化学科) 専門演習IA(観光文化学科) Grammar & Composition II(後期)(観光文化学科) 英文講読II(後期)(観光文化学科) Extensive Reading II(後期)(観光文化学科) 英語II(後期)(福祉学科)(後期) 専門演習II(通年)(観光文化学科) 卒業研究(通年)(観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【総合人間学概論】全8回中の1回を、人文学部の両学科長で担当する。学生側からすれば、大学教育の基礎の根幹をなす学部共通の最初の授業である。従って、人文学部のどちらの学科の学生でもこの時点で押さえておくべき基本的なポイントに絞って、PPTを使い講義をした。シラバス記載のように、評価に大きな割合を占めるのが、二回のレポートであることを強調して説明した。
授業科目名【Extensive Reading I】 E-LearningのCHJeru(チェル)を使うマルチメディア教室での必修科目。高校の必修授業「情報」で、PCの使い方の基本ができていない学生もいる。但しタッチタイピングの習熟度には大きな差がある。この科目は、情報系の科目ではないが、課題提出をメールでさせている。主目的ではないが、結果的にタッチタイピングの練習もすることになった。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また、学習時間を担保できるように、毎回課題を出し、達成度を確認した。ネット環境があれば、どこからでも利用可能であり、学生自身が自分の通算学習時間を知ることができるので、目標を持たせて計画的に達成できるようにした。
授業科目名【Grammar & Composition I】 習熟度別の英語の必修クラス。語彙調べをさせて提出させ、それを印刷して配布して、それをクラス全体、ペアで読ませて、音読に抵抗がないようにした。単語レベルでの発音の基礎は何度でも繰り返して定着させることが大事なので、音と意味が一致するように、何度も繰り返し指導した。中学・高校で習う文法が文単位の枠内で

教えられているので、この科目以降につながるように、文より大きなまとまりの中での、文法の意識づけも行った。できる限り、読む・書くという言語活動を重視して、発信型の活動を増やすようにした。

授業科目名【欧米文化交流研修】

選択科目で、人文学部の両学科の学生が履修した。英語学科3年が2名、2年が6名、観光文化学科の2年生が8名で、合計16名だった。テキストは2冊使い、カナダ事情を説明したものとホームステイ用の表現を学ぶものを使用した。学生には難しいテキストのようで、途中からゆったりと進めるようにした。習熟度の幅が非常に大きく、誰にでも理解できる分野として、リスニングの部分を国内では主に行った。Langara 大学での研修の部分では、学生は音声面の指導を中心に基礎の基礎から厳しく鍛えられ、早いグループは最初の週の終わりには、授業外でも英語で話し始めた。授業とホームステイの英語漬けの環境の成果が確認できた。

授業科目名【基礎語A】

専任教員による必修科目(演習研究科目)。大学の授業を受けるために必要なノートの取り方などのスキルを少人数の授業で学ばせた。また入学時に友人ができないという孤独感に陥らないようにするため、友人グループへの帰属意識を持たせ、教員との信頼関係の第一歩を持たせるようにした。そのためにも、学生のペア作業、共同作業を多く取り入れた。ディベートを学年全体の取り組みとして行った初めての年である。学年大会の前に、クラスで準備をさせて、クラス内でディベート練習をさせて、クラス内で目標を定め役割を決めて本大会に臨んだ。能動的に全員が関わるといふことで、active learning の体験を持った。

授業科目名【専門演習 I A】2 年生前期の演習研究科目であり、質的研究の導入を目的とした。学生にとっては、インタビュー、アンケートぐらいまではなじみがあるが、観察法、資料分析法、ライフストーリー等となると、理解が容易でない。課題としてなじみがあるものを対象として、調査をさせた。例えば、資料分析では、近年の J-pop を分析した新聞記事を使い、頻出する表現をどのようにして抽出するのかに触れた。二週間に一回は課題として調査方向をさせて、教室内で相互評価を行わせ、評価が高いものに付箋をつけさせて、それがなぜ高い評価を得たのかも議論させた。

授業科目名【英文読書Ⅱ】

2014 年度入学生が選択科目として2名受講。2013 年度入学生までは必修科目であったが、選択科目になった最初の年度となる。語彙調べを毎週提出させ、それを印刷して、何度も読み合わせをさせることで、12 月半ばにはかなりの慣れを学生自身が実感できた。2名であり、学生が英語に接する量が非常に多くできるという意味では、受講生は恵まれていた環境だった。テキストは二種類(日本の観光についての英文 300 選と日本史の英語の原書)であり、英文 300 選で基本を押さえ、原書で考えさせる場面を増やした。

授業科目名【Grammar & Composition II】

習熟度別の必修クラス。声を出して読むトレーニングは大事であり、発音の基礎は何度でも繰り返して定着させることが大事なので、音と意味が一致するように、何度も繰り返し指導した。中学・高校で習う文法が文単位の枠内で教えられているので、この科目以降につながるように、文より大きな談話の中での、文法の意識づけも行った。できる限り、読む・書くという言語活動を重視して、発信型の活動を増やすようにした。定着させるために、理解確認後の音読練習は、ペア、グループ、全員輪読という単位で行った。

授業科目名【Extensive Reading II】

E-Learning の CHIeru(チエル)を使うマルチメディア教室での必修科目。教材は、E-learning と英語の発音についてのテキストである。既に前期に CHIeru に慣れており、後期はそれを生かして、質的充実と練習量増を目指した。しかしながら慣れることで手抜きのテクニックを覚え始めて、問題解決の場面で、「考える」という最も重要な活動をせずに、単に答え合わせに終始する学生が出てきた。それを防ぐためにも、確実に自分で考えざるを得ない状況を増やすようにした。その手段として、毎週指定したダイアログから、質問と答えの文章を作成させて、メールで提出して、それをこちらが一枚のシートにまとめて、全員に返送して、添削をして次回提出という流れの学習を行った。

授業科目名【英語Ⅱ】

福祉学科1年生の後期の必修授業。50名近くを対象とするクラス。前期の担当者とも打ち合わせを繰り返した。前期同様、非常に意欲が高く、授業態度も優秀で、提出物の提出状況、出席率もこれほど高いクラスはこれまで担当したことはなかった。テキストは、基礎的な読解力養成を目指すものであるが、必要以上に難解と思えるところは扱わなかった。隔週毎に語彙調べを出させ、それを印刷配布して、ペア学習で音読をさせることを繰り返した。授業の最初に小テスト(前回授業内容の英語の書き取り)をさせて、日ごろの学習を習慣付けるようにした。授業後も質問が出るクラスで、学生の取り組みの真面目さが逆に教員を引っ張ってくれたような雰囲気だった。

授業科目名【専門演習Ⅱ】

「卒業研究」で卒論を仕上げる4年次の前年度として、研究の仕方の基礎が理解できているかを確認をし、積み重ねを行った。知識注入型の講義ではなく、問題発見・解決ができるように、いくつもの場面を提示した。その一つが新聞の読者の声の欄への投稿である。当初は自分で主題そのものを考えて、文章を書くこと自体に抵抗があったが、次第に採用者が出てくるにつれて、ゼミ全体の意識が高まった。知識の枠組みを広げて、文の構成を体得するために、新聞の社説をペンで手写しすることを毎週繰り返した。これに加えて、英語の多読もさせたので、授業外の負担が大きいと感じる学生もいた。当初は、鈴木孝夫の「ことばと文化」(岩波新書)を分担して発表させた。続いて、その英語版を輪読し始めた。難解な英語であるが、一度は日本語で読んだ内容であり、慣れを生むようにしていった。司会も学生にさせて、甘くなり過ぎない限り、学生の自主性に任せるようにした。しかしながら、英語については、意味の区切れを意識させるためにかなりの指導を行った。

授業科目名【卒研院】

3年次の専門演習Ⅱに続くテキスト(ローマの休日)を輪読した。基礎的な積み上げ(特に、文法、語彙強化)がこの学年でも必要だった。新聞の投稿も秋口までは継続した。卒論については、既に3年次に卒論製作のタイムテーブルを提示していたが、就職活動の日程の変更も影響してか、なかなかうまく運ばない学生の割合が例年より増えた。後期の最初から、時間配分を卒論作成へと比重を増やしていった。原則として11月以降は全体指導の授業を月一回として、残りは個別の卒論指導とした。卒論の論理的構成を理解するために、1年次の基礎演習Aのテキスト(知へのステップ)を再度読み込んで、懸賞論文(ヤンマー株式会社主催)の輪読もした。しかしながら、最も大切な卒論の知的な深みについては、参考文献の使い方が原因となり、深まらない時期が12月上旬ぐらいまで続いた。卒論作成が本格的になる後期にも、個別にあるいは少人数で、文献検索と文献の使い方を再度学ばせて、理解を深めることが必要だった。「知へのステップ」の上のレベルで、論文作法を学べるテキストがあれば望ましいと思う場面が多々あった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会(旧日本商業英語学会)	九州・山口支部会長(2010年2月～現在に至る) 本部理事(2015年11月～現在に至る)	1993年6月～現在に至る
映画英語教育学会	九州支部会計監査(2006年1月～2011年12月) 紀要査読委員(2010年4月～2012年3月) 九州支部運営委員(2012年1月～現在に至る)	1994年2月～現在に至る
日本コミュニケーション学会	九州支部副支部長(2008年10月～2011年10月) 九州支部紀要編集委員(2011年9月～現在に至る)	1994年12月～2015年3月
日本人類言語学会		2002年10月～2004年3月
英語コーパス学会		2003年4月～2009年3月
日本比較文化学会	九州支部会計監査(2013年3月～現在に至る)	2010年2月～現在に至る
万葉学会		2014年2月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1.詩. 祭りの夜の哀しみ	単	2015.8	平和をとわに心に刻む三〇五人詩集一十五年先生から戦後七十年 (コールサック社)	①幼い日の祭りの夜の傷痍軍人さんたちの思い出を描いた。 ②編者 鈴木比佐雄/佐相憲一 ③頁数1 (p220)
1 英語の俳句 (1句)	単	2015.10	朝日新聞の英語デジタルサイト: http://ajw.asahi.com/article/cool_japan/style/AJ201510300001	① 朝日新聞デジタル (The Asahi Shimbun Digital) 紙上で、主宰者 David McMurray による選句。 ② 2015年10月30日
2.英語の俳句(1句)	単	2015.11	国民文化祭記念 第二回オンリーワン鹿児島木の俳句コンテスト Akita International Haiku Network のサイト (http://akitahaiku.com/)	①朝日新聞デジタル (The Asahi Shimbun Digital) 紙上で、主宰者 David McMurray による佳作選出 ②2015年11月3日 ③鹿児島国際大学
(学術論文)				
(翻訳)				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1. 「川端康成の「山の音」とSeidensticker英訳の比較—呼称について—」	単	2015.6	日本比較文化学会 第37回全国大会 (於 創価大学)	日本語には呼称によって、人間関係・社会関係を規定する場面が見られるが、呼称の中の敬称に相当する部分が訳出されない英訳では、人間関係が異なって読まれてしまうことがあることを考察した。日本語の呼称については、鈴木孝夫(1973)「ことばと文化」を援用して、小説中の人間関係を考察する。
2. カナダ バンクーバーの観光と言語政策	単	2015.9	JBCA(国際ビジネスコミュニケーション学会)九州山口支部研究会 (於 久留米大学福岡サテライト)	① 観光業が主要産業の一つであるバンクーバーでは、多文化社会を標榜する国策を反映して、多言語の社会となっている。国外からの観光客に対応するコミュニティの観光政策とその言語政策を考察する。
3. 伊豆の踊子英訳再考—呼称と呼び掛け語について—	単	2016.3	第28回日本比較文化学会九州支部研究会 (於 北九州市立大学)	① 川端康成の「伊豆の踊子」(1926)には、複数の英訳が出ている。その中には、二度(1964、1997)のSeidensticker訳(<i>The Izu Dancer</i>)もある。原作と同一訳者の二つの訳を資料として、呼称と呼び掛け語について考察する。
				教育研究実績 総数 (2016. 3.18 現在) 著書 3 (内訳 単3、共0) 学術論文 0 (内訳 単0、共0) 翻訳 0 (内訳 単0、共0) 学会発表 3 (内訳 単3、共0)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

--	--	--	--

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
財団法人 日本英語検定協会	英語検定試験二次試験面接 委員	1995年8月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
国際交流委員会 観光文化学科長

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 神崎 明坤	職名 教授	学位 修士 教育学 九州大学 1995年
----------	-------	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
国際比較教育・国際比較社会文化	比較社会文化教育、異文化コミュニケーション

研究課題
① 中国の明清時代における中国文人の道德修養に関する研究 ② 日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究 ③ 中国における大学カリキュラムの改革に関する研究

担当授業科目			
科目名	単位数		授業評価ポイント ※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載
	必修	選択	
中国語通訳ガイド演習Ⅰ(前期)		○	
中国語通訳ガイド演習Ⅲ(前期)		○	
入門中国語会話(前期)		○	
中級中国語(前期)		○	
日中文化交流論(前期)		○	
中国の社会と文化(前期)		○	
基礎演習A(前期)	○		
専門演習Ⅱ(通年)	○		
卒業研究(通年)	○		
中国語通訳ガイド演習Ⅱ(後期)		○	
初級中国語会話(後期)		○	
上級中国語(後期)		○	

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 中国語通訳ガイド演習Ⅰ 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 2、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。 3、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。 4、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。 5、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。 <p>授業科目名【 中国語通訳ガイド演習Ⅱ 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐ為に、中国の最新の情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 2、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。

- 3、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
- 4、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
- 5、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

再発見したこと

中国語を学ぶと同時に、中国文化なども学ぶことができました。
 中国語検定に合格したいと思うようになった。
 中国に興味を持った。
 もっと中国語や中国の文化について勉強したいと思いました。
 中国語がとても分かった。

担当教員への意見

教科書だけの勉強ではなく、積極的に中国語での会話練習もして下さるので、難しかったけれど、勉強になりました。
 中国語検定を3級合格しました。丁寧に中国語を教えてくれて有難うございました。
 毎回、丁寧に分かりやすく教えてくださったので、すごく自分のためになりました。後期の授業もとても楽しかったです。有難うございました。

授業科目名【 中国語通訳ガイド演習Ⅲ 】

- 1、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐ為に、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
- 3、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
- 4、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
- 5、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 入門・初級中国語会話 】

- 1、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
- 3、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
- 4、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
- 5、学生に毎日中国語で会話を練習させ、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【 中級・上級中国語 】

- 1、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
- 3、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
- 4、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。

5、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

再発見したこと

書き取りだけでなく、中国語を話せるようになりたいと思いました。

中国語検定に落ちたが、また受けて合格しようと決めた。勉強して行くことが楽しいと思うことができる授業検定試験に取り組むことができた。

中国の文化・歴史についても学べ、検定も取得できた。

担当教員への意見

説明がとても分かりやすく、勉強しやすかったです。

先生の授業が分かりやすく、大好きです。

中国語を勉強していて、楽しいと思うことができるようになった。英語よりも私は中国語をがんばりたい。もう一度検定を受けて3級に合格したい。

検定試験前には、授業時間以外で勉強を指導してもらってたすかりました。

授業科目名【 日中文化交流論 】

学習者の日本と中国との一層の相互理解のために二千年に亘る文化交流史を振り替えて勉強することは正に現代的養成に答えるものである。新たな文化交流の使者を培うことがこの授業の狙いである。

そのために広い視野で中国の文化と日本の文化の性格と特徴を掴んで学んだ。例えば日中両国の制度、思想、文学、芸術、民俗、習慣などの違いを理解し、日中両国の多角的な視点と物の考え方を学んだことである。

- 1・授業にテレビ等の補助教材の活用、質問技法の授業法を交え、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2・指定した書物を読ませて、レポートを提出し、授業のときにその感想を言わせ、意見を発表し自己評価をさせた。
- 3・講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。

授業科目名【 中国の社会と文化 】

グローバル化の時代に異なる文化を持つ諸社会が互いに理解を深め、共生していく契機ともなりうるものである。このような認識に国際的視野に立って、隣国—中国のことを幅広く学び、考えながら異なる社会文化に触れて行く。お互いを豊かにし合うような関係を模索し、育てて行くことがこの授業の旨である。

- 1・講義ならびにテレビ、DVDなどの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を高め、伝統の中国と最新情報を対照的に紹介しながら、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
- 2・学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点など学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
- 3・講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度まとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
- 4・中国文化を理解するために、中国のことばかりでなく、中華料理をも実際調理して、その文化の深みを理解する工夫を行った。

授業科目名【 専門演習Ⅱ 】

グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まっている。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。米やお茶等の食文化や儒教、年間行事、物の考え方等の思想などの伝来文化によって形成された文化や習慣、行事を考え、現代の文化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことがこの授業の旨である。

- 1・この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすい日本と中国文化に関する論文を多数読んでその相違点の比較研究等を通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。
- 2・日本と中国文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての研

画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。

- 3・実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えをまとめ、口頭発表作成の方法に必要な能力を身に付けさせる工夫を行った。

授業科目名 【 卒業研究 】

卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持つ仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。

- 1・上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。
- 2・それらを批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うためにゼミ同士や教員とのコミュニケーションを繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。
- 3・仮説を論文として展開する力等を養い、学生自分らしい論文をかくことを心がけてもらい、最終的に論文発表させる工夫を行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本中国学会	会員	1998年4月～現在に至る
九州中国学会	会員	1998年5月～現在に至る
九州教育学会	会員	1994年～現在に至る
日本比較文化学会	会員	2011年～現在に至る
日本比較文学学会	会員	2012年5月～現在に至る
日本比較教育学会	会員	2011年11月～現在に至る

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 中国の大学における日本語専攻教育の改革に関する考察	シンポジウム パネリスト	2015年6月13日	日本比較文化学会全国大会第37回 創価大学にて	本発表は中国大学の日本語専攻教育を通じて中国大学の倫理教育の在り方について実証的調査に基づき、倫理科目を如何にカリキュラムに配置されていたかを明らかにしたものである。「信用危機」の現象で、新カリキュラムでは「高い文化資質や強い法的観念，誠信意識」備えなければならない教育理念が掲げられている。
同上	同上	2015年12月30日	比較文化研究 No.119 日本比較文化学会	同上
中国の大学における日本語教育カリキュラムの改革	単著	2015年6月13日	日本比較文化学会第37回全国大会 創価大学にて	中国の日本語専攻の学部教育は1990年代以降発展が目覚しく、学生数は105万人（世界第一）に急増してきた。従来のエリート教育から急速に大衆教育に転じた中国の高等教育は「教育の資質の低下」「高い点数で低い能力」という問題が顕在化しつつある。新カリキュラムの改革は語学力のみならず、思考能力、創造能力、研究能力の育成という学生の文化的な教養、総合的な人文資質の養成を重点に置かれなければならないことにある。従って、各大学は如何に新カリキュラムの理念に基づいて編成してきたか、その実態を明らかにしたものである。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

--

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
○ 宗教主事補

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 劉 明	職名 准教授	博士(経営学) [立命館大学 2011年] 学位 修士(観光学) [桜美林大学 1996年]
--------	--------	------------------------------------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
観光学、経営学、ホスピタリティ学	アジア観光、日中観光交流、九州ディステーションにおける観光マーケティング、日中ホスピタリティの相違

研究課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. アジア観光・特に日中韓の観光交流について 2. 日中観光交流・特に日本におけるインバウンド観光・中国人の訪日旅行について 3. 九州ディステーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について 4. 東洋ホスピタリティ・特に日中ホスピタリティの相違について

担当授業科目																						
<table> <tr><td>観光学入門</td><td>(前期) × 2</td></tr> <tr><td>中国語通訳ガイド演習Ⅲ</td><td>(前期)</td></tr> <tr><td>観光中国語</td><td>(前期)</td></tr> <tr><td>基礎演習A</td><td>(前期)</td></tr> <tr><td>アジア観光文化地理</td><td>(前期)</td></tr> <tr><td>アジアの歴史と文化</td><td>(後期)</td></tr> <tr><td>アジア観光文化地理</td><td>(後期)</td></tr> <tr><td>中国語通訳ガイド演習Ⅳ</td><td>(後期)</td></tr> <tr><td>専門演習ⅠB</td><td>(後期) × 2</td></tr> <tr><td>専門演習Ⅱ</td><td>(通年)</td></tr> <tr><td>卒業研究</td><td>(通年)</td></tr> </table>	観光学入門	(前期) × 2	中国語通訳ガイド演習Ⅲ	(前期)	観光中国語	(前期)	基礎演習A	(前期)	アジア観光文化地理	(前期)	アジアの歴史と文化	(後期)	アジア観光文化地理	(後期)	中国語通訳ガイド演習Ⅳ	(後期)	専門演習ⅠB	(後期) × 2	専門演習Ⅱ	(通年)	卒業研究	(通年)
観光学入門	(前期) × 2																					
中国語通訳ガイド演習Ⅲ	(前期)																					
観光中国語	(前期)																					
基礎演習A	(前期)																					
アジア観光文化地理	(前期)																					
アジアの歴史と文化	(後期)																					
アジア観光文化地理	(後期)																					
中国語通訳ガイド演習Ⅳ	(後期)																					
専門演習ⅠB	(後期) × 2																					
専門演習Ⅱ	(通年)																					
卒業研究	(通年)																					

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【観光学入門】</p> <p>「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。また、プリント・PC・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。</p> <p>さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光産業(旅行業、宿泊産業、交通運輸業など)の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加していただけるように、工夫を行った。</p>

授業科目名【中国語通訳ガイド演習Ⅲ、Ⅳ】

「中国語通訳ガイド演習Ⅲ、Ⅳ」では、中国語通訳ガイドの力の養成に重点を置く。具体的には、中国語ガイド通訳案内業試験年度別問題集、解答例を分析し、中国語の単語・文法・諺や中国語⇄日本語の翻訳のノウハウを学ぶ。また、日本の地理・歴史・一般常識などを勉強する。さらに学生たちに関心のある日中両国の観光文化の相違を学んでいただけるように尽力した。

授業科目名【観光中国語】

近年、留学・研修・仕事で中国を旅する日本人のニーズに応えるため、観光中国語の授業では、日本人留学生が中国人の学生に案内され、名所旧跡を旅する場面を設定し、観光用の中国語会話を習得する。また、映像を通して、中国の観光文化や中国的持つ成し方を勉強する。さらに観光中国語の表現練習を行い、観光中国語の基礎作りをすることが出来るように工夫した。

授業科目名【基礎演習A】

「基礎演習A」では、学科共通テキスト「知へのステップ」を使って、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を大学の学習で必要とされるレベルまで高める授業を行い、大学生として必要な基礎力を養成することができる工夫を行った。

授業科目名【アジア観光文化地理】

「アジア観光文化地理」の授業では、学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。

また、JTB 能力開発株式会社の教材とテスト問題集の活用により、学生の「旅行地理検定試験」や「旅行業務取扱管理者」の資格取得が有利になるように工夫した。

授業科目名【アジアの歴史と文化】

「アジアの歴史と文化」の授業では、アジア特に東アジアの地理・歴史・政治・経済・文化を踏まえた上で、日中韓の関係や観光交流の現状及び文化の中心である食文化の相違について考察を行う。また、東アジア特に日中韓に流れる歴史や文化の共有に対する理解を深めると同時に、異文化交流のあり方を認め、相互に尊重しあえる考え方を育むことができるように工夫した。

授業科目名 【専門演習ⅠB】【専門演習Ⅱ】、【卒業研究】

「専門演習ⅠB」、「専門演習Ⅱ」と「卒業研究」では、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
上海旅遊 (観光) 学会入会 中国通訳者協会入会 日本観光学会入会 日本ホスピタリティ・マネジメント学会入会 京都観光アカデミー入会 中国留日同学会入会 日本観光研究学会入会 京都国際観光活性化協議会入会 京のアジェンダ 21 フォーラム ワーキンググループ入会 ツーリズム学会 (現在の余暇ツーリズム学会) 入会 観光学術学会	評議員 (2011年4月ー現在に至る) 理事 (2000年8月ー現在に至る)	2004年05月ー現在に至る 1988年10月ー現在に至る 1990年04月ー現在に至る 1994年09月ー現在に至る 1996年03月ー現在に至る 2000年08月ー現在に至る 2001年01月ー現在に至る 2001年07月ー現在に至る 2001年08月ー現在に至る 2007年12月ー現在に至る 2012年02月ー現在に至る

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 九州への外国人観光客 誘致 - 私たちがすべきこと	単	2015年 7月26日	余暇ツーリズム学会 2015年度九州支部会 にて	日本と九州のインバウンド観光 戦略・動向を踏まえ、課題と課 題解決のための解決策を明確化 し、これによって、私達がする べきことを明らかにした。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
JR 西日本上海事務所設置と 中国人観光客誘致のために相談役と して JR 西日本に情報を提供	相談役	(2003 年 06 月ー現在に至る)
京都府政策立案メンバーとして京 都産業活性化プラン策定に係る政策 検討会議に参加	政策立案会議メンバー	(2003 年 07 月ー現在に至る)
九州観光推進機構上海九州観 光交流促進のために相談役とし て九州観光推進機構に情報提供	相談役	(2006 年 07 月ー現在に至る)
国家試験通訳案内士試験委員	中国語面接官 (口頭試問試験委員)	(2010 年 12 月ー現在に至る)

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

<p>1. 教務委員</p> <p>2. 懇親会委員</p>

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名： 木沢 誠名	職名：准教授	学位：修士(都市政策)
-----------	--------	-------------

研究分野	研究内容のキーワード
観光事業論、観光まちづくり、国際観光	観光まちづくり、地域活性化、観光事業

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> 観光の力を活用した地域活性化の事例研究と実践 地域活性化への観光事業者の関与の研究 国際観光(インバウンド、観光開発)

担当授業科目			
科目名	単位数		授業評価ポイント ※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載
	必修	選択	
■新カリキュラム 国内旅行実務(国家試験対策) 前期 2クラス 観光関連法規(国家試験対策) 前期 2クラス 基礎演習A 前期 1 観光フィールドワーク 後期 2 旅行商品企画論 後期 2 専門演習Ⅱ 前後期 4 卒業研究 前後期 4 観光産業論 後期 2 旅行産業論 後期 2 ■旧カリキュラム 海外旅行実務(国家試験対策) 前期 2 観光関連法規 後期 2			

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【国内旅行実務】 国家試験対策のため、夏休みにボランティアで受験学生を対象に12コマの直前対策講座を行った。
授業科目名【旅行商品企画論】 学生が、自分が企画するツアー商品の行き先へのフィールドワークを必須として課した。 近年はインターネット情報に過剰に頼り、旅行商品企画に限らず一度も当事者からヒアリングすることもなく、足を運ぶこともなく報告書や論文を仕上げる学生が目立つ。一次情報の重要性を理解させるため、現地で実際に一次情報(自己撮影写真、パンフレット入手、ヒアリングなど)を得ることを課した。

授業科目名【観光フィールドワーク】

新カリキュラムで初めての開講で、テキスト作りから始めた。実際のフィールドワークでは、これまで関係を築いてきた NPO 法人の力を借りて、小倉魚町商店街のフィールドワークを実践した。苦勞して準備をした新規開講科目である。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本国際観光学会 旅行ビジネス研究学会 日本観光研究学会 東北亜観光学会 (国際学会) 観光学術学会		2003年7月より現在に至る 2003年9月より現在に至る 2004年8月より現在に至る 2006年8月より現在に至る 2012年4月より現在に至る

2 0 1 4 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の 名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年 月	発行所、発表雑 誌等 又は発表学会 等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 「グリーンツーリズムを活用した地域活性化の試み～福岡県東峰村を事例として」	単	2016年 3月	東北亜観光学会	5年間、学生と取り組んできた東峰村におけるグリーンツーリズム体験学習をベースに、地域の観光資源開発や情報発信、観光客誘致のあり方について実証的な研究を行った。先進地でもある長野県の飯田、上田両地域との比較において、東峰村の地域性からくるその独自性について論じた。
(翻訳)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
福岡県東峰村におけるグリーンツーリズムの推進による地域活性化の研究	本学（共同研究費）	○木沢誠名 飯田一郎 神埼明坤 八尋春海 マルコム・スワンソン	1,260,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
外国人留学生の情報発信力を活用した小倉中心部へのインバウンド客誘致の試み	北九州市	183,000 円	
海外ボランティア「ミャンマーのこどもたちに運動会を！」	福岡県	507,936 円	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

(意見) 「社会における活動」を、このように委員を務めたかどうかで評価する方式は、日本社会全体が個人、法人を問わずその社会貢献を重視し、大学人も例外ではない近年においては、まことに時代錯誤と思料する。広く、社会貢献する活動を率直に評価すべきである。

(注) 大学が示した「記入要領」：社会における活動… 団体・委員会等の名称、内容、役職名、任期等を記載。

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

■学内委員会等

- ①就職委員会委員 2012年4月～16年3月（2010年4月より6年連続継続中）
- ②紀要委員会 2015年4月～16年3月
- ③学生委員会 2015年4月～16年3月

■学内外活動への学生引率、指導（担当ゼミ・授業以外の学科全体の自主活動）

- ①グリーンツーリズム演習企画、引率
 - ・春期 2015年6月 福岡県東峰村(2日間)
 - ・秋季 2015年10月 福岡県東峰村(2日間)
- ②国家試験対策特別講座
 - ・「国内旅行業務取扱管理者」 2015年8月 学内(4日間)
- ③門司港レトロ地区活性化活動指導
 - ・「れとろこまち」運営 2015年4月～11月 北九州市門司港(7-9月を除くほぼ毎週末)

- ④下関市と共同で「下関唐戸地区における“出張！れとろこまち”」実施 2015年5-6月(約10日間)
- ⑤北九州市、井筒屋、魚町商店会、旦過市場との協働で「小倉・女子留学生まちあるき」実施 2015年11月(2日間)
- ⑥本学生協との協働での「東峰村応援ウイーク」実施 2015年11月(2週間)
- ⑦海外ボランティア「ミャンマーの子どもたちに運動会を！」企画、引率 2016年2月(6日間)

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 高橋幸夫	職名 准教授	学位 修士(経済学) 京都大学 2005年
---------	--------	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
マーケティング(ブランド論・広告論) デザインマネジメント	マーケティング・コミュニケーション デザイン・インスパイアド・マネジメント

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ IMC(integrated marketing communication)の今日的課題研究 ・ 石炭流通における小倉商人(中原嘉左右)の研究 ・ デザイン重視の経営研究(デザインマネジメント研究) ・ 大学における地域活性化活動

担当授業科目			
科目名	単位数		授業評価ポイント <small>※授業終了時(学期末等)に実施する学生による授業評価を記載</small>
	必修	選択	
基礎演習A(前期)	1		
基礎演習B(後期 2コマ)	1		
専門演習Ⅱ(前期・後期)	2		
卒業研究(前期・後期)	4		
マーケティング入門(前期)		2	
消費者行動論(前期)		2	
イベント・テーマパーク論(後期)		2	
インターンシップ(前期)		2	
地域総合研究(前期)		2	

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【基礎演習A(前期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生活の始まりにあたり、大学生としての心構えから授業の受け方、ノートテイキングなど基本的プレゼンテーションなど基礎事項を学科統一の教科書を用い、理解度向上に努めた。
<p>授業科目名【基礎演習B(後期) 2コマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎演習Bでは、学生生活で必須とされるレポートの必要性和書き方を修得させるために「レポートとは何か」、「レポートの構成とルール」などを最前半回で解説し、それ以降の授業では毎回テーマを与え、書くことに対する「慣れ」と「論理的思考の重要性」を促した。また、レポートに対する学生相互の講評などを取り入れ、モチベーションの向上につなげた。 ・ 基礎演習Aのステップアップ科目の認識のもと「情報検索力」・「発表力」の向上を目指し、毎回ワークシートを取り入れ、修得度の向上を目指した。 ・ さらに、新聞記事に親しむ事を目的に「まわし読み新聞」を導入し、社会の仕組み、動きに興味関心を喚起させる内容とした。

<p>授業科目名【専門演習Ⅱ（前期・後期）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティング論及びブランド論の基本的文献を輪読、毎回 PPT による発表形式の演習とし、学生の論理的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。 ・ さらには、就活を控える学生に対して、「自己分析」「適職診断」「面接」などの指導を行なった。
<p>授業科目名【卒業研究（前期・後期）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒論作成にあたり、論理的構成の重要性のほか、特に論理性を裏付ける「データの収集と取り扱い」の重要性について指導した。
<p>授業科目名【マーケティング入門（前期）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティング初学者以前に経営学初学者という認識のもと、「企業経営とはなにか」という初歩的段階から解説することにより「企業経営に欠かせないマーケティングの重要性」の修得に努めた。 ・ 具体的には、PPT、動画導入による視覚的・聴覚的工夫をし、楽しみながら理論を理解することを促した。
<p>授業科目名【消費者行動論(前期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費社会、消費者行動論の初学者に対して学生の身近な事例説明を中心に理論修得に努めた。 ・ 具体的には、PPT、動画導入による視覚的・聴覚的工夫をし、消費者行動論に欠かせない専門用語を楽しみながら理解することを促した。
<p>授業科目名【イベント・テーマパーク論（後期）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティング戦略の4Pのプロモーション領域における「イベント」の基礎理論を一般企業のみならず、地域における展開の理解（ゲスト講師の招聘）とともに「テーマパーク」を「イベント」の常設型と捉え、その基礎的理解の把握に努めた。 ・ 具体的には、PPT、動画導入による視覚的・聴覚的工夫をし、楽しみながら理論を理解することを促した。また、地域活性化のためのイベントプランニングをグループワークとして行ない、グループプレゼンテーションを行い、学生間での評価を取り入れる事によって興味の醸成につなげた。
<p>授業科目名【インターンシップ(前期)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会や企業活動の仕組みを知り、学生自身の適性、将来の進路方向性を考える上で必要な座学および就業体験で構成した。座学では、「なぜ働くのか、企業・企業活動とは何か」、「社会人としてのマナー、ルール」等を PPT、演習問題を活用し理解促進に努めた。また、就業体験では極力学生の希望を叶えられるよう受入先選定、交渉を行なった。
<p>授業科目名【地域総合研究（前期）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回北九州地域で活躍する社会人を中心に講師を依頼、地域活性化とキャリアデザインを中心に講義を展開した。また、学科卒業生にも講師として参加を依頼し、本学学科での学びとキャリアについて深く学ぶ機会を与えた。毎回講師向けコメントカードと担当教員向けカード（気づきなど）を提出、理解レベルを確認した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
<ul style="list-style-type: none"> ・ 商品開発・管理学会 ・ 日本商業学会 ・ 産業学会 		2005年4月から現在 2006年4月から現在 2006年4月から現在

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) (他 研究会発表) ・ 京都大学マーケティング ワークショップ	(共同)	2016年 1月25日	Business Model Generation workshop	IDEO社が開発したビジネス創出 モデルについて発表、ワークショ ップを行なった。

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
平成27年度まちづくりステップアップ事業	北九州市	360,000円	
平成27年度北九州市にぎわいづくり事業	北九州市	660,000円	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・ 2015年度学生募集委員
- ・ 2015年度情報システム委員
- ・ 2015年度人文学部保護者懇談会担当
- ・ 地域、企業との協働事業における学生指導（WILL）

助 産 別 科

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 笹山 雪子	職名 教授	学位 看護学修士 愛知県立看護大学大学院 2009 経営情報学修士 中部大学大学院 2000
----------	-------	---------------------------------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
看護管理 助産管理	組織のチーム力、キャリア発達 院内助産、新卒助産師の助産実践力 性教育

研究課題
看護管理学における組織内チーム力に関する研究 ファシリテーターの職位と役割に関する考察 院内助産を成功させるための要因の分析、 性教育のニーズと効果測定、

担当授業科目
<p>【助産別科】 総合看護学(前期) 基礎助産学Ⅰ(前期) 女性の健康支援論(前期) 子育て支援論(前期) 助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習)(通年) 助産診断・ケア学Ⅵ(健康教育演習) 助産管理学(通年) 助産学研究演習(通年) キリスト教と生命倫理(通年) 助産学実習(基礎・助産学実習Ⅰ・Ⅱ・助産管理実習)</p> <p>【看護学科】 母性看護概論(後期) ウィメンズヘルス看護論(前期) 母性看護学実習</p> <p>【短大】 女性と健康(4コマ)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【総合看護学】 4月の入学時から開講する講義科目である。医療倫理、看護倫理について再度学習を深めるとともに、助産過程の展開に関連する基礎的な看護過程の展開を事例から再学習させた。教員が分担して個々の学生とかかわりながら事例の情報収集力やアセスメント力を引き出せるよう、婦人科疾患を持つ事例の展開と最後に事例発表を行い共有した。助産過程の展開に繋げる科目として目標は達成できた。</p>
<p>授業科目名【基礎助産学Ⅰ】 周産期医療を取り巻く環境の変化や性と生殖に関するニーズの多様化する中で、助産の基本的概念や理論、助産師の責務と法的位置づけについて事例を用いて個々の学生の理解度を確認しながら講義を行った。お産の歴史・文化については学生の主体的な学びや気づきになるよう図書館を利用させ文献検索しレポートにまとめた。全学生がプレゼンテーションを行い、工夫したプレゼンテーション技術を修得することができた。助産師の果たすべき役割や課題について短時間のディスカッションを各講義の中に取り入れた。助産に関連する概念と理</p>

<p>論、基礎知識を修得し、専門職としての責務や助産師となる自覚を促すよう努めた。達成目標に到達した。</p>
<p>授業科目名 【女性の健康支援論】 あらゆるライフステージの女性と家族に対する健康問題とケアについて理解し、助産師の役割と支援を考える科目である。まず「自分のからだを知る」ために基礎体温を継続的に測定しアセスメントすることで、基礎体温や女性のフィジカルアセスメントについて学習を深めた。思春期、成熟期の健康問題である性感染症、不妊症、DVなどの問題やファミリープランに焦点をあて現代社会の中で女性が抱える課題を概説し、更年期、老年期の課題に発展させることで個々の女性のライフサイクル全体を捉え、その各期にかかわる助産師の役割について理解を深めた。</p>
<p>授業科目名 【 助産管理 】 助産管理の基礎的概念や助産業務の法的範囲等、実習や卒後の業務を行う上で重要な科目であるため、個々の学生の理解度を確認しながら進めていった。基礎実習を挟んでの科目であるため、病院・助産所等の業務管理・運営に関して実習で学んだ内容を各ガイドラインを用いて再度確認し学習を深めた。基礎実習終了後に実習で学んだ助産管理の実際と課題について学生が積極的にプレゼンテーションを行い、助産管理に関する知識を深め、関心意欲も高まるよう努めた。8月、10月～12月に行う施設の管理実習でさらに病院や助産院の特徴や管理方法を学ばせ最後に「実践的な看護管理」について講義、事例を用いたグループ学習を通して助産師の役割を考察させた。</p>
<p>授業科目名 【助産学研究演習】 一昨年まで研究計画書で終了していたため、卒後の研究に発展できていないところが課題であった。昨年度からケーススタディ（質的研究）へ変更し、実習で実際にケアを行った事例をもとに研究倫理、文献検索（文献カード作成）研究計画書の一連を学習し、事例レポート作成に長期間教員がかかわり成果発表した。研究倫理や文献検索、助産学における対象を理解するための理論をもとに自己の実践したケアの振り返りとなった。課題として学会等への発表へ支援していきたい。</p>
<p>授業科目名 【キリスト教と生命倫理】 キリスト教精神に基づいた人間観、ひとのいのちに関する倫理的諸問題や生殖医療の最前線における医療とそのカウンセリングについては専門分野の講師が担当した。自己の担当分野は、助産師の業務の中で起きる倫理的問題とその解決方法について、「実習を通して感じた倫理的ジレンマについて」レポートし、ディスカッションを行った。倫理的問題は簡単な解答はなく、倫理カンファレンス等において関係者全員で話し合っていくことの大切さを理解させ、実践の場に繋がるようさらに工夫していく。</p>
<p>授業科目名 【助産学実習（基礎・助産学実習Ⅰ・Ⅱ・助産管理実習） 6月から開始する助産学基礎実習の2名の学生の病院実習をはじめ、助産学実習Ⅰ正常では、分娩介助実習や継続事例の保健指導やケア等で実際のケアの場面や指導者と共に学生指導を行った。助産学実習Ⅱ逸脱では、NICU病棟のケア・見学実習に学生2名を引率し記録の指導等を行った。助産管理実習では今年度新たに確保したバースセンターでの助産管理実習に引率し、指導者や管理者と実習の調整を行った。</p>
<p>授業科目名 【 ウィメンズヘルスケア論 】看護学科3年生 学生が興味関心のある女性の健康に関する課題を選択させた。昨年度は、グループワークでテーマの持つ特徴や課題をまとめ発表し共有化を図ったが、一部到達目標に達しない学生もみられたため、今年度は女性の健康に関する課題に個々の課題を学生が主体的に選択し、教員が個別面接を行いながら取り組んだ。ほぼ全員の学生が目標を達成した。女性の発達段階や看護の援助について深く考察する機会となった。</p>
<p>授業科目名 【母性看護学概論】看護学科2年生 授業終了時に質問や意見を記入し提出させることで次回の講義時に質問に細かく対応し説明した。また、重要な内容について再度確認した。講義の最終日には、全体のまとめ及び国家試験対策を取り入れた。個々の学生の学修段階を理解することが講義の中では難しいため、次年度シラバス評価に小テストの検討を行い、知識・理解を深める工夫を検討する。母性看護の特徴や自己の母性・女性観を考える機会として興味深く取り組む姿勢が見られた。助産師を目指したい、自分のからだを大切にしたい等の意見がみられた。</p>

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会会員 日本看護管理学会会員 愛知県母性衛生学会 日本母性衛生学会 日本助産学会会員 日本助産師会会員 日本母乳の会会員 ISLIS 国際生命情報学会員 日本母性看護学会会員 日本看護科学学会会員 産業・組織心理学会会員 認定看護管理者会	愛知県看護協会助産師職能委員 (1986年4月～1989年3月) 愛知県助産師会勤務助産師職能委員長 (1994年4月～1996年3月)	1980年4月 現在に至る 2009年 現在に至る 2000年4月 現在に至る 2013年12月～2015年まで 2013年12月 現在に至る 1993年5月 現在に至る 2006年4月 現在に至る 2010年2月 現在に至る 2014年3月～2014年12月まで 2014年5月 現在に至る 2014年4月～2014年12月まで 2010年4月 現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

・愛知県認定看護管理者教育課程ファーストレベル「看護専門職論」	講師	2013年～2015年9月各9時間、2015年2月9時間
・名古屋市ナースキャリアセンター中堅看護職員研修「看護管理」	講師	2014年8月6時間
・名古屋市ナースキャリアセンター臨床指導者講習会「母性看護」	講師	2014年10月3時間
・西南女学院大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル講義	兼任	2015年7月31日3時間
・助産別科教育講演会開催	別科長	2016年2月22日
・日本看護協会第46回看護管理学会	座長	2015年9月9日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

助産別科長として助産別科の運営、講義・演習・実習
看護学科母性看護領域の講義・演習
大学運営会議委員
教育運営委員会委員およびファーストレベル講師
入学試験会議委員

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	竹内 玉緒	職名	講師	学位	修士(医科学)
----	-------	----	----	----	---------

研究分野	研究内容のキーワード
母性看護学	母性・地域・思春期・更年期

研究課題
若者の性意識を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。

担当授業科目
助産別科) 助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)、助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)、助産診断・ケア学Ⅳ(新生児期・乳幼児期) 助産診断・ケア学Ⅵ(健康教育演習)、基礎助産学実習、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産管理実習 看護学科) 母性看護方法論、母性看護学演習、ウェルネス看護学、母性看護学実習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ】 助産別科の学生を対象に助産学講義・演習の準備、演習の計画・実践を行った。模型やDVD教材を使用し立体的に理解しその生理を理解することや体感して身につけられることを意識して演習を組み立てた。さらに、実践に活用できるように演習や技術試験に時間を昨年より増やすことを試みた。 助産過程や健康教育演習では少人数を受け持ち、個別的な対応をおこなった。</p>
<p>授業科目名【助産診断・ケア学Ⅵ】 指導案・企画書の作成から健康教育実施までの方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを目標に、指導案の作成、教材の作成、実施、評価の作業を段階的に行った。</p>
<p>授業科目名【助産学実習(基礎・Ⅰ・Ⅱ・管理)】 実習目標の到達を目的に指導計画を立案し、実習指導に取り組んだ。実習中は学生の状況をふまえて各個人の指導方法について臨床指導者と意見交換を行い共通理解に務めた。日々の記録に対しては、助産過程の理解、対象者に起こっている現象の根拠やメカニズムの理解や、学生が解決方法を見出すことを意図して学生の進捗状況を踏まえてフィードバックを行った。</p>
<p>授業科目名【母性看護方法論・母性看護学演習】 看護学科2年生、3年生を担当し、周産期における女性(胎児・新生児を含む)の生理的変化の理解およびウェルネス看護診断・看護過程の理解を目的に映像やポイントを押さえた講義を展開し、実習における活用を意識した看護過程の個人演習を取り入れた。</p>

授業科目名【母性看護学実習】

新規の施設との実習調整や従来の施設においても指導者と実習計画を共有し、教員間では定期的に情報交換や指導内容を評価しながら効果的な実習指導を心がけた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本母性衛生学会 日本看護研究学会 日本あかちゃん学会 日本助産学会		2007年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2011年4月～現在に至る 2011年5月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 無				
(学術論文) 無				
(翻訳) 無				
(学会発表) 無				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
無			

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個 人 研 究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考
無			

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
無		

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

周望学舎シニアカレッジにおいて、企画・運営。

助産別科ホームページの運営

特別講演の調整・運営

入試委員会・教務委員会

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	穴田 和子	職名	講師	学位	修士(学術)(奈良女子大学 2003年)
----	-------	----	----	----	----------------------

研究分野	助産学 母性看護学 ジェンダー	研究内容のキーワード	助産師教育 実習指導 ジェンダー・システム 専門職
------	-----------------	------------	------------------------------

研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の実習目標達成に関わる要因と臨床指導者および教員の役割に関する研究 ・助産師資格取得において性別制限のない国の助産師教育に関する研究
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

担当授業科目	<p>[助産別科]</p> <p>助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)(前期)</p> <p>助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)(前期 2コマ)</p> <p>助産診断・ケア学Ⅵ(健康教育演習)(通年)</p> <p>助産学基礎実習(前期)</p> <p>助産学実習Ⅰ(後期)</p> <p>助産学実習Ⅱ(後期)</p> <p>助産管理実習(後期)</p> <p>[看護学科]</p> <p>母性看護方法論(後期)</p> <p>母性看護学演習(前期)</p> <p>母性看護学実習(後期)</p> <p>[生活創造学科]</p> <p>女性と健康(後期 1コマ)</p>
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)	<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期) 】</p> <p>講義と技術演習を担当した。実習を視野に入れ、知識と技術ができるだけ統合するよう演習前の課題の提示や資料配布を行い、予習をして臨むよう組み立てた。</p> <p>特に分娩介助技術演習では、デモンストレーションを行う際、1つ1つの動作については根拠を強調しながら説明するように努めた。また、演習では、学生の不明な点・わかりにくい技術については再度実施し、一緒に確認していった。</p> <p>昨年度の実習状況より、知識・技術がケアの実施に結びついていないという課題があったため、実践に即した演習を追加したが、今後も検討が必要である。</p>
授業科目名【 助産診断・ケア学(周産期のハイリスク) 】	<p>ハイリスク妊産褥婦のケアについて担当した。</p> <p>実習を想定して症例を選択し、助産計画が立案できるように努めた。さらに、今後は演習の時間を確保し、事例について考えるなどより実践的な工夫も必要である。</p>

<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習） 】</p> <p>健康教育、企画書・指導案作成について解説し、実習で行う妊婦や褥婦への保健指導につなげられるよう心掛けた。演習では、担当学生企画書や指導案や媒体の工夫について適宜助言した。実施・評価においても、実習で受け持つ対象者を想定して助言した。</p>
<p>授業科目名【 助産学基礎実習 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 】</p> <p>大学での学習・演習で得た技術・知識を必ず確認し、実施後は振り返りを行うことを心がけた。施設によって環境（使用する物品・設備など）が異なっても基本は同じであること、根拠を踏まえてケアすることを助言した。また、学生の実習が効果的に行えるように指導者とコミュニケーションをとりながら連携を取った。学生が注意されたことや疑問点はその都度解決するように努めた。実習で指導された学習の不足に関しては、知識を補うよう学生に助言したが、実施したケアも含め、次回に活かせるよう振り返りができる時間の確保も課題として残った。限られた実習期間の中で目標達成させるため、学生への指導形態等について、今後工夫が必要である。</p>
<p>授業科目名【 母性看護方法論 】</p> <p>産褥期・新生児期について解説した。</p> <p>ただ単に知識を習得するのではなく、母性看護につなげられるよう努めた。DVD 視聴やパワーポイントに写真や図を多用し、重要な個所は文字の色を変えるなど工夫した。</p> <p>また、3年次の実習を想定し、実際の実習場面を提示しながら説明した。得た知識がどのように実習で活かされるのか関連付けられるよう努めた。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学演習 母性看護学実習 】</p> <p>看護学科3年生の技術演習を担当した。</p> <p>産褥の診察、育児技術、授乳について演習を担当し、基本的な母性看護技術が習得できるように模型を使用し説明・実施した。演習する際には産褥の退行性変化・進行性変化を理解した上で、正しい方法で診察した情報からアセスメントすること、新生児の身体的特徴を考慮し実施することなどを助言した。沐浴練習においては、教員の沐浴実施をDVDで視聴できるようにし、技術の習得を図った。</p> <p>また、ウェルネス看護診断について、事例の情報から関連図作成し、診断・看護計画立案するまでの過程で、不足していることや不明な点について助言した。</p> <p>実習では母体の生理的変化だけではなく心理的側面・社会的側面もアセスメントしていくこと、母・児一体でアセスメント・ケアする視点を持つことなど学生に助言した。</p> <p>また、ウェルネスの視点でアセスメントできているか否か学生と共にフィードバックし、看護計画に反映できるよう助言した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		2008年12月～現在に至る
母性衛生学会会員		2008年4月～現在に至る
日本助産学会会員		2009年3月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- 学生募集委員会 委員 (2015年4月1日～2016年3月31日)
2015年8月23日 助産別科オープンキャンパスを担当
- シニアサマーカレッジ
2015年9月4日 担当教員の一員として参加

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	山田恵	職名	助教	学位	学士(教養)
----	-----	----	----	----	--------

研究分野	研究内容のキーワード
助産ケア 不妊看護	寄り添うケア、五感、主体性、助産師学生 不妊カウンセリング、自己決定、選択

研究課題
<p>出産時の体験がその後の育児や家族関係に影響を及ぼすことは明らかであり、助産師として満足いく出産ができるよう支援することが重要である。貴重な出産を介助させていただく分娩介助実習では、助産師学生も対象の主体性を引き出しながら「五感を駆使して寄り添うケア」を実践していくことが望まれる。「寄り添うケア」は、単に「そばにいる」というのではなく言語的・非言語的手法を用いて意図的に介入するかどうかを決定していくことが重要であるため、学生の「寄り添う感覚」と産婦の「満足いく出産体験」との関係について質的研究を用いて考察する。</p>

担当授業科目
<p>総合看護学 助産学研究演習 助産診断・ケア学I(妊娠期)、助産診断・ケア学II(分娩期)、助産診断・ケア学III(産褥期) 助産診断・ケア学VI(健康教育演習)、産診断・ケア学VII(助産過程演習) 助産学基礎実習、助産学実習I(正常)、助産学実習II(正常分娩)、助産管理実習 母性看護学演習、母性看護学実習、ウイメンズヘルス看護論 女性と健康(短大)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 総合看護学 】 既卒者2名、新卒者の出身も大学、専門学校、5年生一貫と様々であるため、これまでの学習状況を把握した上で授業内容を検討した。個々に合わせた対応ができるよう演習は個別指導とし、全体発表で学生間の意見交換の場を設け、互いの気づきなど共有させた。</p>
<p>授業科目名【 助産学研究演習 】 助産学実習での経験から研究テーマを選択し考察していく中、再構成が円滑に進むよう客観的立場で助言した。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学I(妊娠期)、II(分娩期)、III(産褥期) 】 看護学生時代の技術経験が乏しく、実習開始までの2か月余りで修得する知識、技術が多いため学生の負担が大きい。そのため技術演習の際、根拠を示し根拠のもと実践できるよう丁寧に説明した。また、対象の生活がイメージしにくい状況であるため、演習はできるだけ実際の環境と近い環境を作りイメージ化を図った。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学VI(健康教育演習) 】 健康教育演習の「思春期教育」を担当した。並行して行われる「妊娠期」「産褥期」と連動させ、思春期教育での演習目的を明確にし、組み立てを行った。ほとんどの学生が初めての集団教育の実践であったため、できるだけ成功体験となるよう指導案を提示した上で学生に具体化してもらい、プレゼンテーションの機会を数回設け修正を重ねた。企画は教員であったが最終的には学生が主となり行動できるよう支援した。</p>

<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習) 】</p> <p>担当学生の知識獲得状況や理解度の差があったため、個別対応の時間を多く設けた。助産過程のみならず前段階の看護過程の知識の補足もしながら、基礎的なレベルから段階を経て演習が進むよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【 助産学基礎実習、助産学実習Ⅰ(正常)、助産学実習Ⅱ(正常逸脱)、助産管理実習 】</p> <p>新規の実習施設に対しては、全スタッフ対象に説明会を数回行い、実習協力が得られるよう努力した。また、要領作成や細かな調整を行い、できるだけ紙面に残し共通理解していただけるようにした。</p> <p>指導者不在(祝日・夜間など)の実習施設もあったため、その際の教員待機などの調整を行い、学生が安心して実習に臨めるよう配慮した。</p> <p>個々の学生の準備状況や実習の進捗状況をふまえ、学生に応じた1例1例の目標を明確にし、具体的に指導していただけるよう指導者に働きかけた。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学演習、母性看護学実習 】</p> <p>技術演習では100名近くいる学生が平等に体験できるよう、演習の配置など工夫した。看護過程展開では展開するに必要な知識をどのようにアセスメントに活かすのか具体的に説明し、教科書の活用を促した。</p> <p>実習では学内で演習した内容を最大限活かし、実践につながるよう支援した。</p> <p>新規の実習施設で臨床側の緊張も強かったため、学生の学習状況や実習目標を理解してもらえよう指導者に働きかけた。対象者が少なく経験できない場合など、臨床講義依頼や視聴覚教材の活用など行い、目標達成に近づけるよう努力した。</p>
<p>授業科目名【 ウイメンズヘルス看護論 】</p> <p>母性や助産に興味ある学生も多く、参考図書や文献などのアドバイスをを行うことで、できるだけ学生が自ら探求できるよう支援した。</p>
<p>授業科目名【 女性と健康(短大) 】</p> <p>卒業を控えた学年であり、女性として健康を維持しながらキャリアアップできるよう、具体的内容を盛り込んだ資料を作成し配布した。講義終了後には個別の相談を受け対応した。</p>

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月～現在
日本母性衛生学会	会員	1991年4月～現在
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月～現在
日本思春期学会	会員	2005年1月～現在
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月～現在

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学术论文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本不妊カウンセリング学会 日本家族計画協会	不妊カウンセラー 上級思春期保健相談士	2003年5月～現在に至る 2006年2月～現在に至る

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)
西南女学院大学保健福祉学部看護学科・福祉学科 20周年記念講演会 準備運営メンバー(受付・会場) 2015年度西南女学院大学助産別科教育講演会 企画 シニアサマーカレッジ担当

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 前田 幸	職名 助教	学位 助産修士 (天使大学大学院 2006年)
---------	-------	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
助産学、母性看護学	院内助産、助産師外来、助産ケア、バースレビュー 子育て支援、保健指導

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期からの胎児へのコミュニケーションが愛着形成に与える影響について考察する ・助産師外来の現状と課題の分析に関して考察する ・分娩体験におけるバースレビューの意義や役割に関して考察する ・新卒助産師の教育・クリニカルラダー導入による実践能力評価に関して考察する

担当授業科目
母性看護学実習 助産学基礎実習 助産学実習I・II・管理 助産学研究演習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【母性看護学実習】 実習目標の到達を目的に実習指導を行った。母性看護学においてウェルネスの考え方について理解できるよう援助するとともに、看護過程を展開していくことで産褥期・新生児期の対象に起こりうる現象や対象を取り巻く環境を理解できるように、日々の実習では学生個々に合わせたフィードバックを行った。短い臨地実習の中で妊娠・分娩・産褥期と継続した看護を学生が考えていけるように心がけて関わった。また、ケアを実施する際には、根拠を常に考えることの必要性を伝えていった。実習を通して自己の女性観や母性観についても考える機会が持てるような支援を行った。
授業科目名【助産学基礎実習】 実習目標の到達を目的に、科学的根拠に基づく、対象者のことを考え助産学生として寄り添ったケアができるように学生の支援を行っていった。実習中は学生の個々の価値観やバックグラウンドを考えながら、臨床指導者や教員と意見交換しフィードバックを行った。
授業科目名【助産学実習I・II・管理】 実習目標の到達を目的に、学生が対象者を多角的に捉え、気づき、対象者に寄り添ったケアを提供できるように支援を行っていった。周産期の分野はデリケートな倫理的側面を多く含むため、倫理的視点を常に持ち、考え関わっていけるようにも支援を行った。管理に関しては、助産を取り巻く状況を考えるとともに、専門職として他の職種と連携しながら、助産師が自律して活動していくことの大切さや継続的支援についての理解ができるように関わった。また臨床指導者や教員と意見交換しフィードバックを行った。
授業科目名【助産学研究演習】 助産学生が自身の実習の経験を振り返りながら、自身の行ったケアや疑問に思ったことを研究として分析し、より深めていけるような支援を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会		2003年4月～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 無				
(学術論文) 無				
(翻訳) 無				
(学会発表) 無				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
佐賀県看護協会 助産師職能委員会	委員	2013年6月～2015年5月

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
周望学舎 シニアサマーカレッジ 2015年9月4日 担当教員の一員として参加

大学短期大学部

生活創造学科

2015年度教育研究活動報告用紙(2015)

氏名	齊藤育子	職名	教授	学位	博士(文学[教育学])(神戸女子大学2004)
----	------	----	----	----	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
教育人間学 キリスト教教育 キリスト教保育	人間形成 憧れ 預かり保育 保育者 奉仕

研究課題
1. キリスト教保育・教育における「憧れ」の人間形成的意味—教育学的人間学的考察 2. 幼稚園における「預かり保育」の保育実践とその課題 3. キリスト教学校における教員養成・研修：保育者養成に焦点つけて 4. 近代日本とキリスト教：ディアコニア（奉仕）の形成とキリスト教学校の役割

担当授業科目
教育方法とメディア（保育科）：2年後期 2クラス 人間形成論（生活創造学科）：1年前期 1クラス 人間生活論（生活創造学科）：オムニバス2コマ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【教育方法とメディア(保育科)】 幼二種免必修 一方向的な授業とならないように、学生の参加型授業内容を増やした。DPに則した授業の到達目標を明確にし、初回の授業で学生が理解出来るように工夫した。学生のメディアの活用を含め自ら教育方法を考えることができる力を身につけた保育者養成を目指し、授業内容を計画した。また、就職活動等で欠席せざるを得ない学生や理解力が低い学生に対する配慮として、講義内容を毎回音声録音し、大学内外から時間的制約なく自由に聴けるように工夫を、情報システム課の協力を得て行った。
授業科目名【人間形成論（生活創造学科）】 選択 DPと本授業の関連について丁寧に説明し、授業への関心を引き出した。また、新聞記事の切り抜きとコメント記入の課題を指示し、授業で取り扱うテーマについて、学生が自主的に事前学習をする機会を設けた。学生の理解度を把握するためコミュニケーションペーパーを利用し必ずコメントをつけて返却した。また、パワーポイントやビデオ、写真等を用いて視覚的に訴えかけ、自ら考える機会を作ると同時に、学生間でも話し合う時間を設けた。
授業科目名【人間生活論（生活創造学科）】 必修 担当2コマ テーマ「ほんとうに教育は必要なのか」 テーマ「テーマ：どのように子どもを育てるのか」 シラバスに予習について記載し、授業への関心を引き出す工夫をした。また、授業では可能な限り、実際の数字や写真などを用いて、学生が自ら考える機会を作った。また、授業後期限までに提出されたレポートについては、次の週の授業時にコメントを必ず記入して、全員に教育支援職員を通じて学生に返した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本教育学会 教育史学会 教育哲学会 日本キリスト教教育学会	同学会誌編集委員 (2013年6月より現在に至る) 同学会理事 (2014年6月より現在に至る)	1980年8月～現在に至る 1980年10月～2016年12月迄 1981年10月～現在に至る 1989年5月～現在に至る
日本教師教育学会 日本ペスタロッチー・フレール学会 日本保育学会 日本乳幼児教育学会		1992年1月～現在に至る 2001年9月～現在に至る 2002年5月～現在に至る 2002年5月～現在に至る
日本モンテッソーリ協会 (学会)	同学会誌編集協力委員 (2007年4月よ 2015年3月迄)	2006年4月～2016年12月迄

2014年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし (学会発表) なし				
その他 依頼原稿：書評 影山礼子著『ブゼル先生 とバイブル・クラスの学 生たち—近代日本の人 間形成—』	単	2016年3月 発行	日本キリスト教教育 学会第	本書は外国人宣教師ブゼルが実践した人間陶冶の内実に注目し、それが一群の大正デモクラシー期の「教養人・知識人」と育っていった学生たちの魂に与えた得意な影響と、彼らの生涯にわたる人間的な交流を追うのが、目的であった。評者として各章の内容を分析し書評とした。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
テーマ「近代日本とキリスト教」	同志社大学人文科学研究所	○(原 誠) (田中智子) (本井康博) (坂本清音) (室田保夫) 齊藤育子 他	第18期 第1研究会 嘱託研究員(社外)として 研究に参加
テーマ「キリスト教学校の教員養成・研修」	日本キリスト教教育学会	○(町田健一) (大川 洋) (池内耕作) (本田栄一) (後藤田典子) (水口 洋) (磯貝暁成) (駒木 亮) 齊藤育子 他	日本キリスト教教育 学会公認の課題研究 に学会員として参加
基盤研究C 申請中 テーマ「幼児期の<スピリチュアリティ>の 形成に関する教育学的人間学的研究」	文部科学省	○ 齊藤育子 (熊田凡子) 阿南寿美子 植村和彦 篠木賢一	未定

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
学校法人 山陽学園	理事	2008年5月13日～現在に至る
日本キリスト教教育学会	理事	2014年6月～現在に至る
日本キリスト教教育学会	学会誌編集委員	2013年6月～現在に至る
日本乳幼児教育学会	学会誌編集協力委員	2007年4月～2015年4月
公益財団法人 日本高等教育評価機構	短期大学評価員	2014年4月1日～2016年3月31日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・西南女学院大学短期大学部 学部長 2014年4月1日～2016年3月31日。
- ・西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園 園長 2014年4月1日～2016年3月31日。
- ・西南女学院 理事 2014年4月1日～2016年3月31日。
- ・西南女学院 評議員 2008年4月1日～2016年3月31日。
- ・西南女学院維持会 発起人 2007年4月1日～2016年3月31日。
- ・西南女学院維持会 常任幹事 2015年1月1日～2016年3月31日。
- ・学生委員会 委員 2014年4月1日～2016年3月31日。
- ・宗教委員会 委員 2014年4月1日～2016年3月31日。
- ・大学評議会、運営協議会、運営会議、学生募集委員会、入試委員会、教学マネジメント委員会、非常勤選考委員会、幼稚園運営委員会等諸会議メンバーとして出席。
- ・八幡中央高等学校、1年生対象に短期大学についての説明 2015年7月14日。
- ・本学開催入試説明会(6月17日)、若松高陵高等学校(9月4日)短期大学部2学科の説明。
- ・西南女学院月報 第616号巻頭言執筆：「平和を女性からー〈真の教養人〉の育成ー」（2015年8月号）
- ・西南女学院月報 第622号巻頭言執筆：「未来が拓かれますように」（2016年2月号）
- ・西南女学院広報 Vol. 88 執筆：「〈驚きの心〉を大切に」（2015年6月30日）
- ・西南女学院広報 Vol. 89 執筆：「地域に必要とされる短期大学部をめざして」（2015年10月30日）
- ・西南女学院広報 Vol. 89 執筆：「温かな交わりを大切に」（2015年10月30日）
- ・附属シオン山幼稚園「しおんの園のあゆみ」巻頭言執筆：「いのちを育む」（2015年4月）
- ・附属シオン山幼稚園保護者会発行『ひかりの子のまど』No. 55 執筆：「私たちは、愛され生かされている」（2016年3月10日）
- ・研究倫理講習会受講修了（西南女学院大学・大学短期大学部開催、2015年7月30日）
- ・短大部チャペル奨励：「見えない力」（2016年7月9日）
- ・短大部チャペル送別礼拝奨励：「守られて」（2016年2月15日）

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 加 來 卯 子	職名 教授	学位 博士(芸術工学)(九州大学 2011年)
------------	-------	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
被服学、色彩学	色彩、デザイン、被服製作、衣生活、高齢者

研 究 課 題
<p>従来、家庭で行われてきた被服分野における‘ものづくり’はあまり行われなくなり、一般学生の製作への意識が変化しつつある。そこで、学生および一般市民を対象に、セミナー等を通じて(ESDにおける活動)、楽しみながら、人間の根源的な活動の一つである‘つくること’の重要性を周知する。</p>

担 当 授 業 科 目
<p>ファッションと生活(前期) 服飾基礎実習(前・後期) 服飾創造実習Ⅰ(前期) 服飾創造実習Ⅱ(後期) 衣生活論(後期) ファッションビジネス論(後期) ファッションビジネス論演習(後期) ボランティア論演習(前・後期) 生活創造演習(前・後期) 生活創造論(後期) 人間生活論(前期)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【服飾基礎実習】 本授業は、衣生活を営む上で必要な、被服に関する知識および技能を修得することを目的としている。ここ数年、入学前までに被服実習の経験が少ない学生が多い傾向にある。そこで、本授業は初年次の必修の授業(実習)であるため、常に机間巡視を行い、学生が不安を感じることはないよう、マンツーマン体制で授業を進めている。教材として、「巾着袋」(製作の基礎を学ぶ)、「子供服」(衣服の構成および縫製技術、デザインを学ぶ)を設定した。毎時、学生の進捗状況を確認し、アドバイスを行うを行うとともに、製作が遅れている学生については、教育支援職員の協力のもと、時間外の個人指導により対応した。</p>
<p>授業科目名【服飾創造実習Ⅰ・Ⅱ】 学生の感性を表現する教材として、トートバッグの装飾を選定した。デザインを表現する手法について、概説し、一人ひとりの興味関心に合わせて、個人指導により授業を進めた。授業時間内に目標を達成できない学生に対し、時間外の指導により対応した。製作作品はコンテスト(トート・アズ・キャンパスデザインアワード)に出品し、1名が入選した。服飾創造実習Ⅱでは、北九州の伝統的織物の一つである小倉織の布を使用し、「キルトのタペストリー」を製作することを課題とした。授業時間内に課題をこなすことは難しいため、教育支援職員の協力のもと、作品製作は授業時間外も行った。なお、作品は北九州芸術祭(染織部門)に出品する予定である。</p>

<p>授業科目名【ファッションと生活】</p> <p>導入時にテーマに関する身近な事例をもとに問題提起し、問答を通して学生の関心を集めたいうで本論へ展開し、内容の理解を促した。視聴覚教材および文献資料を提示し、学生が授業内容を把握できるよう配慮した。毎時、授業の最後に、内容および感想、質問等について記述させ、授業に対する学生の意識、理解度等を把握し、次回の授業へ反映させた。</p>
<p>授業科目名【ファッションビジネス論演習】</p> <p>今年度の演習は2月、市内デパートにおいて実施した。学生の配属先については企業と調整を図りながら決定した。演習初日、学生は入店者研修に参加し、接客方法、金銭授受等について指導を受けた。連日、実習日誌の記録に基づき、自らの活動を振り返らせ、明日への課題を確認させた。短期間のインターンシップであるが、学生の成長が感じられ、配属先のスポンサーからも高評価を得ることができた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本家政学会	九州地区委員 (2003年4月～現在に至る)	1990年4月～現在に至る
日本家政学会被服心理学研究分科会		1989年4月～現在に至る
日本繊維機械学会		1989年4月～現在に至る
繊維製品消費科学会		1989年4月～現在に至る
ファッションビジネス学会		2001年11月～現在に至る
日本色彩学会		2002年9月～現在に至る
日本生理人類学会		2008年4月～現在に至る
人間－生活環境系学会		2008年4月～現在に至る
日本衣服学会		2012年1月～現在に至る

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
手づくり市場 in 北九州 まちなかESDセンター運営委員会 九州地区大学教育研究会	実行委員 委員 委員	2008年4月～現在に至る 2012年10月～現在に至る 2014年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
入学試験会議委員	2015年4月1日～2016年3月31日
点検評価改善会議委員	2015年4月1日～2016年3月31日
運営会議委員	2015年4月1日～2016年3月31日
人事委員会委員	2015年4月1日～2016年3月31日
学生募集委員会委員	2015年4月1日～2016年3月31日
公開講座委員会委員	2015年4月1日～2016年3月31日
学生個人情報保護委員会委員長	2015年4月1日～2016年3月31日
生活創造学科1年、2年クラス	アドバイザー（学生支援）

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 谷崎 太	職名 准教授	学位 経営学修士
---------	--------	----------

研究分野	研究内容のキーワード
会計学 管理会計論	統合的企業会計、財務報告の変革、 管理会計情報の公開可能性

研究課題
企業会計統合論 ～管理会計情報の公開可能性～

担当授業科目
現代企業論(1年前期) キャリアデザイン(1年後期) コンピュータ文書作成演習(1年前期) コンピュータデータ活用演習(1年後期) 簿記・会計Ⅰ(1年前期) 簿記・会計Ⅱ(1年後期) 原価計算論(2年後期) 管理会計論(2年後期) コンピュータ総合演習(2年前期) 生活創造演習(2年通年) 生活創造論(2年後期) ボランティア演習(2年通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【現代企業論】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書と自作資料を併用し学生の理解に努めた。 グループワーク形式を取り入れ、討議、口頭発表の機会を設けた。
<p>授業科目名【キャリアデザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> トピックにマッチした外部講師を依頼し、学生の関心を喚起して学修の刺激とした。 自己分析等にかかる各種資料を作成することを促し、学修のアウトプットに務めた。
<p>授業科目名【コンピュータ文書作成演習/コンピュータデータ活用演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 報告書、議事録、企画書等の多様な文書の作成を想定したに対応したワードプロセッサ及び関連アプリケーションの基礎的操作技法、並びにデジタルデータの取扱を前提とした仕事環境において備えておくべき基礎知識の両面をバランス良く習得させるべく授業展開を図った。 スプレッドシートの基礎的構造の理解と操作技法の習得を主眼とし、関数の使用、グラフの作成、シートの修飾・編集について基礎的なものから応用的なものに至る過程で漸進的に展開した、また、予め学習目標に即した教材を配布しておくことで意識の高い学生の学習意欲に応えるよう工夫した。

<p>授業科目名【簿記会計Ⅰ／Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 簿記一巡の手続きを図解した上で、個別手続きを順次展開した。財務諸表、有価証券報告書、株式、手形、小切手等の有価証券といった文書・画像のデジタルデータを適宜提示し、実際の商取引に疎遠である学生に具体的なイメージを持たせるよう配慮した。
<p>授業科目名【原価計算論／管理会計論】</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品原価の計算技法では、細分化された多くの項目について多様な計算技法を適用させる場面が多いため、集計表を提示したうえで、段階を踏んで学生のペースに合わせて進めた。 計算する項目が多い場合は適宜、表計算ソフトを用いて集計表を作成させ、計算項目相互間の関係を理解しやすいよう説明した。
<p>授業科目名【コンピュータ総合演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> Word、Excel、PowerPoint を統合的に使用してより高度な文書作成が行えるようになることを主眼として展開した。 特にアプリケーション間のデータ関係については、テキスト、html、bmp、jpg、メタファイル、音声、動画等を柔軟に組み合わせることを通じて理解が深まるように配慮した。
<p>授業科目名【生活創造演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の開示情報を多面的に見ることを促し、一定のまとめとなるレポートの作成を指導した。 非財務情報を解釈する一助として、テキスト・マイニングの効果を探る初歩的なデータ処理を行った。 会計情報に関する知識と、コンピュータリテラシーの統合的学修を提供することに務めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本簿記学会	監事 (2000年～現在に至る)	1994年4月
日本会計史学会		1996年11月
国際会計研究学会		1996年11月
日本企業経営学会		1997年3月
日本会計研究学会		1997年9月
日本生産管理学会		1998年4月
広島大学マネジメント学会		2000年12月
経営行動研究学会	中四国支部幹事 (2001年～2003年)	2008年8月

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				

2015年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
職業能力開発協会 CS 検定	主任試験官	(2014年4月～2015年3月)

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

教務委員（2015年4月～2016年3月）

就職委員（2015年4月～2016年3月）

大学キャンパス・ハラスメント防止・対策委員（2015年4月～2016年3月）

入学試験委員（2015年4月～2016年3月）

学生募集委員（2015年4月～2016年3月）

教育経費予算配分委員（2015年4月～2016年3月）

情報システム管理運用委員（2015年4月～2016年3月）

大学短期大学部一般教育課程委員（2015年4月～2016年3月）

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 領木信雄	職名 准教授	学位 博士(情報工学)(九州工業大学 2004年)
---------	--------	---------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
ファッションとテクノロジー	e-textiles

研究課題
テクノロジーを素材とした衣服を制作し、その応用を探る。

担当授業科目
コンピュータサイエンス I(前期) コンピュータサイエンス II(前期) 生活と情報(後期)(受講者なしで開講されず) コンピュータデザイン演習(後期) 生活創造演習(通年) 生活創造論(後期) ボランティア演習(通年) コンピュータサイエンス I(前期)(保育科 4クラス 2コマ/週) コンピュータサイエンス II(前期)(保育科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【コンピュータサイエンス I】 実際に販売されている製品の紹介文・サービスの案内文・事件を扱ったニュースなどを導入にして、パソコンやスマートフォンを利用するにあたって、利用者として知っておくべき事柄について解説した。
授業科目名【コンピュータデザイン演習】 グッズをつくるためのイラストや、木板やアクリル板をレーザーカットするための図面など、ひとつのアプリケーションを習得することで様々なものが制作できることを示した。
授業科目名【生活創造演習】 子どもやシニアを対象としたプログラミング教室のサポートや展示会での作品の実演など、授業で扱ったことを学外で活かせるよう積極的にイベントに参加した。
授業科目名【コンピュータサイエンス I(保育科)】 園だよりや園児名簿などを題材として、保育の分野で必要となるパソコン操作について基本から解説した。また、必要となるフリー素材の探し方や、利用にあたっての注意点についても説明した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
電子情報通信学会		2000年～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
まちなか ESD センター運営委員会 夏休み! 子どもデジタル教室 北九州市立年長者研修大学校 穴生学 舎	運営委員 講師 講師	2013年7月～ 2015年8月21日 2015年9月10日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- 学外活動への学生引率
 - ・夏休み! 子どもデジタル教室 2015年8月21日
 - ・北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎 地域ふれあいコース 講義 2015年9月10日
 - ・手づくり市場 in 北九州 2015年11月7日
 - ・Kitakyushu MONOCAFE 2015 (展示会) 2015年11月7～8日
 - ・つくると!(展示会) (主催：つくると実行委員会) 2016年1月23日
- 周望学舎シニアサマーカレッジ 講師 2015年9月11日
- 生活創造学科 blog 管理
- 西南女学院大学 生活協同組合 監事

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 木村久江	職名 講師	学位 家政学士
---------	-------	---------

研究分野	研究内容のキーワード
調理学	ジンジャーブレッドハウス (お菓子の家) 食育教育、知育情操教育、地域連携、産官学連携

研究課題
<p>菓子の調理を通じて、菓子製造が人間の生活に潤いを与え、食文化をいかに豊かにしてきたかを考察する。欧米の伝統的な菓子(ジンジャーブレッドハウス)を構成する食材、製法、調理方法を通して、欧米のホリデーシーズンにおける菓子製造の意味合いや癒しの効能、文化人類学的視野を加えて考える。</p> <p>生活創造演習としての観点からは、学生個人がデザイン、素材寸法決定などの要素を自ら行わせるように指導していくことが課題であり、同時に意義があるものと思料する。</p>

担当授業科目
① フードコーディネート論 (前期)
② 調理の基本 (前期)
③ 応用の調理 (後期)
④ 食品加工実習 (後期)
⑤ 調理学 (後期)
⑥ 生活創造演習 (前期・後期)
⑦ 生活創造論 (後期)
⑧ ボランティア演習 (前期・後期)
⑨ 人間生活論 (前期) 1回分

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【フードコーディネート論】</p> <p>食に関係することを広い範囲で考え、仕事としての「フードコーディネート」の知識・技術を学び、実生活に当てはめ応用できるように詳しく説明し理解させることに努めた。特にテーブルコーディネート等の実践が必要とされる項目については、グループ討論後、コーディネートを実践させることにも注力した。</p>
<p>授業科目名【調理の基本・応用の調理】</p> <p>学生の安全確保を第一に心がけ、実習の役割分担を決め学生全員が調理に携わるように工夫した。示範や説明を詳しく行い、レシピにも写真を加えるなど分かり易く工夫した。調理実習の復習のため、実習で学んだメニューを自宅で調理し、家族に感謝されることを経験することにより、料理することの楽しさを実践させた。</p>
<p>授業科目名【食品加工実習】</p> <p>日本の伝統的な食品(ex.味噌、豆腐)を中心とした、様々な加工食品を実際に自分で作ることができるように、製造原理、加工方法などを詳しく説明して理解させることに努めた。また、実際に手を動かして実践させることにも注力した。</p>

<p>授業科目名【調理学】</p> <p>調理により食品の材料が食物になって料理として喫食者に提供されるが、食品の材料名など文字にかかれていても、実際にはその材料を見たことが無い人や分からない人が多いのが実情である。授業においては、写真や実物をできるだけ使い、実生活との距離感を縮められるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【生活創造演習】</p> <p>菓子の調理を通じて、菓子製造が人間の生活に潤いを与え、食文化をいかに豊かにしてきたかを考え、欧米の伝統的な菓子（ジンジャーブレッドハウス）を学生個人がデザイン、素材寸法決定などの要素を自ら行わせるように指導した。社会交流として学外展示に対応できるように日頃からの礼儀作法に重きを置いた。</p>
<p>授業科目名【生活創造論】</p> <p>欧米の伝統的な菓子（ジンジャーブレッドハウス）を構成する食材、製法、調理方法を通して、欧米のホリデーシーズンにおける菓子製造の意味合いや癒しの効能、文化人類学的視野を加えて考えた。</p>
<p>授業科目名【ボランティア演習】</p> <p>配食サービスボランティアは、地域の高齢者に減塩でバランスのとれた手造り弁当を作製し、自宅まで配達をした。このボランティアを通して高齢者とふれあい、今後どのようなサポートが必要で大切なのかを考えさせた。また、「お菓子の家」の展示活動にあたっては8つの施設（小倉城・株式会社井筒屋・福岡銀行北九州営業所・北九州市水環境館・北九州市立医療センター・北九州市立八幡病院・高齢者複合施設ふれあいの里とぼた・小倉北ふれあい保育所）での地域交流・貢献することの大切さを考えさせた。更に、「お菓子の家」のイベントでは子ども達とのふれあい交流を目的とした食育・知育・情操教育の大切さを考えさせた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本調理科学会		1984年4月～1991年3月 2012年4月～現在に至る
日本家政学会		1984年4月～1991年3月

2014年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
こどもに夢と創造の世界を ～お菓子の家を通して異文化を知ろう～	北九州市にぎ わいづくり懇 話会	木村久江	100,000円

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
<ul style="list-style-type: none"> ゆめ未来ワーク 「かわいい！デコレーションクッキー」 子どもゆめ基金くだいすきにつ ぽんー子どもたちに伝えたい 「食」と「あそび」>そば打ち 高齢社会を良くする北九州女性 の会（配食サービス活動、於：到 津市民センター、中井市民センタ ー） 平成 27 年度北九州にぎわいづく り懇話会 (にぎわいづくり認定事業) こどもに夢と創造の世界を ～お菓子の家を通して異文化を 知ろう～ 	管理栄養士 支援ボランティア	2015年8月28～29日 2015年12月19日 2015年10月～2016年1月 2015年11月～3月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）	
<ul style="list-style-type: none"> フードコーディネーター資格認定試験対策学生指導（2015年4月～12月） オープンキャンパス模擬授業担当「かわいい！デコレーションクッキーを作ろう」 ～好きなデザインとカラーを考える～（2015年7月18日） 「美味しいお茶の淹れ方」（2015年9月19日） 第63回福岡県統計グラフコンクール応募にかかる学生指導（2015年10月～2016年2月） 成果：受賞 佳作2作品（6名） 第63回福岡県統計グラフコンクール協力校表彰 受賞（2015年11月20日） 平成27年度北九州にぎわいづくり懇話会（にぎわいづくり認定事業） 学生支援 こどもに夢と創造の世界を ～お菓子の家を通して異文化を知ろう～ (2015年10月1日～1月29日) 小倉城 「お菓子の家」展示 学生支援 (2015年5月10日～6月7日) 	

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	窪田 靖生	職名	Ⅲ種講師	学位	中小企業診断士 一級販売士
----	-------	----	------	----	---------------

研究分野	研究内容のキーワード

研究課題

担当授業科目
前期:販売論、販売論演習、生活創造演習、消費者の心理と行動、広告論 後期:生活創造論、生活創造演習、サービス産業論、流通経済論、マーケティングリサーチ論

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 販売論、販売論演習 】</p> <p>3級販売士資格の取得を目指した内容。流通業全般が対象で試験範囲が広く、難易度が高いことが特徴。すべては、本人のやる気次第のため、モチベーションアップを目指した。</p> <p>毎回、理解度テストを実施、高得点者の発表など競争意識を醸成した。キーワードの配布、過去問題、模擬試験の実施等受験対策に万全を期した。</p>
<p>授業科目名【 生活創造論、生活創造演習 】</p> <p>2級販売士資格の取得を目指した内容。流通業のミドルマネジメントクラスが対象のため、短大生には理解困難な内容も含まれている。2級資格取得者は過去に例がないため、西南初の合格者になり、歴史に名が残ることを話し、やる気を起こさせた。キーワードの配布、過去問題、模擬試験の実施等受験対策に万全を期した。</p>
<p>授業科目名【消費者の行動と心理、広告論、サービス産業論、流通経済論、マーケティングリサーチ論】</p> <p>講義にテキストを使用しているため、真剣に勉強している生徒はテキストを読めば、内容の理解ができる。日経新聞、日経流通新聞、参考書、ネット情報などから記事を選別、提供し理解を深めることを目指した。</p>
<p>授業科目名【 】</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
中小企業診断士協会 福岡販売士協会		1996年4月～現在に至る 2002年4月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
全国牛乳流通改善協会 北九州市金融相談	経営専門家 窓口相談員	2007年4月～現在に至る 1996年9月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

--

保 育 科

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	戸田 由美	職名	教授	学位	文学修士
----	-------	----	----	----	------

研究分野	研究内容のキーワード
日本近代文学	夏目漱石、文芸学的諸相、見立て

研究課題
夏目漱石文芸における不思議さの究極にある本質的概念を究明する。その上で、日本文学の諸相とそれに及ぶ文化を、広的に拡大してその意義を解明する。

担当授業科目
文学I 文学II 美しい日本語と文章表現 児童文学 キャリア講座 I・II・III 日本語表現法 (生活創造学科・保育科・英語科) 日本語表現とホスピタリティ (英語科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 文学 I・II 】</p> <p>格調高い文学作品、文学的表現に触れ、解釈、説明を自ら理解し、習得し、文学の本質意義を学ぶことによって、センス豊かな発想ができるよう多くの作品紹介、面白い事例、問題などを話しながら、少しでも文学に関心を抱きやすくする工夫をした。昨今富に、文字離れが進んでいるので、そういった点を特に注意して講義している。</p>
<p>授業科目名【日本語表現法】</p> <p>卒業して社会に出ても立派に通用するよう、さまざまな表現法の習得に力を入れた。小テスト、添削、及び、学生一人一人の実力を考慮に入れてのマンツーマン指導をした。ただし、学生が自分の考えを自らの言葉で表現できる能力を生み出すための、能力開発に特に力を注いだ。まじめな学生は着実に力がついてきている。</p>
<p>授業科目名【日本語表現とホスピタリティ】</p> <p>日本語表現で基礎的能力を身につけたうえで、ホスピタリティのたいせつな概念を学生に発表させ、それをもとに問題点、課題点を受講生一人一人の生き方に重ねて、討論させている。この講義方法は、かなり効果があったようである。図書館で調べ、自分自身のことばでまとめ、積極的に内容とむきあうようになった。</p>
<p>授業科目名【 児童文学 】</p> <p>児童文学で大切なことは、「子どもの五感の発達と生活体験の拡大」が、どのように文学作品の中に活かされているかを見いだせるか、である。そのため、イメージの拡大、たいせつなものを感じ取る力、空想する力、その時期にかなった絵本の紹介等々に力点を集中させ、分かりやすい講義を心掛けた。さらに講義中Q and A コーナーを設け、学生の理解が深まるよう工夫した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本文芸学会		1983年
日本キリスト教文学会		1991年
日本近代文学会		1985年
谷崎潤一郎文学会		1995年
文芸形象会		1984年

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
子ども・子育て会議専門委員	専門委員	平成29年まで

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

短期大学部 保育科 学科長 西南女学院大学、短期大学、人事委員副委員長 西南女学院 評議委員

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 下山祥子	職名 特別契約 第三種 教授	学位
---------	-------------------	----

研究分野	研究内容のキーワード
幼児教育学 幼児の育ちと言葉	・幼稚園教育 ・保育所保育・保育者の資質向上 ・幼児期の言葉 ・保育実践

研究課題
1. 幼児教育の専門職として、資質向上に向けた保育の在り方 保育の歴史を振り返り、子どもの成長を支える保育の在り方、保育者の質の向上について考察する。
2. 幼児期にことばを育てる児童文化財の在り方 幼児の発達と言葉との関係、ことばを育てる児童文化財の在り方について考察する。

担当授業科目
指導法の研究 (前期)
保育内容の研究・言葉 (後期)
保育・教職実践演習 (後期)
教育実習指導 1年生 (通年)
教育実習指導 2年生 (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 指導法の研究 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の保育の場面で必要な幼児の発達にそった環境構成の在り方、教師の援助の仕方など、視聴覚教材と事例を通して理解を図っていった。また実習に行った場面からグループ協議を行ったことは、保育の在り方を知るうえで勉強になったようである。 保育場面で欠かせない遊びや教材作りについて、幼児の発達と季節を考慮し、身近にある素材を活用した内容を保育に取り入れることについて知らせたことは楽しかったようである。
<p>授業科目名【 保育内容の研究・言葉 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習前の教材準備として絵本読みを各自全体の前で行った。絵本を選択した意図、実践するときの留意点などを発表させたことは、教材準備をするうえでの意識が明確になってよかったと思われる。 幼稚園教育指導要領、保育所保育指針で「言葉」のねらいをおさえ、幼児の発達と言葉との関係及び保育の内容と方法について視聴覚教材と事例を通しておさえていった。さらにグループでの教材作りを行い、役割分担をする中で協力することの必要性、グループで実演する時の留意点や幼児に興味を持つための語りかけなど、保育者として必要なことを協議した上で実演したことは勉強になったようである。
<p>授業科目名【 保育・教職実践演習 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践演習の一つ、「模擬保育」を指導案作りから準備、実践後の協議までを学生がすべて進めていったことは、各自が自主的に考え行動していくことを学ぶよい機会であったと思われる。 現場で必要とされる「保護者とのコミュニケーションの在り方-学級だより-」「個人記録の書き方」「指導要録の書き方」等についてパワーポイントや資料を通して行った。さらに自分が担任だと想定して、「学級だより」のつくり方、「個人記録や指導要録の書き方」など書く場面を持ったことは、今後保育者となったときの参考になったと考える。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
保育学会		2003年～現在に至る

2012年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著 書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
新採幼稚園教諭研修会	講師	2015年 4月15日
北九州市福祉事業団 児童福祉施設保育士研修会	講師	2015年 9月 2日
全国幼児教育研究協会	特別名誉会員	2008年5月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

西南女学院同窓会保育科部会役員 2008年度～現在に至る

西南女学院同窓会常任幹事 2008年度～2014年度

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 John Paul Loucky	職名 JunKyouju	学位 E.D.; 2 Masters
---------------------	--------------	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
1) Cross-Cultural & American Studies 2) CALL & E-Learning	1) Kagawa & Niebuhr Comparisons 2) American Founders and Freedoms

研究課題
3) Journal of Interdisciplinary Studies 2015 Intl. Conference, Pasadena, CA (8/2015) Presented two Seminars: A. Kagawa & Niebuhr Comparisons & B. American Founders and Freedoms 4) IGI Flipped Learning Book: Editing text now on E-Learning with IGI Publications, PA, USA.

担当授業科目
Eigo I & II: Hoikuka and Life Departments: KIT Graduate School: Integrated English: Online Reading & Writing course designed by author. Capstone Project using Flipped Instruction Model with Symbaloo.com as a Presentation mode.

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名 【Eigo I & II】 Innovations and Improvements in these English courses include: A. Hoikuka—Working to expand course from <i>Children's Garden</i> to new 2 nd Semester text <i>Hello, English</i> , by Aiba, Byrd & Fujiwara. Also more Songs & DVD Reviews, <i>Bonoron</i> E-Books to develop Storytelling skills. B. Life Department:: Intro more Travel DVDs & new <i>Adventures Abroad</i> text with self-study DVD practice. Students enjoy travelogues and learning from songs and videos, about many countries with Travel Tips to open world to them!
授業科目名 【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
Journal of Interdisciplinary Studies 2015 Intl. Conference, Pasadena, CA (8/2015).	A. Kagawa & Niebuhr Comparisons & B. American Founders and Freedoms	Presented two Seminars: 30' each and MC-ed one session.

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) Book Review: <i>Wisdom & Wonder: Common Grace in Science and Art.</i> By Abraham Kuyper, 2011. Grand Rapids, MI: Christian's Library Press. (191 pages)	単著		January 2015 release	<i>Journal of Interdisciplinary Studies 2014, Vol. 26, No. 1.</i>
(学術論文) <i>Flipped Instruction Methods and Digital Technologies in Language Learning Classrooms</i>	Editor, 共著	March, 2016 Submission Date.	IGI Global, Intl. Publisher of Progressive Academic Research, Hershey, PA. USA	IGI Flipped Learning Book: Editing text now on E-Learning with IGI Publications, PA, USA.
(翻訳) <i>Walk through the Bible,</i> English Fellowship Practice.	共著			Assist with Japanese launch of Walk thru the Bible from Kurume Bible Church, to Nogata Christian Center and New Life Church. Training Bilingual teachers to use this innovative approach for teaching 77 Bible stories/ signs in Nurseries/S.Schools.
(学会発表) Presented two J.I.S. Seminars: A. Kagawa & Niebuhr Comparisons & B. American Founders and Freedoms	Kojin de		August 6, 2015. Hilton Hotel, in Pasadena, CA. USA	Journal of Interdisciplinary Studies 2015 Intl. Conference, Pasadena, CA (8/2015)

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
Comparing Kagawa and Niebuhr: Cooperatives, Church and State	共著	(~3/2015)	To be published yet: Pasadena, CA (3/2015)	Journal of Interdisciplinary Studies 2016, Pasadena, CA (3/2015)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	阿南 寿美子	職名	准教授	学位	修士(教育学)
----	--------	----	-----	----	---------

研究分野	研究内容のキーワード
幼児心理	社会的能力の発達 規範意識 いざこざ

研究課題
幼児期の対人交渉における葛藤場面に焦点をあて、幼児の規範意識や対人関係構築などの社会的能力がどのように獲得されていくのかについて考察する。

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・発達心理学(前期) ・教育心理学演習(後期) ・乳幼児の発達理解と遊び(複数担当教員)(前期) ・教育実習指導(複数担当教員)(2年間通年) ・基礎実習(複数担当教員)(通年・学外) ・教育実習Ⅰ(複数担当教員)(前期・学外) ・教育実習Ⅱ(複数担当教員)(後期・学外) ・保育・教職実践演習(幼稚園)(複数担当教員)(後期) ・キャリア講座Ⅰ(前期) ・キャリア講座Ⅱ(後期) ・キャリア講座Ⅲ(前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【発達心理学・教育心理学演習】</p> <p>スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるようにするとともに、学生の経験に基づく事例(実習等)の検討を学生同士のディスカッションを含めて行うことにより、個々の子ども達の思いや多様な援助方法があることを理解できるように配慮した。</p>
<p>授業科目名【乳幼児の発達理解と遊び】</p> <p>乳幼児の「遊び」を実際に体験し、感じたことを講座ごとに記録・振り返りを行った上で指導案の作成指導を行った。「遊び」に参加する際、保育者としての視点を持ちながら取り組み、子どもの思いへの理解を深めた計画を立てることができるよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【教育実習指導】</p> <p>事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方等も含めての指導を行った。実習前の設定保育に関する指導講座を増やし、実習時に保育者の援助への捉え方が主体的になるように配慮した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
九州心理学会 日本保育学会	会員 会員	1998年 2012年

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
九州保育団体合同研究集会 光沢寺保育園「地球っこあつまれ！」 ボランティア	北九州部会副委員長 分科会運営委員	2012年4月～現在に至る 2015年9月5日～6日 2015年10月24日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

教職課程委員会 副委員長（2015年4月～2016年3月） 学生募集委員会 副委員長（2015年4月～2016年3月） 入学試験会議（2015年4月～2016年3月） 教員免許状更新講習コーディネーター・講座担当（2015年8月18日） だいすきにつぼん（2015年7月11日-講座担当） 平成28年度第三者評価ALO補佐（2015年）

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	命婦 恭子	職名	准教授	学位
----	-------	----	-----	----

研究分野	研究内容のキーワード
臨床心理学	学校臨床 子育て支援 ストレス メンタル・ヘルス ソーシャルスキル

研究課題
研究課題は大きく二つある。一つはソーシャル・スキルの向上を目的とした親子参加型のプログラムを構築し、実施することである。もう一つは、中学生の学校ストレスの現状とその支援策につて、数量的データを用いて検討することである。

担当授業科目																		
<table> <tr> <td>子どもの臨床心理 (前期)</td> <td>キャリア講座Ⅰ (前期)</td> <td>施設実習Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>障害児保育Ⅰ (後期)</td> <td>キャリア講座Ⅱ (後期)</td> <td>施設実習Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>障害児保育Ⅱ (前期)</td> <td>キャリア講座Ⅲ (通年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保育相談支援 (後期)</td> <td>保育実習指導Ⅰ (通年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保育カウンセリング (後期)</td> <td>保育実習指導Ⅲ (通年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保育・教職実践演習 (後期)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	子どもの臨床心理 (前期)	キャリア講座Ⅰ (前期)	施設実習Ⅰ	障害児保育Ⅰ (後期)	キャリア講座Ⅱ (後期)	施設実習Ⅱ	障害児保育Ⅱ (前期)	キャリア講座Ⅲ (通年)		保育相談支援 (後期)	保育実習指導Ⅰ (通年)		保育カウンセリング (後期)	保育実習指導Ⅲ (通年)		保育・教職実践演習 (後期)		
子どもの臨床心理 (前期)	キャリア講座Ⅰ (前期)	施設実習Ⅰ																
障害児保育Ⅰ (後期)	キャリア講座Ⅱ (後期)	施設実習Ⅱ																
障害児保育Ⅱ (前期)	キャリア講座Ⅲ (通年)																	
保育相談支援 (後期)	保育実習指導Ⅰ (通年)																	
保育カウンセリング (後期)	保育実習指導Ⅲ (通年)																	
保育・教職実践演習 (後期)																		

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 子どもの臨床心理 】</p> <p>心理臨床の技法と心理アセスメント技法を体験的に学ぶことができるように、ワークや実際の心理検査を取り入れて授業を展開した。また、それらの技法は言語発達が未熟な幼児にも適用できるものを選択し、保育者を目指す学生にとって、自分の将来像と直結しやすい内容になるように工夫した。</p>
<p>授業科目名【 保育カウンセリング 】</p> <p>カウンセリング技法について、実践的に学ぶためのワークを多く取り入れた。選択科目であるが、受講者数が多かったことから、ワークを行う際に小グループで実施するなどの工夫を行った。また、十分な活動スペースを確保するために、講義とワークでは教室を変更するなど柔軟な対応を行った。</p>
<p>授業科目名【 障害児保育Ⅰ 】</p> <p>小グループをつくり、それぞれにトピックスを割り当て、学生が調べた内容をプレゼンテーションしたものに教員が解説を加える方法で授業を行った。担当した学生がそのトピックスに興味を持ち、理解を深めることができることを目指した。</p>
<p>授業科目名【 保育・教職実践演習 】</p> <p>保護者支援をテーマに、オリジナルの事例を用いて保育者として保護者の相談にのるロールプレイを実施した。ロールプレイ後、イメージできる母親像について複数の側面からの解説を行い、具体的なイメージができるよう支援し、実践的学びができるように工夫した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本健康心理学会		1997年4月～現在
日本心理臨床学会		1998年4月～現在
日本心理学会		2000年4月～現在
日本行動医学会		2001年4月～現在
日本ストレスマネジメント学会		2002年4月～現在
日本こども健康科学会		2009年4月～現在
日本健康支援学会		2010年4月～現在
日本保育学会		2014年4月～現在

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 状況的学習を用いたソーシャルスキル向上プログラムの実践報告 — 一旦過市場大學堂における「たんたんマルシェ」の取り組み—	単著	2016年3月	西南女学院大学紀要 (20) 117-125	本研究の目的は、市場を活用して、状況的学習におけるソーシャルスキルを向上するためのプログラムを実施し、その効果を考察することであった。事例の分析から、市場では、対面でしか起こりえない働きかけが偶然になされることで、双方向的なコミュニケーションが現れており、状況的学習を用いたスキル習得が可能であることが示された。
(翻訳)				
(学会発表) 統合保育における者の意識 — 事例を通して—				本研究の目的は、①統合保育における園の方針が子どもたちの行動に反映されているのか、②初学者である観察者が子どもの行動をどのように理解するのかの二点について事例を通して考察することである。その結果、観察者が障がい児と健常児の双方向的の仲間意識とさりげない支援という二つの視点を持つことで、これまでは見落としていた子どもたちの行動に注目することができ、それにより、園の方針が子どもたちの行動に反映していることが示された。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
特になし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
特になし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本臨床心理士会会員 福岡県臨床心理士会会員		2002年4月～現在 2002年～2007年、2014年4月～現在

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
紀要委員 図書委員 公開講座委員 教務総合人間科学小委員会委員

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 篠木 賢一	職名 講師	学位 修士(体育学 鹿屋体育大学 2001年)
----------	-------	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
体育方法学	幼児の運動能力 バレーボールの戦術

研究課題
子どもの喫食上の問題行動に関わる要因を、咀嚼能力・運動能力・食生活習慣との関連について考察する。

担当授業科目
スポーツ科学実技、スポーツ・健康科学概論、幼児体育Ⅰ・Ⅱ、キャリア講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 幼児体育Ⅰ・Ⅱ 】</p> <p>子どもたちのあそびを実際に行うことによって、体験的に運動発達の理解を促している。また、運動あそびの果たしている役割を理解し、「あそぶ力」と「あそびを発展していく力」を身につけるために、指導・補助のポイントや安全管理について解説し、グループワークを通して実践力の向上を図っている。</p>
<p>授業科目名【 キャリア講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 】</p> <p>キャリア講座Ⅲでは、子どもの運動あそびや健康を中心としたテーマを学生の興味・関心に沿って決定し、実践に生かせる研究活動を行っている。まとめた研究結果はオープンキャンパスで展示し、公表する機会を設けている。</p>
<p>授業科目名【 スポーツ・健康科学概論 】</p> <p>運動・スポーツが体に及ぼす効果や、運動によって健康・体力の維持、増進させる方法について学生の理解を深めるために、さまざまな事例を用いて解説している。</p>
<p>授業科目名【 】</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
九州・体育スポーツ学会 日本保育学会 日本バレーボール学会		1997年4月～現在に至る 2012年4月～現在に至る 2013年12月～現在に至る

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) ・ 幼児の規範意識を育て る総合的指導力の形成 ～園内研修を通して～	共	2015年5月	日本保育学会	①幼稚園教育要領の一つである 「規範意識」についての調査・研 究である。 園内研修を通しての保育者集 団の変容と、幼児の規範意識を育 成するために、保育者や保護者との 連携を視野に入れた総合的な 指導方法について明らかにした。 ②共同発表者名 清水陽子、篠木 賢一、鬼頭弘子 ③日本保育学会第68回大会 ポ スター発表

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

--	--	--	--

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
九州大学バレーボール連盟 附属シオン山幼稚園「運動あそび」 九州大学バレーボール連盟 第10回北九州市精神障害者バレーボール大会 第16回西日本大学バレーボール5学 連女子選抜対抗戦	女子強化委員 講師 競技委員副委員長 審判委員長 コーチ	2006年4月～現在に至る 2013年6月～毎月1回程度 2013年4月～現在に至る 2015年9月 2015年12月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
学生委員 2012年度～現在に至る 幼稚園運営委員 2012年度～現在に至る FD研修企画委員 2013年度～現在に至る 排球部 監督 2014年度～現在に至る 西南女学院後援会学校委員 文化部 2015年度～現在に至る

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	藤田 稔子	職名	講師	学位	修士(看護学)(神戸市看護大学2005年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
小児看護	感染症(感染症対策、予防接種) 小児ぜんそく

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に関して、乳幼児の身近なものへの一般細菌の付着状況を実験的に調査しています。その結果、安全かつ簡易的に実施可能な消毒方法を考察する。 ・慢性疾患、特に気管支喘息を持った幼児が、どのように疾患と向き合い、自己管理をしていくのか、また、スムーズな子ども自身が可能な自己管理方法について考察する。

担当授業科目
保育内容の研究・健康(前期) 子どもの保健Ib(前期) 医療保育概論(前期) キャリア講座I(前期) キャリア講座III(前期) 子どもの保健Ia(後期) 子どもの保健II(後期) 病児保育演習(後期) キャリア講座II(後期) 看護臨床実習(前期)(福祉学科4年) 看護臨床実習(後期)(福祉学科3年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【保育内容の研究・健康】</p> <p>毎回、講義の内容に応じた絵本を紹介し、読み聞かせしました。まだ1年前期という各発達段階を理解していない学生達にイメージできやすいように、その絵本の内容等を用い、例を示しながら説明をおこないました。後半では、2人1組で領域・健康のねらいにそったテーマで教材を作成し、クラスの前で発表をおこないました。発表にあたっては、必ずコメントを挙手によって発言するようにしたため、終盤では、クラス内で、発言が均等にできるよう学生達の中で配慮ができるようになりました。</p>
<p>授業科目名【子どもの保健Ia・Ib・II】</p> <p>「子どもの保健Ia、Ib」では、講義内容のノートをまとめることにより、勉強する習慣を付けられるようにしました。学生達の中では、興味関心が広がり、調べ学習を自らするようになってきました。1年生後期の定期試験においては、不可の学生が実質1名となり、学生達の勉強の成果が定期試験の点数に反映できました。</p> <p>「子どもの保健Ia」の技術演習では、学生数が減少したことにより、一人ひとりに指導しやすくなり、学生達の手技も例年になく上達が早く、時間外の練習も意欲的になりました。</p> <p>「子どもの保健Ib・II」の技術演習は、内容を厳選し、じっくり取り組めるようにしました。実施できた種類は例年と比べ減少しましたが、一つひとつの取り組みにしっかりとグループ内でシェアリングができた点は良かったのではないかと考えています。</p>

授業科目名【キャリア講座Ⅰ・Ⅱ】

本科目はオムニバス科目であるため、今年度もコーディネーターとして授業内容を精査しました。今年度は、他の先生方の要望もあり、各回の参考内容と資料を作成し、(毎回授業前ギリギリでしたが) 事前に提示していききました。

「キャリア講座Ⅱ」の課題研究では、1つのテーマで各ゼミが取り組むことにしました。題材選びにおいては、保育とは直接的関係はなく、生活に密着した誰にでも関心を持ってもらえるテーマを選びました。その結果、学生達は様々な切り口で研究的に取り組むことができました。

授業科目名【看護臨床実習(福祉学科)】

3年前期に開講されている「基礎看護技術」とリンクさせ病院実習事前指導を進め、今年度は実技試験を取り入れることで看護技術力を向上させることに努めました。

病院実習においては、実習指導者会議等を密にして看護学生以外の実習生受け入れに更なる理解を深めることができました。昨年度の課題であった看護学生と区別できる工夫を、生活創造学科の加來教授のご指導を仰ぎ「SW」の刺繍ワッペンを学生数作成してナース服につけました。その結果、院内で誰が見ても西南女学院生と識別され、また、「西南女学院らしく清楚でかわいらしい」との評判が立ちました。また、今年度はインフルエンザの流行期の実習であったため、学生の健康管理には特に留意しました。結果的に1人も体調を崩すことなく補充実習もなく終了できました。

4年前期の病院実習後の学内演習は、学校現場を想定した応急処置やロールプレイを中心に進め、教員採用試験にも対応することができました。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本小児救急医学会		2000年4月～現在に至る
日本小児保健学会		2000年4月～現在に至る
日本小児看護学会		2005年4月～現在に至る
日本保育所保健協会		2009年4月～現在に至る
日本学校保健学会		2009年4月～現在に至る
日本医療保育学会		2010年4月～現在に至る
日本環境感染学会		2010年4月～現在に至る

2015年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 大学の感染症予防対策における予防接種指針の検討	共	2016.3	西南女学院大学紀要	①本学でおこなっている抗体検査に基づく感染症対策を「医療系学科」と「医療系学科以外」に分けてまとめ、課題を抽出した ②樋口由貴子、大内田知英、藤田稔子、目野郁子 ③P.9～ P.14
(翻訳)				

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				教育研究業績 総数 (2016.3.31現在) 著書 3 (単0 共3) 学術論文 3 (単1 共2) 学会発表 11 (単1 共10) その他 8 (単0 共8)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
だいすき にっぽんー子どもたちに伝えたい「食」と「あそび」ー	子どもゆめ基金	○谷川弘治 稲木光晴 青木るみ子 藤田稔子 林田正雄	238,000

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市開発審査会	委員	2013年11月～現在に至る
北九州地区医療保育士ネットワーク (SOFT NA HOT)	コーディネーター	2010年10月～現在に至る
教学寺幼稚園 母親研究会	講師	2015年7月16日

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)
<ul style="list-style-type: none"> ・委員会 <ul style="list-style-type: none"> 倫理委員会 副委員長 2010年4月1日～2016年3月31日 教務委員会 副委員長 2013年4月1日～2016年3月31日 ・S.D.C顧問 ・アドバイザー関連 <ul style="list-style-type: none"> 保育科1年ゼミ アドバイザー 保育科2年Aクラス クラス担任 保育科2年ゼミ アドバイザー ・学生募集関連

併設校、高大連携講座 2015年6月8日

八幡中央高等学校 進路ガイダンス 2015年6月12日

小倉商業高等学校 模擬授業 2015年9月5日

・附属シオン山幼稚園

保護者会講演会 2015年6月29日

運動会救護担当 2015年10月12日

・地域貢献

井堀市民センター「いきいきチャレンジキッズ」の開催 2015年6月20日

「音楽会」の開催 2015年9月12日

「子育て支援会議」コメンテーターとして出席 2016年2月27日

済生会八幡総合病院 小児病棟お楽しみ会 2015年6月27日

「だいすき にっぼん」 2015年7月11日

8月26日

11月21日

12月19日

2016年2月20日

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 東 彩子	職名 講師	学位 修士(宣教学)(フラー神学校 2006年)
---------	-------	--------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
●神秘劇の起源と発展 ●キリスト教音楽を用いたエクササイズ「SARA」 (Stretch And Relaxation, Agape)の開発と展開	宣教、中世、礼拝、芸術、表現 宣教、伝道、トータルヘルス

研究課題
<p>昨年度、研究の柱である「宣教」と「表現」との接点を考察したところ、以前より学内で監督をしていた宗教劇の起源を探る方向へと研究テーマが開かれた。今年度は歴史的な資料収集と各国の復興の現状の調査をまとめ、紀要執筆に至ることができた。</p> <p>Pilatesの手法を土台とした、キリスト教音楽に合わせて行うエクササイズ「SARA」の展開については、昨年度に引き続き、シニアサマーカレッジにて高齢者むけ、また、梅光学院幼稚園の保護者講演会にて園児の保護者むけのプログラムを展開できたことが進展と言えるが、報告書作成までに至っていないことが課題である。アートミーツケア学会入会に伴い、今後は、アートと哲学対話などのテーマにも取りかかる予定である。</p>

担当授業科目
<p><保育> キリスト教学Ⅰ(前期) キリスト教と子ども(後期) 保育総合表現(通年) キャリア講座Ⅰ(前期) キャリア講座Ⅱ(後期) キャリア講座Ⅲ(前期)</p> <p><生活創造> キリスト教学Ⅰ(前期) キリスト教学Ⅱ(後期)</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【保育総合表現】</p> <p>今年度は、前期の最後に「子育てふれあい交流プラザ元気のもり」にて、各クラスによる子ども向けミュージカルの発表を行い、後期には、学年全員で1作品を創るプロジェクトを行った。後期の最後に学外の大ホールにて表現の発表をすることを目的としたが、テーマ決めからシナリオ作成、上演までの全てを学生自らが企画し実施できるよう、会場とのやり取りや非常勤講師との役割分担とチームワークに細心の注意を払い、学年皆で監督を支えて行けるシステム創りを工夫した。</p>
<p>授業科目名【キリスト教学Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>アクティブラーニング型の授業を目指し、学生は聖書の輪読、賛美、祈り、ディスカッションや紙芝居・読みなどに参加した。また、視聴覚教材を取り入れて解説し、興味を呼び起こすための工夫をした。今年初めての試みとしては、聖書を学生自らが進んで読み始められるための動機づけとして、Bible Noteを導入し、授業以外でも聖書を開き、聖書の言葉に触れる機会を増やした。</p>
<p>授業科目名【キリスト教と子ども】</p> <p>本年度もアクティブラーニング型の授業を目指し、キリスト教保育の本質と目的の理解を深めるため、体験的・実践的な授業をおこなった。「世界の子ども」の発表では、学生たちが自ら、世界で恵まれない環境に置かれている子どもたちについて調べ、グループごとに発表をしたことにより、世界の現状への理解を深めると共に、恵まれた環境に置かれている自身を再確認し「感恩奉仕」への意識が高まった。</p>

また、聖書の劇を作り上げていく過程の中で、他者との関わりや支え合い等を経験しつつキリスト教保育の現場におけるチームワーク構築の疑似体験ができるよう指導し、困難に直面してもお互いに励まし合うことができるような過程を踏めるよう、講義と実践とのバランスを工夫した。劇の発表の課題としては、今後、附属幼稚園にて発表を行うなど、より現実に即した場面にて本番を行う事である。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本基督教学会	会員	2010年9月～現在に至る
日本キリスト教教育学会	会員	2010年9月～現在に至る
日本宣教会	会員	2014年9月～現在に至る
アートミーツケア学会	会員	2015年9月～現在に至る

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. 「神秘劇 (Mystère) ～キリスト降誕劇の起源～」	共	2016.3	西南女学院大学紀要 No.20	キリスト降誕劇のルーツとされる「神秘劇」の宗教的・音楽的起源を探り、現代における神秘的の復興の現状と可能性を調査した。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個 人 研 究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
日本バプテスト小倉キリスト教会	教会学校青年科担当教師	2015年4月1日～2016年3月
日本バプテスト小倉キリスト教会	宣教	2014年4月19日
梅光学院幼稚園	保護者講演会講師	2015年6月22日
ワールド・ビジョン・ジャパン	チャイルドサポーター	2010年7月～現在
日本キリスト教海外医療協力会	会員	2010年7月～現在
ADRA ジャパン	会員	2010年7月～現在
東京YWCA	会員	2014年9月～現在
北九州市民クリスマス	実行委員・ワーシップダンス出演	2015年12月13日
下関バプテスト教会特別伝道集会	特別伝道集会講師	2016年2月14日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

大学短期大学部宗教主事補	2014年4月1日～現在 (2013年度を除く)
キリスト教センター運営委員	2010年4月1日～現在 (2013年度を除く)
キリスト教教育研究会委員	2010年4月1日～現在 (2013年度を除く)
大学宗教委員会副委員長	2010年4月1日～現在 (2013年度を除く)
クリスマス礼拝コーディネーター	2010年4月1日～現在 (2013年度を除く)
クリスマスページェント制作・総監督	2010年4月1日～現在 (2013年度を除く)
西南女学院月報巻頭言執筆	2010年4月1日～現在 (2013年度を除く)
シニアサマーカレッジ講師	2015年9月4日
キリスト教センター活動	
「Café de Bible」主催	2015年4月～2016年1月
西南女学院大学・大学短期大学部	
ハンドベルクワイヤー顧問	2015年4月～現在
九州ハンドベルフェスティバル指揮	2015年9月22日
予算配分委員会副委員長	2015年4月～2016年3月

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名	植村 和彦	職名	講師	学位	修士(教育学)(福岡教育大学 2005年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
ピアノ演奏学	歌曲伴奏、室内楽、アンサンブル、幼児の音楽表現

研究課題
1. 主に弦楽器、管楽器との共演において、作品の背景や演奏編成を踏まえたピアノ演奏の在り方や役割について実践的に研究し、ピアノによる様々な演奏表現の可能性について探求する。 2. 声楽(独唱)や合唱との共演において、作品中での歌詞と音楽の関係性や各声部とピアニストの役割を分析しつつ、歌唱表現や詩的内容と一体となったピアノ演奏表現について実践的に探究する。 3. 保育現場において求められる保育者のピアノ実技力を踏まえた演奏の指導法について検討する。

担当授業科目
ピアノ奏法 a(1年前期)(保育科) ピアノ奏法 b(1年後期)(保育科) ピアノ奏法 c(2年前期)(保育科) ピアノ奏法 d(2年後期)(保育科) 保育総合表現(2年通年)(保育科) キャリア講座Ⅰ(1年前期)(保育科) キャリア講座Ⅱ(1年後期)(保育科) キャリア講座Ⅲ(2年前期)(保育科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 ピアノ奏法 a 】 1クラスに対して6名の教員体制の中で、各グループの所属学生については各自のピアノの経験値や能力に大きな格差が生じないように配慮して編成を行った上で、特に経験の浅い初心者の心的なケアに配慮した。教材についてはバイエルピアノ教則本および数曲のマーチを基盤とし、初心者から経験者まで各自の進度に合わせた選曲と演奏面での助言が出来る体制で授業を行った。
授業科目名【 ピアノ奏法 b 】 前期の「ピアノ奏法 a」の延長線上にある科目であるため、担当教員と所属学生の編成については変更せず、各自の前期終了時の課題曲の進度や単位修得状況に応じた個別指導が出来る体制を維持した。教材については身近な幼児唱歌を基盤とし、弾き歌いの実践力を身につけていくことを重視しながらも、前期中にバイエルピアノ教則本を未修了の学生に対しては補足を行い、基礎的な実技力の向上を支援した。
授業科目名【 ピアノ奏法 c 】 科目担当教員の一部変更により、学生によっては担当教員の変更が生じたが、該当学生においては1年次終了時点での各自の課題曲の進度や単位修得状況等の情報を確実に引き継いだ上で、最終学年を迎えての希望進路を踏まえたピアノの個別指導が出来る体制をとった。教材については季節や行事に合わせた子どもの歌や幼児さんびか、マーチを基盤とし、並行して実習先でのピアノ演奏へ向けた準備の支援も個別に行った。
授業科目名【 ピアノ奏法 d 】 特に全受講者の2年次前期までのピアノ奏法関連単位修得状況に配慮し、不足がある学生については保育士資格・幼稚園教諭免許取得要件単位を当科目にて確実に修得出来るような支援体制をとった。学生個人の実習先や就職の希望等に合わせて各教員が幅広く教材を選定し、現場での選曲や演奏時の簡易伴奏付けなど応用力が身につけられるよう柔軟な指導を展開した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本保育学会 九州公立大学音楽学会		2011年～現在に至る 2011年～現在に至る

2015年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. 「神秘劇(Mistère)」 —キリスト降誕劇の起源— (査読有り)	共	2016. 3	西華女学院大学紀要 Vol.20	① 中世ヨーロッパ各地において流行し、 現在世界各地で様々な規模での復興 がみられる「神秘劇」と呼ばれる聖史 劇について、その宗教的・音楽的起源 を探り、現代における神秘劇の可能性 を追求していく上での起点となる考察 を行った。 ② 共著者名 東彩子、植村和彦 ③ (P130～P131)
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
(所属団体等) ・西南シャントゥール ・西日本オペラ協会 ・修猷館月一合唱団 ・久留米音協合唱団	ピアニスト ピアニスト ピアニスト ピアニスト	2006年2月～現在に至る 2007年4月～現在に至る 2013年1月～現在に至る 2015年9月～現在に至る
(演奏会等) ・『ソプラノとピアノのためのコンサート』出演	ピアニスト	2015年4月22日 共演：牧野由美（ソプラノ）、中西弾（ヴァイオリン）／会場：福岡市健康づくりセンター あいれふホール／主催：Coco Musica
・『第27回 熊本県高等学校総合文化祭ステージ部門』客演	ピアニスト	2015年5月30日 共演：緒方愛子（ヴァイオリン）／会場：熊本県立劇場 コンサートホール／主催：熊本県教育委員会、熊本県高等学校文化連盟
・『叶山麓合唱団 「20周年記念演奏会」』客演	ピアニスト	2015年7月5日 共演：中西弾（ヴァイオリン）／会場：西市民センター ホール／主催：叶山麓合唱団
・『北原白秋記念館ロビーコンサート』出演	ピアニスト	2015年8月15日 共演：吉田明未（ソプラノ）／会場：北原白秋記念館ロビー
・『長崎恋物語～四つの恋の物語～』出演	ピアニスト	2015年9月26日 共演：牧野由美（ソプラノ）／会場：活水高等学校 5号館チャペル／主催：Coco Musica
・『修猷館月一合唱団「定期演奏会」』出演	ピアニスト	2015年10月25日 共演：修猷館月一合唱団（指揮：堀ミナ子）／会場：西南コミュニティセンター ホール／主催：修猷館月一合唱団
・『合唱団「燦々」十周年記念演奏会』客演	ピアニスト	2015年11月29日 共演：久留米音協合唱団（指揮：森時達行）／会場：石橋文化ホール／主催：合唱団「燦々」

<ul style="list-style-type: none"> ・『西南シャントゥール「第38回定期演奏会」』出演 	ピアニスト	<p>2015年12月5日</p> <p>共演：西南シャントゥール（指揮：徳永和彦、佐藤棟也）／会場：アクロス福岡 シンフォニーホール／主催：西南シャントゥール</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・『のぼらコンサート』出演 	ピアニスト	<p>2015年12月18日</p> <p>共演：永瀨邦佳（ソプラノ）、緒方愛子（ヴァイオリン）／会場：エミール保育園／主催：エミール保育園</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・『西南学院大学グリークラブ「定期演奏会」』出演 	ピアニスト	<p>2015年12月23日</p> <p>共演：西南学院大学グリークラブ（指揮：堀ミナ子）／会場：西南コミュニティセンター ホール／主催：西南学院大学グリークラブ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・『第69回全日本学生音楽コンクール 北九州大会受賞記念演奏会～若き演奏家たちのNew Year Concert～』出演 	ピアニスト	<p>2016年1月10日</p> <p>共演：徳永愛里香（フルート）／会場：北九州市立 響ホール／主催：毎日新聞社</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・『第5回 P J 春待ちコンサート』出演 	ピアニスト	<p>2016年2月11日</p> <p>共演：白川深雪（ソプラノ）、藤田卓也（テノール）／会場：P J ワインセラー「欧州館」／主催：P J ワインセラー</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・『第24回小郡音楽祭「ハーモニー in おごおり」』出演 	ピアニスト	<p>2016年2月14日</p> <p>共演：久留米音協合唱団（指揮：森時達行）／会場：小郡市文化会館 大ホール／主催：小郡音楽祭実行委員会、小郡市、小郡市教育委員会</p>
<p>(セミナー・講習会等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『大村友樹氏（フルート奏者）による「門下生発表会」』出演 	ピアニスト	<p>2015年4月29日</p> <p>共演：大村友樹（フルート）、大村友樹門下生／会場：和光音楽アカデミー ホール</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・『声楽セミナー・カトレア会による「第10回クラシックコンサート」』出演 	ピアニスト	<p>2015年5月24日</p> <p>共演：カトレア会会員／会場：福岡市健康づくりセンター あいれふホール／主催：カトレア会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・『緒方愛子氏（ヴァイオリン奏者）による「門下生発表会」』出演 	ピアニスト	<p>2015年6月27日</p> <p>共演：緒方愛子門下生／会場：パトリア日田 中ホール／主催：緒方愛子ヴァイオリン教室</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・『加末京子氏（ソプラノ）による「第14回門下生声楽発表会」』出演 	ピアニスト	<p>2015年9月9日</p> <p>共演：加末京子門下生／会場：福岡市健康づくりセンター あいれふホール／主催：アバ企画</p>
<p>(「ハンドベルクワイア」関連演奏会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『大蔵第一地区社会福祉協議会「敬老会・年長者の交歓の集い」』出演 	指揮・音楽指導	<p>2015年10月4日</p> <p>共演：西南学院大学・大学短期大学部ハンドベルクワイア／会場：北九州市立大蔵小学校 体育館／主催：八幡東区社会福祉協議会、大蔵第一地区社会福祉協議会</p>

<p>・『ハンドベル サウンドライブ〜クリスマスイルミネーション点灯式〜』出演</p>	<p>指揮・音楽指導</p>	<p>2015年11月6日 共演：西南女学院大学・大学短期大学部ハンドベルクワイア ／会場：F F G北九州本社 パブリックガーデン／主催：福岡銀行北九州営業部</p>
<p>・『北九州市立総合療育センター「クリスマスコンサート」』出演</p>	<p>指揮・音楽指導</p>	<p>2015年12月9日 共演：西南女学院大学・大学短期大学部ハンドベルクワイア ／会場：北九州市立総合療育センター／主催：北九州市立総合療育センター</p>
<p>・『西南女学院大学・大学短期大学部ハンドベルクワイア「第32回定期演奏会」』出演</p>	<p>指揮・音楽指導</p>	<p>2015年12月19日 共演：西南女学院大学・大学短期大学部ハンドベルクワイア ／会場：西南女学院大学 マロリーホール／主催：西南女学院大学・大学短期大学部ハンドベルクワイア</p>

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- ・就職委員会 副委員長 (2014年4月1日～現在に至る)
- ・児童文化部 顧問 (2013年4月1日～現在に至る)
- ・「創立記念式」奏楽担当 (2015年4月18日)
- ・2016年度新入生対象「春休みの事前対策ピアノレッスン」講師 (2016年3月1日～3月17日)
- ・ハンドベルクワイア 音楽アドバイザー (2015年4月1日～現在に至る)

2015年度教育研究活動報告用紙(様式9(2015))

氏名 笠 修 彰	職名 講師	学位 修士(健康福祉学)(西九州大学 2007年)
----------	-------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	障害者福祉 地域福祉 ソーシャルワーク

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究 ・子育てで不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究 ・保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

担 当 授 業 科 目
児童家庭福祉(前期) 社会的養護(前期) 社会的養護内容(前期) 社会福祉(後期) 相談援助(後期) 保育実習指導Ⅰ(通年) 保育実習指導Ⅲ(通年) キャリア講座Ⅰ(前期) キャリア講座Ⅱ(後期) キャリア講座Ⅲ(前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 社会福祉 社会的養護 】 専門的知識・技術をより具体的に理解できるよう、クイズ形式の質問などを活用し、不特定多数の学生に発言の場を提供した。また、適宜補助プリントを作成し、配布。プリントは、授業内容の理解を補助するもの、授業内容の理解度が確認できるテスト形式のもの、要点をまとめたものなどを作成し、理解度の把握及び意欲の向上を目指した。
授業科目名【 相談援助 社会的養護内容 】 具体的な事例を用いた個人ワークやグループディスカッションを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう工夫した。また、授業内容を補助するプリントを作成し、学生が主体的に学習できるよう支援した。
授業科目名【 】
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
一般社団法人日本社会福祉学会 日本看護福祉学会	会員 会員	2008年7月 2013年4月

2 0 1 5 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1.社会福祉士国家試験模 擬問題集 2016	共著	2015.7	中央法規出版	①社会福祉士国家試験受験者 向けの模擬問題集。 ②編集 一般社団法人日本社会福祉士 養成校協会 ③担当部分 模擬問題共通科目「現代社会と 福祉」 (P12~P14,P85,P155) 解答編 (別冊)「現代社会と福 祉」 (P15~P17,P88,P161)
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)
(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
公益社団法人日本精神保健福祉士協会	会員	2008年4月～現在に至る
一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会	理事	2009年6月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2015年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
国際交流委員会 副委員長 2015年4月1日～2016年3月31日
学生個人情報保護委員会 委員 2015年4月1日～2016年3月31日
情報システム管理運用委員会 委員 2015年4月1日～2016年3月31日